

内閣府令和2年度委託調査事業

学生の就職・採用活動開始時期等
に関する調査
調査結果報告書

2020年11月30日
株式会社浜銀総合研究所

<目次>

調査結果報告書要旨	3
（1）調査の概要	3
（2）本調査のまとめ	4
（3）本調査の主な結果	6
第1章 調査の概要・回答者属性等	15
（1）調査の概要	15
（2）回答者属性	16
（3）ウエイトによる補正	18
第2章 就職活動に関する認識と学修時間確保の状況等	22
（1）就職活動時期に関する認知の状況	22
（2）就職活動時期に関する認識	25
（3）就職活動と学修時間確保の状況	26
（4）就職先を決めるにあたって重視していること	28
（5）就職活動に関する考え	29
第3章 就職活動内容	31
（1）企業の広報活動開始前の活動状況	31
（2）業界や企業に関する分析を開始した時期	32
（3）企業説明会やセミナー等の参加状況	34
（4）エントリーシートの提出状況	39
（5）採用面接の実施状況	44
（6）内々定の状況・内々定の時期	50
（7）採用試験・面接等を受けた経路	59
（8）就職活動の始まりと終わりの認識	63
（9）インターンシップの参加状況	69
（10）新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響	83
第4章 企業による学業などに対する配慮の状況等	118
（1）履修履歴（成績証明書など）の提出の状況	118
（2）採用面接の際の学業や成績等への評価	120
（3）就職活動の日程・時間帯等に関する配慮	121
（4）遠隔地への就職活動への配慮	123
（5）クールビズでの対応	124
（6）留学経験者への配慮	125
（7）「オワハラ」の状況	129
（8）セクシュアルハラスメントの状況	134
（9）新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響	139

第5章 文系・理系別の集計	146
第6章 就職予定の企業への入職経路別の集計	165
第7章 就職予定の企業の業界別の集計	179
第8章 就職活動地域別の集計	187
参考資料	201
(1) 調査項目	201
(2) 集計表	247

調查結果報告書要旨

調査結果報告書要旨

(1) 調査の概要

①調査の目的

本調査は、2020 年度卒業・修了予定者の就職・採用選考活動の意識・行動等を把握することにより、2021 年度以降の就職・採用活動の円滑な実施に資することを目的として実施した。

②調査の実施方法

地域、設置主体、規模等を勘案して選定した全国の約 60 の大学に協力いただき、それらの大学から、大学 4 年生及び大学院修士課程（博士前期課程）2 年生¹にアンケート調査への協力を依頼していただいた。なお、医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生や海外からの留学生については調査の対象外である旨を案内の上で実施した²。

各学生には、インターネット上に開設したアンケート調査のホームページにアクセスし、回答していただいた。ホームページは、2020 年 7 月 22 日から 8 月 21 日までの間開設した。

③回答状況

対象学年別の有効回答件数は次の図表の通りである。なお、社会人経験があり元の職場に復帰予定の者や、進学等を予定しており就職活動をする予定がない者等については、集計の過程において、適宜対象から除いて集計を行った。

<学年別の有効回答件数>

対象	大学 4 年生	大学院 2 年生	合計
有効回答件数	5,643	1,679	7,322

※学年について「その他」と回答があった 132 件については有効回答の対象外とした。

¹ 以下「大学院 2 年生」と表記する。

² 本調査は、全国の約 60 の大学について、原則として対象学年の全学生に対し調査の案内をしていただくように依頼をしたが、調査依頼を行う大学のなかには、医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生や海外からの留学生が多く在籍する大学があると想定された。医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生や海外からの留学生は、就職・採用選考活動に関してその他の学生とは異なる動きとなる場合が多いと予想されたが、これらの学生が調査対象全体に占める割合を母集団の分布等に基づいて事後的に調整を行うことが困難であると考えられたため、あらかじめ調査対象外とすることとした。なお、本資料に記載・言及している 2016 年度から 2019 年度の各調査においても同様の方法で実施している。2015 年度調査では医学科等の学生や留学生も調査対象に含めているが、2015 年度調査は調査依頼を行っていただく学生の人数を各大学に割り当て、対象学生は各大学で抽出してもらうという方法をとっている。また、抽出の際の男女比や文系・理系の比率は大学全体の構成比と同率にさせていただくよう依頼を行っており、2015 年度調査において医学科等の学生や留学生が母集団との関係において過度に多く含まれてしまうことは生じていないものと想定される。

(2) 本調査のまとめ

①新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響について

～企業説明会等の延期・中止による情報収集不足や、見込んでいたスケジュールとズレが生じるなど、就職活動への影響が見られた

就職活動全般について新型コロナウイルス感染症の影響を受けたかについて「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合は約8割となっている。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて課題になったこととして、「企業説明会が延期・中止になる等、移動や対面での接点がなくなり、企業や仕事などの情報収集が十分にできなかった」が約6割となっている。また、「移動で公共交通機関を使うことに関し不安が大きかった」が約5割、「予定の変更・中止等が頻繁にあり、スケジュール管理が難しかった」が約4割となっている。

「新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から行われた緊急事態宣言等の影響により、見込んでいた時期よりも就職・採用活動の実施時期を遅くする企業があり混乱した」と認識している回答も約7割となっており、想定通りに就職活動が進まなかったことによる混乱もあったとみられる。

また、今年度調査時点で内々定を受けたと回答する割合が過年度調査と比較して低くなっており、内々定の獲得状況・獲得時期に関しても新型コロナウイルス感染症の影響が及んだものと考えられる。

②面接等のオンライン化の状況について

～採用面接は多くがウェブ等で実施された

企業説明会やセミナー等への参加方法について、学生が参加した件数に占める「ウェブ等のみでの参加」の割合は、約5割となっている。同様に、学生が受けた採用面接の件数累計に占める「ウェブ等のみでの実施」の割合は、約6割となっている。

なお、これに伴う課題として、「通信回線が不安定で、企業説明会や面接の途中で音声・映像が途切れるなどしたことがあった」との回答割合が約4割となっている。

③就職・採用活動の動きについて

～就職・採用活動の開始時期は早期化の傾向が継続していた

広報活動開始時期は卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降とされているところではあるが、企業説明会やセミナー等への最初の参加時期を卒業・修了前年度の「9月以前」とする回答割合が上昇している。

採用選考活動開始は卒業・修了年度の6月1日以降とされているところであるが、「最初に受けた面接の時期」は、過年度と比較して、2月以前の割合が上昇し、累計で見ると4月までに約9割の学生が面接を受けるなど、早期化の傾向がみられている。なお、採用面接の「ピーク」と「最後」に関しては、過年度調査と比較して、より遅い時期の回答割合が若干上昇しており、新型コロナウイルス感染症の影響により、時期の後ろ倒し等の見直しがあったものと考えられる。

内々定の時期については、過年度よりも早い時期の回答と、若干遅い時期の回答との両方が認められる。

④インターンシップについて

～参加する学生の割合は上昇傾向が続いており、参加時期も早くなっている

インターンシップについては、「参加したことがある」との回答割合が約8割、特に「複数回参加したことがある」との回答割合が約6割となっており、2019年度調査よりも上昇している。参加時期としては大学3年生時・大学院1年生時の「7月～9月」が最も多くなっており、「7月～9月」「10月～12月」の回答割合が過年度よりも上昇している。

参加したインターンシップが半日間又は1日間のプログラムである割合は、年々増加してきたが、今年度は2019年度と同程度になっている。また、参加したインターンシップについて「採用のための実質的な選考を行う活動を含んでいた」との回答割合は約3割となっており、2019年度調査と比べると割合が若干上昇している。

⑤就職・採用活動の設定時期について

～就職・採用活動の時期が昨年度と同じ時期に設定されたことについては、学生から肯定的な回答が多く、ルールが必要との回答割合も高い

今年度の就職・採用活動日程（広報活動開始：卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降、採用選考活動開始：卒業・修了年度の6月1日以降）について、今年度に就職活動を行った現在の大学4年生及び大学院2年生の多くは、「先輩の体験など、昨年の就職活動の情報を参考にすることができた」、「どの時期にどのような就職活動をするか予定をたてやすく準備・行動ができた」などの点で肯定的な認識を示している。

また、いわゆる「就活ルール」について、「ルールは必要ない」の回答割合が2019年度と比較して上昇してはいるものの、回答者全体の約7割の学生が「ルールが必要」と回答し、回答者全体の約4割が「ルールは必要であり、現在の開始時期がよい」と回答している。

広報活動開始時期前の、卒業・修了前年度2月までの時期に関して、「十分学修時間を確保できた」、「必要な学修時間は確保できた」、「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合は8割以上と高く、時期設定がなされていることについて一定の効果が認められる結果となっている。

⑥企業からの学修活動等への配慮の状況について

～企業による学業等への配慮は一定程度なされており、改善の傾向がみられる

企業から学生の学修活動等への配慮の状況に関して、これまでの調査と同様に、いくつかの点で状況の改善が認められている。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響によるスケジュールの変更等が行われた中で、「説明会や面接等の日程・時間帯等について配慮があったか」や「個別の面接日時等の設定に当たり配慮があったか」については、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は2019年度調査と比較して上昇している。

いわゆる「オワハラ」（例えば、内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるよう強要された、など）を受けた割合は、2015年度以降改善の傾向がみられ、内々定を受けた学生の約9%となっている。また、就職活動の過程においてセクシュアルハラスメント行為を受けたことが「ある」と回答している学生は約2%となっている。

(3) 本調査の主な結果

①就職活動に関する認識と学修時間確保の状況等について

<就職活動時期に関する認知の状況>

- ・就職・採用活動の時期が昨年度と同様の日程（広報活動開始：卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降、採用選考活動開始：卒業・修了年度の6月1日以降）であることを「よく知っていた」との回答割合が約4割と、2016年度調査～2019年度調査と比べ低くなっている。
- ・就職・採用活動の時期に関する情報源としては、「就職情報会社（情報ナビサイトなど）」との回答割合が約7割と最も高く、2016年度調査～2019年度調査と比べ高まっている。
- ・就職・採用活動の時期に関する情報を知った時期は、「卒業・修了前年度の8月以前」との回答割合が約4割と最も高い。

<就職活動時期に関する認識>

- ・就職・採用活動の時期が昨年度と同様の時期（広報活動開始：卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降、採用選考活動開始：卒業・修了年度の6月1日以降）に設定されたことについて、「先輩の体験など、昨年の就職活動の情報を参考にすることができた」という点で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合が約6割、「どの時期にどのような就職活動をするか予定をたてやすく準備・行動ができた」「夏の暑い時期に就職活動を行わなくて済んだ」などの点では約5割と高い一方で、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から行われた緊急事態宣言等の影響により、見込んでいた時期よりも就職・採用活動の実施時期を遅くする企業があり混乱した」についても回答割合が約7割と高い。
- ・いわゆる「就活ルール」について、「ルールは必要であり、現在の開始時期がよい」との回答割合は約4割となっている。「ルールは必要ない」との回答割合は約3割で、2019年度調査と比較すると高くなっている。

<学修時間の確保の状況>

- ・学修時間の確保の状況について、「十分学修時間を確保できた」、「必要な学修時間は確保できた」、「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合は、広報活動開始時期前の2月までは8割以上と高く、広報活動開始時期後の3～5月の時期には5割以下まで低下しているものの、採用選考活動開始時期後の6月は約5割、7月は約6割まで上昇している。
- ・採用選考活動開始時期が卒業・修了年度の6月となった2016年度調査～2019年度調査と比較すると、今年度調査は広報活動開始時期前の2月までの時期については学修時間が確保できたと回答した者の割合が低くなっており、卒業・修了前年度の3月～卒業・修了年度の5月の時期については高く、7月については低くなっている。

②就職活動内容・活動時期について

<業界や企業に関する分析の開始時期>

- ・業界や企業に関する分析を開始した時期は、卒業・修了前年度の6月以前の回答割合が約2割と最も高い。2016年度調査～2019年度調査と比較すると、より早期に準備を行う傾向がみられる。

<企業説明会やセミナー等の参加状況>

- ・企業説明会やセミナー等に「最初に参加した時期」は、広報活動開始時期前である「2019年6月以前」の回答割合が約2割と最も高い。「参加のピーク」「最後に参加した時期」については「2020年3月」との回答割合が最も高い。

- ・2015年度調査～2019年度調査と比較すると、特に「最初に参加した時期」について、今年度調査ではより早期の回答割合が上昇している。
- ・企業説明会やセミナー等に参加した回数について、20社未満の回答割合が約5割、30社未満の回答が約7割であり、2015年度調査～2019年度調査と比較すると、今年度調査では20社未満の回答割合が上昇している。

<エントリーシートの提出状況>

- ・エントリーシートを「最初に提出した時期」は、広報活動開始時期である「2020年3月」の回答割合が約3割と最も高い。「提出のピーク」も「2020年3月」の回答割合が約5割と最も高くなっている。「最後に提出した時期」については、「2020年4月」の回答割合が約2割と最も高い。
- ・2015年度調査～2019年度調査と比較すると、「最初」は3月の回答割合が低下してより早期の回答割合が高くなっている。また、「ピーク」については2019年度とほぼ同様となっており、「最後」については3月以前や7月以降の回答割合が若干高くなっている。
- ・エントリーシートの提出数について、「10～19社」の回答割合が約3割と最も高い。2019年度調査と比較すると、「1～4社」や30社以上の回答割合が上昇している。

<採用面接の実施状況>

- ・「最初に受けた採用面接の時期」は、広報活動開始時期である「2020年3月」の回答割合が約3割と最も高い。「採用面接のピーク」は、採用選考活動開始時期である6月の前の「2020年4月」の回答割合が約3割と最も高い。「最後に受けた採用面接の時期」については、採用選考活動開始時期である「2020年6月」の回答割合が3割と最も高い。
- ・2015年度調査～2019年度調査と比較すると、「最初」「ピーク」「最後」のいずれについても、今年度調査では時期が若干早まっているが、「ピーク」と「最後」は累積割合でみると4月以降に過年度調査と同程度かそれ以下になっており、特に「最後」については7月以降の回答割合が若干高くなっている。
- ・採用面接を受けた企業数について、10社未満の回答割合が約5割、20社未満の回答割合が約8割であり、2015年度調査～2019年度調査と比較すると、今年度調査では「1～4社」との回答割合が高くなっている。
- ・「最初に受けた採用面接の時期」から「最後に受けた採用面接の時期」までの期間は、「3ヶ月間程度」の割合が約2割と最も高い。2016年度調査～2019年度調査と比較すると、面接の期間がより長い期間であった者の割合が高くなっている。

<内々定の状況>

- ・最初に内々定を受けた時期は、採用選考活動開始時期である「2020年6月」の回答割合が約2割と最も高くなっている。2015年度調査～2019年度調査と比較すると、今年度調査では3月までは過年度調査の回答割合を上回り、内々定の時期が若干早まっているが、4月～5月の時期の回答割合は低くなっている。
- ・複数社から内々定を受けた者について、「就職予定の企業の内々定を受けた時期」は採用選考活動開始時期である「2020年6月」の回答割合が約4割と最も高い。
- ・就職予定の企業からの内々定の時期について、その企業に対する志望度に関わらず、採用選考活動開始時期である「2020年6月」の回答割合が最も高くなっている。

- ・複数社から内々定を受けた者の場合、企業の規模（従業員数）について、「最初に内々定を受けた企業」よりも「就職予定の企業」の方が相対的に大きい企業である割合が高く、2015年度調査～2019年度調査と同様の結果となっている。
- ・内々定の辞退の方法について、「自分で電話し、辞退した」が約8割、「自分でメールし、辞退した」が約3割となっている。

<採用試験・面接等を受けた経路>

- ・どのような経路で採用試験・面接等を受けたかについて、「自由応募（ウェブサイト等からのエントリー等）」が約9割、「インターンシップに参加した会社側からの案内（リクレーター、大学のOB/OG、リファラル採用等）」が約4割となっている。2019年度調査と比較すると、「インターンシップに参加した会社側からの案内」の回答割合が高くなっている。

<就職活動の期間>

- ・「就職活動が始まったと考える時期」は、広報活動開始時期である「2020年3月」の回答割合が約2割と最も高い。2015年度調査～2019年度調査と比較すると、3月の回答割合が比較的高いのはこれまでと同様であるが、卒業・修了前年度の9月以前の回答割合が上昇し、3月の回答割合を上回っている。
- ・「就職活動が終わったと考える時期」は、採用選考活動開始時期である「2020年6月」の回答割合が約4割と最も高い。2015年度調査～2019年度調査と比較すると、今年度調査では4月～6月の回答割合が過年度と同程度かそれ以下となっており、7月や「まだ終わっていない」の割合が若干高くなっている。
- ・「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」までの期間は、「4ヶ月間程度」の割合が最も高く、「同月内」から「4ヶ月間程度」までの割合を合わせると約3割となっている。2016年度調査～2019年度調査と比較すると、「3ヶ月間程度以内」の割合が低く、「9ヶ月間程度以上」「まだ終わっていない」の割合が高くなっている。

<インターンシップの参加経験>

- ・インターンシップ参加経験がある者は約8割で、2015年度調査～2019年度調査と比較すると高くなっている。
- ・インターンシップ参加の時期は、大学3年生・大学院1年生の「7月～9月」と「1月～3月」の参加割合が約5～6割と高く、次に大学3年生・大学院1年生の「10月～12月」の割合が約4割となっている。2015年度調査～2019年度調査と比較すると、それらの時期にインターンシップに参加したとの回答割合が高くなっている。
- ・参加したインターンシップのうち最長の日数は、「1日」との回答割合が約3割と最も高く、今年度調査は2019年度調査の結果とほぼ同様となっている。
- ・インターンシップに1回のみ参加したことがある場合で、その日数が半日間又は1日間であった割合は約6割となっている。また、インターンシップに複数回参加したことがある場合で、半日間又は1日間のインターンシップに参加したことがある割合は9割以上となっている。
- ・インターンシップへのすべての参加回数のうち、半日間又は1日間のインターンシップへの参加回数が占める割合は、約8割であった。2017年度調査～2019年度調査に比べ、この割合は上昇している。

- ・半日間・1日間のインターンシップでは約6割が、2日間以上のインターンシップでは約3割が「就業体験等を伴うものではなかった」との回答となっている。
- ・参加したインターンシップのうち、約3割が「採用のための実質的な選考を行う活動を含んでいた」との回答となっている。

<インターンシップの効果についての認識>

- ・インターンシップに参加して感じた効果について、「半日又は1日間のインターンシップ」、「2日間以上のインターンシップ」ともに、「業界・業種を理解することができた」について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合が9割以上と高くなっている。このほか、「仕事の内容を具体的に知ることができた」など、「良い影響」と考えられる事項について、「半日間又は1日間のインターンシップ」に比べ「2日間以上のインターンシップ」の方が「そう思う」との回答割合が高くなっている。

<新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響>

- ・企業説明会やセミナー等への参加時期について、「就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期よりも遅い時期だった」との回答割合は約2割、そのうち約7割が「新型コロナウイルス感染症の拡大が主な原因だと思う」と回答している。
- ・回答した学生が参加したすべての企業説明会やセミナー等のうち、参加方法が「ウェブ等のみでの参加」であった企業は約5割となっている。
- ・参加を予定していた企業説明会やセミナー等で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で1社以上開催が中止になったと回答した者は約7割、対面で実施されることを理由として自ら参加を1社以上取りやめたと回答した者は約3割となっている。
- ・エントリーシートの提出を予定していた企業で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響でエントリーの受付が1社以上中止になったと回答した者は約2割となっている。
- ・採用面接の時期について、「就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期よりも遅い時期だった」との回答割合は約3割、そのうち約9割が「新型コロナウイルス感染症の拡大が主な原因だと思う」と回答している。
- ・回答した学生が受けたすべての採用面接のうち、実施方法が「ウェブ等のみでの実施」であった企業は約6割となっている。
- ・受けることが予定されていた企業の採用面接で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で1社以上実施が中止になったと回答した者は約2割となっている。
- ・秋採用や通年採用などといった機会の提供や情報発信が企業からされていたかについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合は約4割となっている。また、秋採用や通年採用などの実施により今後採用面接を受ける予定の企業が、調査実施時点で1社以上である者の割合は約2割となっている。
- ・内々定を受けた時期が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、当初企業から案内されていた時期から後ろ倒しに「変更された」との回答割合は約3割となっている。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、課題になったこととして、「企業説明会が延期・中止になる等、移動や対面での接点がなくなり、企業や仕事などの情報収集が十分にできなかった」との回答割合が約6割、「移動で公共交通機関を使うことに関し不安が大きかった」との回答割合が約5割となっている。

③企業による学業などに対する配慮の状況等について

＜履修履歴（成績証明書など）の提出の状況＞

- ・就職活動の面接や試験を受けるにあたり、履修履歴（成績証明書など）を提出することがどの程度あったかについて「多くの企業で提出した」の回答割合が約 3 割で、2016 年度調査～2019 年度調査と比べると低くなっている。

＜採用面接の際の学業や成績等への評価＞

- ・採用面接において、研究・ゼミや専門分野などの学業の取組や成績等の質問を受け、その内容が採用選考の評価に関係していると感じたかについて「評価に深く関係していると感じた」と「評価にある程度関係していると感じた」を合わせた回答割合は約 5 割で、2015 年度調査～2019 年度調査と概ね同様の結果となっている。

＜就職活動の日程・時間帯等に関する配慮＞

- ・説明会や面接等の日程・時間帯等について配慮があったかに関して、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は約 7 割となっている。また、個別の面接日時等の設定に当たり配慮があったかについては、約 8 割となっている。2016 年度調査～2019 年度調査と比較すると、今年度調査では特に「多くの企業で配慮していた」の回答割合が高くなっている。

＜遠隔地への就職活動への配慮＞

- ・地方から都市部への就職活動や、Uターン・Iターン・Jターン就職など、学生の負担の大きい遠隔地への就職活動に際して、企業側からの配慮があったかについて、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合が約 7 割となっている。2016 年度調査～2019 年度調査と比較すると、今年度調査では特に「多くの企業で配慮していた」の回答割合が高くなっている。

＜クールビズでの就職活動＞

- ・面接の実施にあたり、クールビズでの対応が認められていたかについて「多くの企業で認められていた」と「ある程度の企業で認められていた」を合わせた回答割合は約 6 割で、2016 年度調査～2019 年度調査と概ね同様の結果となっている。

＜留学経験者への配慮＞

- ・留学の予定等に影響があったかについては、約 2 割が「留学する考えがあったが、就職・採用活動の設定時期により、留学を取りやめた」と回答しており、2016 年度調査～2019 年度調査と概ね同様の結果となっている。
- ・就職・採用活動期間中に留学を実際に行っていた者が就職を希望した企業において、留学経験者が不利にならないような配慮があったかについては、約 4 割が「多くの企業で配慮していた」または「ある程度の企業で配慮していた」と回答しており、2019 年度調査と概ね同様の結果となっている。
- ・留学と採用選考の時期が重なることで、面接日程の配慮を求めた際の対応状況について、「配慮を求めた企業のほぼ全てが対応してくれた」と「対応してくれた企業のほうが多い」を合わせた回答割合は約 6 割で、2019 年度調査と比較すると低くなっている。

＜ハラスメント行為＞

- ・他の企業等への就職活動の終了を強制するようなハラスメント的な行為（いわゆる「オワハラ」）を受けた経験について、約 1 割が「ある」と回答しており、2015 年度調査～2019 年度調査と比較すると若干低下している。

- ・企業等からの「オワハラ」でどのような行為を受けたかについては、「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された（早めに内々定を受ける旨の返答をしない場合には、内々定を取り消すと言われたなど）」との回答割合が約7割となっている。
- ・「オワハラ」を受けた時期は「6月前半」の回答割合が約3割、「6月後半」の回答割合が約2割となっている。2016年度調査～2019年度調査と比較すると、「3月以前」や「6月後半」以降の回答割合が高くなっており、「4月前半」から「6月前半」の時期の回答割合が低下している。
- ・就職活動の過程でセクシュアルハラスメント行為を受けた経験について、「ある」の回答割合は1.5%となっている。
- ・セクシュアルハラスメント行為を受けたタイミングとしては、「就職採用面接を受けたとき」の回答が約6割、「企業説明会やセミナーに参加したとき」が約1割となっている。

調査結果報告書本文

第1章 調査の概要・回答者属性等

(1) 調査の概要

①調査の目的

本調査は、2020年度卒業・修了予定者の就職・採用選考活動の意識・行動等を把握することにより、2021年度以降の就職・採用活動の円滑な実施に資することを目的として実施した。

②調査の実施方法

地域、設置主体、規模等を勘案して選定した全国の約60の大学に協力いただき、それらの大学から、大学4年生及び大学院修士課程（博士前期課程）2年生にアンケート調査への協力を依頼していただいた。なお、医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生や海外からの留学生については調査の対象外である旨を案内の上で実施した。

各学生には、インターネット上に開設したアンケート調査のホームページにアクセスし、回答していただいた。ホームページは、2020年7月22日から8月21日までの間開設した。

③回答状況

対象学年別の有効回答件数は図表1-1の通りである。なお、社会人経験があり元の職場に復帰予定の者や、進学等を予定しており就職活動をする予定がない者等については、集計の過程において、適宜対象から除いて集計を行った。

図表 1-1 学年別の有効回答件数

対象	大学4年生	大学院2年生	合計
有効回答件数	5,643	1,679	7,322

※学年について「その他」と回答があった132件については有効回答の対象外とした。

④分析委員会の開催

調査分析結果については、以下の方々から構成される調査分析委員会を開催し、集計の方法や報告書のとりまとめの方向性等について助言を受けた。

＜分析委員会委員＞（50音順）

- 橋本 諭 氏（産業能率大学情報マネジメント学部 准教授）
- 濱中 義隆 氏（国立教育政策研究所高等教育研究部 総括研究官）
- 堀 有喜衣 氏（労働政策研究・研修機構人材育成部門 主任研究員）
- 増本 全 氏（公益社団法人全国求人情報協会 新卒等若年雇用部会 事務局長）

⑤調査企画

内閣府政策統括官（経済財政運営担当）付参事官（企画担当）

⑥調査実施・集計

株式会社浜銀総合研究所

(2) 回答者属性

本調査への回答が得られた学生の属性に関して、①性別、②大学・大学院の設置主体、③専攻、④大学・大学院の所在地域による割合を、対象学年別に図表 1-2～図表 1-5 に示し、それぞれ右欄に 2019 年度の学校基本調査³（文部科学省調べ）の情報（確定版）について掲載した^{4,5,6}。

本調査の回答者の属性の状況を、学校基本調査に基づく全国の母集団の状況と比較すると、性別については大学 4 年生が「女性」からの回答割合が高く、大学・大学院の設置主体については大学 4 年生・大学院 2 年生ともに「国立」からの回答割合が高いなど、若干の偏りが生じている状況にあることが把握される。

図表 1-2 性別

	大学 4 年生		大学院 2 年生	
	本調査	2019 年度 学校基本調査 (確定版)	本調査	2019 年度 学校基本調査 (確定版)
男性	41.2%	54.2%	66.7%	68.9%
女性	57.3%	45.8%	32.0%	31.1%
その他 ⁷	1.5%	—	1.3%	—
集計度数	5,643	622,716	1,679	77,074

図表 1-3 大学・大学院の設置主体

	大学 4 年生		大学院 2 年生	
	本調査	2019 年度 学校基本調査 (確定版)	本調査	2019 年度 学校基本調査 (確定版)
国立	23.8%	16.7%	63.0%	58.8%
公立	4.7%	5.3%	8.7%	6.5%
私立	71.6%	78.0%	28.4%	34.8%
集計度数	5,643	622,716	1,679	77,074

³ 学校基本調査は、全国全ての学校を対象とした、統計法（平成 19 年法律第 53 号）に基づく基幹統計調査である。

⁴ 調査対象として医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生は対象外としていることから、学校基本調査の情報のうち「専攻」について、「保健」の学生数を除いた値を参照した。ただし、性別や設置主体別、地域別のデータについては、一部「保健」を専攻している学生を取り除いた値の算出が困難であったことから、「保健」の者も含めた値を参照している。（図表 1-4 は「保健」専攻の学生を除いた値、図表 1-2、図表 1-3、図表 1-5 は「保健」専攻の学生を含めた値）

⁵ 2020 年度の学校基本調査の情報（速報値）では、「性別」「大学・大学院の設置主体別」「大学・大学院の所在地域別」の学生数が公開されているが、「専攻別」の学生数が公開されていないため、後段で詳述するウエイトによる補正が過年度調査と同様の方法では困難であった。そこで、2019 年度の学校基本調査の情報（確定版）から、大学 3 年生・大学院 1 年生の値を用いてウエイトを作成することとしたため、ここでも比較対象として 2019 年度の学校基本調査の情報（確定版）の値を掲載している。

⁶ なお、本調査の値と 2019 年度学校基本調査（確定版）いずれの値も、小数点第 2 位を四捨五入した上で表示しているため、割合の合計が 100%を超えたり、小計の値を超えたりする場合がある。

⁷ 今年度調査においては、性別を尋ねる設問において、「その他」と「答えたくない」の選択肢を設定した。ここでは、これらの回答を「その他」として集計した。

図表 1-4 専攻

	大学 4 年生		大学院 2 年生	
	本調査	2019 年度 学校基本調査 (確定版)	本調査	2019 年度 学校基本調査 (確定版)
人文科学	22.6%	16.0%	5.3%	6.1%
社会科学	42.7%	36.8%	3.3%	10.5%
理学	7.6%	3.5%	30.2%	9.8%
工学	10.4%	17.3%	46.9%	45.3%
農学	2.9%	3.4%	7.9%	5.9%
保健	2.5%	—	1.9%	—
商船	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
家政	1.2%	3.2%	0.1%	0.5%
教育	3.7%	8.4%	1.7%	4.3%
芸術	0.6%	3.1%	0.5%	3.0%
その他	5.9%	8.3%	2.2%	14.5%
文系	76.6%	75.9%	13.1%	38.9%
理系	23.4%	24.1%	86.9%	61.1%
集計度数	5,643	553,209	1,679	71,407

※「人文科学」、「社会科学」、「家政」、「教育」、「芸術」、「その他」を「文系」とし、「理学」、「工学」、「農学」、「保健」、「商船」を「理系」としている

図表 1-5 大学・大学院の所在地域

	大学生		大学院生	
	本調査 (大学 4 年生)	2019 年度 学校基本調査 (確定版)	本調査 (大学院 2 年生)	2019 年度 学校基本調査 (確定版)
北海道・東北	6.4%	7.3%	13.5%	8.8%
関東	37.4%	43.8%	37.5%	42.3%
中部	14.1%	12.9%	13.7%	13.0%
近畿	20.2%	21.2%	17.7%	20.5%
中国・四国	7.6%	6.6%	8.9%	6.9%
九州・沖縄	14.3%	8.3%	8.8%	8.4%
集計度数	5,643	2,609,148	1,679	254,621

※「北海道・東北」は、北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県が該当する

※「関東」は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県が該当する

※「中部」は、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県、静岡県、愛知県、岐阜県が該当する

※「近畿」は、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県が該当する

※「中国・四国」は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県、徳島県、高知県が該当する

※「九州・沖縄」は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県が該当する

(3) ウェイトによる補正

就職・採用活動の状況は、文系・理系などの属性別に差異があると考えられたことから、実態について集計結果を示すにあたっては、可能な限り回答者の属性分布を母集団に近似させることが望ましいと考えられた。そこで、本調査では、「性別」「大学・大学院の設置主体」「文系・理系別」の3点について、それぞれのバランスが母集団に近似するようにウェイト付けを行った上で集計を行うこととした。

なお、2015年度調査から2017年度調査においては、原則として大学4年生と大学院2年生の集計を別々に行っていたが、本調査では、2018年度調査・2019年度調査と同様に、大学4年生と大学院2年生とを合わせた集計も行い、結果を掲載した。大学4年生と大学院2年生とを合わせた集計を行う際にも、学校基本調査の在学者数⁸を基にしたウェイトによりデータの補正を行った。

分類別のウェイト値は、大学4年生・大学院2年生を合わせた集計結果を示す場合と、別々に示す場合とで、それぞれ図表1-6と図表1-7に示したように設定をした⁹。また、①性別、②大学・大学院の設置主体、③専攻、④大学・大学院の所在地域のそれぞれについて、ウェイトによる補正後の分布は図表1-8～図表1-11のようになっている¹⁰。

これらから、ウェイト補正後は、「性別」「大学・大学院の設置主体」「文系・理系別」の3点について、母集団における分布と近い構成比になっていることが確認できる¹¹。ただし、「文系・理系別」の詳しい内訳と大学・大学院の所在地域については直接的にウェイト付けの対象としなかったことから、母集団の分布と比べて若干の偏りが生じている状況にある。

⁸ 2015年度調査から2019年度調査については、各調査年度の学校基本調査の速報値から「性別」「大学・大学院の設置主体別」「専攻別」の大学4年生・大学院2年生の在学者数の情報を用いてウェイト値を作成していたが、今年度については学校基本調査の速報値に「専攻別」の情報の掲載がなかった。そのため、2019年度の学校基本調査の確定版から「性別」「大学・大学院の設置主体別」「専攻別」の大学3年生・大学院1年生の在学者数の情報を用いてウェイトを作成した。なお、2019年度調査のデータを用いて、2019年度学校基本調査速報値を用いたウェイトを使用した集計と、2018年度学校基本調査確定版を用いたウェイトを使用した集計を行って両者を比較したところ、大きな差が認められなかった。

⁹ 性別が「その他」の者に関しては、学校基本調査には直接的に対応する値はないが、性別以外の「大学・大学院の設置主体」「文系・理系別」のバランスをふまえてウェイト値を設定した。

¹⁰ ウェイト補正後の集計値に関しては、四捨五入等している関係で、設問により、選択肢ごとの度数と度数合計が一致しない場合がある。また、集計結果の割合(%)は、小数点以下第2位を四捨五入した上で表示しているため、内訳の計が100%にならない場合がある。

¹¹ 「文系・理系別」の詳しい内訳と大学・大学院の所在地域については直接的にウェイト付けの対象としなかったことから、母集団の分布と比べて若干の相違があるが、細部まで補正を行うことが困難であったことから、「性別」「大学・大学院の設置主体別」「文系・理系別」の3点について補正したデータにより集計を行った。なお、ウェイト付けの際には、専攻について「保健」の者を除いた形で値を算出した。このことにより、ウェイト補正後の「性別」「大学・大学院の設置主体別」の分布について、図表1-2、図表1-3に掲載した構成比とは若干異なる値になっている。

図表 1-6 大学生・大学院生をまとめて集計する際のウエイト値

本調査			大学 4 年生	大学院 2 年生
男性	国立	文系	1.0960	1.6794
		理系	1.0430	0.4165
	公立	文系	1.8487	0.6731
		理系	0.8184	0.2536
	私立	文系	1.9293	1.0812
		理系	1.4809	0.4773
女性	国立	文系	0.6046	0.8680
		理系	0.4877	0.1662
	公立	文系	1.5472	1.2865
		理系	0.4240	0.2968
	私立	文系	0.9391	0.9328
		理系	0.7903	0.4913
その他	国立	文系	0.4565	0.4534
		理系	0.7324	0.7513
	公立	文系	1.6640	0.3221
		理系	—	0.4670
	私立	文系	1.3253	0.3464
		理系	1.7045	0.8351

※ウエイト値について四捨五入の上小数点以下第 4 位まで掲載しているが、実際には小数点以下第 15 位までの値に基づいてウエイト付けを行っている。

※公立理系の大学 4 年生で性別が「その他」の者は該当者がいなかったことから、ウエイト値を設定していない。

図表 1-7 大学生・大学院生を別々に集計する際のウエイト値

本調査			大学 4 年生	大学院 2 年生
男性	国立	文系	0.9533	3.3745
		理系	0.9072	0.8369
	公立	文系	1.6080	1.3524
		理系	0.7118	0.5096
	私立	文系	1.6780	2.1726
		理系	1.2880	0.9591
女性	国立	文系	0.5259	1.7440
		理系	0.4242	0.3340
	公立	文系	1.3457	2.5849
		理系	1.3688	0.5963
	私立	文系	0.8168	1.8743
		理系	0.6874	0.9871
その他	国立	文系	0.4090	0.8139
		理系	0.6563	1.3488
	公立	文系	1.4910	0.5782
		理系	—	0.8384
	私立	文系	1.1875	0.6219
		理系	1.5273	1.4991

※ウエイト値について四捨五入の上小数点以下第 4 位まで掲載しているが、実際には小数点以下第 15 位までの値に基づいてウエイト付けを行っている。

※公立理系の大学 4 年生で性別が「その他」の者は該当者がいなかったことから、ウエイト値を設定していない。

図表 1-8 性別（ウエイトによる補正後）

本調査	全体	大学 4 年生	大学院 2 年生
男性	57.3%	55.7%	69.9%
女性	41.2%	42.8%	28.8%
その他	1.4%	1.5%	1.3%
集計度数	7,322	5,643	1,679

図表 1-9 大学・大学院の設置主体（ウエイトによる補正後）

本調査	全体	大学 4 年生	大学院 2 年生
国立	21.5%	16.7%	59.0%
公立	5.0%	4.8%	6.4%
私立	73.5%	78.6%	34.6%
集計度数	7,322	5,643	1,679

図表 1-10 専攻（ウエイトによる補正後）

本調査	全体	大学 4 年生	大学院 2 年生
人文科学	21.8%	22.8%	13.9%
社会科学	39.5%	43.0%	12.4%
理学	8.1%	6.7%	18.9%
工学	16.2%	13.5%	36.5%
農学	1.6%	1.3%	3.8%
保健	2.5%	2.6%	1.8%
商船	0.0%	0.0%	0.0%
家政	1.1%	1.1%	0.8%
教育	3.5%	3.3%	5.1%
芸術	0.8%	0.7%	1.3%
その他	4.9%	4.9%	5.4%
文系	71.7%	75.9%	39.0%
理系	28.3%	24.1%	61.0%
集計度数	7,322	5,643	1,679

図表 1-11 大学・大学院の所在地域（ウエイトによる補正後）

本調査	全体	大学 4 年生	大学院 2 年生
北海道・東北	6.2%	5.5%	11.6%
関東	39.0%	38.9%	39.6%
中部	14.2%	14.3%	13.5%
近畿	20.8%	21.0%	18.9%
中国・四国	6.3%	6.1%	8.1%
九州・沖縄	13.6%	14.3%	8.1%
集計度数	7,322	5,643	1,679

以降では、ウェイト補正後のデータに基づき、「就職活動に関する認識と学修時間確保の状況等」、「就職活動内容」、「企業による学業などに対する配慮の状況等」について集計を行った。

なお、原則として大学4年生・大学院2年生をあわせて集計をした結果と、別々に集計した結果の両方を掲載し、また、2015年度に実施した「就職・採用活動開始時期の後ろ倒しに係る学生の就職活動等調査」、2016年度に実施した「就職・採用活動開始時期変更に係る学生の就職活動等調査」、2017年度・2018年度・2019年度に実施した「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査」¹²との比較を行い、回答傾向の違いについて把握した。

本資料に掲載した集計結果等に関しては、次のような点に留意されたい。

- 集計結果の割合(%)は、小数点以下第2位を四捨五入した上で表示しているため、内訳の計が100%にならない場合がある。
- 設問には選択肢からひとつだけ回答するものと、選択肢から複数の項目を回答するものがあり、複数回答する場合の設問では、選択肢別の集計結果の割合合計が100%を超える場合がある。
- 本資料で扱う今年度調査の集計について、ほとんどの設問は「就職活動を行った(終えた)」「就職活動を行っている(継続している)」と回答した者が集計対象であるが、一部の設問は「これから就職活動を行う予定である」と回答した者も集計対象に含んでいる。このほか、一部の回答者を除いて集計をしている設問があるが、これらの点はページ下部の注釈にて説明を記載した。

¹² それぞれ、「2015年度調査」「2016年度調査」「2017年度調査」「2018年度調査」「2019年度調査」と表記し、これら5ヶ年の調査をあわせて「過年度調査」と表記する。また、今回2020年度に実施した「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査」を「今年度調査」と表記する。なお、2016年度調査、2017年度調査、2018年度調査、2019年度調査、今年度調査は8月1日時点で実施しているが、2015年度調査は10月1日時点で実施した。

第2章 就職活動に関する認識と学修時間確保の状況等

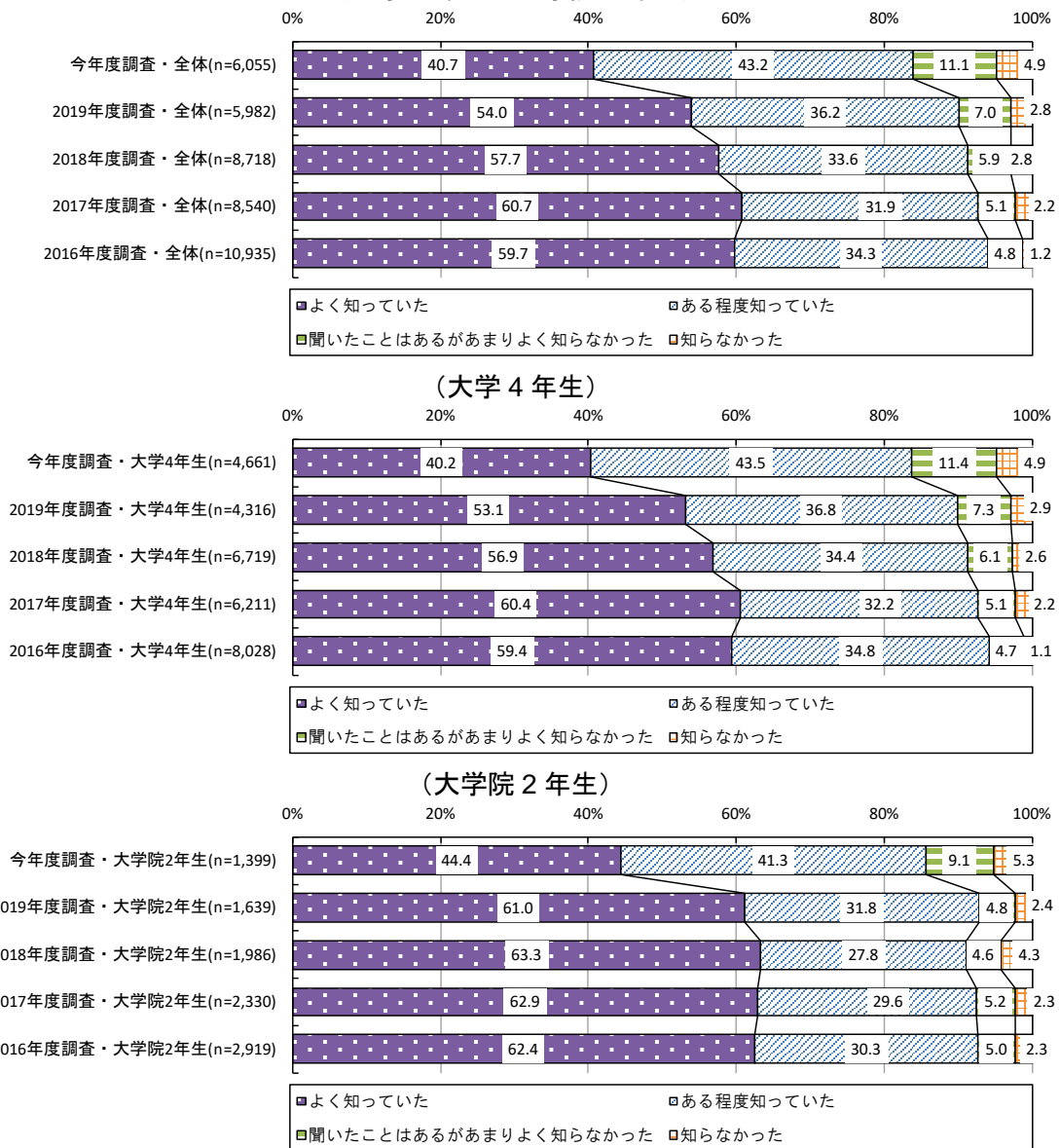
(1) 就職活動時期に関する認知の状況

① 就職活動時期に関する認知度

就職活動を開始するにあたり、就職・採用活動の時期が昨年度と同様の日程（広報活動は3月1日以降、採用選考活動は6月1日以降）で行われることについて、「よく知っていた」の回答割合は約4割となっており、「ある程度知っていた」の回答割合と合わせると約8割となっている。

2016年度調査～2019年度調査と比較すると、「よく知っていた」の回答割合が低くなっている¹³。

図表 2-1-1 就職活動時期に関する認知度
(大学4年生・大学院2年生)



¹³ いずれの年度の調査も、「就職活動を行った（終えた）」「就職活動を行っている（継続している）」「これから就職活動を行う予定である」と回答した者が集計対象で、「就職活動を行わなかった（行う予定はない）」と回答した者は集計の対象外とした。なお、2016年度調査は就職活動時期変更について知っていたかを尋ねた設問となっている。2015年度調査でも就職活動時期に関する認知度を把握するための設問はあるが、他の年度とは異なる聞き方となっていることから、ここでは比較の対象としなかった。

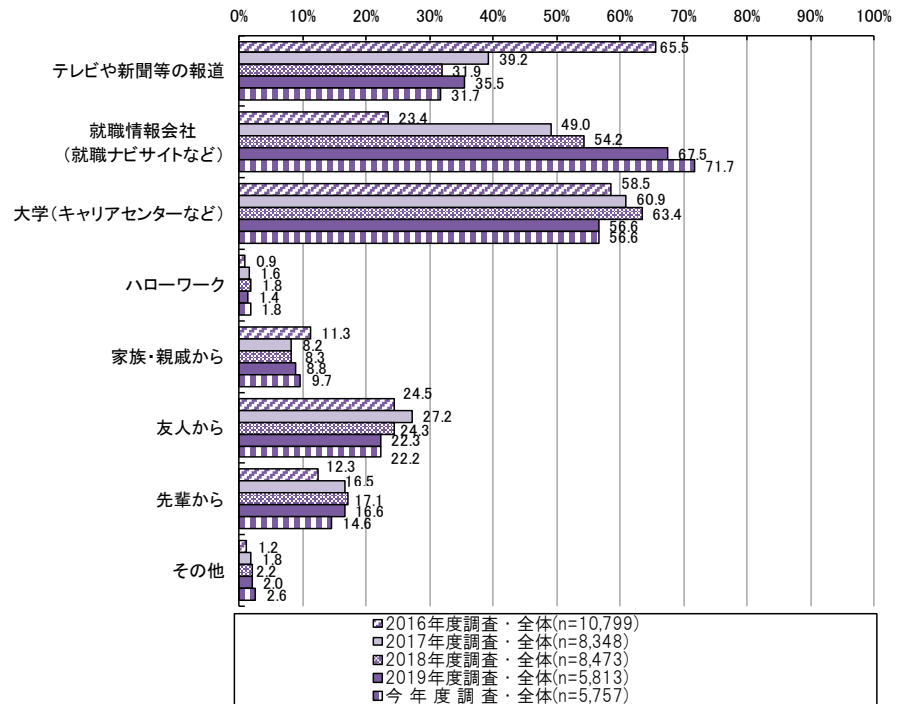
②就職活動の時期に関する情報源

どのようなルートで就職・採用活動の時期に関する情報を知ったかについて¹⁴、「就職情報会社（情報ナビサイトなど）」の割合が約7割と最も高く、次いで「大学（キャリアセンターなど）」の割合が高くなっている。

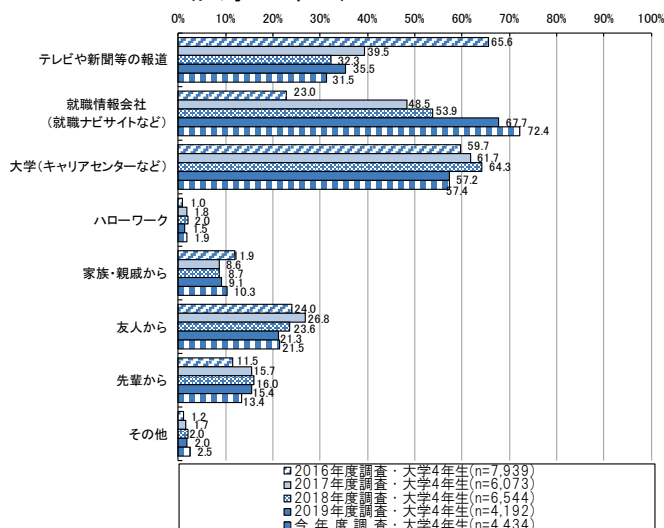
2016年度調査～2019年度調査と比較すると、「就職情報会社」の割合が高まっている¹⁵。

図表 2-1-2 就職活動時期に関する情報源（複数回答）

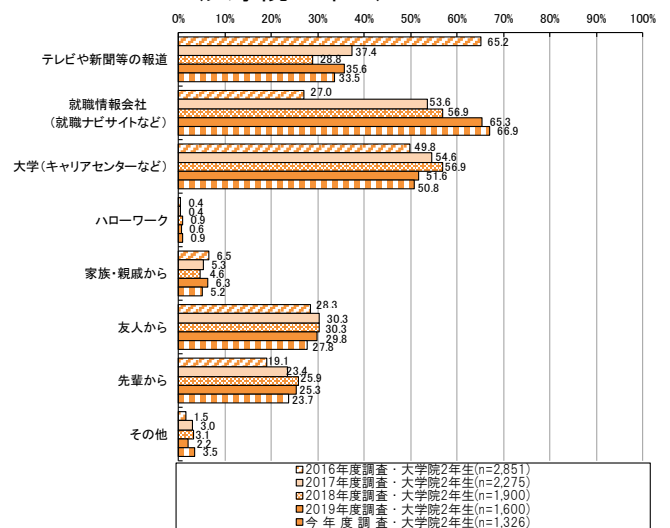
（大学4年生・大学院2年生）



（大学4年生）



（大学院2年生）



¹⁴ 就職・採用活動の時期が昨年度と同様の日程で行われることについて「よく知っていた」「ある程度知っていた」「聞いたことはあるがあまりよく知らなかった」と回答した者が集計の対象で、「知らなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

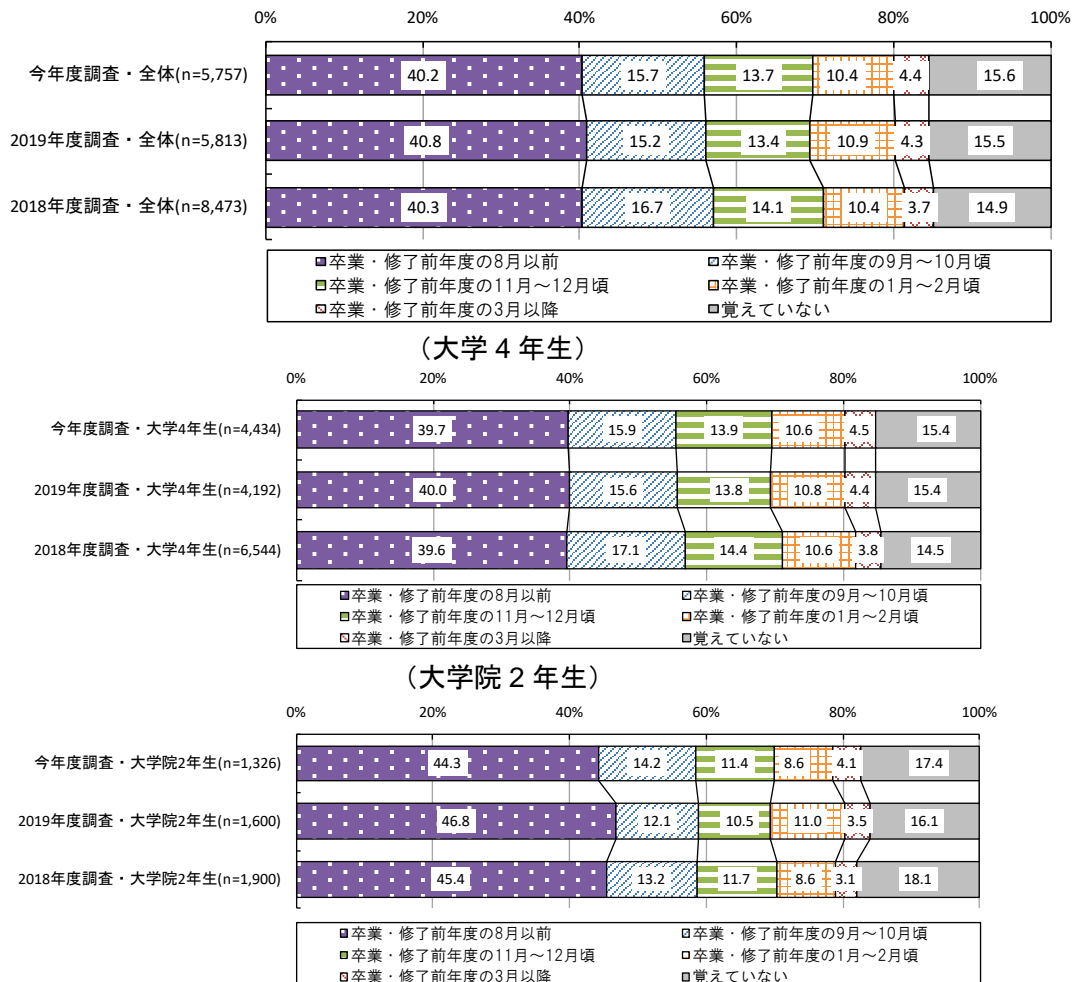
¹⁵ 2016年度調査は就職活動時期変更に関する情報をどのようなルートで知ったかを尋ねた設問となっている。2015年度調査では当該設問について調査を実施していない。なお、2017年度・2018年度は「就職情報会社」、2016年度は「求人情報会社」の文言で調査を行っている点には留意が必要である。

③就職活動時期に関する情報を知った時期

いつ頃就職・採用活動の時期に関する情報を知ったかについて¹⁶、「卒業・修了前年度の8月以前」の割合が最も高く、約4割となっている。

過年度調査と比較すると、ほぼ同様の回答結果となっている¹⁷。

図表 2-1-3 就職活動時期に関する情報を知った時期
(大学4年生・大学院2年生)



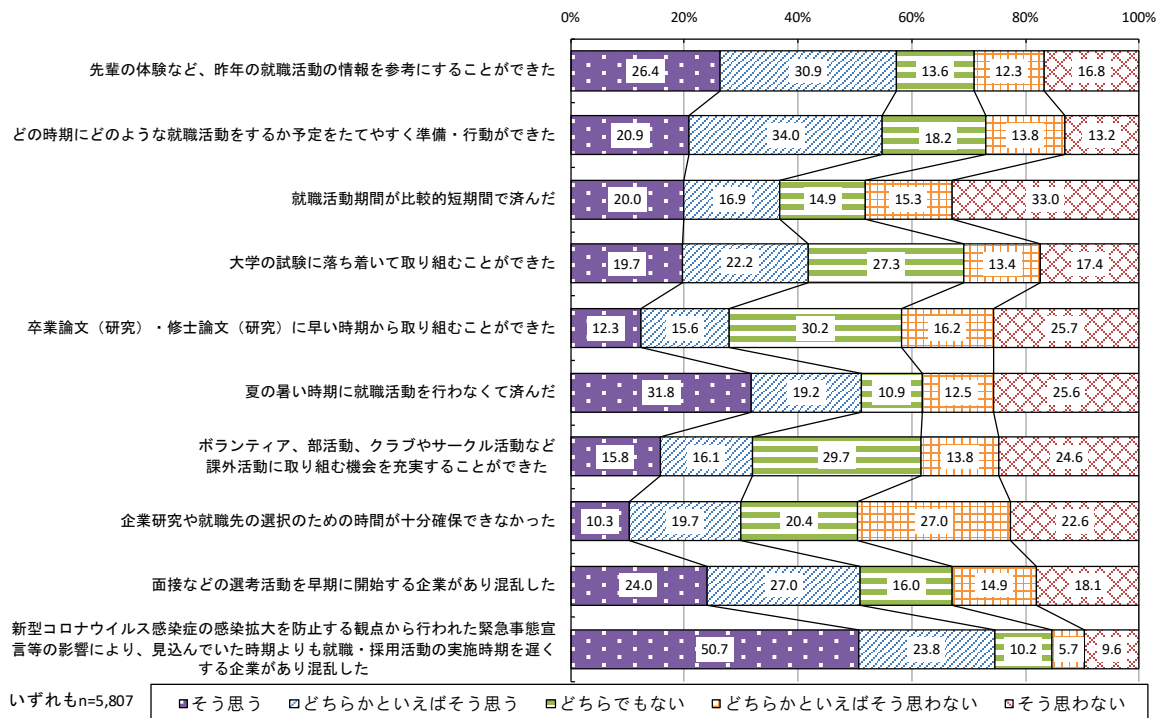
¹⁶ 就職・採用活動の時期が昨年度と同様の日程で行われることについて「よく知っていた」「ある程度知っていた」「聞いたことはあるがあまりよく知らなかった」と回答した者が集計の対象で、「知らなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

¹⁷ 2015年度調査・2016年度調査では当該設問について調査を実施していない。2017年度調査では同内容の設問はあるが、選択肢として設定している時期が異なっていることから、ここでは比較の対象としなかった。

(2) 就職活動時期に関する認識

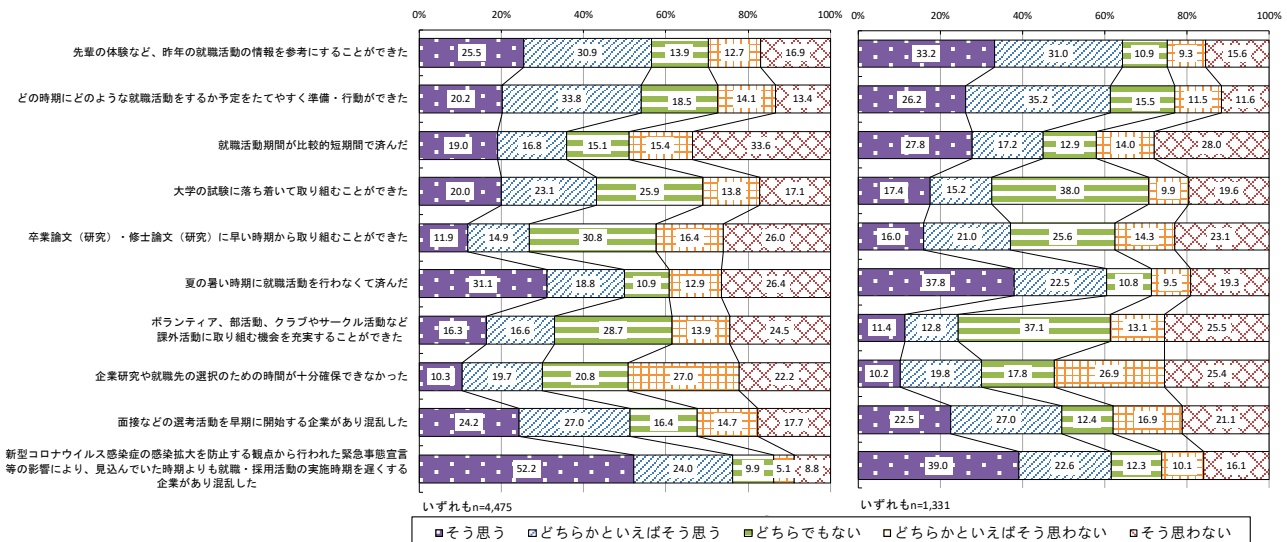
就職・採用活動の時期が昨年度と同様の時期に設定された（広報活動は3月1日以降、採用選考活動は6月1日以降に開始）ことについて、「先輩の体験など、昨年の就職活動の情報を参考にすることができた」という点で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合が約6割、「どの時期にどのような就職活動をするか予定をたてやすく準備・行動ができた」、「夏の暑い時期に就職活動を行わなくて済んだ」という点では約5割と比較的高かった。他方で、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から行われた緊急事態宣言等の影響により、見込んでいた時期よりも就職・採用活動の実施時期を遅くする企業があり混乱した」では約7割となっていた¹⁸。

図表 2-2-1 就職活動時期に関する認識
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)

(大学院2年生)



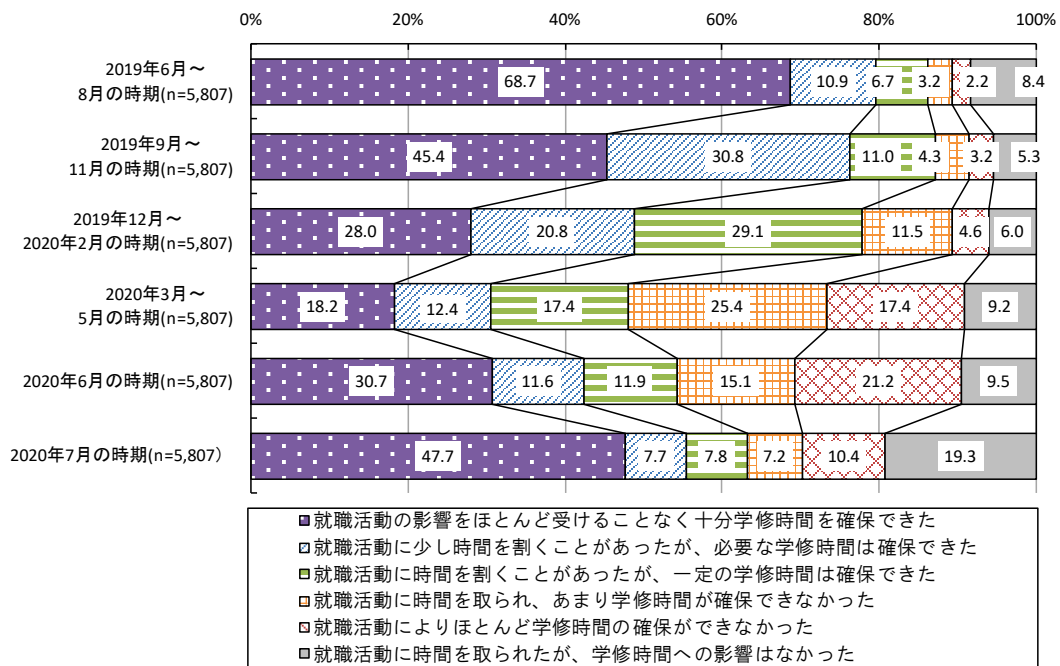
18 「新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から行われた緊急事態宣言等の影響により、見込んでいた時期よりも就職・採用活動の実施時期を遅くする企業があり混乱した」を除く全ての項目は、2017年度調査から2019年度調査でも同様の設問により調査をしているが、今年度調査では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合が2019年度調査の結果よりも低くなっている。

(3) 就職活動と学修時間確保の状況

就職活動と学修時間確保の状況について、「十分学修時間を確保できた」「必要な学修時間は確保できた」「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合は、広報活動開始時期前の11月までは約9割、2月までは約8割と高くなっており、広報活動開始時期後の3月～5月には5割以下まで低下しているものの、採用・選考活動開始時期後の6月は約5割、7月は約6割まで上昇している。

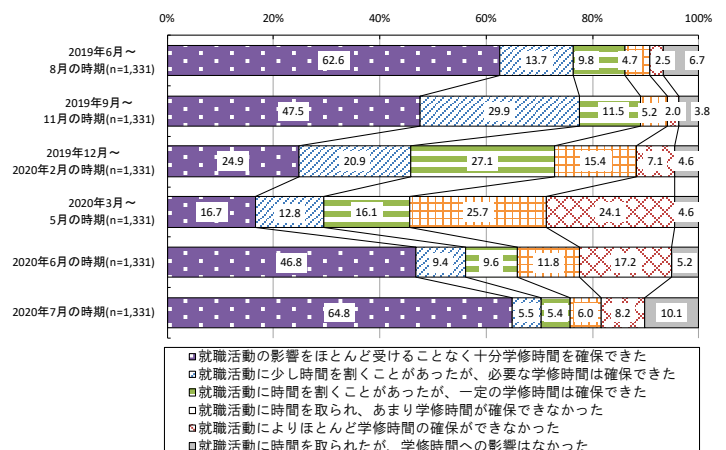
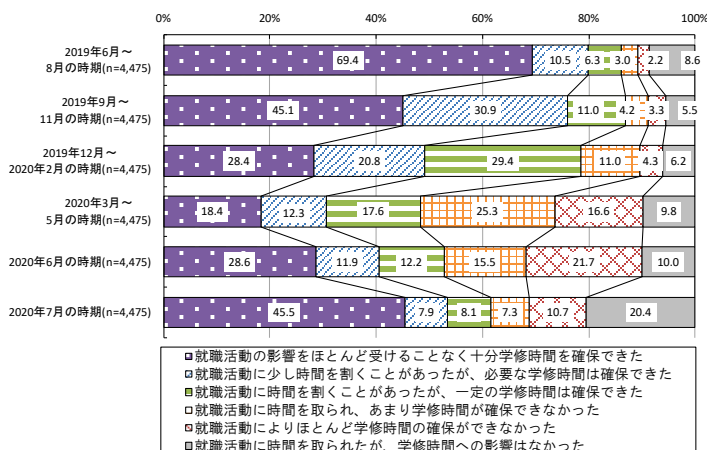
採用・選考活動開始時期が6月となった2016年度調査～2019年度調査と比較すると、広報活動開始時期前の2月までの時期については学修時間が確保できたと回答した者の割合が低くなり、卒業・修了前年度の3月～卒業・修了年度の5月の時期については高く、7月については低くなっている¹⁹。

図表 2-3-1 就職活動と学修時間確保の状況
(大学4年生・大学院2年生)



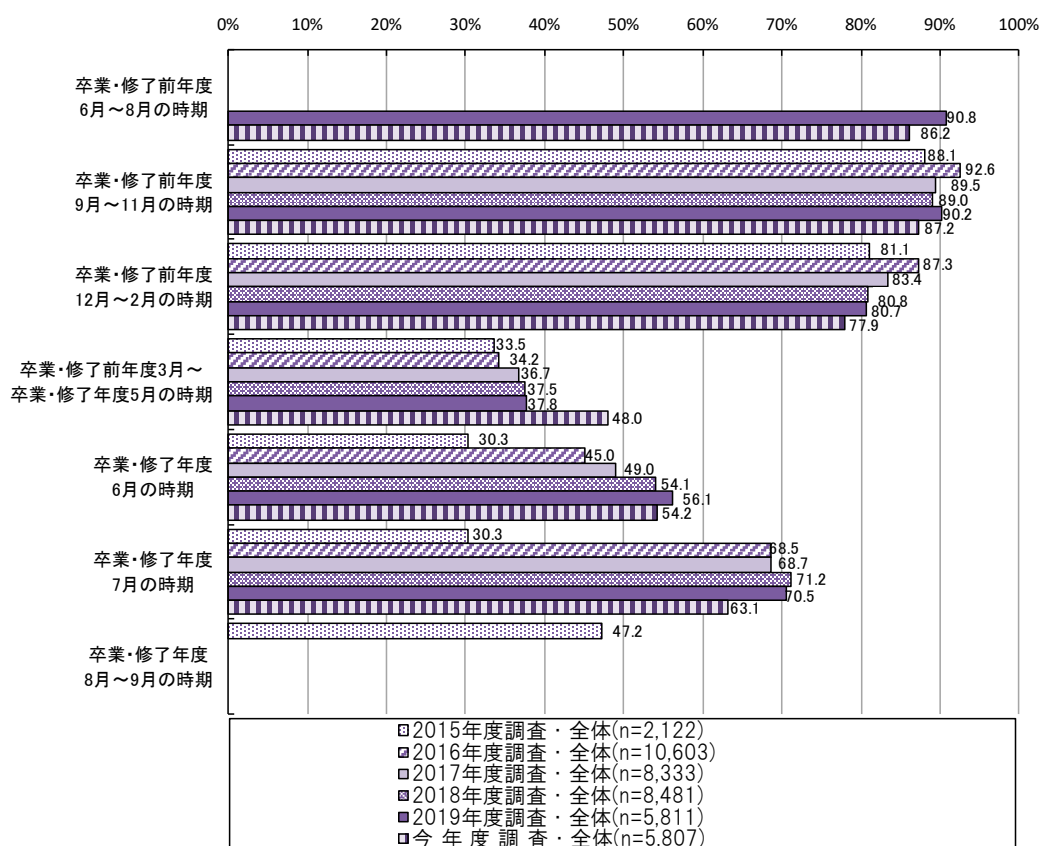
(大学4年生)

(大学院2年生)

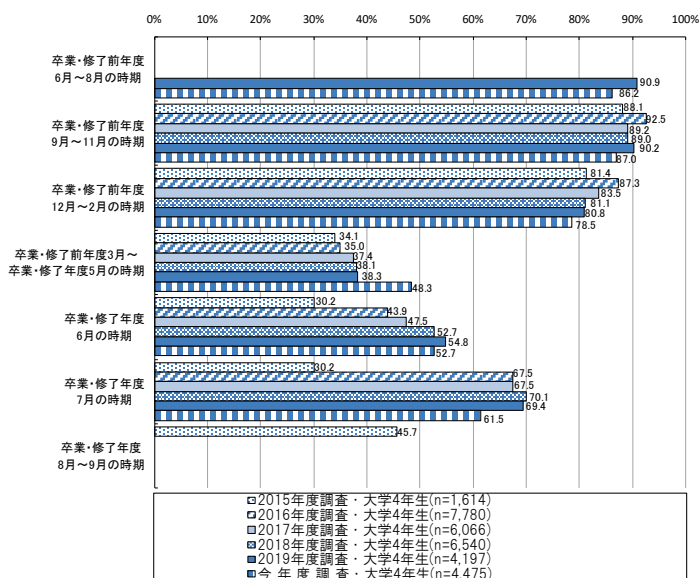


¹⁹ 「卒業・修了前年度6月～8月の時期」に関する項目は、2018年度調査以前は設定していない。

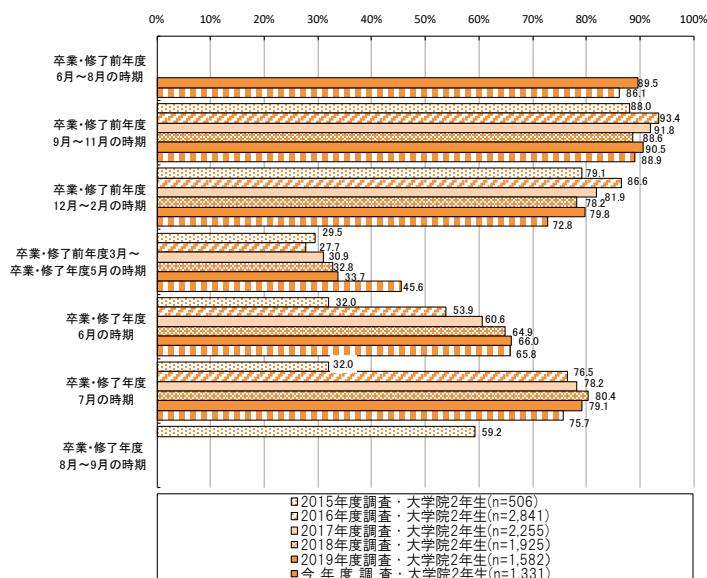
図表 2-3-2 就職活動と学修時間確保の状況（過年度調査との比較）
（大学4年生・大学院2年生）



（大学4年生）



（大学院2年生）



※「十分学修時間を確保できた」「必要な学修時間は確保できた」「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合

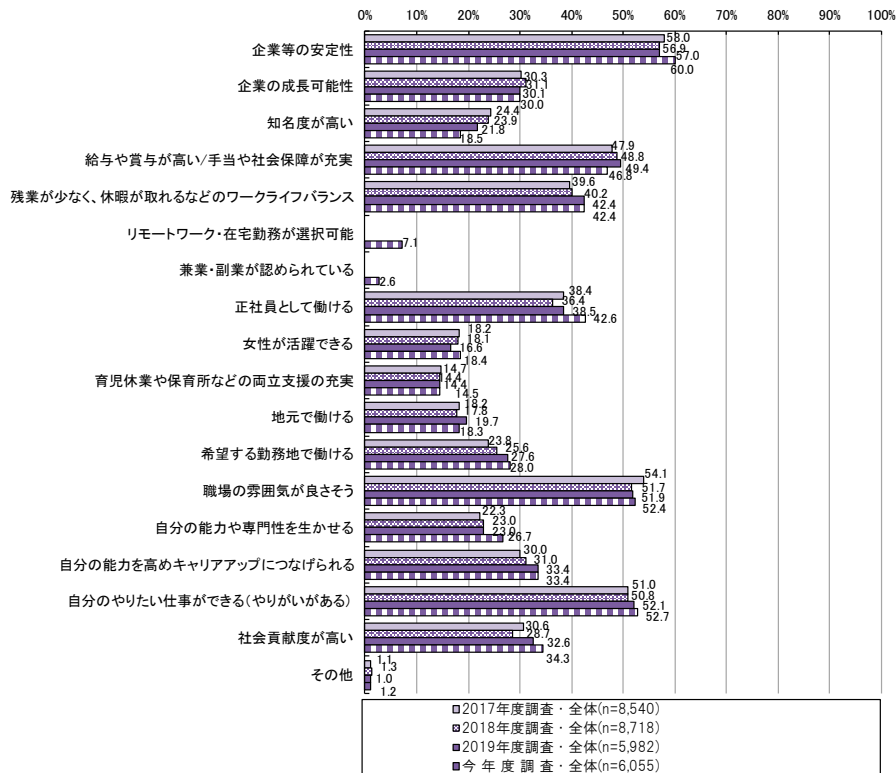
※卒業・修了年度の「6月の時期」「7月の時期」は、2015年度は「6月～7月の時期」として調査を実施（図表にはそれぞれ同じ値を掲載）

(4) 就職先を決めるにあたって重視していること

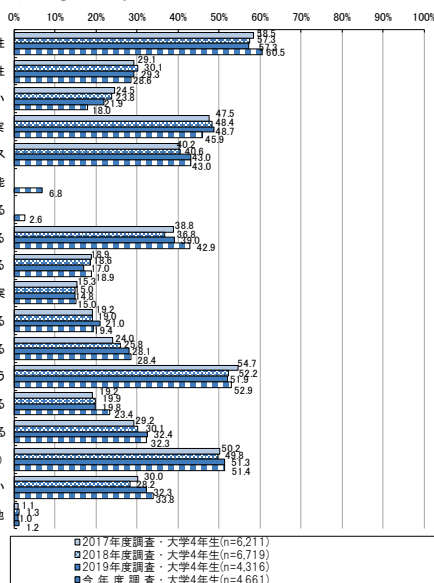
就職先を決めるにあたって重視していることについて²⁰、「企業等の安定性」との回答が約6割で最も高く、次いで「自分のやりたい仕事ができる(やりがいがある)」、「職場の雰囲気が良さそう」の割合が高くなっている。

2017年度調査～2019年度調査と比較すると、ほぼ同様の回答結果となっている²¹。

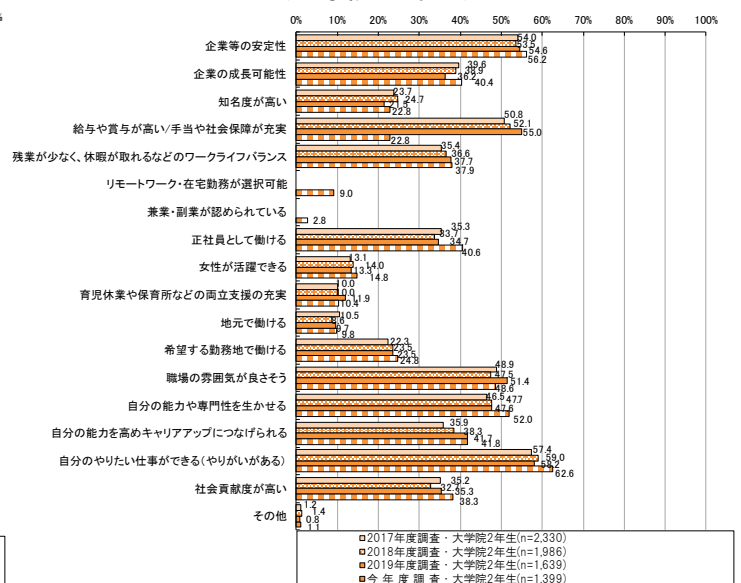
図表 2-4-1 就職先を決めるにあたって重視していること(複数回答)
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



20 「就職活動を行った(終了)」「就職活動を行っている(継続している)」「これから就職活動を行う予定である」と回答した者が集計対象で、「就職活動を行わなかった(行う予定はない)」と回答した者は集計の対象外とした。

21 2015年度調査・2016年度調査では当該設問について調査を実施していない。なお、「リモートワーク・在宅勤務が選択可能」「兼業・副業が認められている」は今年度調査で新たに設けた項目である。

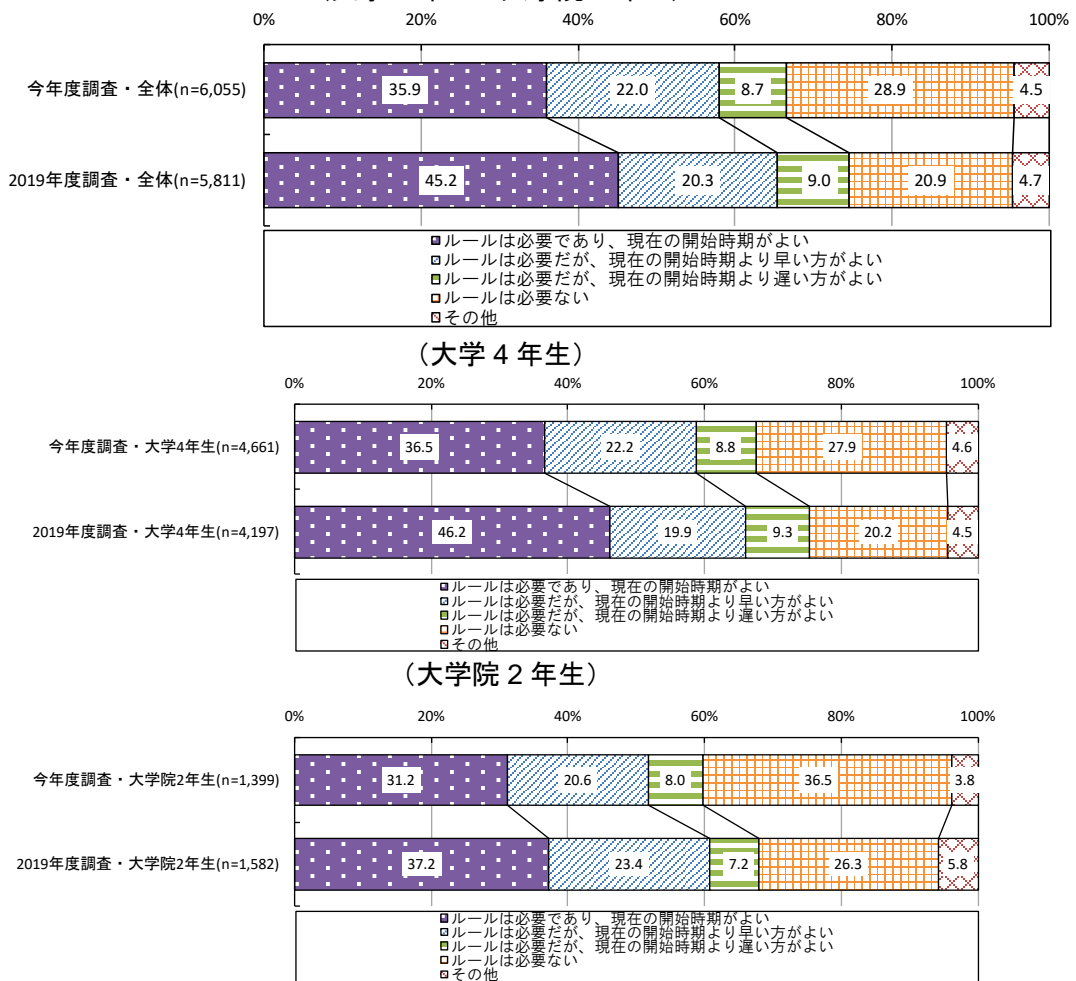
(5) 就職活動に関する考え

①就職活動時期・ルールに関する考え

就職・採用活動開始時期や、いわゆる「就活ルール」(広報活動開始：卒業・修了前年度の3月1日以降、採用選考活動開始：卒業・修了年度の6月1日以降)に関する考えについて、「ルールは必要であり、現在の開始時期がよい」の割合が最も高く、約4割となっている²²。

2019年度調査と比較すると、「ルールは必要であり、現在の開始時期がよい」の回答割合は低下しており、「ルールは必要ない」が約2割から約3割に上昇している。

図表 2-5-1 就職活動時期・ルールに関する考え
(大学4年生・大学院2年生)

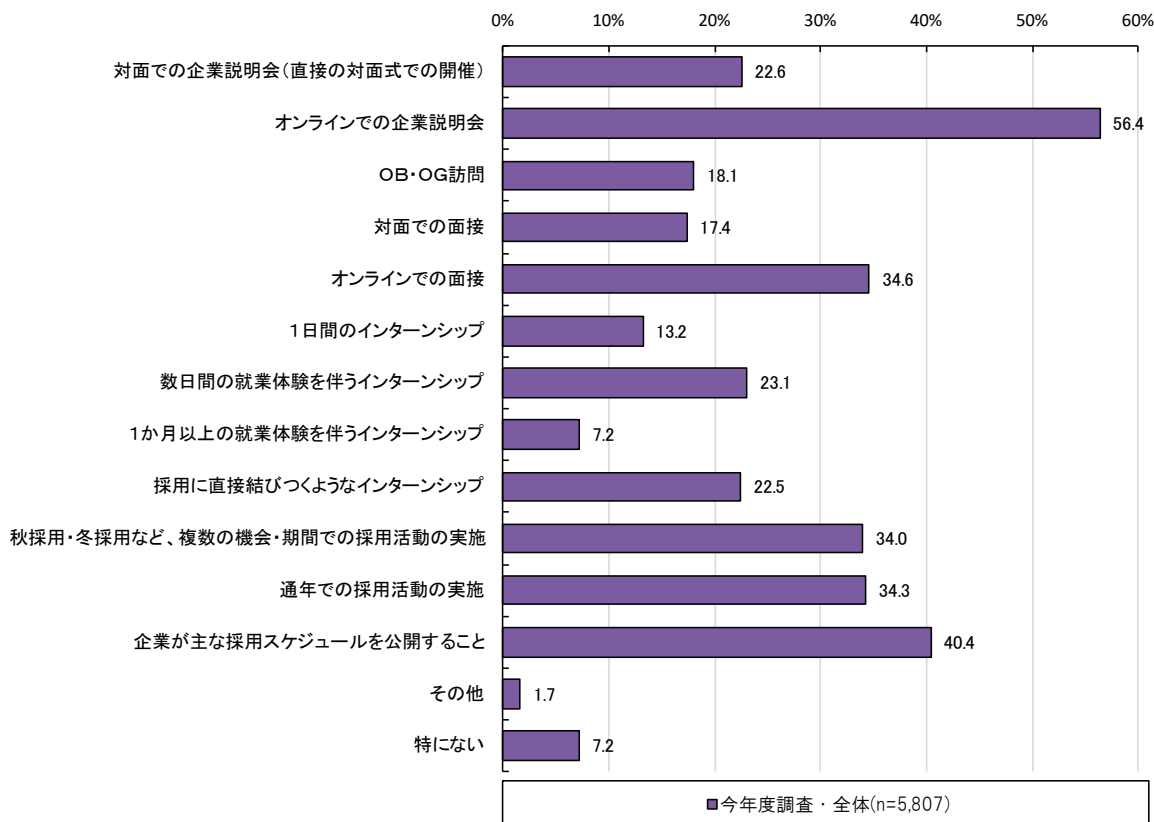


²² 2019年度調査で新たに調査を実施した設問である。

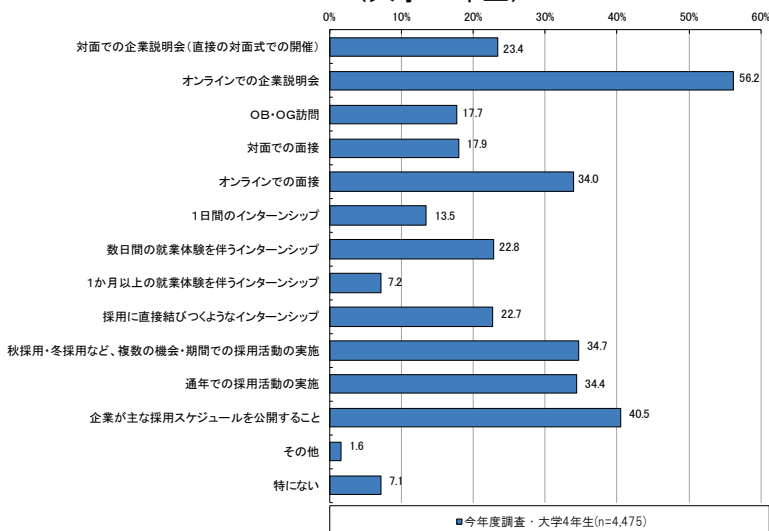
②これからの就職・採用活動のあり方として、もっと増やすべきだと考えるもの

現状と比べてこれからの就職・採用活動のあり方として、もっと増やすべきだと考えるものについて、「オンラインでの企業説明会」との回答が約6割で最も高く、次いで「企業が主な採用スケジュールを公開すること」が約4割、「オンラインでの面接」「秋採用・冬採用など、複数の機会・期間での採用活動の実施」「通年での採用活動の実施」が約3割となっている²³。

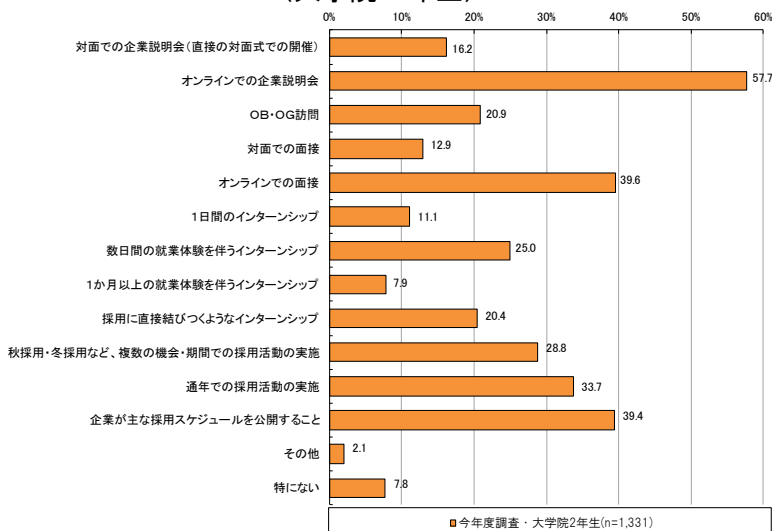
図表 2-5-2 企業により多く取り組んでもらいたいと考えること（複数回答）
（大学4年生・大学院2年生）



(大学4年生)



(大学院2年生)



²³ 2019年度調査では、より少ない類似の選択肢を挙げて「現状と比べて企業により多く取り組んでもらいたいと考えるものは何ですか。」と尋ねているが、設問の主旨が異なるため、直接的な比較は行わなかった。

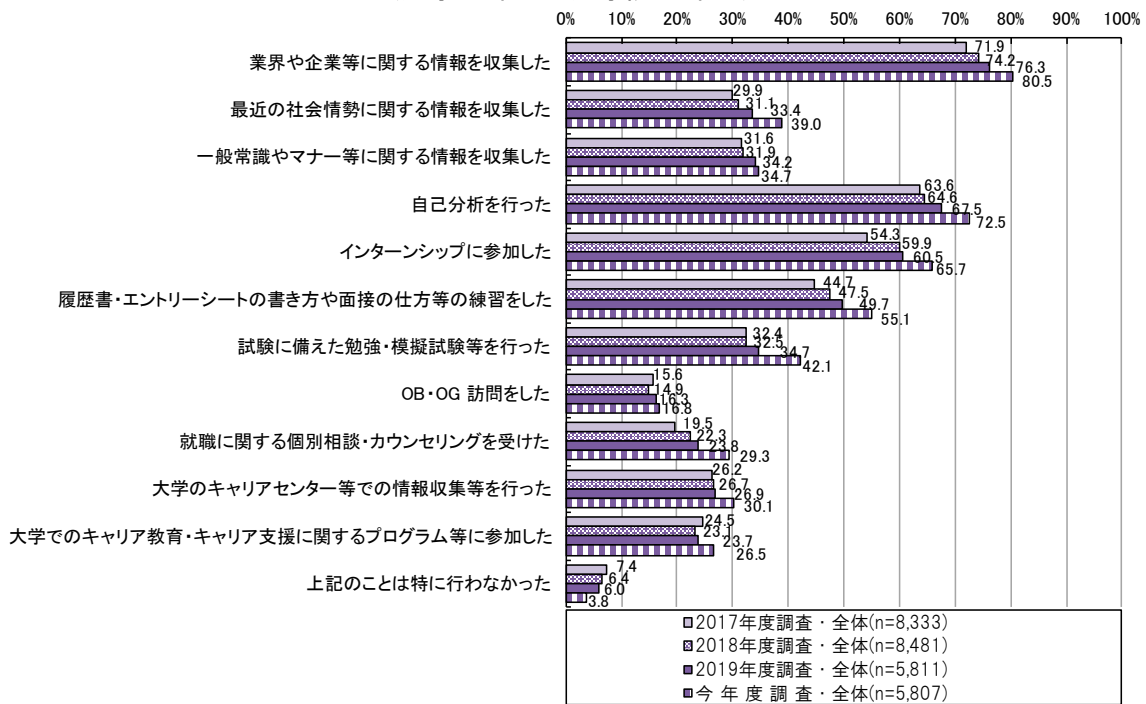
第3章 就職活動内容

(1) 企業の広報活動開始前の活動状況

就職活動を行うにあたり、企業の広報活動が開始になる3月1日より前の時期にどのような活動をしたかについて、「業界や企業等に関する情報を収集した」の回答割合が最も高く、次いで「自己分析を行った」「インターンシップに参加した」「履歴書・エントリーシートの書き方や面接の仕方等の練習をした」の順で回答割合が高くなっている。

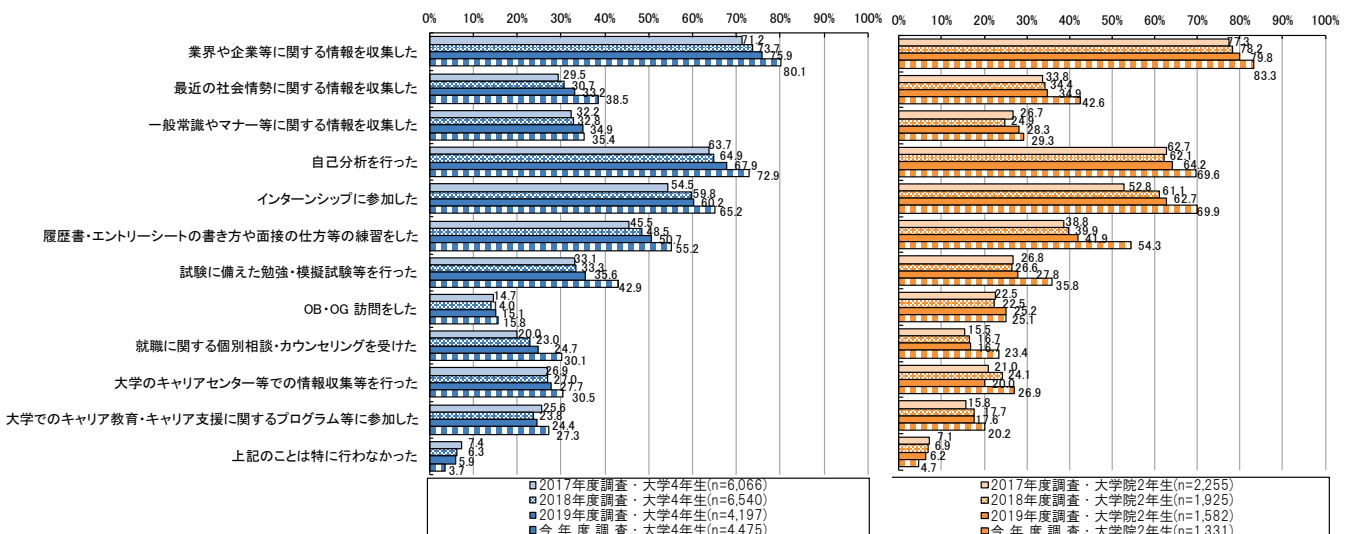
2017年度調査～2019年度調査と比較すると、上記の項目などに関する回答割合がそれぞれ高くなっている²⁴。

図表 3-1-1 企業の広報活動開始前の活動状況（複数回答）
（大学4年生・大学院2年生）



(大学4年生)

(大学院2年生)



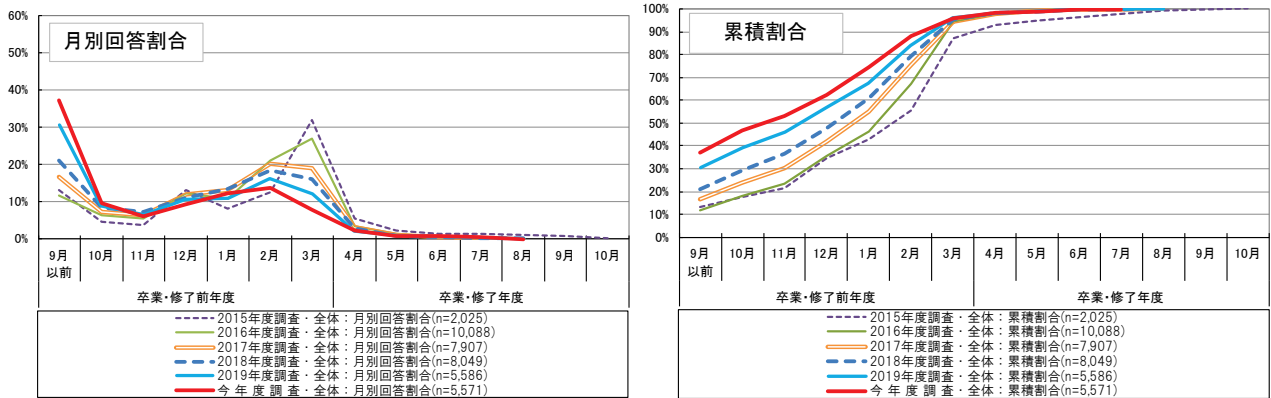
²⁴ 2015年度調査・2016年度調査では当該設問について調査を実施していない。

(2) 業界や企業に関する分析を開始した時期

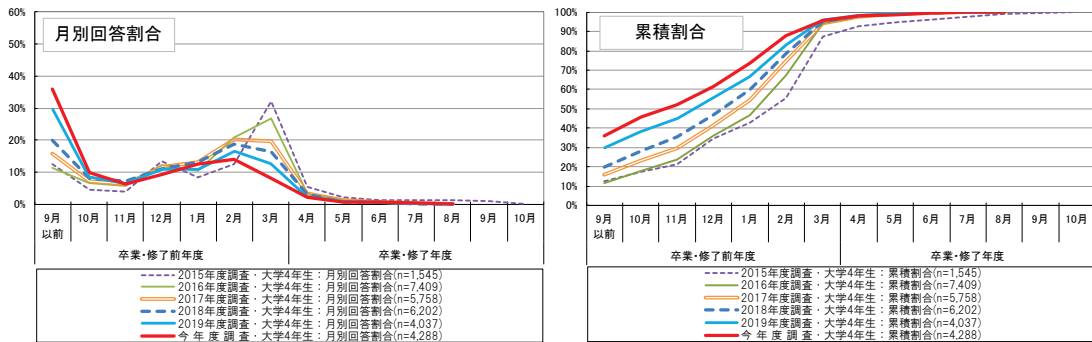
いづれから業界や企業に関する分析を開始したかについて、「2019年6月以前」の回答割合が約2割で最も高く、次いで「2020年2月」、「2020年1月」の割合が高くなっている²⁵。

過年度調査と比較すると、卒業・修了前年度の「9月以前」の回答割合が上昇するなど、全体的に時期が若干早まっており、より早期に準備を行う傾向がみられる。

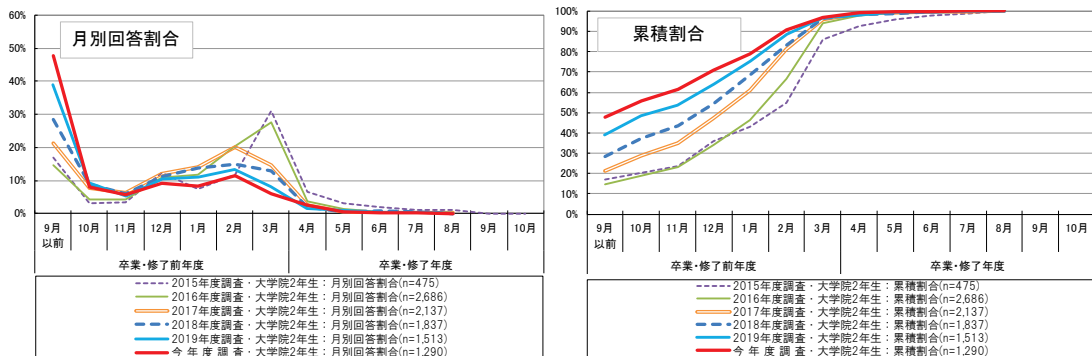
図表 3-2-1 業界や企業に関する分析を開始した時期
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



²⁵ 業界や企業に関する分析について「特段行わなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。なお、「特段行わなかった」と回答した者を含めて集計をした場合、「特段行わなかった」の回答割合は過年度調査と比較して同程度であった。また、過年度調査では卒業・修了前年度の「9月以前」を最初の選択肢項目としていたが、今年度調査では「6月以前」を最初の選択肢項目として設定して調査をした。ただし、過年度調査との比較を行う上では、「6月以前」「7月」「8月」「9月」との回答を「9月以前」として再集計をしている（以下、就職活動の時期に関する調査項目について同様）。

図表 3-2-2 業界や企業に関する分析を開始した時期（今年度調査・詳細データ）

（大学 4 年生・大学院 2 年生）

	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	16.3%	7.9%	7.6%	5.5%	9.7%	6.2%	9.2%	12.1%	13.6%	7.9%	2.1%	0.7%	0.7%	0.4%	0.0%
累積割合	16.3%	24.2%	31.7%	37.2%	46.9%	53.1%	62.3%	74.4%	88.1%	95.9%	98.1%	98.8%	99.5%	100.0%	100.0%

（大学 4 年生）

	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	14.6%	7.8%	7.9%	5.5%	9.9%	6.2%	9.2%	12.6%	13.9%	8.1%	2.1%	0.7%	0.8%	0.5%	0.0%
累積割合	14.6%	22.4%	30.4%	35.9%	45.8%	52.0%	61.2%	73.8%	87.7%	95.9%	97.9%	98.7%	99.5%	100.0%	100.0%

（大学院 2 年生）

	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	28.9%	8.6%	4.9%	5.3%	8.0%	5.8%	9.2%	8.3%	11.6%	6.0%	2.5%	0.6%	0.2%	0.1%	0.0%
累積割合	28.9%	37.5%	42.4%	47.7%	55.7%	61.5%	70.7%	79.0%	90.6%	96.6%	99.1%	99.6%	99.9%	100.0%	100.0%

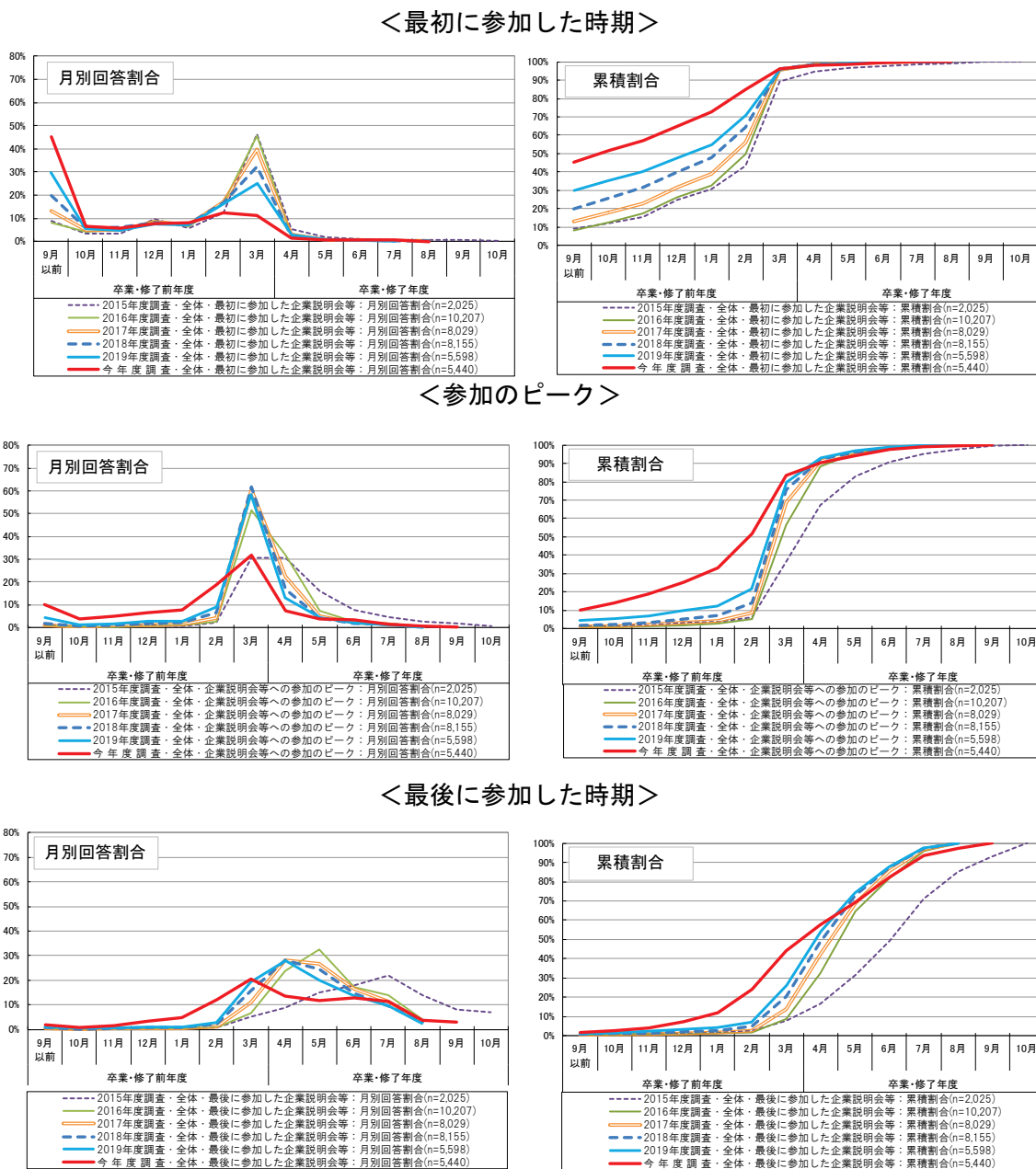
(3) 企業説明会やセミナー等の参加状況

① 企業説明会やセミナー等の参加時期

企業説明会やセミナー等について、「最初に参加した時期」は、広報活動開始時期前である「2019年6月以前」の回答割合が約2割と最も高くなっている²⁶。「参加のピーク」については、約3割が「2020年3月」と回答しており最も割合が高い²⁷。「最後に参加した時期」については、「2020年3月」の回答割合が約2割と最も高くなっている。

過年度調査と比較すると、全体的に時期が早まっており、特に「最初に参加した時期」について、今年度調査ではより早期の回答割合が高くなっている。

図表 3-3-1 企業説明会やセミナー等の参加時期（大学4年生・大学院2年生）

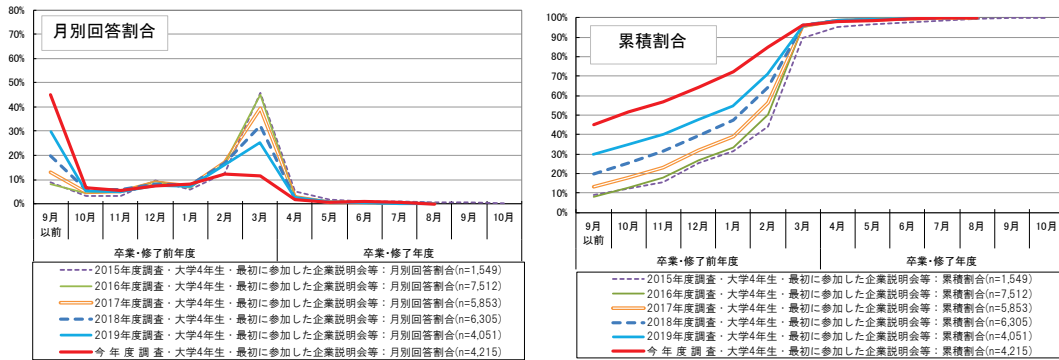


²⁶ 企業説明会やセミナー等に「特段参加しなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。

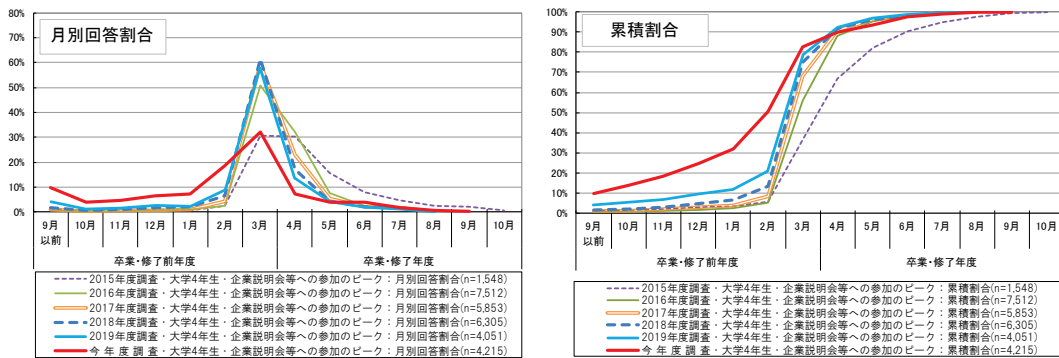
²⁷ 「参加のピーク」および「最後に参加した時期」について、今年度調査では「2020年9月以降（予定）」を選択肢として設けているが、グラフ中では「卒業・修了年度9月」の値として示している（以下、就職活動の時期に関する調査項目について同様）。

図表 3-3-2 企業説明会やセミナー等の参加時期（大学4年生）

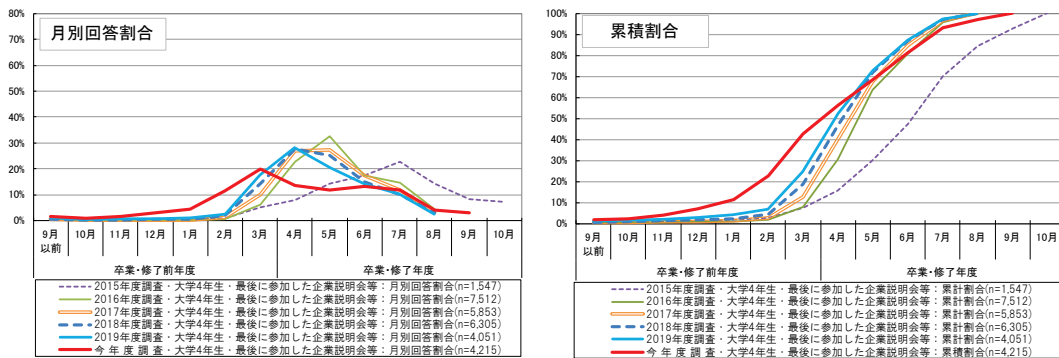
＜最初に参加した時期＞



＜参加のピーク＞

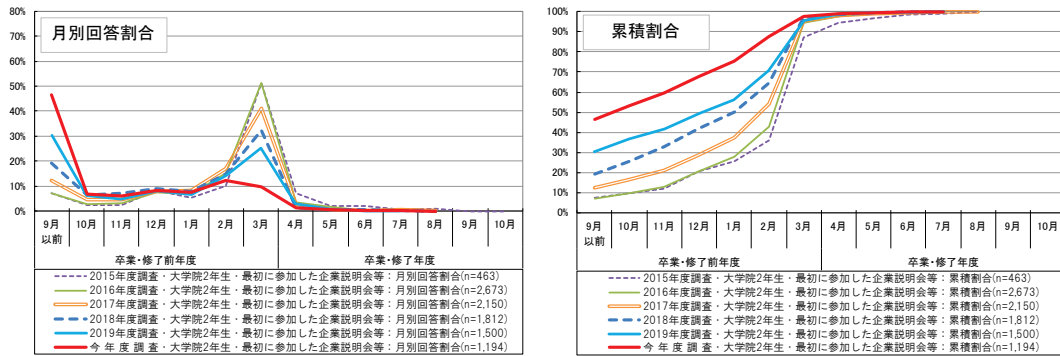


＜最後に参加した時期＞

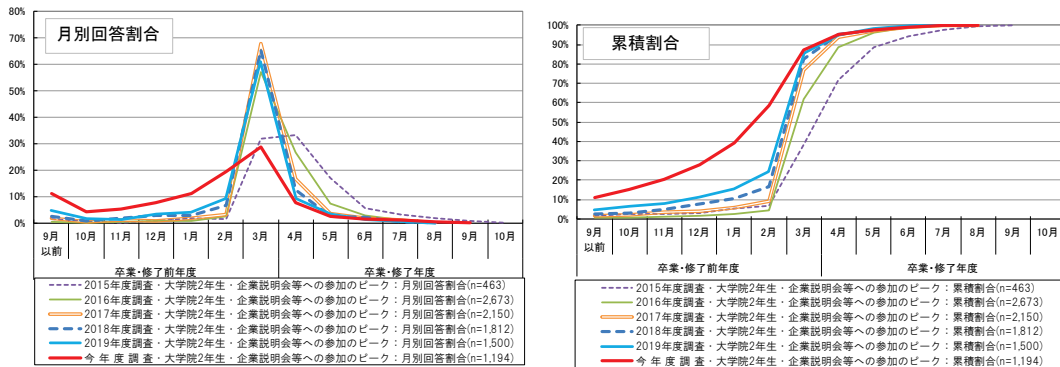


図表 3-3-3 企業説明会やセミナー等の参加時期（大学院2年生）

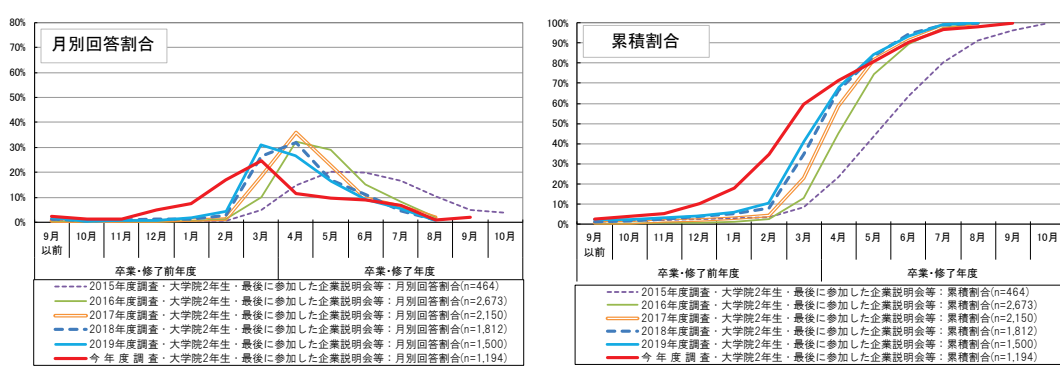
＜最初に参加した時期＞



＜参加のピーク＞



＜最後に参加した時期＞



図表 3-3-4 企業説明会やセミナー等の参加時期（今年度調査・詳細データ）

（大学4年生・大学院2年生）

最初の参加	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	20.5%	9.7%	10.3%	4.6%	6.5%	5.6%	7.6%	7.9%	12.3%	11.3%	1.6%	0.8%	0.8%	0.5%	0.0%	—
累積割合	20.5%	30.2%	40.4%	45.1%	51.6%	57.2%	64.8%	72.8%	85.0%	96.4%	97.9%	98.7%	99.5%	100.0%	100.0%	—
参加のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	1.9%	1.8%	4.1%	2.2%	3.9%	4.8%	6.5%	7.6%	18.6%	31.9%	7.1%	3.7%	3.5%	1.5%	0.5%	0.3%
累積割合	1.9%	3.7%	7.8%	10.0%	13.9%	18.7%	25.2%	32.8%	51.5%	83.3%	90.5%	94.2%	97.7%	99.2%	99.7%	100.0%
最後の参加	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	0.6%	0.4%	0.3%	0.5%	0.9%	1.5%	3.2%	4.7%	12.0%	20.3%	13.5%	11.7%	12.7%	11.3%	3.7%	2.8%
累積割合	0.6%	0.9%	1.3%	1.7%	2.6%	4.1%	7.2%	12.0%	24.0%	44.3%	57.8%	69.5%	82.2%	93.4%	97.2%	100.0%

（大学4年生）

最初の参加	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	20.1%	9.9%	10.5%	4.4%	6.5%	5.5%	7.5%	8.0%	12.3%	11.5%	1.6%	0.8%	0.8%	0.5%	0.0%	—
累積割合	20.1%	30.0%	40.5%	44.9%	51.4%	56.9%	64.5%	72.5%	84.7%	96.2%	97.8%	98.6%	99.4%	100.0%	100.0%	—
参加のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	1.7%	1.8%	4.2%	2.2%	3.8%	4.7%	6.4%	7.2%	18.6%	32.2%	7.1%	3.9%	3.8%	1.6%	0.5%	0.3%
累積割合	1.7%	3.5%	7.7%	9.9%	13.7%	18.5%	24.9%	32.0%	50.6%	82.8%	89.9%	93.8%	97.5%	99.1%	99.7%	100.0%
最後の参加	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	0.5%	0.4%	0.3%	0.4%	0.8%	1.5%	3.0%	4.4%	11.4%	19.8%	13.7%	11.9%	13.1%	11.8%	4.1%	2.9%
累積割合	0.5%	0.9%	1.2%	1.6%	2.4%	3.9%	6.8%	11.2%	22.7%	42.4%	56.1%	68.1%	81.2%	93.0%	97.1%	100.0%

（大学院2年生）

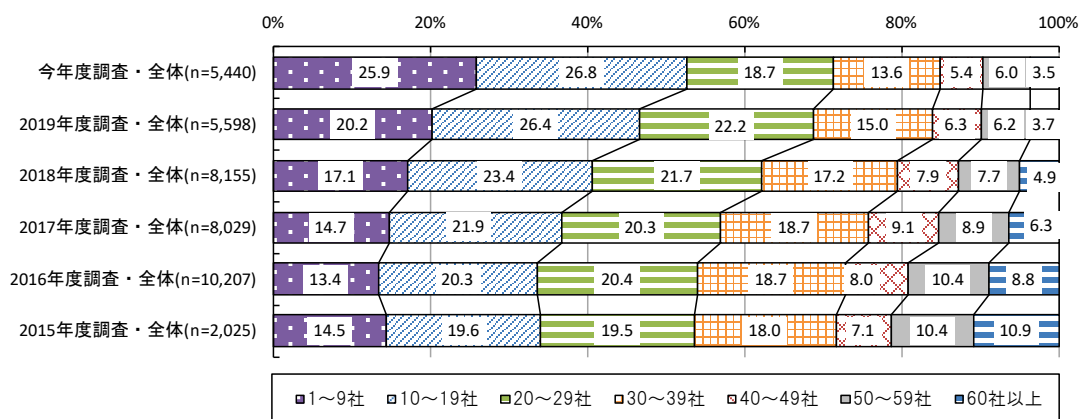
最初の参加	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	24.3%	7.4%	8.4%	6.5%	6.7%	6.2%	8.2%	7.5%	12.3%	9.9%	1.4%	0.8%	0.2%	0.2%	0.0%	—
累積割合	24.3%	31.7%	40.1%	46.7%	53.4%	59.6%	67.8%	75.2%	87.6%	97.5%	98.9%	99.6%	99.8%	100.0%	100.0%	—
参加のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	3.4%	2.0%	3.2%	2.3%	4.1%	5.2%	7.7%	11.3%	19.3%	28.8%	7.7%	2.3%	1.4%	1.0%	0.2%	0.0%
累積割合	3.4%	5.5%	8.7%	11.0%	15.0%	20.2%	27.9%	39.2%	58.5%	87.3%	95.0%	97.3%	98.7%	99.8%	100.0%	100.0%
最後の参加	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	1.1%	0.2%	0.4%	0.8%	1.5%	1.4%	4.9%	7.5%	17.0%	24.8%	11.6%	9.9%	9.1%	6.6%	1.1%	2.1%
累積割合	1.1%	1.3%	1.7%	2.5%	4.0%	5.4%	10.3%	17.8%	34.8%	59.6%	71.2%	81.0%	90.2%	96.8%	97.9%	100.0%

②企業説明会やセミナー等に参加した回数

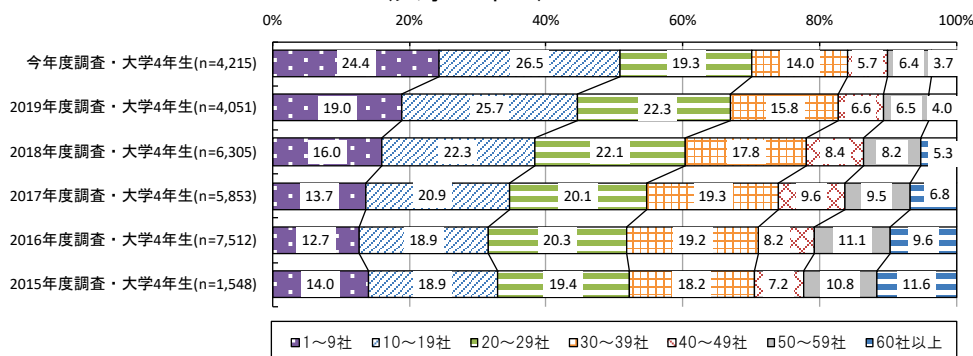
企業説明会やセミナー等に参加した回数について、「1～9社」「10～19社」であった者の割合がそれぞれ約3割、「20～29社」であった者の割合が約2割となっている²⁸。なお、30社以上の企業説明会やセミナー等に参加した者が約3割、50社以上の者は約1割となっている。

過年度調査と比較すると、今年度調査では20社未満であった者の割合が上昇している。

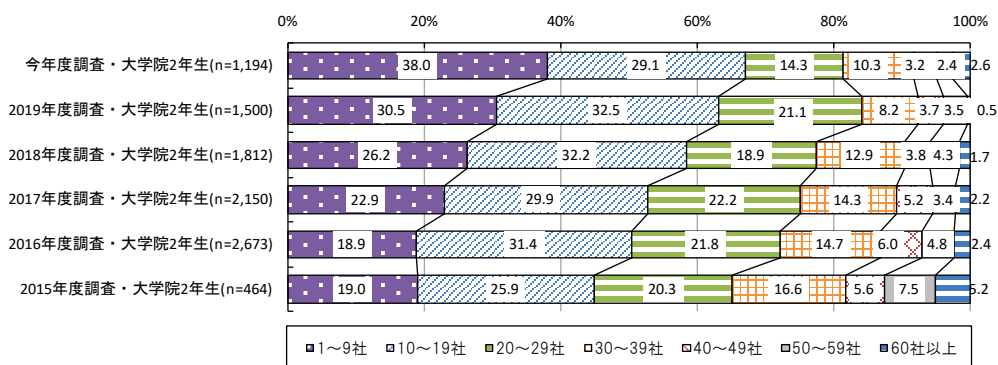
図表 3-3-5 企業説明会やセミナー等に参加した回数
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



²⁸ 企業説明会やセミナー等に「特段参加しなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。

(4) エントリーシートの提出状況

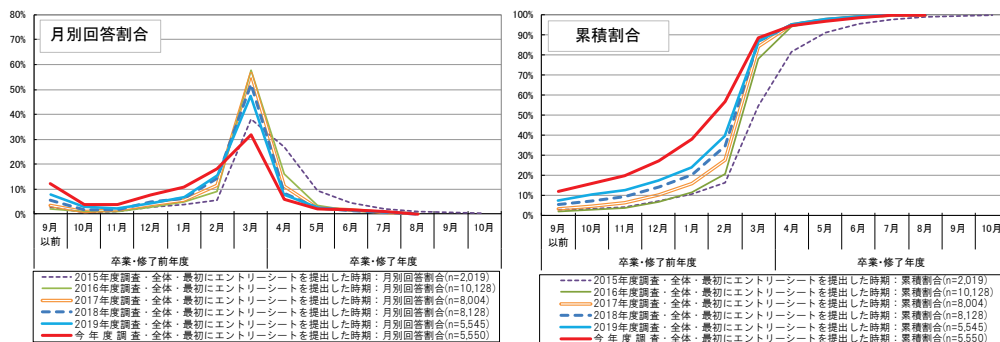
① エントリーシートの提出時期

エントリーシートの提出²⁹時期について、「最初に提出した時期」は、「2020年3月」の回答割合が約3割と最も高くなっている³⁰。「提出のピーク」も「2020年3月」の回答割合が約5割と最も高く、「最後に提出した時期」については、「2020年4月」の回答割合が約2割と最も高い。

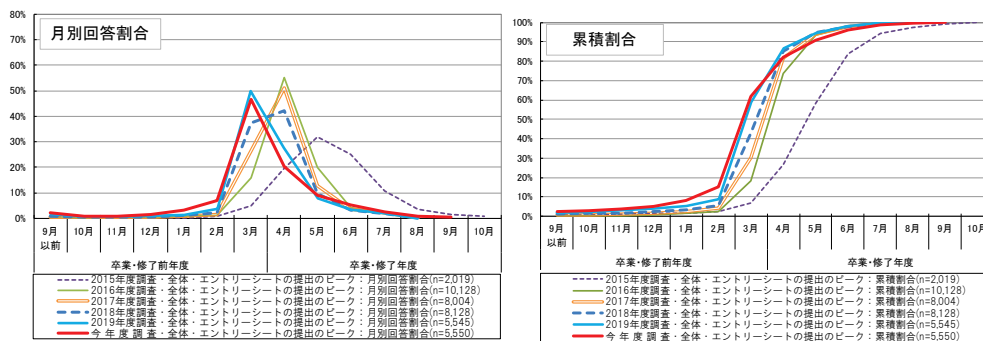
過年度調査と比較すると、「最初」は3月の回答割合が低下し、より早期の回答割合が上昇している。「最後」は3月以前や7月以降の回答割合が若干上昇している。「ピーク」については、全体として2019年度調査とほぼ同様となっている。

図表 3-4-1 エントリーシートの提出時期（大学4年生・大学院2年生）

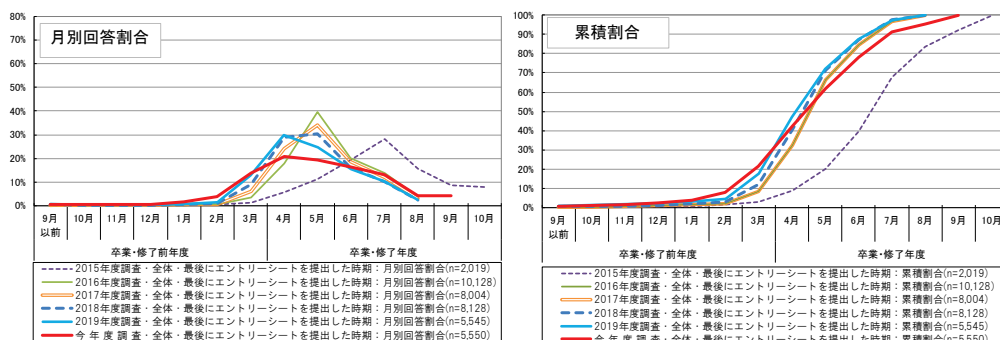
<最初に提出した時期>



<提出のピーク>



<最後に提出した時期>



²⁹ エントリーシートの提出とは、企業や官公庁などの採用選考に参加するための応募シートを提出することを指すものとし、就職情報会社のサイト等への登録のみの場合は提出数に入れないように、回答者に案内した上で調査を行った。

³⁰ エントリーシートの提出を「特段行わなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。

図表 3-4-4 エントリーシートの提出時期（今年度調査・詳細データ）

（大学4年生・大学院2年生）

最初の提出	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	5.3%	3.1%	1.7%	2.0%	3.7%	4.0%	7.5%	10.9%	18.3%	32.0%	6.0%	2.1%	1.8%	1.2%	0.2%	—
累積割合	5.3%	8.4%	10.1%	12.1%	15.9%	19.9%	27.4%	38.3%	56.7%	88.7%	94.7%	96.9%	98.6%	99.8%	100.0%	—
提出のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	0.6%	0.8%	0.5%	0.3%	0.6%	0.7%	1.4%	3.0%	6.9%	46.6%	20.4%	8.8%	5.2%	2.6%	0.9%	0.4%
累積割合	0.6%	1.4%	2.0%	2.3%	2.9%	3.7%	5.0%	8.0%	15.0%	61.6%	82.0%	90.8%	96.1%	98.7%	99.6%	100.0%
最後の提出	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.4%	0.5%	0.7%	1.7%	3.8%	13.7%	20.9%	19.3%	16.4%	13.2%	4.2%	4.5%
累積割合	0.2%	0.4%	0.6%	0.7%	1.1%	1.6%	2.3%	4.0%	7.8%	21.5%	42.4%	61.7%	78.1%	91.3%	95.5%	100.0%

（大学4年生）

最初の提出	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	4.8%	3.1%	1.8%	2.2%	3.8%	4.1%	7.5%	10.5%	17.6%	32.5%	6.3%	2.3%	2.0%	1.3%	0.2%	—
累積割合	4.8%	7.9%	9.7%	11.9%	15.7%	19.7%	27.2%	37.8%	55.4%	88.0%	94.3%	96.6%	98.5%	99.8%	100.0%	—
提出のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	0.5%	0.7%	0.5%	0.3%	0.6%	0.7%	1.3%	2.7%	6.5%	46.0%	21.2%	9.2%	5.4%	2.7%	1.0%	0.5%
累積割合	0.5%	1.2%	1.7%	2.0%	2.6%	3.3%	4.6%	7.4%	13.9%	59.9%	81.1%	90.4%	95.8%	98.5%	99.5%	100.0%
最後の提出	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.4%	0.5%	0.6%	1.5%	3.4%	12.1%	21.1%	19.7%	17.0%	13.9%	4.5%	4.8%
累積割合	0.2%	0.4%	0.5%	0.6%	1.0%	1.4%	2.0%	3.5%	6.9%	19.0%	40.1%	59.8%	76.8%	90.8%	95.2%	100.0%

（大学院2年生）

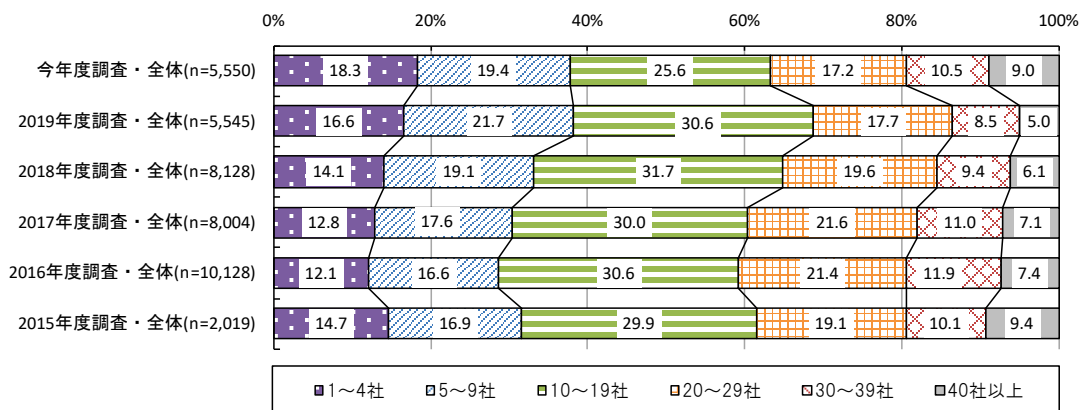
最初の提出	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	9.3%	2.9%	1.1%	0.9%	3.3%	3.5%	7.6%	13.9%	23.6%	27.9%	3.8%	1.3%	0.4%	0.5%	0.0%	—
累積割合	9.3%	12.1%	13.2%	14.2%	17.4%	20.9%	28.5%	42.5%	66.0%	94.0%	97.7%	99.1%	99.5%	100.0%	100.0%	—
提出のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	1.6%	1.3%	1.0%	0.7%	0.7%	0.6%	1.8%	5.2%	10.1%	51.0%	14.6%	5.8%	3.6%	1.6%	0.3%	0.1%
累積割合	1.6%	2.9%	3.9%	4.6%	5.3%	6.0%	7.8%	13.0%	23.1%	74.1%	88.6%	94.4%	98.0%	99.6%	99.9%	100.0%
最後の提出	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	0.6%	0.3%	0.1%	0.6%	0.7%	0.7%	1.4%	3.5%	6.8%	25.4%	19.5%	16.3%	11.7%	7.7%	2.5%	2.3%
累積割合	0.6%	0.8%	0.9%	1.5%	2.2%	2.9%	4.3%	7.8%	14.6%	40.0%	59.6%	75.9%	87.6%	95.2%	97.7%	100.0%

②エントリーシートの提出数

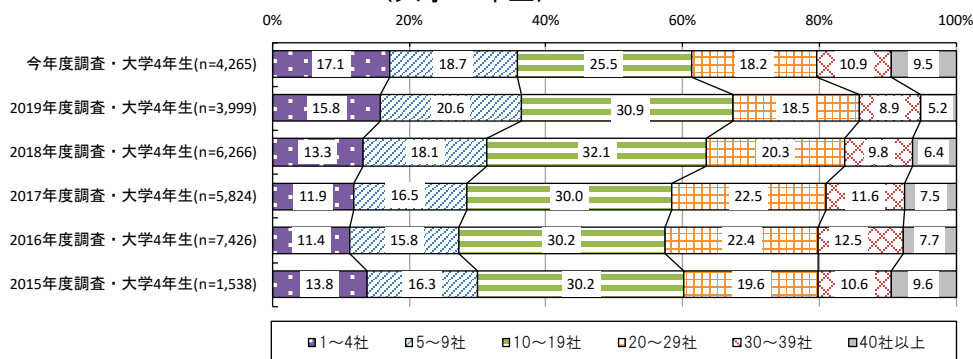
何社にエントリーシートを提出したかについて、「10～19社」であった者の割合が約3割で最も高くなっている³¹。なお、30社以上にエントリーシートを提出した者が約2割となっている。

2019年度調査と比較すると、「1～4社」や30社以上の回答割合が高くなっている。

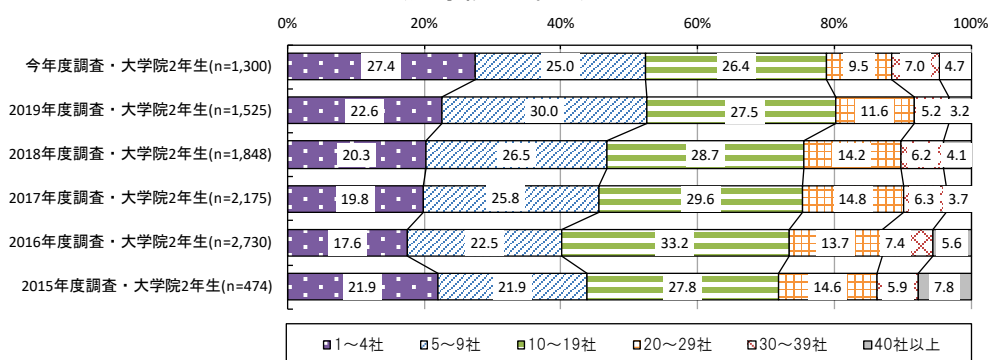
図表 3-4-5 エントリーシートの提出数
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



³¹ エントリーシートの提出を「特段行わなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。

(5) 採用面接の実施状況

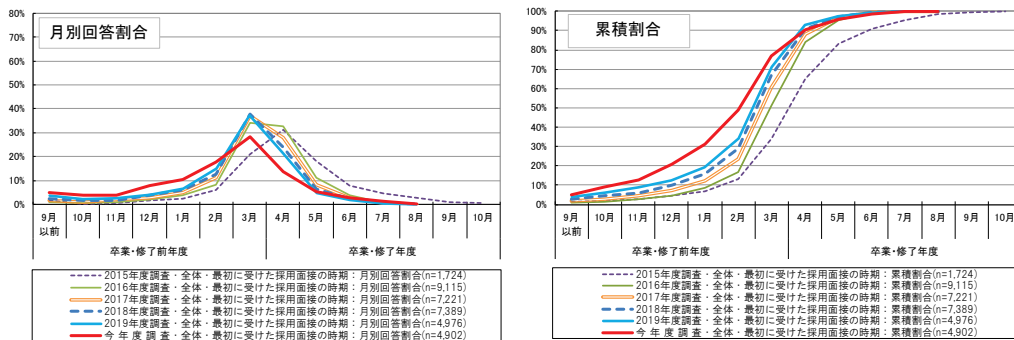
①採用面接の実施時期

採用面接³²の時期について、「最初に受けた採用面接の時期」は、広報活動開始時期である「2020年3月」の回答割合が約3割で最も高くなっている³³。「採用面接のピーク」は、最も回答割合が高い月が採用・選考活動開始時期である6月の前にきており、「2020年4月」の回答割合が約3割で最も高くなっている。「最後に受けた採用面接の時期」については、採用・選考活動開始時期である「2020年6月」の回答割合が約3割と最も高くなっている。

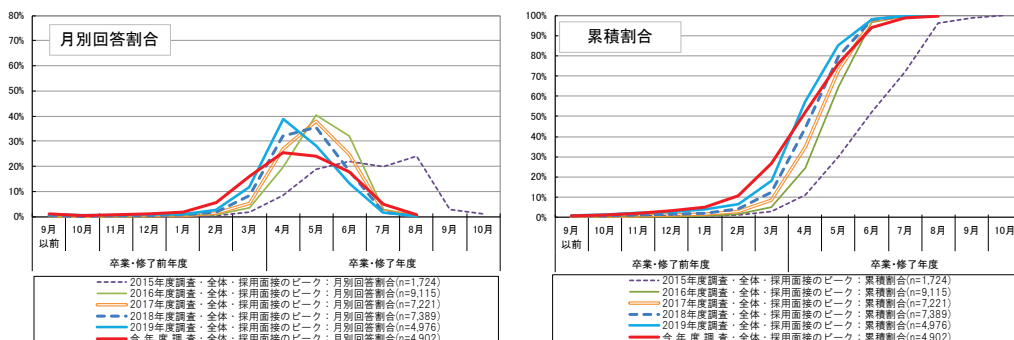
過年度調査と比較すると、「最初」「ピーク」「最後」いずれについても時期が早まっているが、累積割合で見ると「ピーク」と「最後」は4月以降に過年度調査と同程度かそれ以下になっている。特に「最後」については7月以降の回答割合が若干高くなっている。

図表 3-5-1 採用面接の実施時期（大学4年生・大学院2年生、公務員・教職員志望者除く）

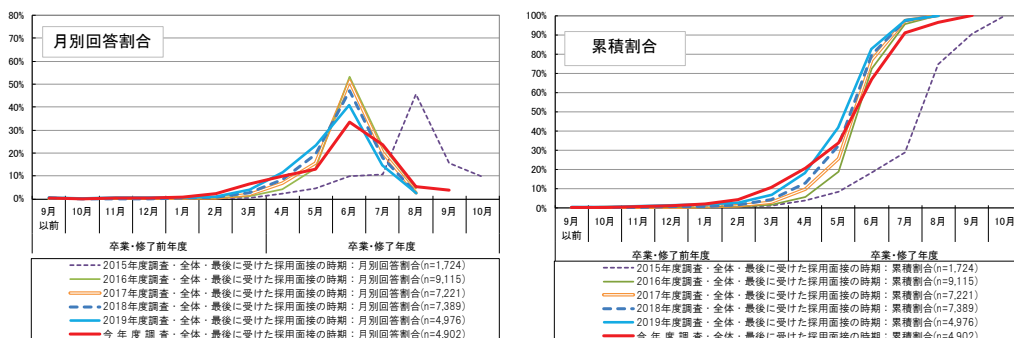
<最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



<最後に受けた採用面接の時期>

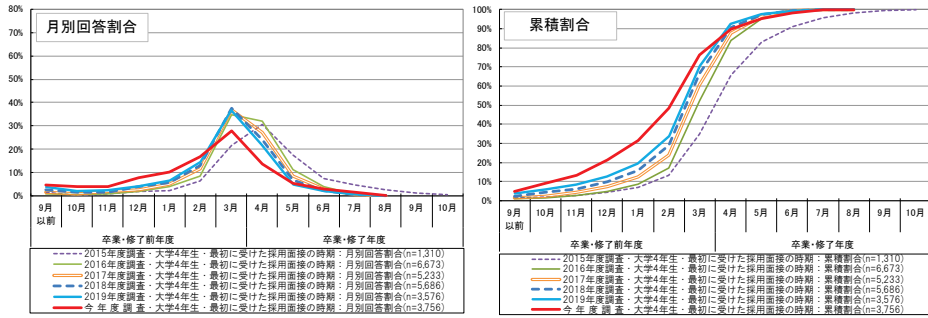


32 採用面接に関して、「面談」や「相談会」などの名称の下に行われた企業との接触について、それが実質的に採用面接だと感じた場合は、採用面接と考えていただくよう回答者に案内した上で調査を行った。

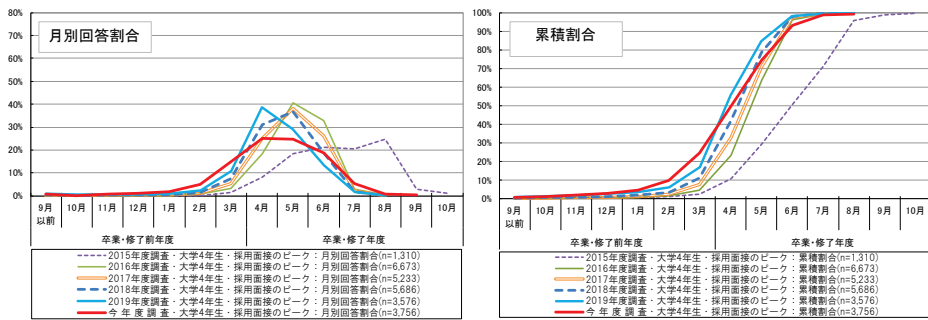
33 公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点で採用の面接等が行われていないと想定されたことから、ここでは集計の対象外とした。また、その上で、採用面接について「特段受けなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

図表 3-5-2 採用面接の実施時期（大学４年生、公務員・教職員志望者除く）

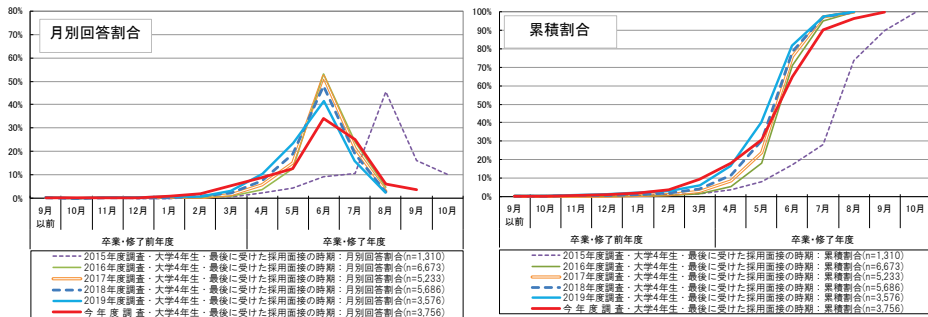
＜最初に受けた採用面接の時期＞



＜採用面接のピーク＞

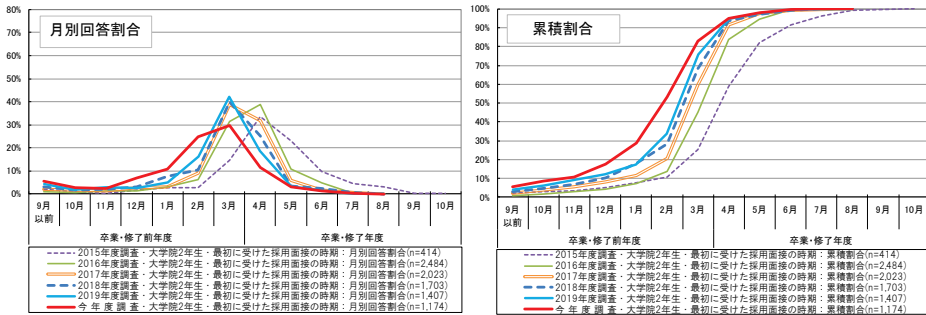


＜最後に受けた採用面接の時期＞

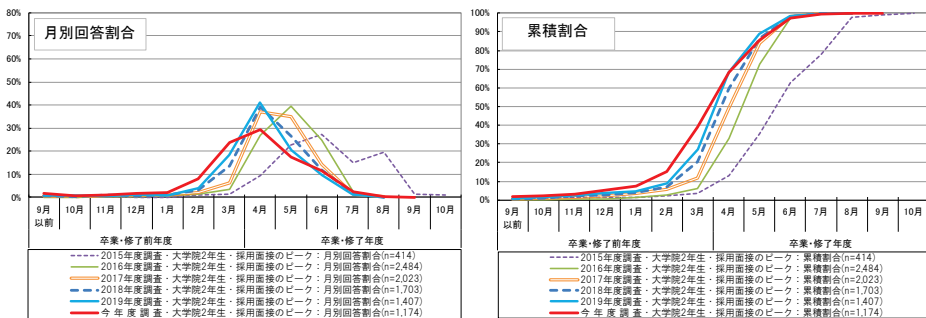


図表 3-5-3 採用面接の実施時期（大学院2年生、公務員・教職員志望者除く）

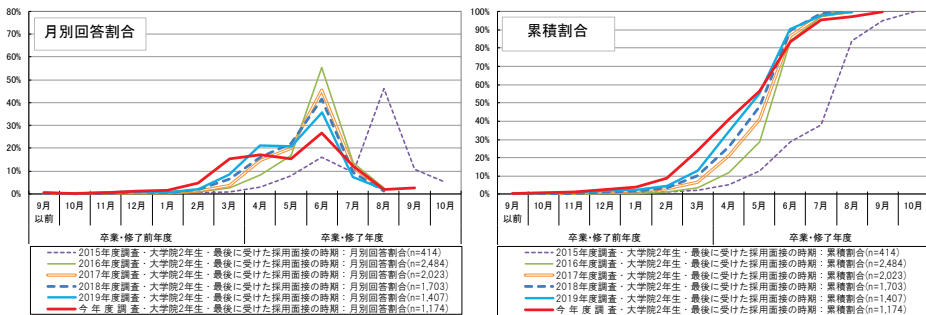
＜最初に受けた採用面接の時期＞



＜採用面接のピーク＞



＜最後に受けた採用面接の時期＞



図表 3-5-4 採用面接の実施時期（今年度調査・詳細データ）

（大学４年生・大学院２年生、公務員・教職員志望者除く）

最初の面接	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	1.4%	1.2%	1.0%	1.4%	3.9%	4.0%	7.9%	10.3%	17.7%	28.2%	13.6%	5.2%	2.7%	1.3%	0.2%	—
累積割合	1.4%	2.6%	3.6%	5.0%	8.9%	12.9%	20.7%	31.1%	48.8%	76.9%	90.5%	95.7%	98.4%	99.8%	100.0%	—
面接のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	0.2%	0.2%	0.4%	0.1%	0.3%	0.8%	1.2%	1.8%	5.5%	16.0%	25.6%	24.1%	17.8%	5.0%	0.7%	0.3%
累積割合	0.2%	0.4%	0.8%	0.9%	1.2%	2.1%	3.3%	5.0%	10.6%	26.6%	52.1%	76.2%	94.0%	99.0%	99.7%	100.0%
最後の面接	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.4%	0.5%	1.0%	2.1%	6.6%	9.8%	13.0%	33.4%	23.7%	5.5%	3.7%
累積割合	0.1%	0.1%	0.1%	0.3%	0.4%	0.8%	1.3%	2.3%	4.4%	11.0%	20.8%	33.7%	67.1%	90.9%	96.3%	100.0%

（大学４年生、公務員・教職員志望者除く）

最初の面接	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	1.3%	1.1%	1.0%	1.5%	4.1%	4.2%	8.0%	10.3%	16.8%	27.9%	13.8%	5.5%	2.8%	1.5%	0.3%	—
累積割合	1.3%	2.4%	3.4%	4.9%	9.0%	13.1%	21.1%	31.4%	48.2%	76.1%	89.9%	95.4%	98.3%	99.7%	100.0%	—
面接のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	0.2%	0.2%	0.3%	0.1%	0.3%	0.8%	1.1%	1.7%	5.2%	14.9%	25.1%	24.9%	18.6%	5.4%	0.8%	0.4%
累積割合	0.2%	0.4%	0.7%	0.8%	1.1%	1.9%	3.0%	4.7%	10.0%	24.9%	49.9%	74.9%	93.5%	98.9%	99.6%	100.0%
最後の面接	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.4%	0.4%	0.9%	1.8%	5.4%	8.8%	12.6%	34.3%	25.3%	6.0%	3.8%
累積割合	0.1%	0.1%	0.1%	0.3%	0.4%	0.8%	1.2%	2.1%	3.9%	9.3%	18.1%	30.7%	64.9%	90.2%	96.2%	100.0%

（大学院２年生、公務員・教職員志望者除く）

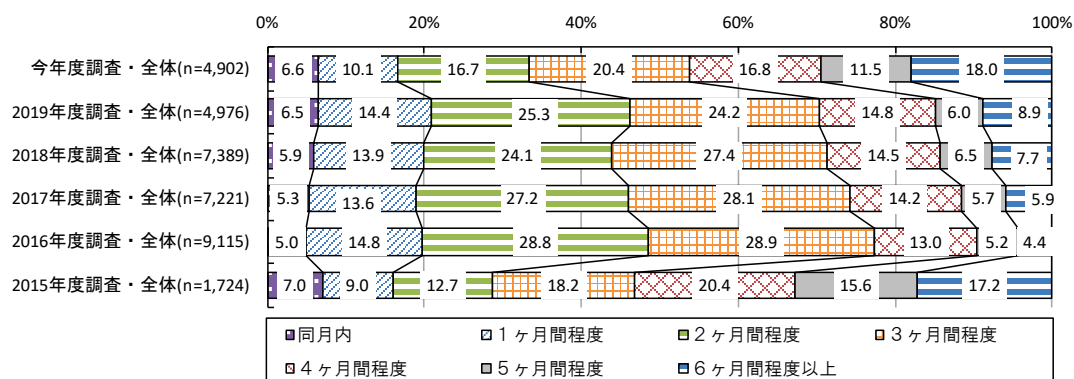
最初の面接	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	2.2%	1.6%	0.8%	1.1%	2.6%	2.6%	6.9%	10.8%	24.8%	29.7%	11.7%	3.3%	1.5%	0.3%	0.1%	—
累積割合	2.2%	3.8%	4.6%	5.7%	8.4%	10.9%	17.8%	28.6%	53.4%	83.1%	94.8%	98.1%	99.6%	99.9%	100.0%	—
面接のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	0.1%	0.2%	1.0%	0.2%	0.6%	1.1%	1.9%	2.2%	8.0%	23.7%	29.3%	17.5%	11.4%	2.4%	0.4%	0.0%
累積割合	0.1%	0.4%	1.4%	1.6%	2.2%	3.3%	5.2%	7.3%	15.3%	39.0%	68.3%	85.8%	97.2%	99.6%	100.0%	100.0%
最後の面接	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降 (予定)
月別回答割合	0.0%	0.1%	0.0%	0.4%	0.2%	0.6%	1.2%	1.4%	4.8%	15.3%	17.2%	15.5%	26.8%	12.3%	1.7%	2.6%
累積割合	0.0%	0.1%	0.1%	0.4%	0.7%	1.2%	2.4%	3.8%	8.6%	23.8%	41.1%	56.6%	83.3%	95.6%	97.4%	100.0%

②最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

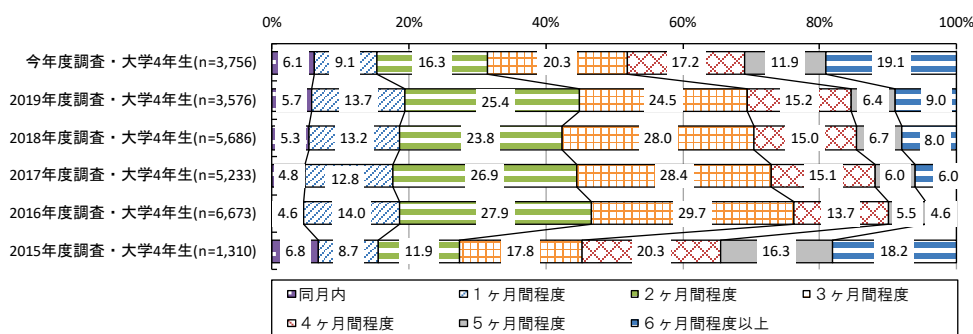
「最初に受けた採用面接の時期」³⁴から「最後に受けた採用面接の時期」の間の期間について集計すると³⁵、「3ヶ月間程度³⁶」の割合が最も高く、次いで「4ヶ月間程度」と「2ヶ月間程度」の割合が同程度に高くなっている。

2016年度調査～2019年度調査と比較すると、面接の期間がより長い期間であった者の割合が高くなっている。

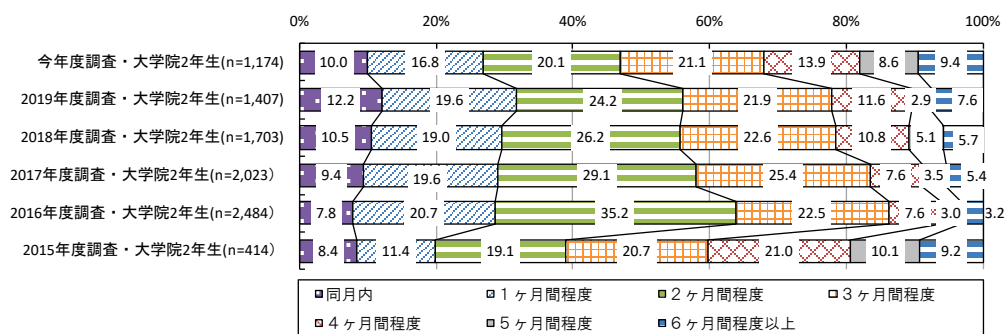
図表 3-5-5 最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間
(大学4年生・大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



³⁴ 採用面接に関して、「面談」や「相談会」などの名称の下に行われた企業との接触について、それが実質的に採用面接だと感じた場合は、採用面接と考えていただくよう回答者に案内した上で調査を行った。

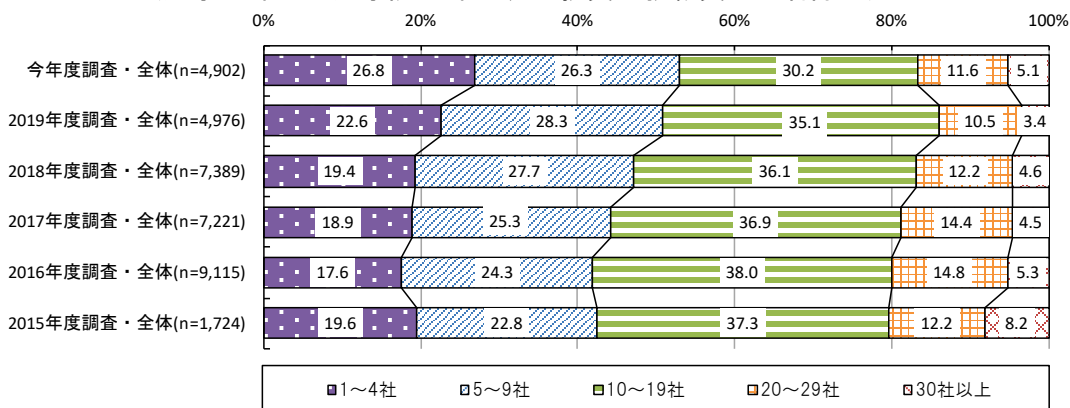
³⁵ 公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点において採用の面接等が行われていないと想定されたことから、ここでは、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。また、その上で、採用面接について「特段行わなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

³⁶ ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が3月、「最後に受けた採用面接の時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも採用面接を受けていた実際の期間の長さを意味するものではない点に留意が必要である。

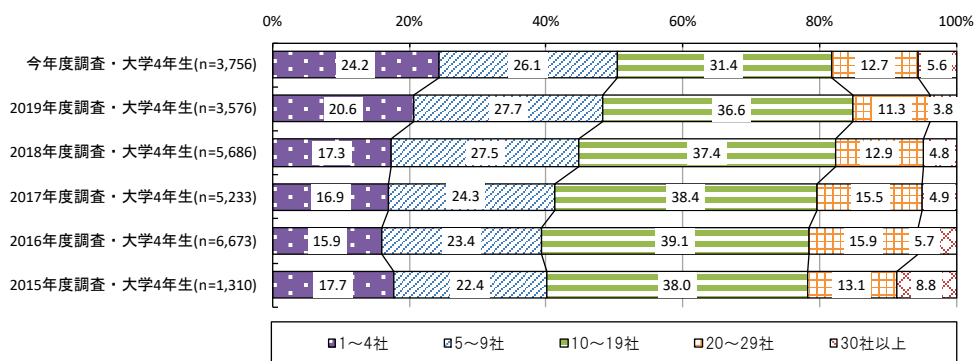
③採用面接を受けた企業数

採用面接を受けた企業数について、「10～19社」であった者の割合が約3割で最も高くなっている³⁷。なお、20社以上の採用面接を受けた者は約2割となっている。
 過年度調査と比較すると、今年度調査では「1～4社」であった者の割合が高くなっている。

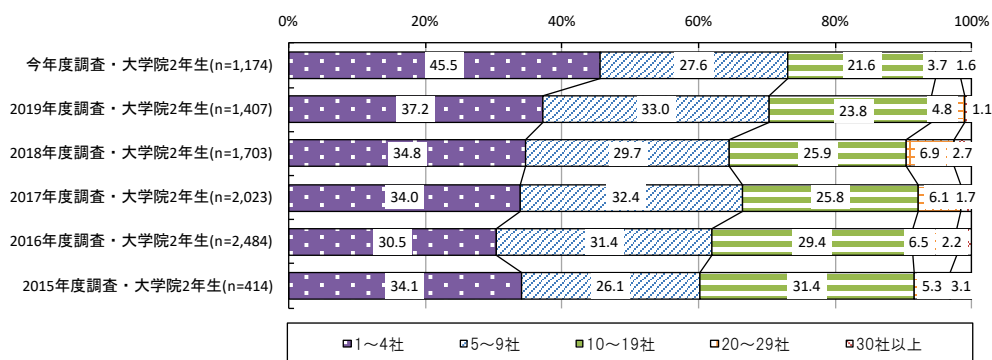
図表 3-5-6 採用面接を受けた企業数
 (大学4年生・大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



³⁷ 採用面接について「特段行わなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

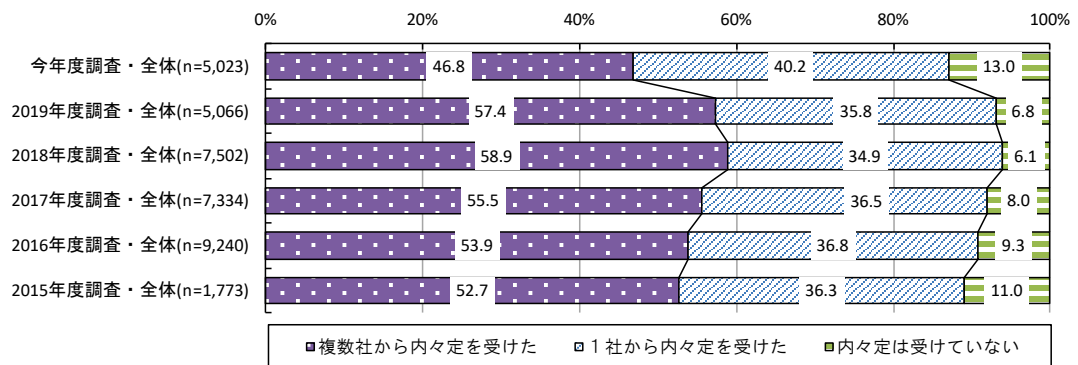
(6) 内々定の状況・内々定の時期

① 調査実施時点での内々定の状況

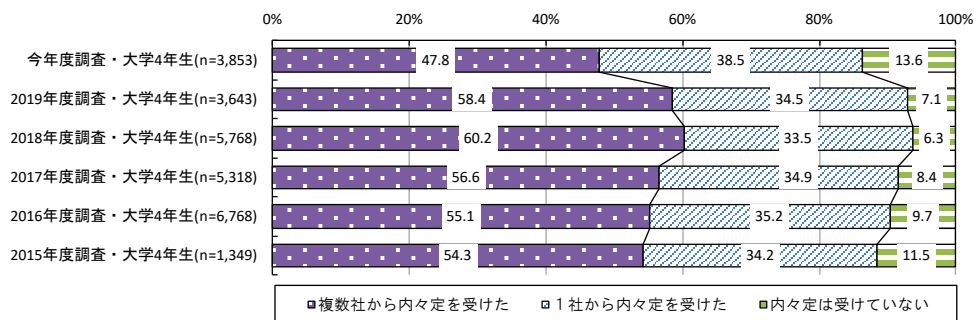
内々定の状況について³⁸、調査実施時点で約9割が内々定を受けている状況にある。また、約5割が「複数社から内々定を受けた」と回答している。

過年度調査と比較すると、調査実施時点で内々定を受けたと回答する者全体の割合が今年度調査では低くなっている。また、内々定を受けた者については、「1社から内々定を受けた」の回答割合は高くなっており、「複数社から内々定を受けた」の回答割合が低くなっている。

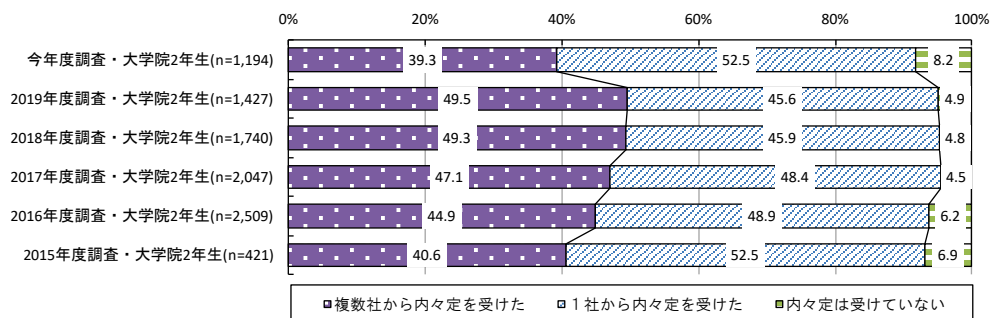
図表 3-6-1 調査実施時点での内々定の状況
(大学4年生・大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



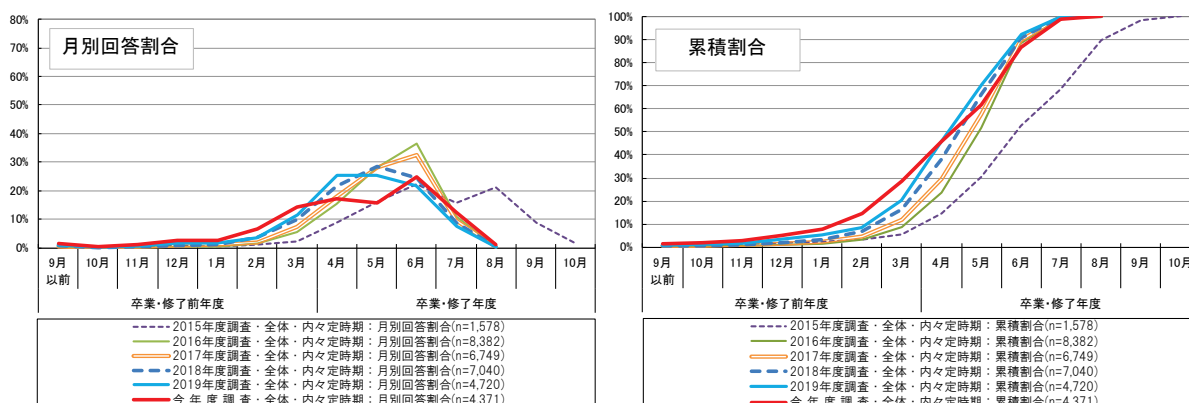
³⁸ 公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点において採用の面接等が行われていないと想定されることから、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。

②内々定を受けた時期（最初の内々定）

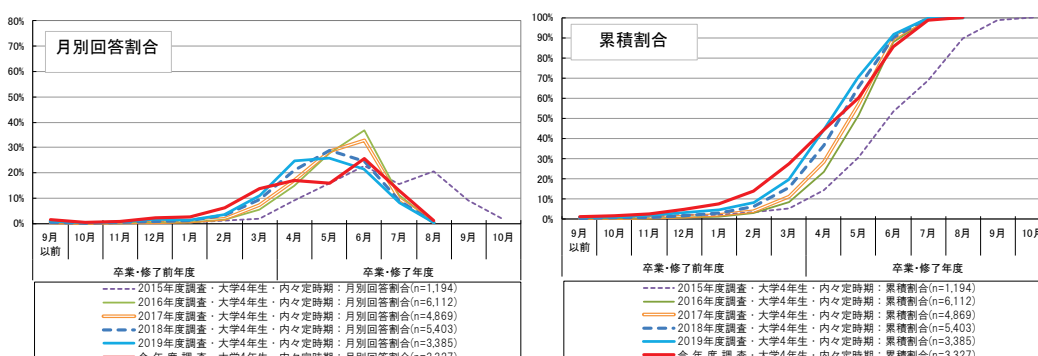
最初の内々定を受けた時期について³⁹、最も回答割合が高い月が採用・選考活動開始時期である 6 月にきており、約 2 割となっている。なお、累積割合では、約 6 割が 2020 年 5 月以前に内々定を受けたと回答している。

過年度調査と比較すると、今年度調査では 2020 年 3 月までは過年度調査の回答割合を上回っており時期が若干早まっているが、4 月～5 月の時期に最初の内々定を受けた者の割合が低くなっている。

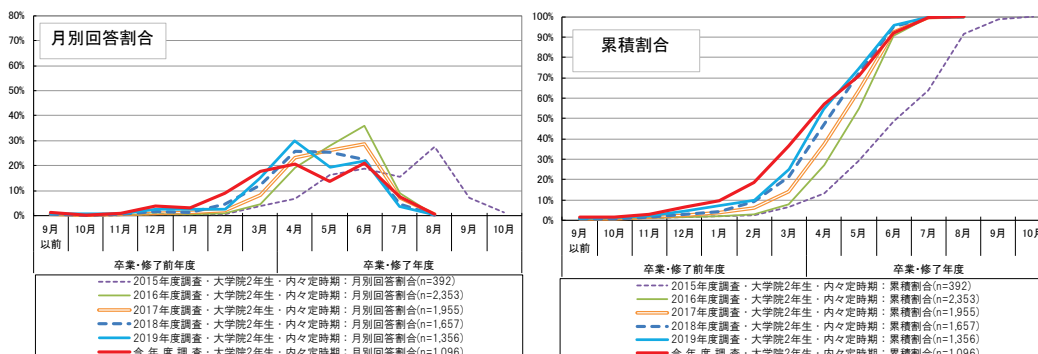
図表 3-6-2 内々定を受けた時期（最初の内々定）
（大学 4 年生・大学院 2 年生、公務員・教職員志望者除く）



（大学 4 年生、公務員・教職員志望者除く）



（大学院 2 年生、公務員・教職員志望者除く）



³⁹ 1 社から内々定を受けた者はその時期について、複数社から内々定を受けた者は最初に内々定を受けた時期について集計した。なお、ここでの集計でも、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。また、内々定を受けていないと回答した者は集計の対象外としている。

図表 3-6-3 最初の内々定を受けた時期（今年度調査・詳細データ）

（大学４年生・大学院２年生、公務員・教職員志望者除く）

	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.7%	0.1%	0.2%	0.6%	0.4%	0.9%	2.4%	2.5%	6.7%	14.3%	17.3%	15.5%	24.9%	12.4%	1.1%
累積割合	0.7%	0.8%	1.0%	1.5%	2.0%	2.9%	5.3%	7.8%	14.5%	28.7%	46.0%	61.6%	86.5%	98.9%	100.0%

（大学４年生、公務員・教職員志望者除く）

	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.7%	0.2%	0.1%	0.5%	0.5%	0.9%	2.2%	2.4%	6.3%	13.7%	16.8%	15.8%	25.5%	13.1%	1.2%
累積割合	0.7%	0.9%	1.0%	1.5%	2.0%	2.9%	5.1%	7.5%	13.9%	27.6%	44.4%	60.2%	85.7%	98.8%	100.0%

（大学院２年生、公務員・教職員志望者除く）

	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.4%	0.0%	0.4%	0.6%	0.2%	1.1%	3.8%	3.1%	8.9%	17.9%	20.8%	13.7%	21.0%	7.5%	0.5%
累積割合	0.4%	0.4%	0.8%	1.4%	1.6%	2.7%	6.6%	9.7%	18.6%	36.5%	57.2%	70.9%	91.9%	99.5%	100.0%

③内々定を受けた時期（内々定を複数社から受けた場合）

「複数社から内々定を受けた」と回答した者について、「最初に内々定を受けた時期」は「2020年4月」との回答が約2割で最も高く、「就職予定の企業の内々定を受けた時期」は「2020年6月」との回答が約4割で最も高くなっている⁴⁰。

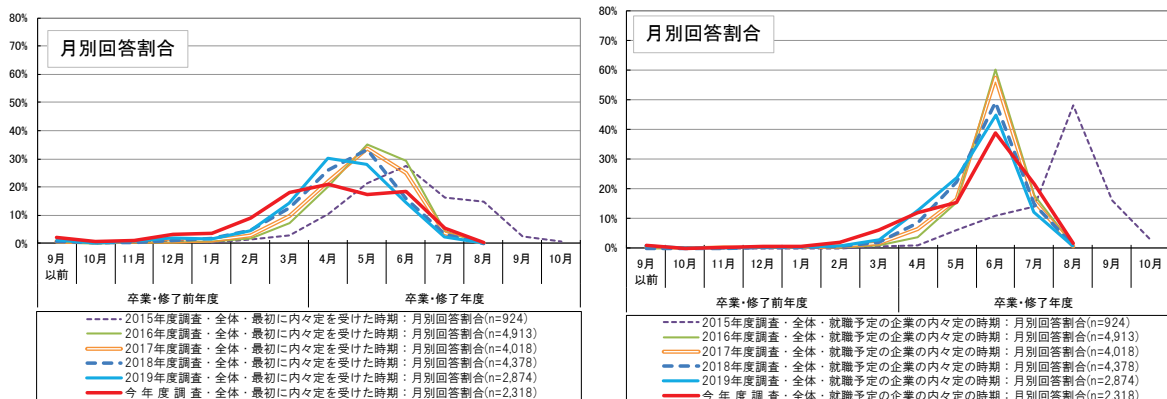
過年度調査と比較すると、「最初に内々定を受けた時期」「就職予定の企業の内々定を受けた時期」とともに、今年度は3月までの時期の回答割合が高くなっている。また今年度は、「最初に内々定を受けた時期」は特に5月の時期が過年度と比べて低くなっている。

図表 3-6-4 内々定を受けた時期（複数社から受けた場合）

（大学4年生・大学院2年生、公務員・教職員志望者除く）

＜最初に内々定を受けた時期＞

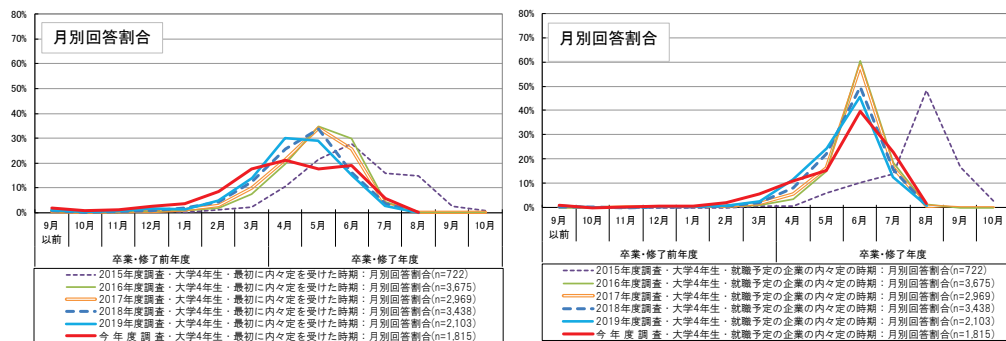
＜就職予定の企業の内々定を受けた時期＞



（大学4年生、公務員・教職員志望者除く）

＜最初に内々定を受けた時期＞

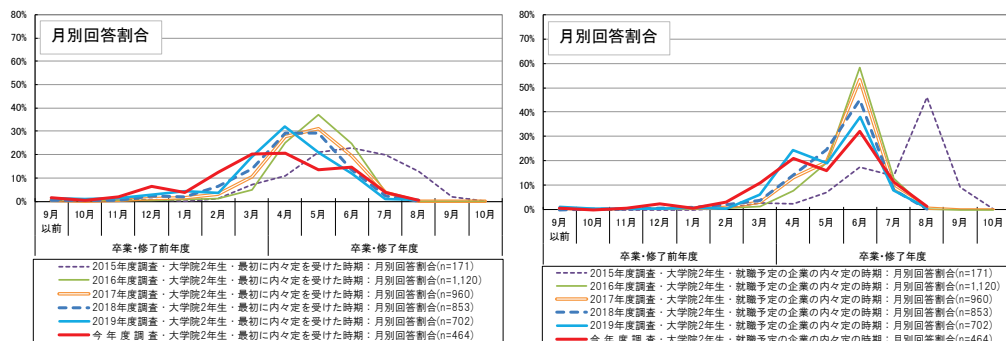
＜就職予定の企業の内々定を受けた時期＞



（大学院2年生、公務員・教職員志望者除く）

＜最初に内々定を受けた時期＞

＜就職予定の企業の内々定を受けた時期＞



⁴⁰ 「最初の内々定」「就職予定の企業の内々定」いずれについても、「就職予定の企業の内々定」に関して「就職予定の企業はない」と回答した者は集計の対象外とした。

図表 3-6-5 内々定を受けた時期（複数社から受けた場合、詳細データ）

（大学４年生・大学院２年生、公務員・教職員志望者除く）

最初の内々定	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.9%	0.1%	0.2%	0.8%	0.6%	1.1%	3.1%	3.7%	9.1%	17.9%	20.9%	17.3%	18.5%	5.4%	0.2%
累積割合	0.9%	1.0%	1.1%	2.0%	2.6%	3.7%	6.9%	10.5%	19.6%	37.5%	58.5%	75.8%	94.3%	99.8%	100.0%
就職予定の内々定	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.4%	0.4%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.7%	0.5%	2.0%	6.1%	12.0%	15.3%	38.9%	21.8%	1.6%
累積割合	0.4%	0.8%	0.8%	1.0%	1.0%	1.1%	1.9%	2.4%	4.4%	10.4%	22.4%	37.7%	76.6%	98.4%	100.0%

（大学４年生、公務員・教職員志望者除く）

最初の内々定	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.9%	0.1%	0.2%	0.8%	0.7%	1.1%	2.7%	3.6%	8.7%	17.7%	21.0%	17.8%	18.9%	5.6%	0.2%
累積割合	0.9%	1.0%	1.2%	2.0%	2.7%	3.7%	6.5%	10.1%	18.8%	36.5%	57.5%	75.2%	94.2%	99.8%	100.0%
就職予定の内々定	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.4%	0.5%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.5%	0.5%	1.9%	5.5%	11.0%	15.2%	39.7%	22.9%	1.7%
累積割合	0.4%	0.9%	0.9%	1.0%	1.0%	1.2%	1.7%	2.2%	4.1%	9.6%	20.6%	35.8%	75.5%	98.3%	100.0%

（大学院２年生、公務員・教職員志望者除く）

最初の内々定	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.4%	0.0%	0.4%	0.9%	0.3%	1.8%	6.6%	4.0%	12.4%	20.4%	20.5%	13.4%	14.7%	3.9%	0.4%
累積割合	0.4%	0.4%	0.7%	1.7%	1.9%	3.8%	10.4%	14.3%	26.7%	47.1%	67.6%	81.0%	95.7%	99.6%	100.0%
就職予定の内々定	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.1%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.5%	2.5%	0.5%	3.2%	10.8%	21.0%	16.1%	32.3%	11.5%	1.2%
累積割合	0.1%	0.3%	0.5%	0.5%	0.5%	0.9%	3.5%	4.0%	7.1%	18.0%	39.0%	55.0%	87.3%	98.8%	100.0%

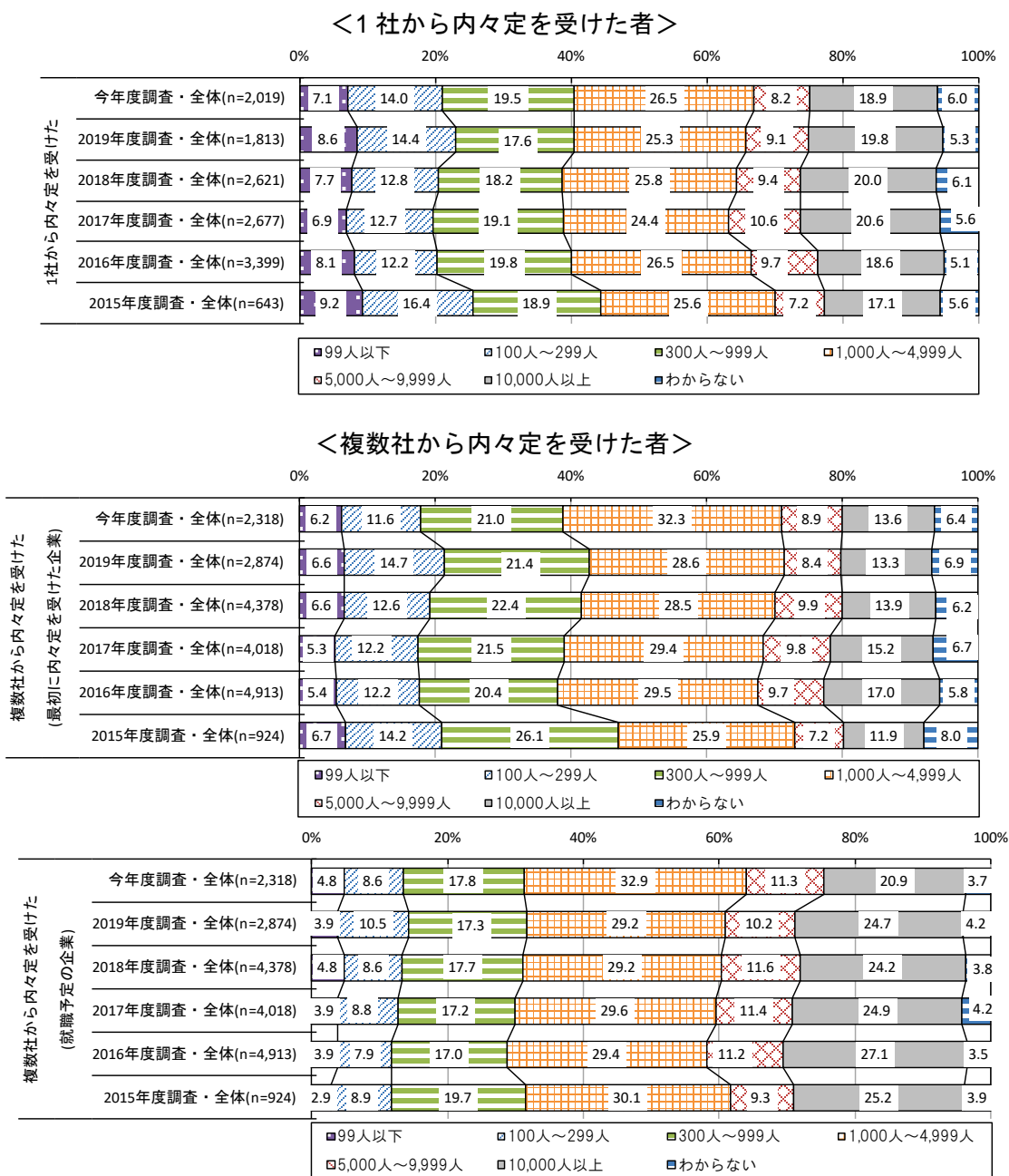
④内々定を受けた企業の企業規模（従業員数）

内々定を受けた企業の企業規模（従業員数）について、1社から内々定を受けた者、複数社から内々定を受けた者のそれぞれについて集計を行った。複数社から内々定を受けた者については、最初に内々定を受けた企業と、就職予定の企業のそれぞれについて把握した。

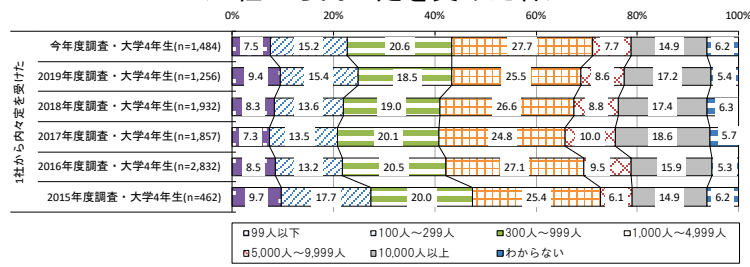
これらのうち、複数社から内々定を受けた者について、「最初に内々定を受けた企業」に対して「就職予定の企業」の方が、規模（従業員数）の大きい企業である割合が高くなっている。これは、過年度調査と同様の結果となっている。

なお過年度調査と比べると、複数社から内々定を受けた者に関して、最初の内々定・就職予定の企業の内々定いずれについても「1,000人～4,999人」の回答割合が高くなっているが、全体としては過年度とほぼ同様の結果となっている。

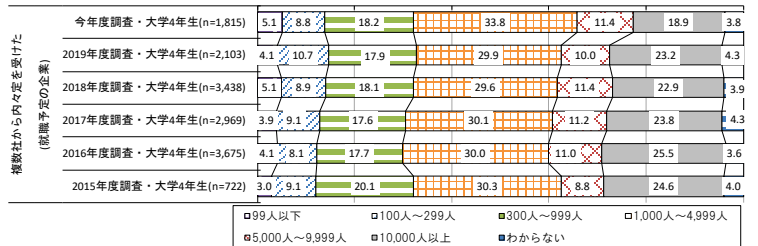
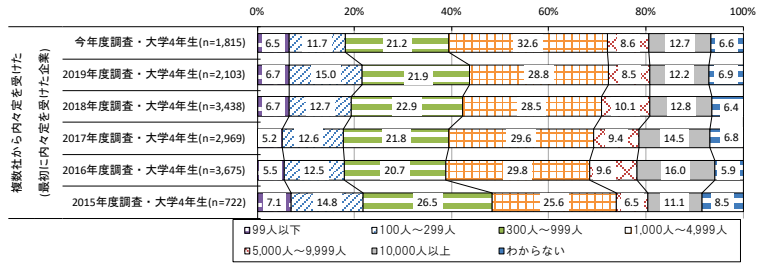
図表 3-6-6 内々定を受けた企業の企業規模（従業員数）
（大学4年生・大学院2年生、公務員・教職員志望者除く）



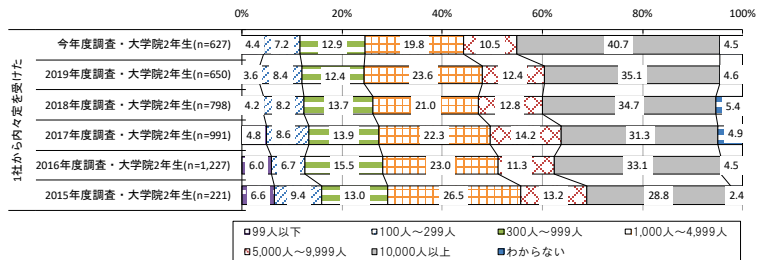
図表 3-6-7 内々定を受けた企業の企業規模（従業員数）
 （大学4年生、公務員・教職員志望者除く）
 <1社から内々定を受けた者>



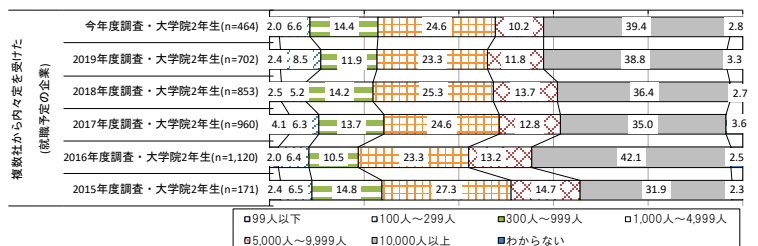
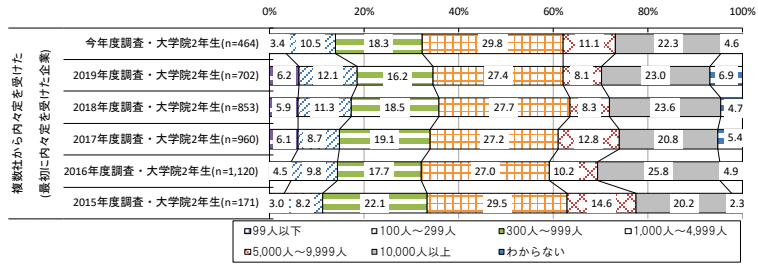
<複数社から内々定を受けた者>



（大学院2年生、公務員・教職員志望者除く）
 <1社から内々定を受けた者>



<複数社から内々定を受けた者>

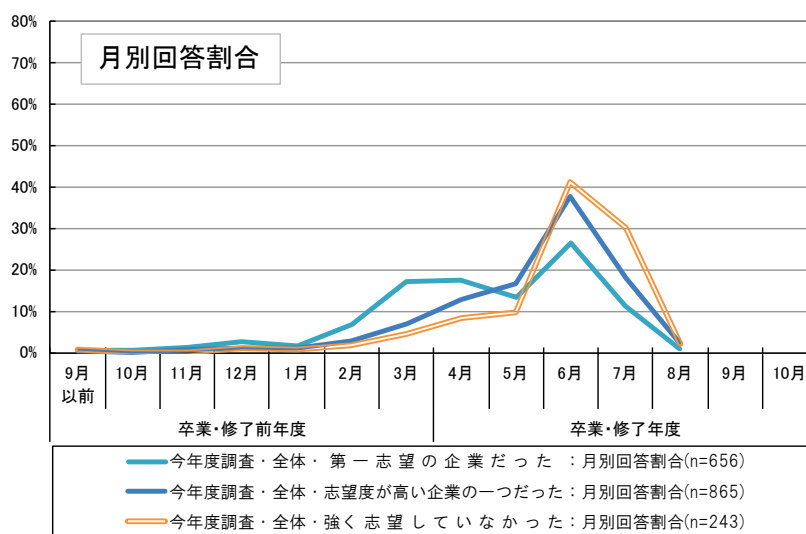


⑤就職予定の企業の志望度別の内々定を受けた時期

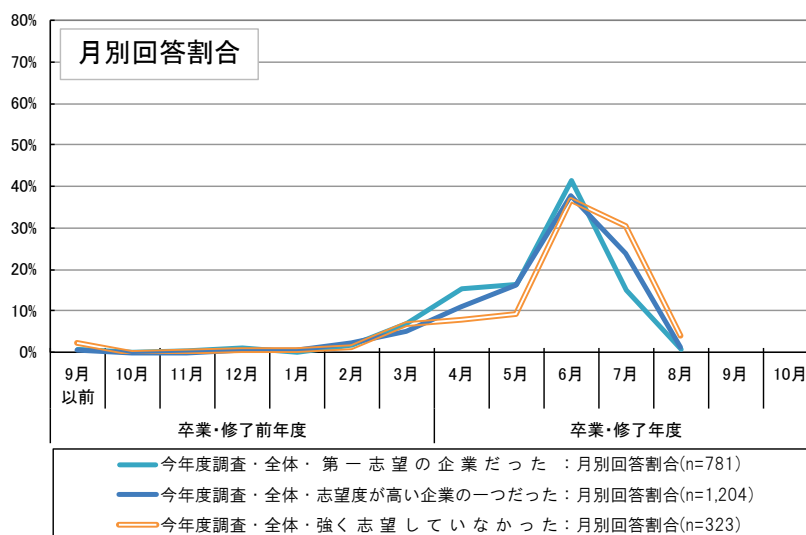
就職予定の企業からの内々定の時期⁴¹について、その企業に対する志望度別に集計⁴²すると、いずれの場合も、就職予定の企業の内々定の時期は「2020年6月」の回答割合が最も高くなっている。

なお、1社から内々定を受けた者で、その企業が第一志望であった場合は、2020年3月～4月の時期の回答割合も比較的高くなっている。

図表 3-6-8 就職予定の企業の志望度別の内々定を受けた時期
(大学4年生・大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)
<1社から内々定を受けた者>



<複数社から内々定を受けた者>



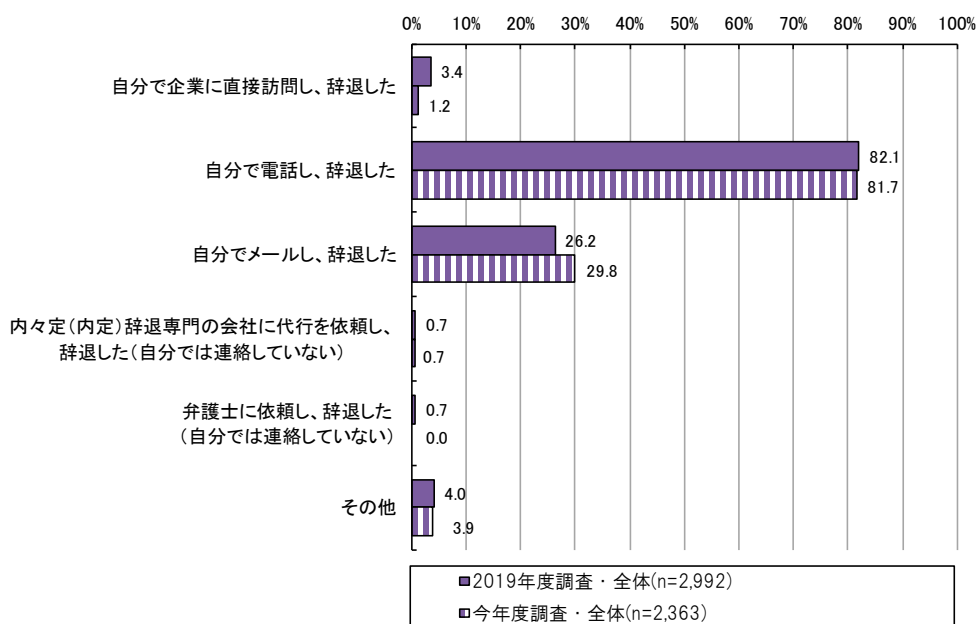
⁴¹ 1社から内々定を受けた者はその企業に就職予定であると回答した場合、及び、複数社から内々定を受けた者は就職予定の企業に関して、内々定を受けた時期に関する回答結果を集計した。なお、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。

⁴² 就職予定の企業の採用選考に応募した時点で志望していた企業の全てを思い返したうえでの志望度について尋ねた回答の結果を基に分類をした。なお、志望度について「覚えていない」と回答した者は集計の対象外とした。また、分類によっては集計対象者の数が必ずしも多いわけではないことから、ここでは、大学4年生・大学院2年生について合わせて集計した結果のみ参照した。

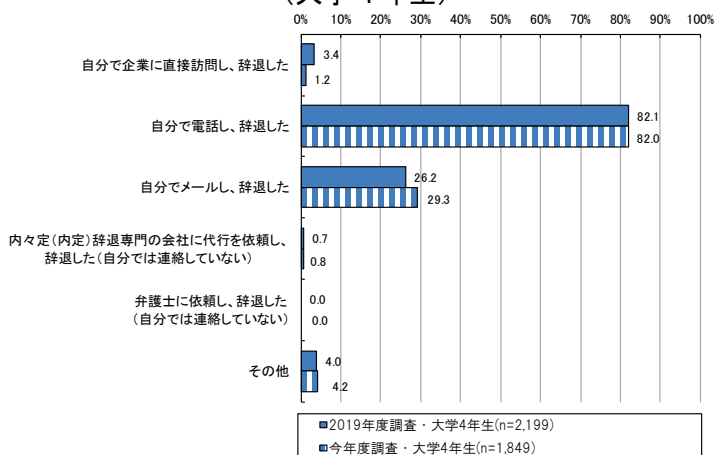
⑥内々定の辞退の方法

複数社から内々定を受けた者など⁴³の、内々定の辞退の方法について、「自分で電話し、辞退した」が約 8 割、「自分でメールし、辞退した」が約 3 割となっている。なお、「自分で企業に直接訪問し、辞退した」は 1.2%、「内々定（内定）辞退専門の会社に代行を依頼し、辞退した（自分では連絡していない）」は 0.7%、「弁護士に依頼し、辞退した（自分では連絡していない）」は 0.7%であった。

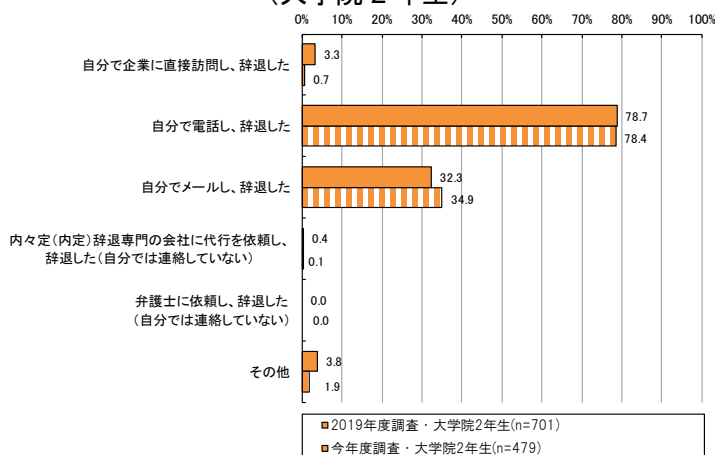
図表 3-6-9 内々定の辞退の方法（複数回答）
（大学 4 年生・大学院 2 年生）



（大学 4 年生）



（大学院 2 年生）



⁴³ 1社から内々定を受けた者でその企業に就職予定ではないと回答した者と、複数社から内々定を受けた者に関して、内々定を辞退したことがあるか否かを尋ねた上で、辞退をしたことがあると回答した場合にその方法について調査をした。なお、2018年度調査以前は当該設問について調査を実施していない。

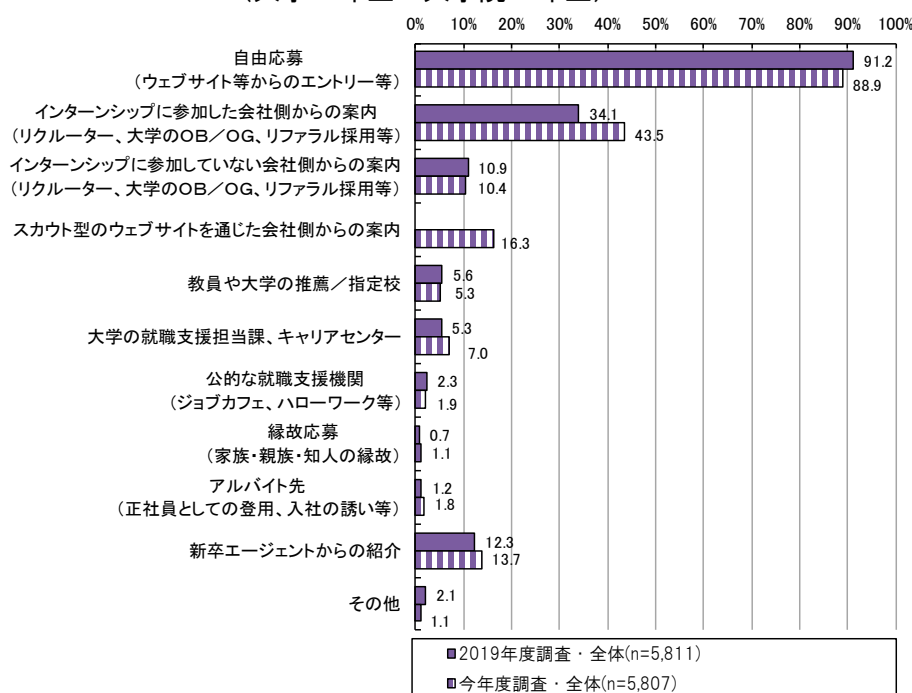
(7) 採用試験・面接等を受けた経路

①全体の状況

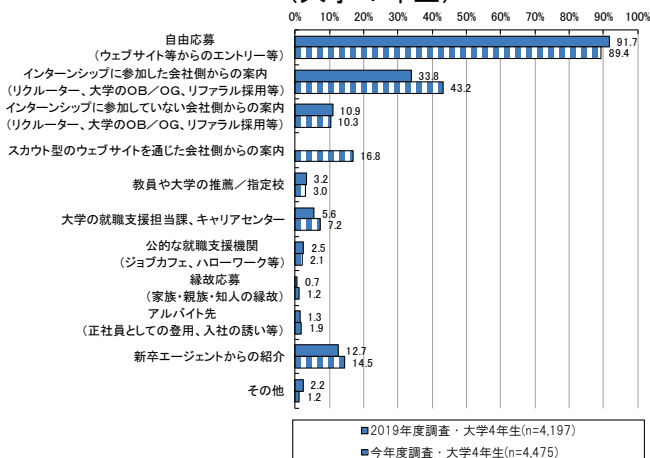
どのような経路で採用試験・面接等を受けたか⁴⁴について、「自由応募（ウェブサイト等からのエントリー等）」の割合が9割以上で、「インターンシップに参加した会社側からの案内（リクルーター、大学のOB/OG、リファラル採用等）」が約4割、「スカウト型のウェブサイトを通じた会社側からの案内」が約2割、「新卒エージェントからの紹介」と「インターンシップに参加していない会社側からの案内（リクルーター、大学のOB/OG、リファラル採用等）」がそれぞれ約1割となっている。

2019年度調査と比較すると、「インターンシップに参加した会社側からの案内（リクルーター、大学のOB/OG、リファラル採用等）」の回答割合が高くなっている。

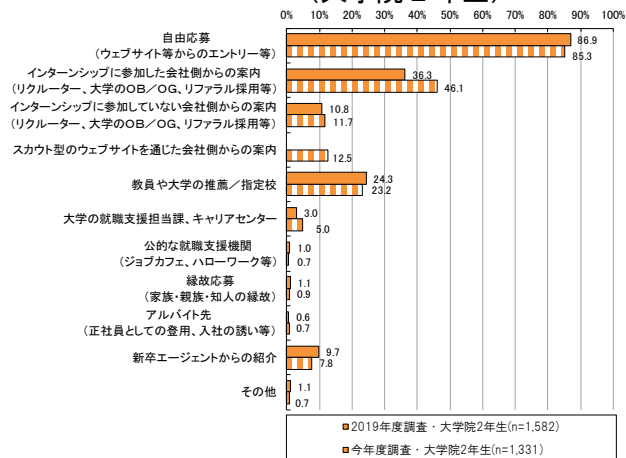
図表 3-7-1 採用試験・面接等を受けた経路（複数回答）
（大学4年生・大学院2年生）



(大学4年生)



(大学院2年生)



44 同内容の調査項目は2016年度調査～2018年度調査でも設定しているが、選択肢として設定している項目が異なっていることから、ここでは直接的には比較の対象としなかった。なお、2019年度調査では「リクルーター」「リファラル採用」「新卒エージェント」、さらに今年度調査では新しく設定した「スカウト型のウェブサイト」の項目に、それぞれ用語説明を付した。

②内々定を受けた企業について採用試験・面接等を受けた経路

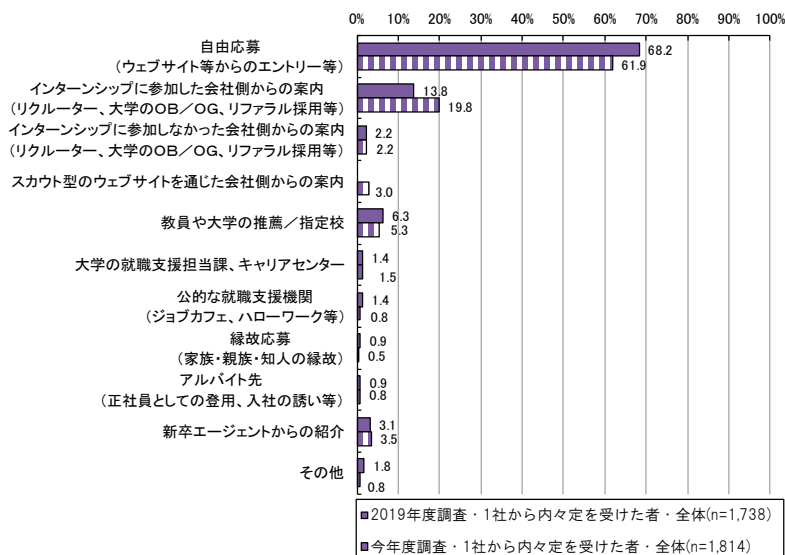
内々定を受けた企業に関してどのような経路で採用試験・面接等を受けたか⁴⁵について、1社から内々定を受けた者では、「自由応募（ウェブサイト等からのエントリー等）」の割合が約6割、「インターンシップに参加した会社側からの案内（リクルーター、大学のOB/OG、リファラル採用等）」が約2割となっている。また、複数社から内々定を受けた者では、「最初の内々定」について「インターンシップに参加した会社側からの案内（リクルーター、大学のOB/OG、リファラル採用等）」の割合が約3割と若干高くなっている。

2019年度調査と比較すると、内々定を受けた数が1社・複数社いずれの場合も、「自由応募（ウェブサイト等からのエントリー等）」の回答割合が低くなり、「インターンシップに参加した会社側からの案内（リクルーター、大学のOB/OG、リファラル採用等）」が高くなっている。

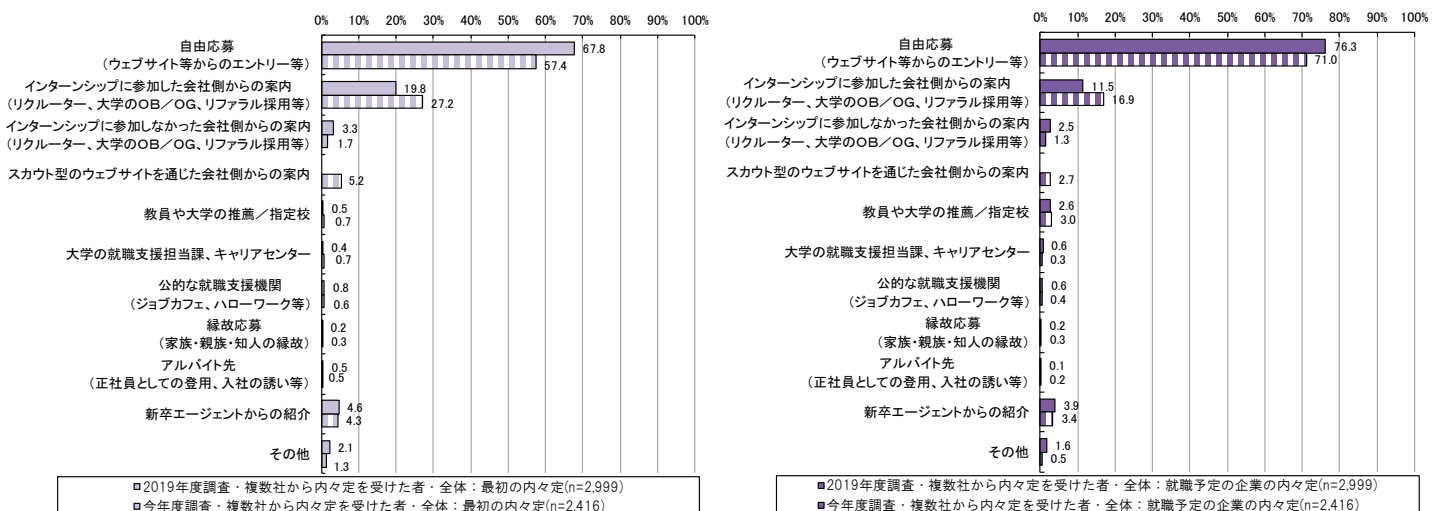
図表 3-7-2 内々定を受けた企業について採用試験・面接等を受けた経路

（大学4年生・大学院2年生）

<1社から内々定を受けた者>



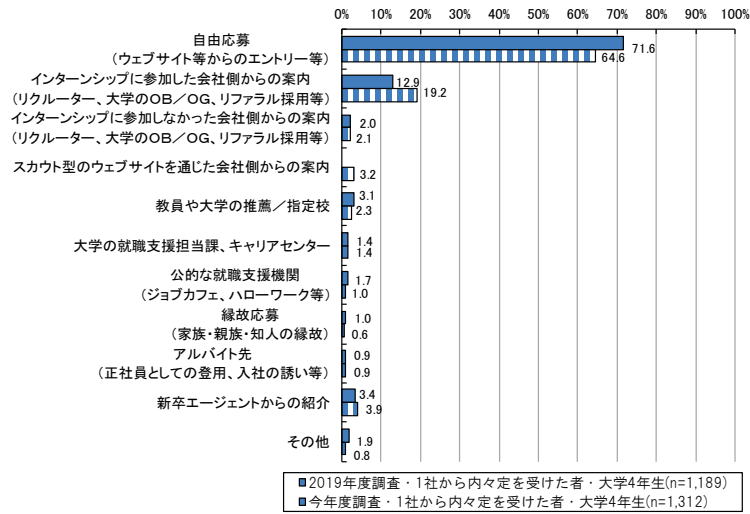
<複数社から内々定を受けた者>



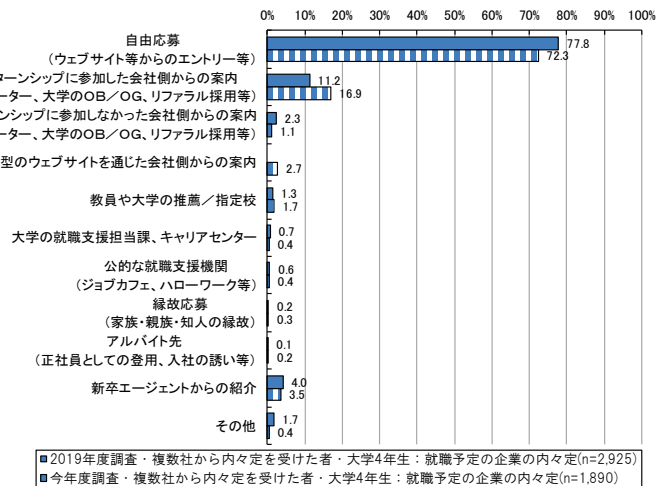
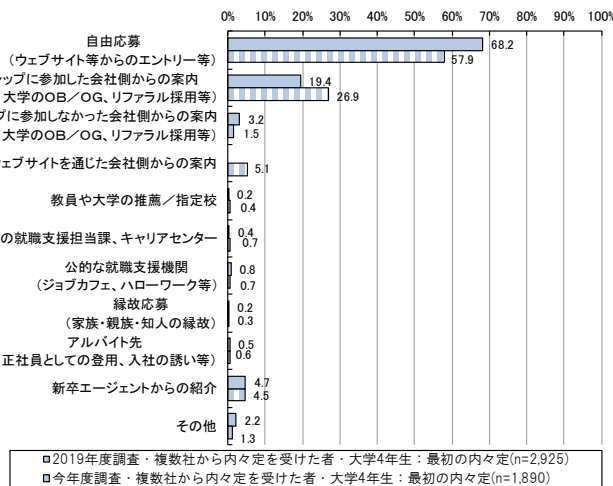
⁴⁵ 1社から内々定を受けた者は就職予定の企業について、複数社から内々定を受けた者は最初に内々定を受けた企業と就職予定の企業のそれぞれについて調査し、集計をした。なお、ここでの設問は、複数回答形式ではなく、選択肢よりひとつのみ回答する方法によるものである。

図表 3-7-3 内々定を受けた企業について採用試験・面接等を受けた経路（大学4年生）

<1社から内々定を受けた者>

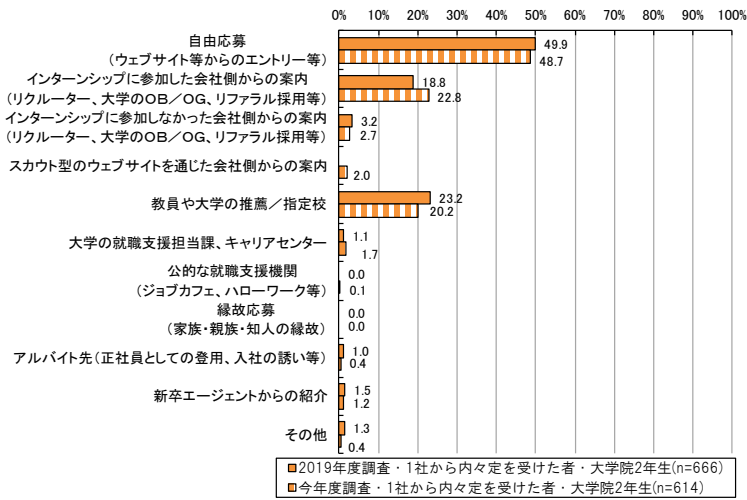


<複数社から内々定を受けた者>

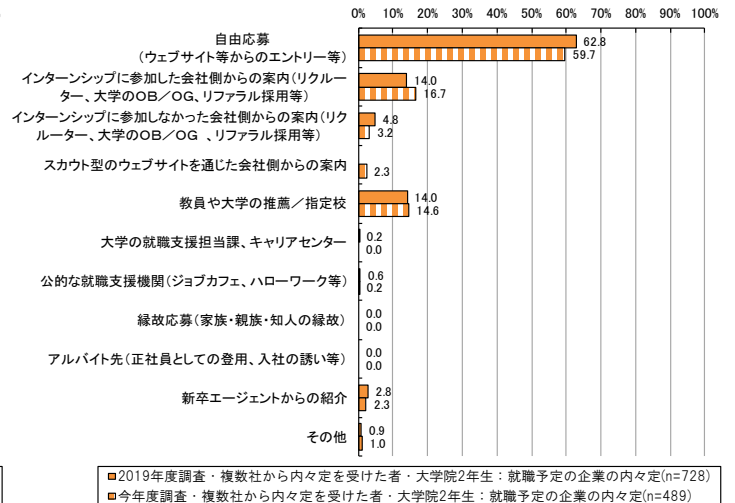
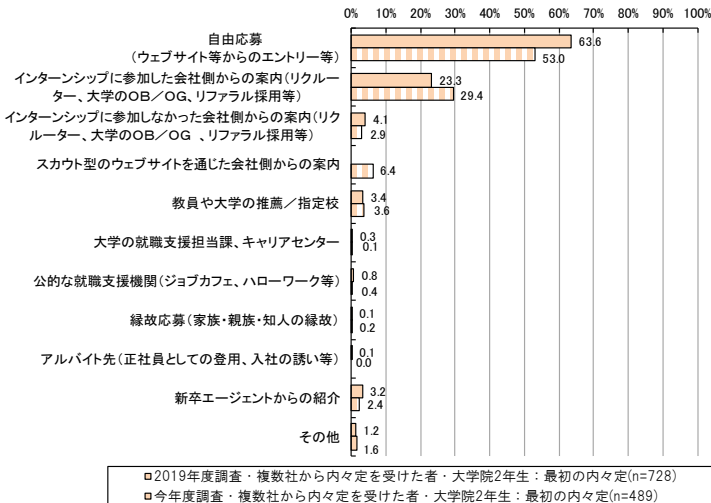


図表 3-7-4 内々定を受けた企業について採用試験・面接等を受けた経路（大学院2年生）

<1社から内々定を受けた者>



<複数社から内々定を受けた者>



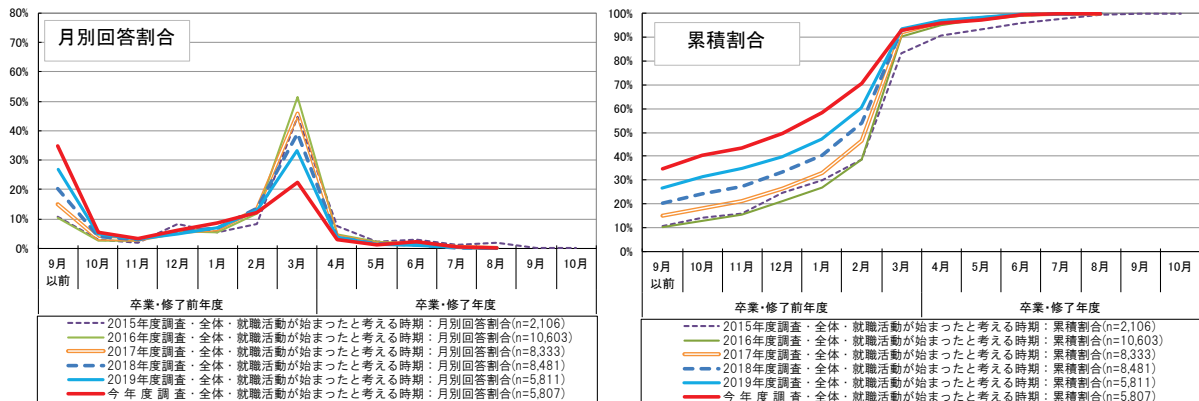
(8) 就職活動の始まりと終わりの認識

①就職活動の始まりの時期についての認識

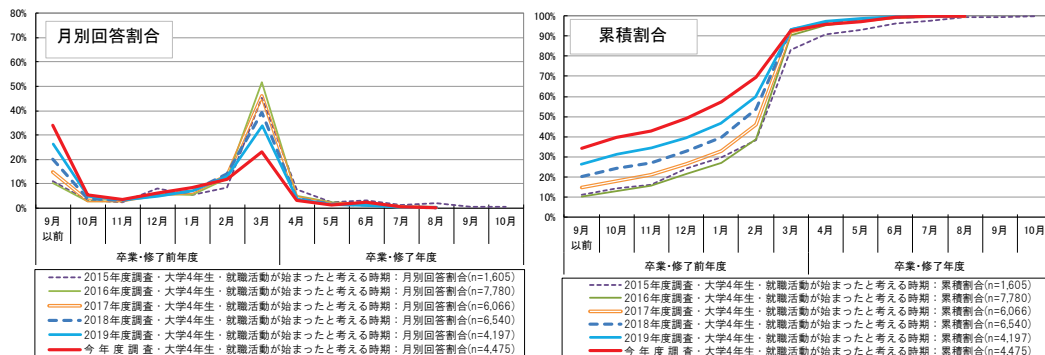
回答者自身の認識としての「就職活動が始まったと考える時期」について、「2020年3月」が約2割と最も高く、次いで「2019年6月以前」の回答割合が高くなっている。

今年度調査では卒業・修了前年度3月の回答割合が比較的高い傾向は続いているが、卒業・修了前年度9月以前の回答割合を下回っているなど、過年度調査と比較するとより早期の時期を回答した者の割合が高くなっている。

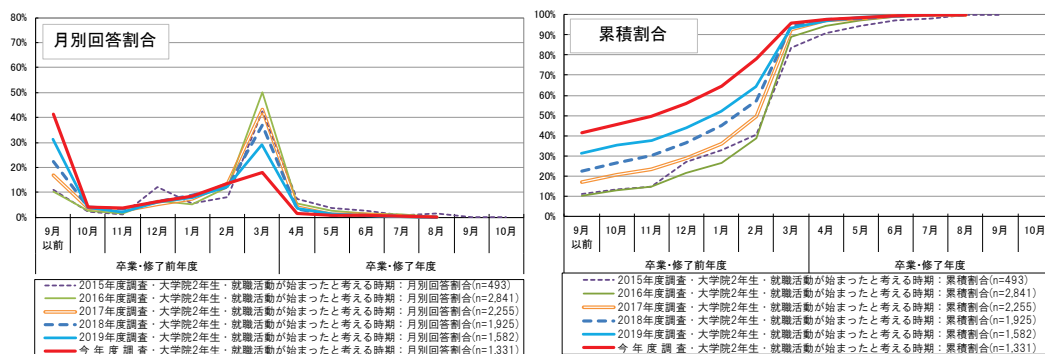
図表 3-8-1 就職活動が始まったと考える時期
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



図表 3-8-2 就職活動が始まったと考える時期（今年度調査・詳細データ）

（大学4年生・大学院2年生）

	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	17.5%	6.7%	7.3%	3.4%	5.4%	3.4%	6.1%	8.5%	12.1%	22.5%	3.0%	1.3%	2.3%	0.4%	0.2%
累積割合	17.5%	24.2%	31.5%	34.9%	40.2%	43.6%	49.8%	58.3%	70.4%	92.9%	95.9%	97.2%	99.4%	99.8%	100.0%

（大学4年生）

	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	16.4%	6.7%	7.6%	3.3%	5.5%	3.4%	6.1%	8.5%	11.9%	23.1%	3.2%	1.3%	2.4%	0.4%	0.2%
累積割合	16.4%	23.1%	30.7%	34.0%	39.5%	42.9%	49.0%	57.5%	69.4%	92.5%	95.7%	97.0%	99.4%	99.8%	100.0%

（大学院2年生）

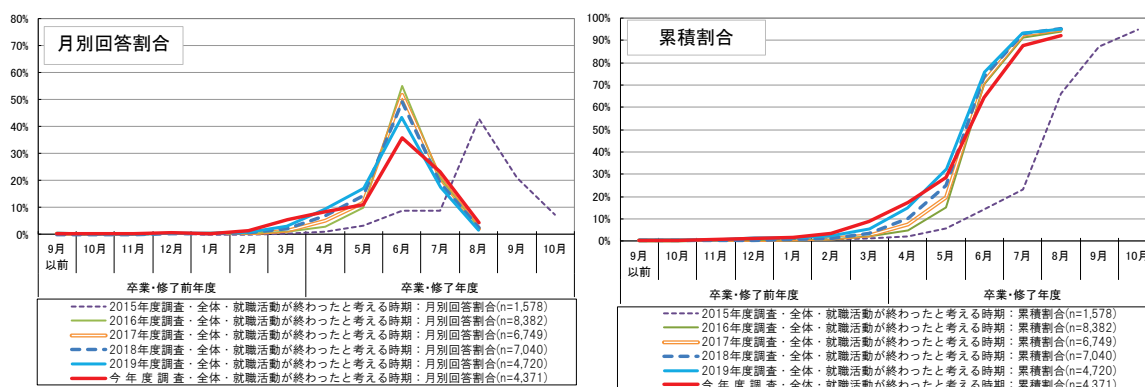
	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	26.2%	6.4%	5.1%	3.6%	4.3%	3.8%	6.4%	8.6%	13.5%	18.0%	1.6%	0.9%	0.9%	0.4%	0.3%
累積割合	26.2%	32.7%	37.8%	41.4%	45.7%	49.5%	55.8%	64.5%	78.0%	96.0%	97.6%	98.5%	99.4%	99.7%	100.0%

②就職活動の終わりの時期についての認識

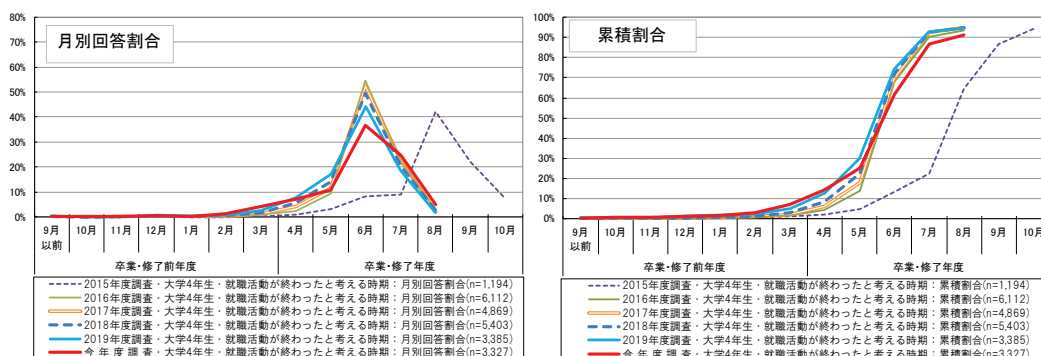
内々定を1社以上受けたと回答した者⁴⁶にとっての「就職活動が終わったと考える時期」について、「2020年6月」の回答割合が約4割となっている。なお、累積割合⁴⁷では、2020年5月以前に就職活動が終わったと回答しているのは約3割となっている。

過年度調査と比較すると、今年度調査では卒業・修了年度4月～6月の回答割合は過年度と同程度もしくはそれ以下となっている。また7月などのより遅い時期の回答割合が若干高くなっているとと、「まだ終わっていない」と考える割合も若干高くなっている。

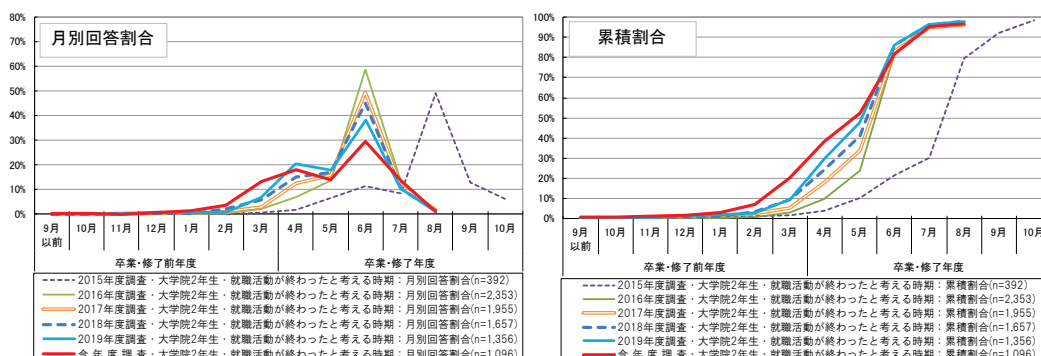
図表 3-8-3 就職活動が終わったと考える時期
(大学4年生・大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



46 公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。

47 「まだ終わっていない」と回答した者がいるため、「8月」の時点でも累積割合のグラフは100%にならない。

図表 3-8-4 就職活動が終わったと考える時期（今年度調査・詳細データ）

（大学4年生・大学院2年生、公務員・教職員志望者除く）

	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	まだ終わっていない
月別回答割合	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.3%	0.2%	0.6%	0.5%	1.6%	5.4%	8.4%	11.2%	35.9%	23.4%	4.3%	7.9%
累積割合	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.4%	0.6%	1.2%	1.7%	3.3%	8.7%	17.1%	28.3%	64.2%	87.6%	92.0%	—

（大学4年生、公務員・教職員志望者除く）

	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	まだ終わっていない
月別回答割合	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.2%	0.5%	0.4%	1.3%	4.3%	7.0%	10.8%	36.8%	24.8%	4.8%	8.6%
累積割合	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.5%	0.7%	1.2%	1.6%	2.9%	7.2%	14.2%	25.0%	61.8%	86.6%	91.4%	—

（大学院2年生、公務員・教職員志望者除く）

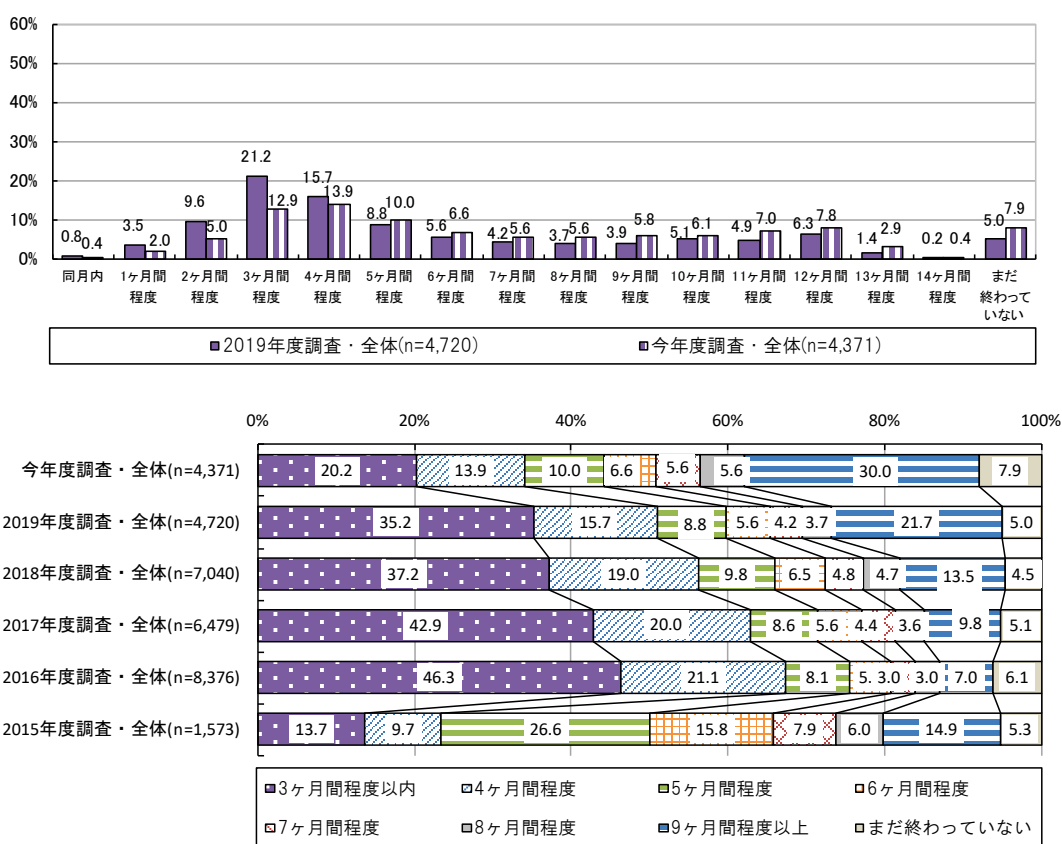
	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	まだ終わっていない
月別回答割合	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%	0.4%	0.1%	0.7%	1.4%	3.8%	13.1%	18.3%	14.0%	29.5%	13.6%	1.2%	3.5%
累積割合	0.3%	0.3%	0.3%	0.5%	0.8%	1.0%	1.7%	3.1%	6.9%	20.0%	38.2%	52.2%	81.7%	95.3%	96.5%	—

③就職活動の始まりから終わりまでの期間

「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」の間の期間について集計すると⁴⁸、「4ヶ月間程度⁴⁹」の割合が最も高く、「同月内」から「4ヶ月間程度」までの割合を合わせると約3割となっている。

2016年度調査～2019年度調査と比較すると、「3ヶ月間程度以内」の割合が低くなっており、「9ヶ月間程度以上」「まだ終わっていない」の割合が高くなっている。その結果として、採用・選考活動開始時期が8月とされていた2015年度調査と比べても、就職活動をより長い期間行っていた者の割合が高くなっている⁵⁰。

図表 3-8-5 就職活動の始まりから終わりまでの期間
(大学4年生・大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)

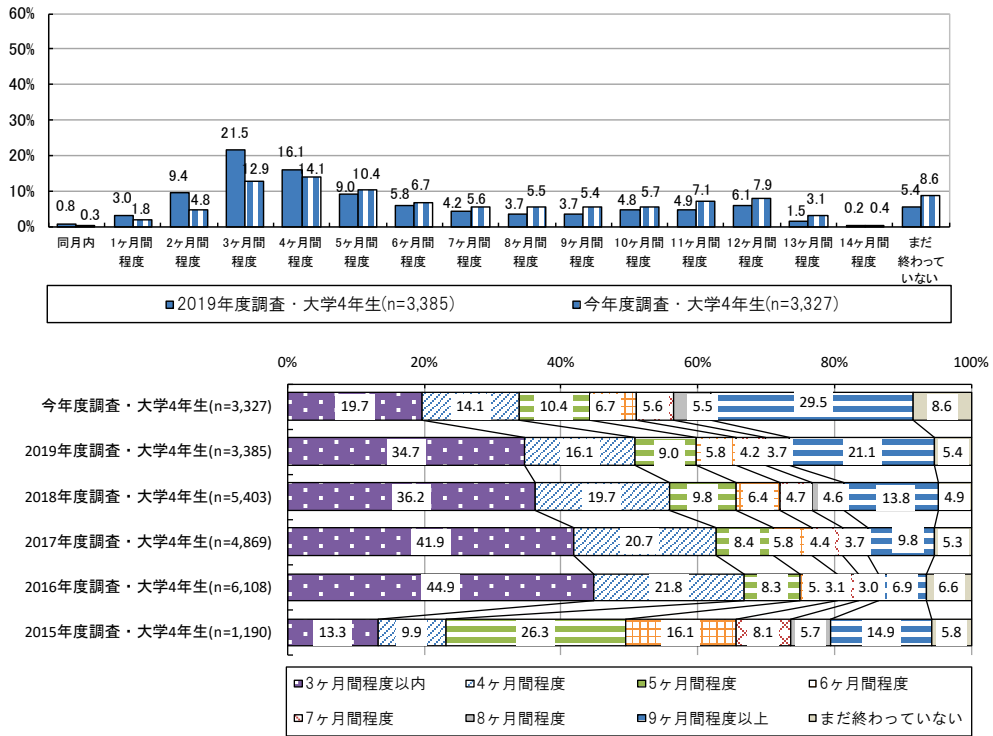


⁴⁸ 公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。

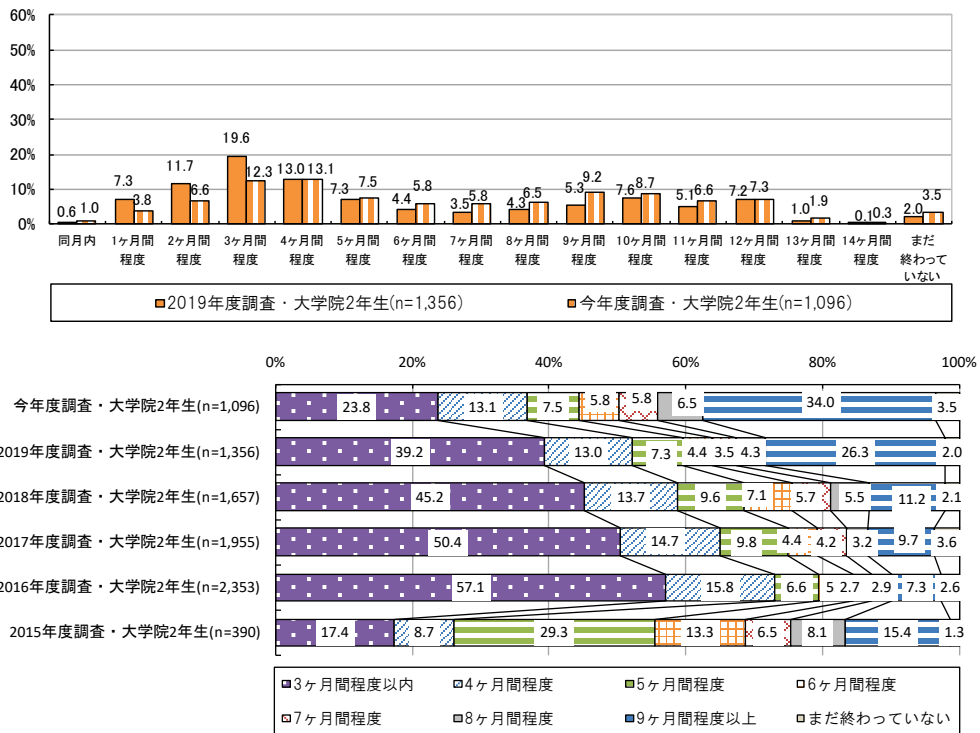
⁴⁹ ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「就職活動が始まったと考える時期」が3月、「就職活動が終わったと考える時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも就職活動を行っていた実際の期間の長さを意味するものではない点に留意が必要である。

⁵⁰ 「始まったと考える時期」「終わったと考える時期」ともに、過年度調査では卒業・修了前年度の「9月以前」を最初の選択肢項目としていたが、2019年度調査からは「6月以前」を最初の選択肢項目として設定して調査をした。このことから、過年度調査では最大の期間は「11ヶ月間程度」であるが、今年度調査では「14ヶ月間程度」となっている。ただし、過年度調査との比較を行う上では、分類がそろそろように再集計をしている。

図表 3-8-6 就職活動の始まりから終わりまでの期間
(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



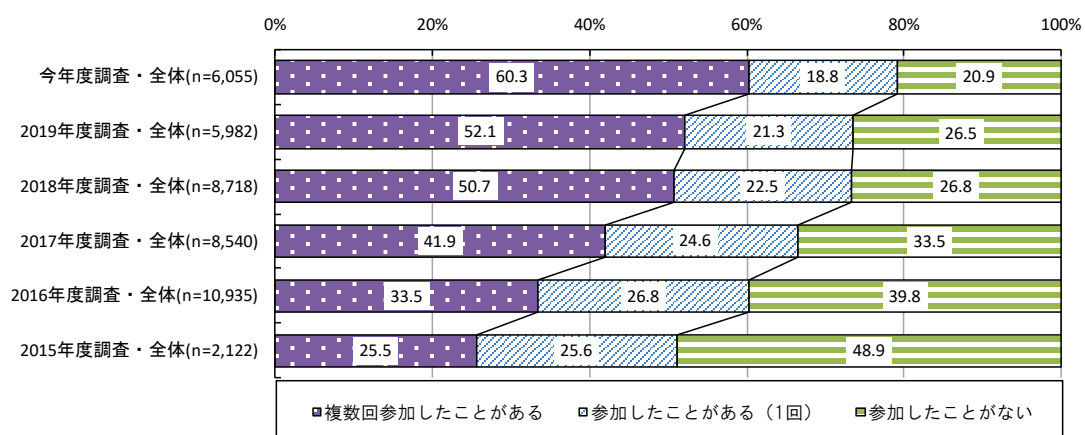
(9) インターンシップの参加状況

①参加の有無

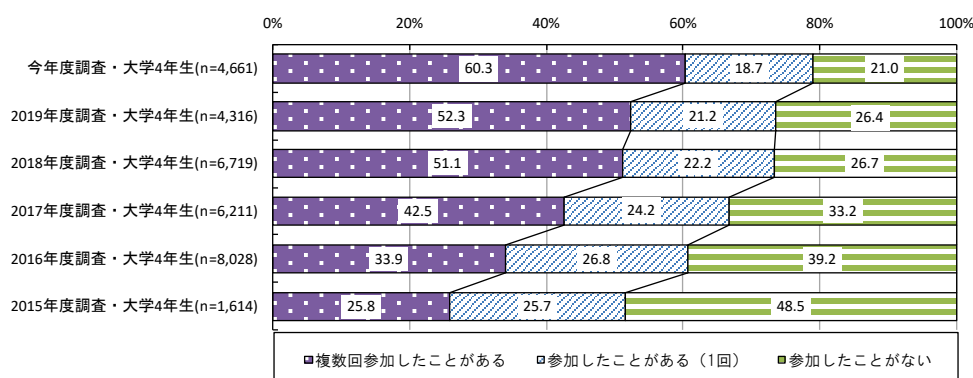
インターンシップ参加経験について、約8割が「参加したことがある」と回答している。なお、約6割が「複数回参加したことがある」と回答している。

過年度調査と比較すると⁵¹、今年度調査は「複数回参加したことがある」と回答した割合が高くなっている。

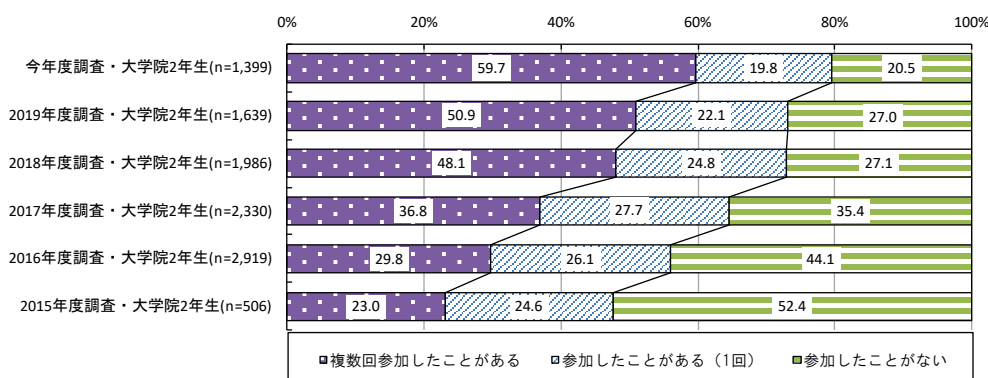
図表 3-9-1 インターンシップ参加経験の有無
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



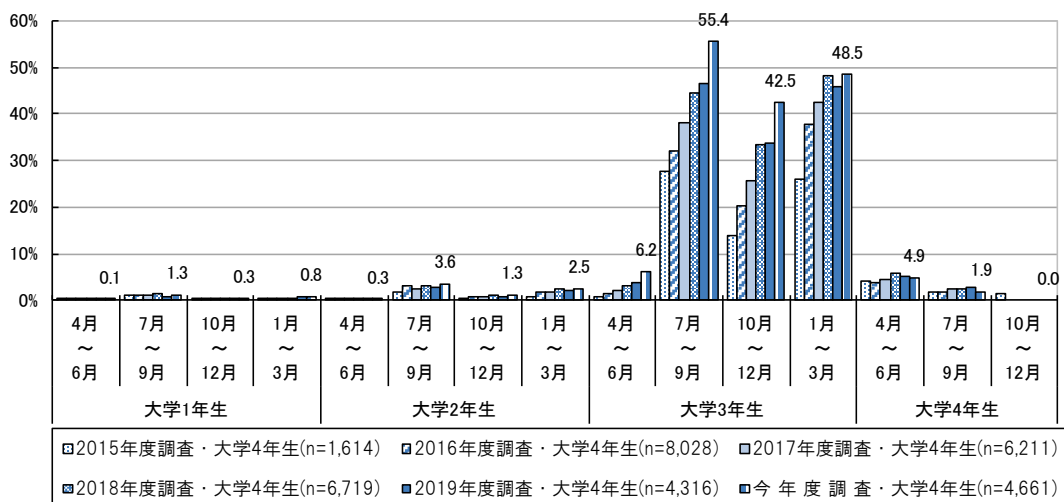
⁵¹ 2015年度調査では就職活動実施の有無にかかわらずインターンシップの参加状況について尋ねているが、ここでは、「就職活動を行った」者に限定して集計を行った上で比較した。

②参加時期

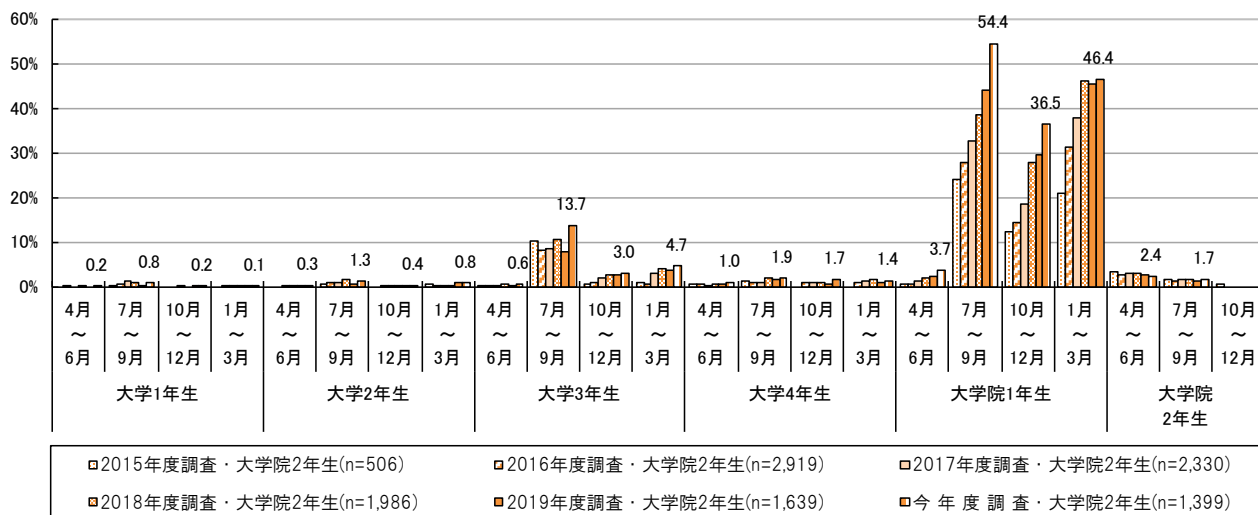
インターンシップ参加の時期について⁵²、大学3年生・大学院1年生の「7月～9月」や「1月～3月」の参加割合が約5～6割で高く、大学3年生・大学院1年生の「10月～12月」の割合が約4割となっている。

過年度調査と比較すると⁵³、上記のそれぞれの時期において、インターンシップに参加したと回答した割合が高まっている。「1月～3月」については、2018年度調査・2019年度調査と同程度の回答割合となっている。

図表 3-9-2 インターンシップ参加時期（複数回答）
（大学4年生）



（大学院2年生）



⁵² ここでの集計対象（母数）には、インターンシップに参加しなかった者も含む。

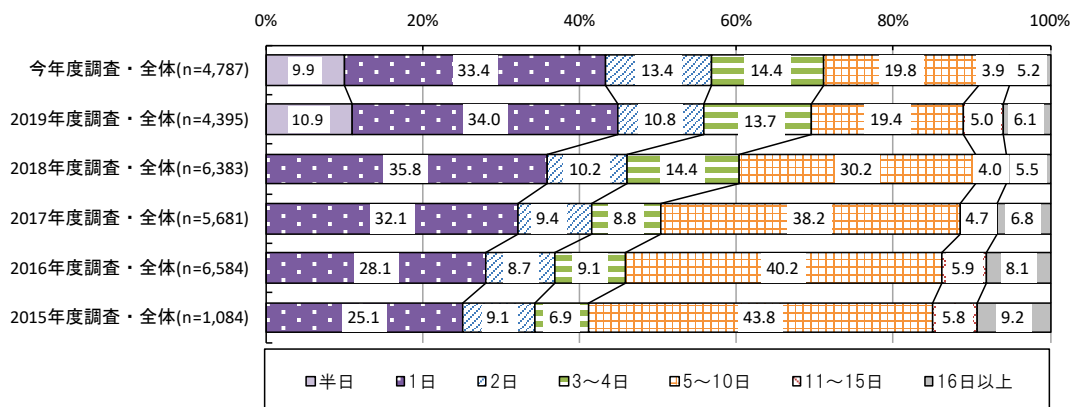
⁵³ 2015年度調査では就職活動実施の有無にかかわらずインターンシップの参加状況について尋ねているが、ここでは、「就職活動を行った」者に限定して集計を行った上で比較した。

③参加日数

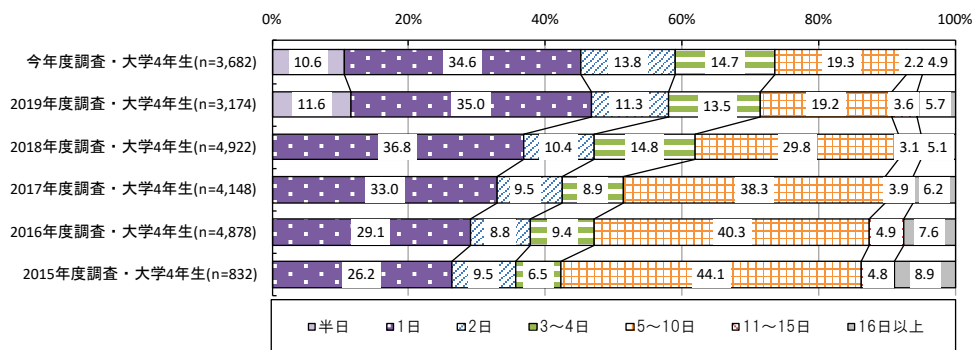
参加したインターンシップのうち、最長の日数のものについて集計したところ、「1日」の回答割合が約3割で最も高くなっている。なお、「半日」の回答は約1割であった⁵⁴。

過年度調査と比較すると⁵⁵、今年度調査では2019年度調査とほぼ同様の結果となっている。

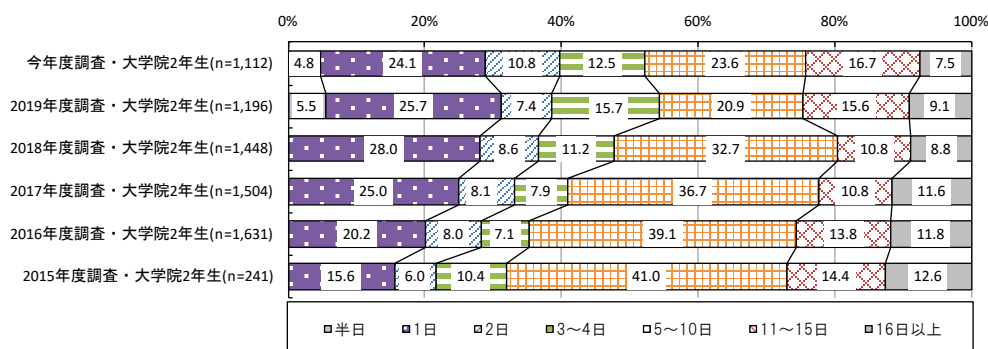
図表 3-9-3 インターンシップ参加日数
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



⁵⁴ 過年度調査では参加したインターンシップの最長の日数を1日単位の数字で回答されたものを分類して集計を行っていたが、今年度調査ではあらかじめ選択肢を設定し、参加したことがある日数の分類を選択してもらい、その上で最長の日数に関して集計をした。「半日」の分類は2019年度調査から把握・集計を行うことができるものとなっている。

⁵⁵ 2015年度調査では就職活動実施の有無にかかわらずインターンシップの参加状況について尋ねているが、ここでは、「就職活動を行った」者に限定して集計を行った上で比較した。

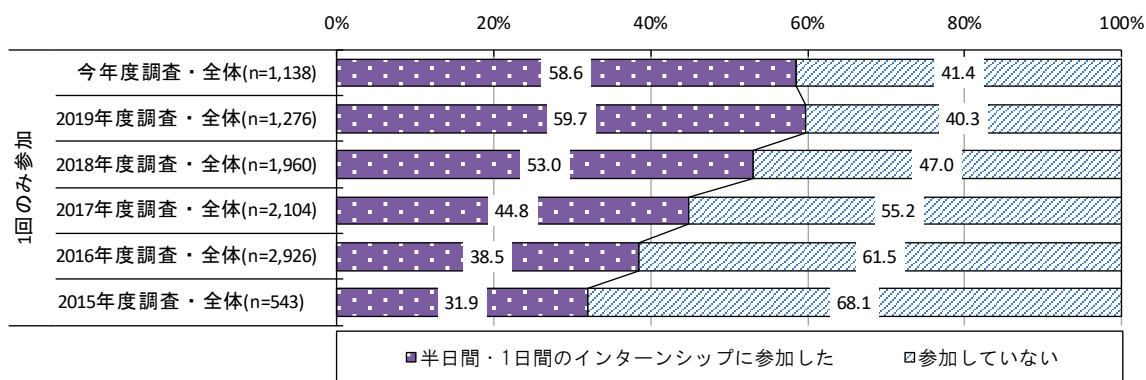
④半日間・1日間のインターンシップ参加状況

インターンシップに1回のみ参加したことがある者、複数回参加したことがある者のそれぞれについて、半日間又は1日間のインターンシップの参加状況⁵⁶を集計すると、インターンシップに1回のみ参加したことがある者で半日間又は1日間のインターンシップに参加した割合は約6割であった。また、インターンシップに複数回参加したことがある者で半日間又は1日間のインターンシップに参加したことがある割合は9割以上となっている。

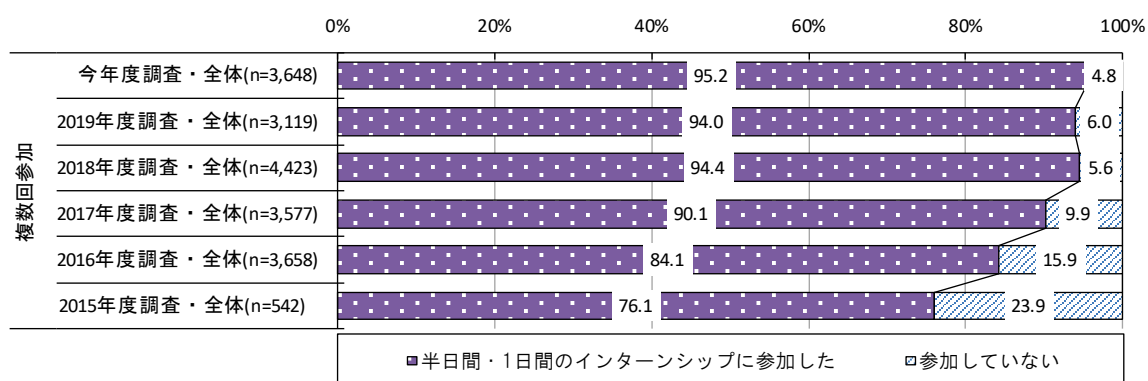
インターンシップに1回のみ参加したことがある場合で、それが半日間又は1日間であった者の割合は、2015年度調査以降高くなる傾向が続いていたが、今年度調査では2019年度調査と同程度となっている。

なお、インターンシップへのすべての参加回数のうち、半日間又は1日間のインターンシップの参加回数が占める割合を集計すると、全体の約8割が半日間又は1日間のインターンシップであった。過年度調査に比べ、この割合は若干高くなっている⁵⁷。

図表 3-9-4 インターンシップ参加経験者の半日間・1日間のインターンシップ参加の状況
(大学4年生・大学院2年生、インターンシップに1回のみ参加)



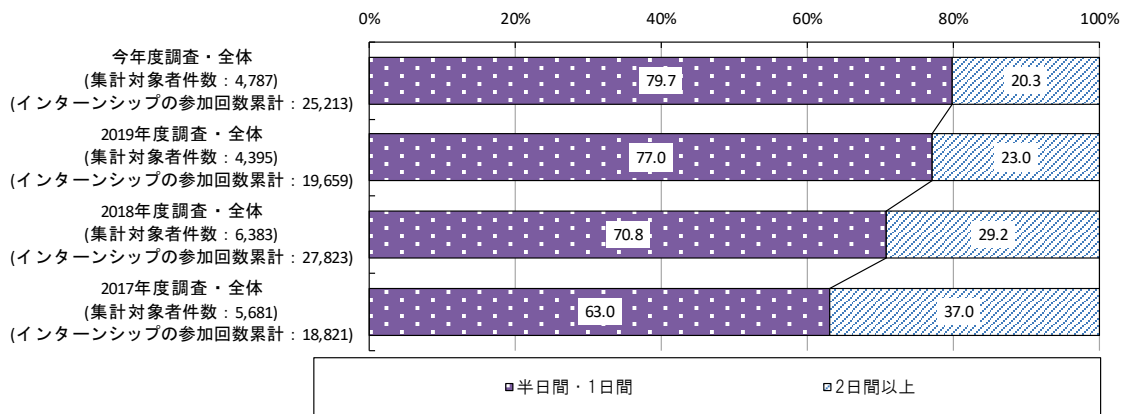
(大学4年生・大学院2年生、インターンシップに複数回参加)



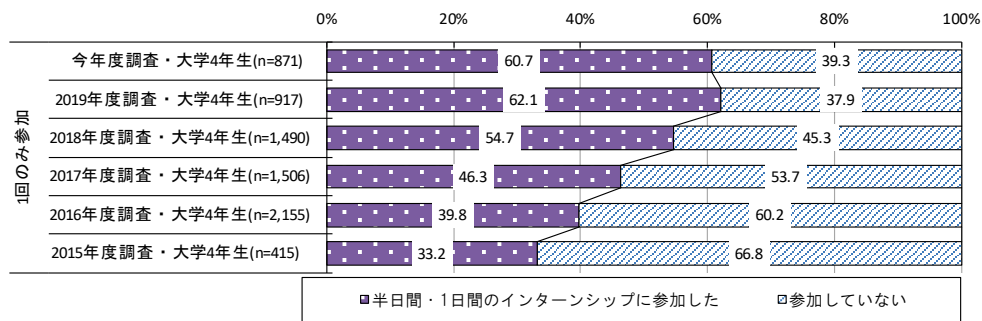
⁵⁶ 1回のみ参加したことがある場合にはその日数に関して、複数回参加したことがある場合には「半日」または「1日」のインターンシップに参加したと回答したか否かという点から、参加の有無について判断をした。なお、2018年度調査以前に関して複数回参加したことがある場合には、「最短の日数」に関する回答について集計し、1日間のインターンシップの参加の有無について判断をした。

⁵⁷ 2015年度調査・2016年度調査では当該設問について調査を実施していない。

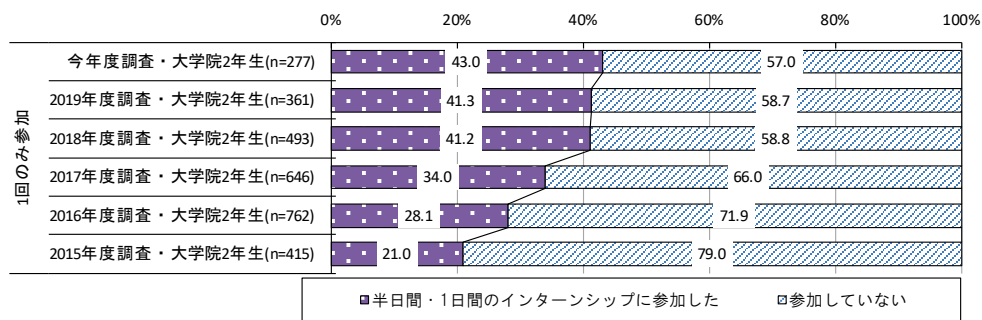
図表 3-9-5 参加したインターンシップが半日間・1日間であった割合
 (インターンシップへの参加回数累計による集計)
 (大学4年生・大学院2年生)



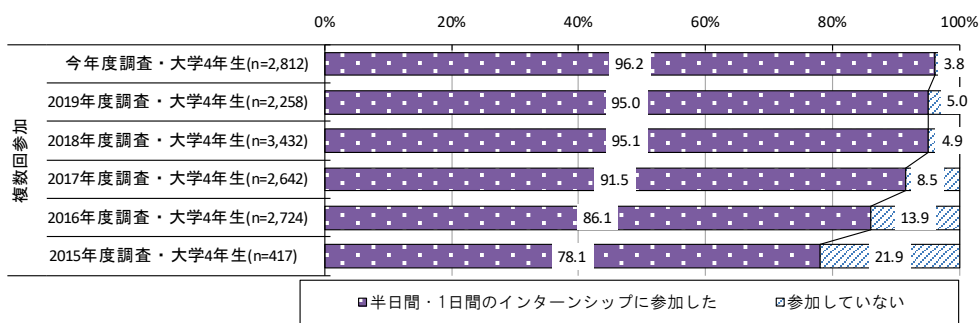
図表 3-9-6 インターンシップ参加経験者の1日間のインターンシップ参加の状況
 (大学4年生、インターンシップに1回のみ参加)



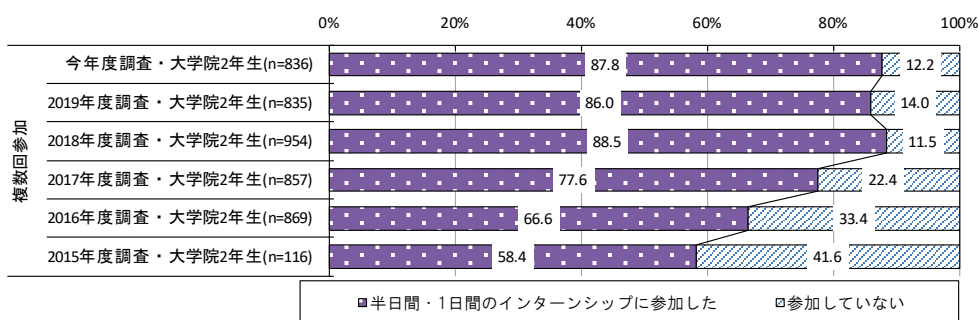
(大学院2年生、インターンシップに1回のみ参加)



(大学4年生、インターンシップに複数回参加)

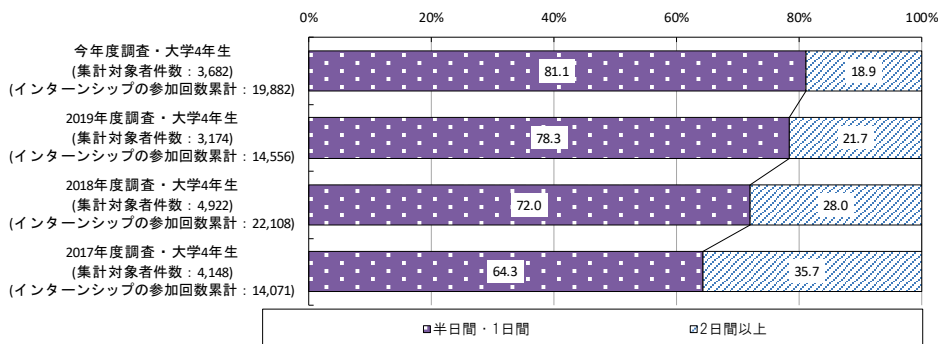


(大学院2年生、インターンシップに複数回参加)

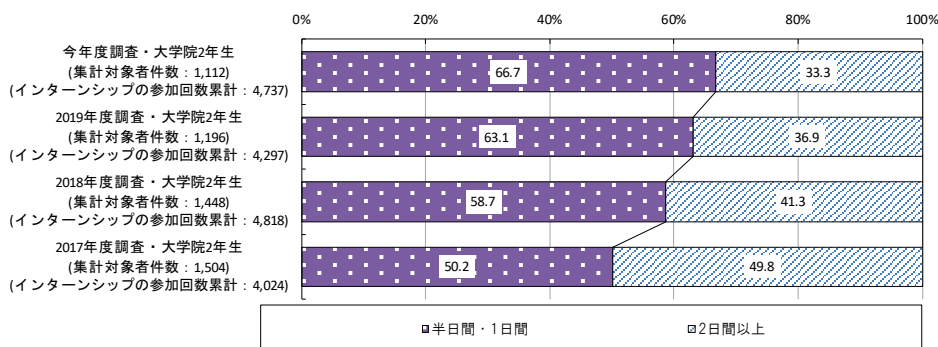


図表 3-9-7 参加したインターンシップが半日間・1日間のインターンシップであった割合 (インターンシップへの参加回数累計による集計)

(大学4年生)



(大学院2年生)

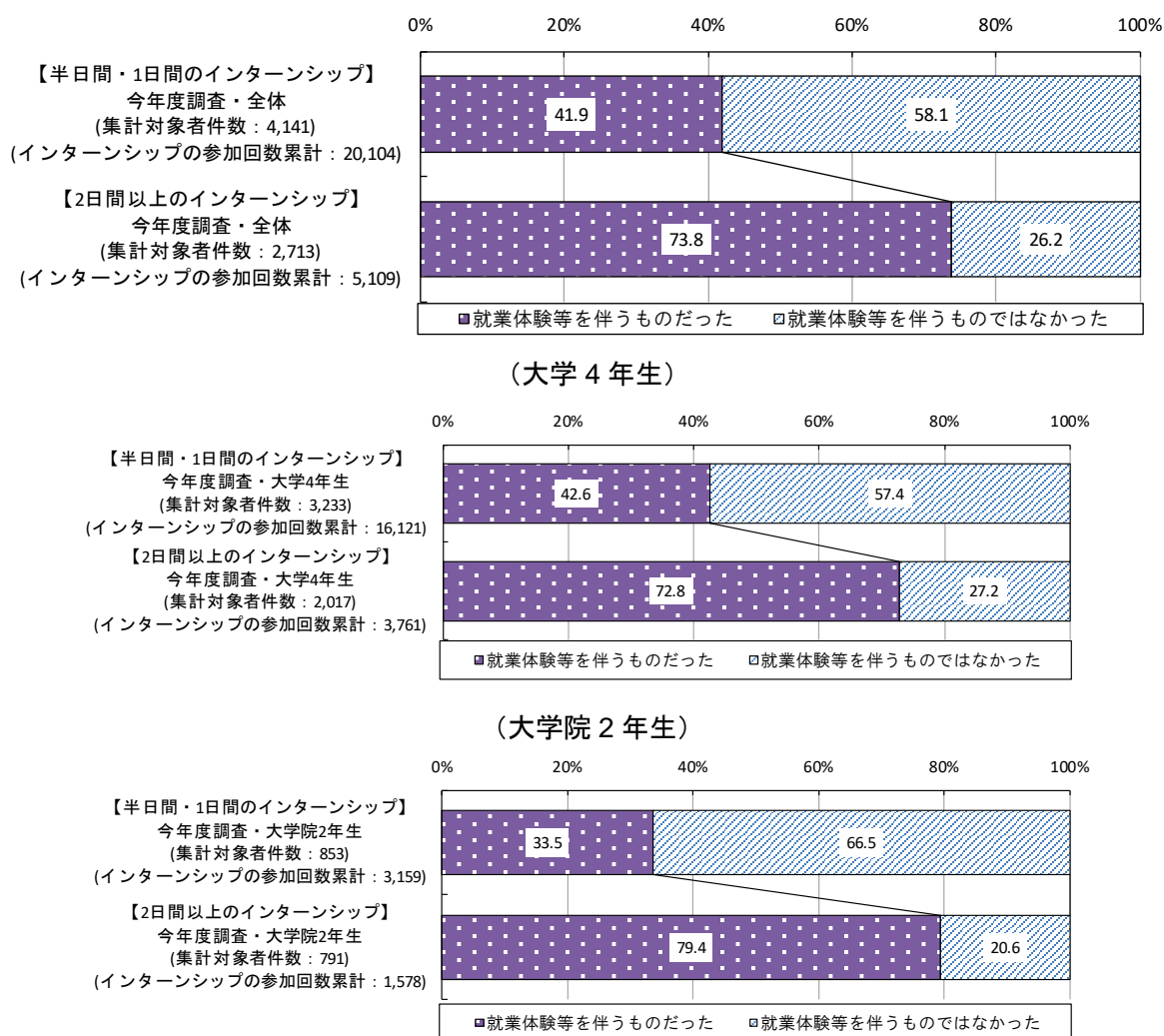


⑤参加したインターンシップの就業体験等との関係性

参加したインターンシップのなかで、就業体験等⁵⁸を伴っていたかどうかを集計すると⁵⁹、「半日間・1日間のインターンシップ」に関して、就業体験を伴うものだった割合は約4割であり、「2日間以上のインターンシップ」に関して、その割合は約7割となっている。

2019年度調査と比較すると、「半日間・1日間のインターンシップ」「2日間以上のインターンシップ」いずれについても、「就業体験等を伴うものだった」の回答割合はほぼ同様となっている。

図表 3-9-8 参加したインターンシップの就業体験等との関係性
(参加したインターンシップの参加回数累計による集計)
(大学4年生・大学院2年生)



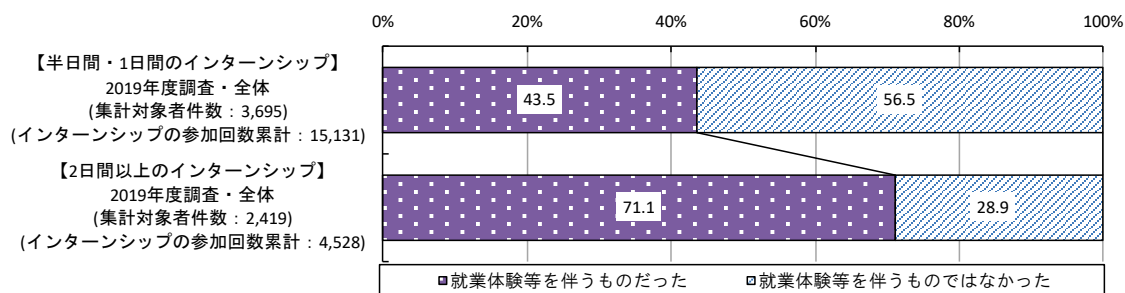
⁵⁸ 就業体験等とは、職場での業務体験や課題解決のワークショップ等を経験するもので、企業の業務内容の説明や職場見学のみのものは含まない旨、回答者に案内した上で調査を行った。

⁵⁹ 2018年度調査以前は当該設問について調査を実施していない。2017年度調査・2018年度調査については「1日間のインターンシップ」に関して、それが就業体験等を伴うものであったかを調査しているが、2019年度調査・今年度調査とは異なる方法で設問の設定を行っていることから、直接的な比較は行わなかった。

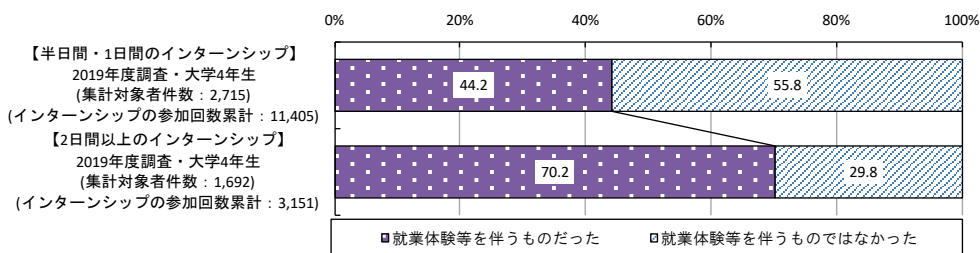
図表 3-9-9 2019 年度調査、参加したインターンシップの就業体験等との関係性

(参加したインターンシップへの参加回数累計による集計)

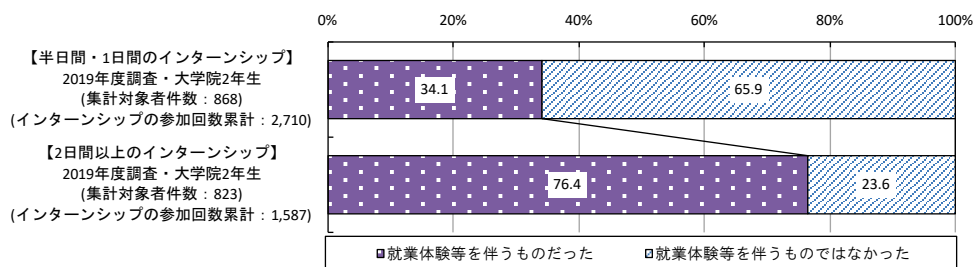
(大学 4 年生・大学院 2 年生)



(大学 4 年生)



(大学院 2 年生)

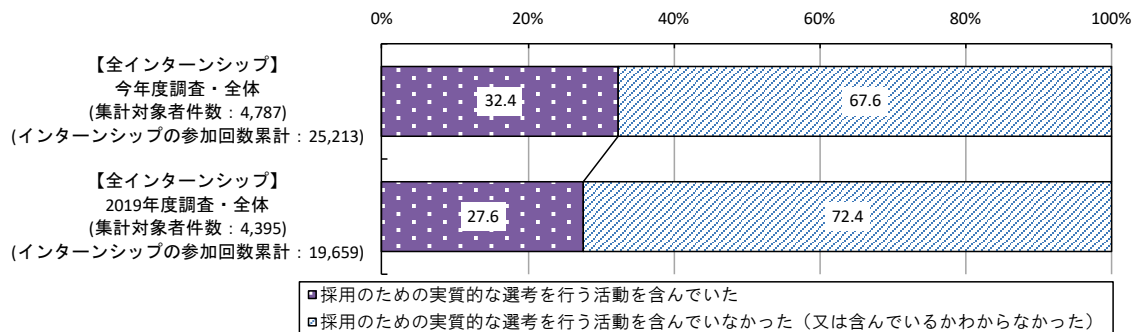


⑥インターンシップにおける実質的な選考実施の有無

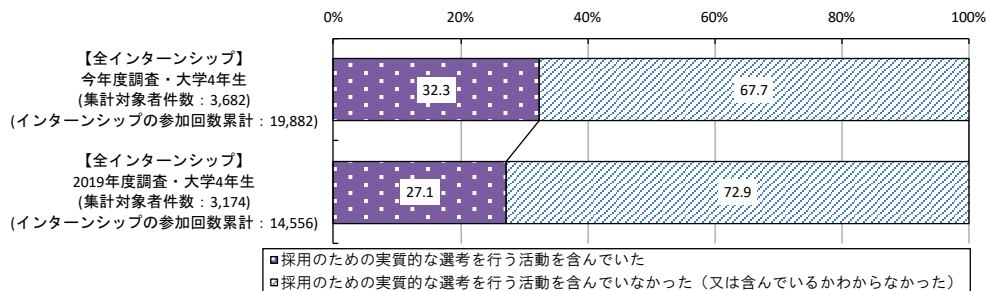
参加したインターンシップのなかで、採用のための実質的な選考を行う活動⁶⁰を含んでいたかどうかを集計すると約3割が実質的な選考を行う活動を含むものであった。

2019年度調査と比較すると、含んでいたとする回答の割合が若干高くなっている⁶¹。

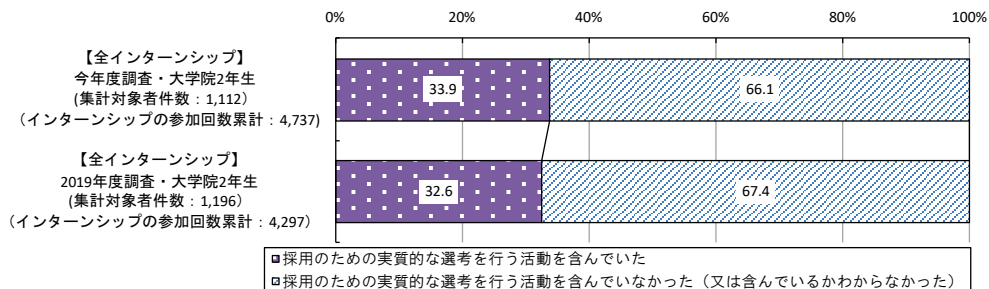
図表 3-9-10 インターンシップにおける実質的な選考実施の有無
(参加したインターンシップの回数累計による集計)
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



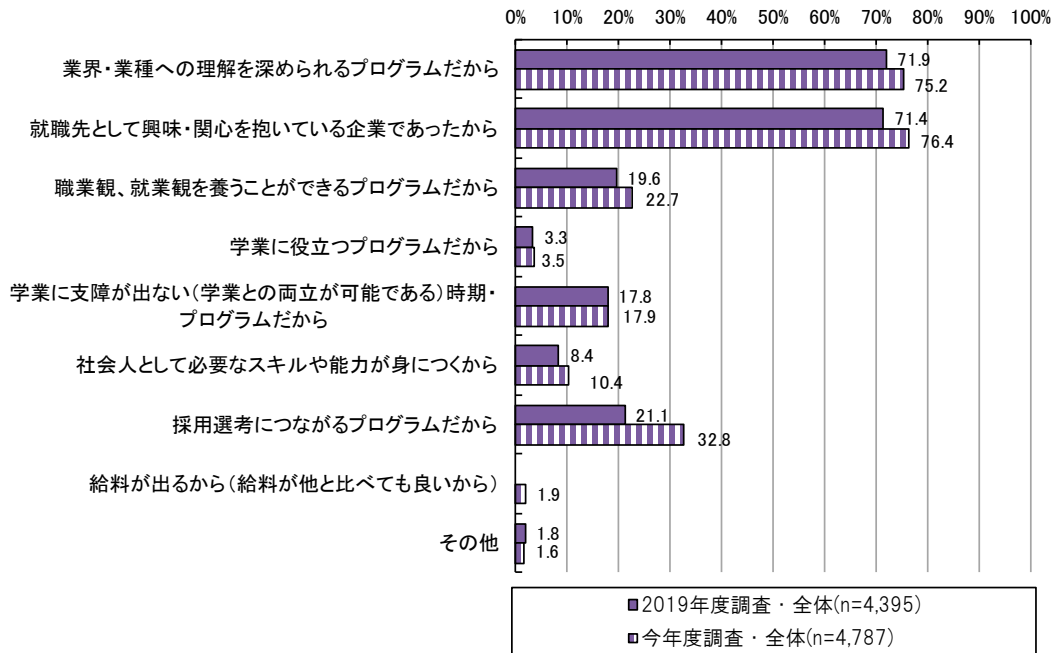
⁶⁰ 「採用のための実質的な選考を行う活動」とは、インターンシップの参加が採用面接を受けるための必須条件になっていた、インターンシップの結果が内々定の獲得に影響したりすることとして考えていただくよう、回答者に案内した上で調査を行った。また、終了後にインターンシップ参加者だけの説明会に呼ばれたという場合等も含んでいたようにした。

⁶¹ 2018年度調査以前は当該設問について調査を実施していない。

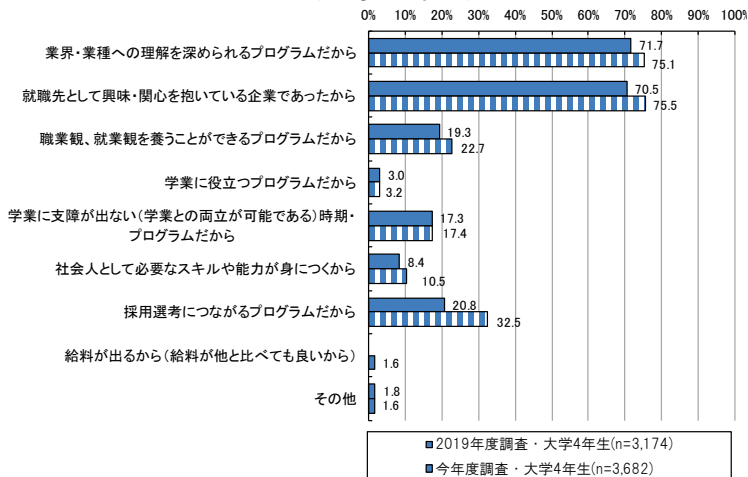
⑦インターンシップ先を選択した理由

どのような基準でインターンシップ先を選択したかについて、「業界・業種への理解を深められるプログラムだから」「就職先として興味・関心を抱いている企業であったから」の回答割合がそれぞれ約8割となっており、2019年度調査と比較して高くなっている⁶²。なお、「採用選考につながるプログラムだから」の回答割合も約3割と比較的高く、2019年度調査と比較して高くなっている。

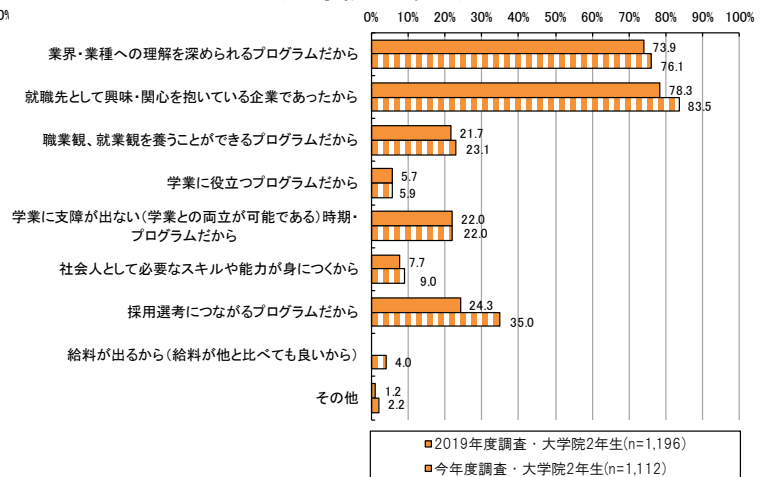
図表 3-9-11 インターンシップ先を選択した理由（複数回答）
（大学4年生・大学院2年生）



(大学4年生)



(大学院2年生)



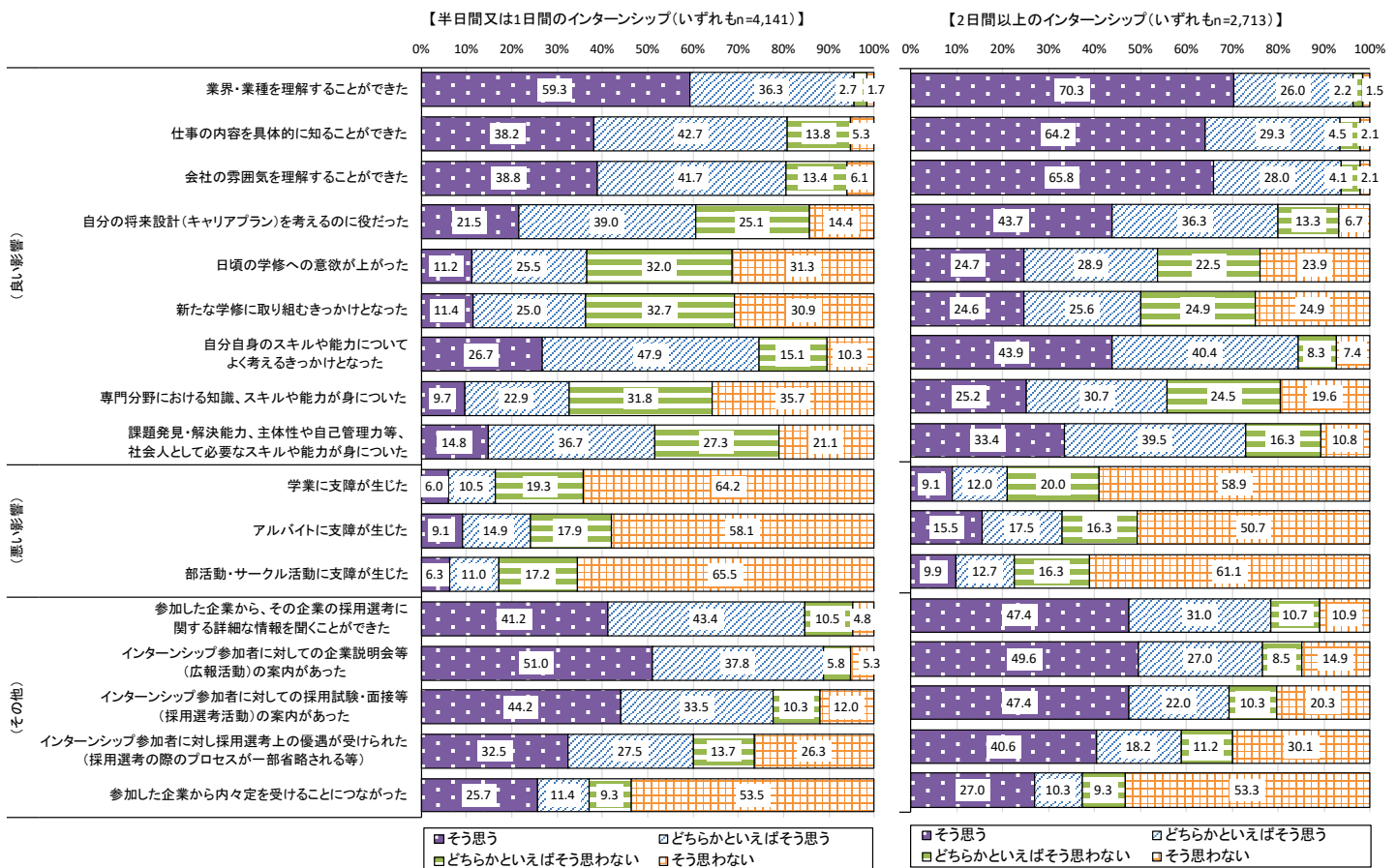
⁶² 2018年度調査以前は当該設問について調査を実施していない。また、「給料が出るから(給料が他と比べても良いから)」の調査項目は今年度調査で新たに設けた項目である。

⑧インターンシップの効果についての認識

インターンシップに参加してどのような効果があったと感じたか⁶³について、参加したインターンシップの日数別に集計すると⁶⁴、「半日又は1日間のインターンシップ」「2日間以上のインターンシップ」ともに、「業界・業種を理解することができた」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合が9割以上と高くなっている。このほか、「仕事の内容を具体的に知ることができた」など、「良い影響」と考えられる点について、「半日間又は1日間のインターンシップ」に比べ「2日間以上のインターンシップ」の方が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答割合が高くなっている。

2019年度調査と比較すると、「半日又は1日間のインターンシップ」「2日間以上のインターンシップ」ともに、「参加した企業から、その企業の採用選考に関する詳細な情報を聞くことができた」などの「その他」の影響について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合が高くなっている。

図表 3-9-12 インターンシップに参加して感じた効果
(大学4年生・大学院2年生)



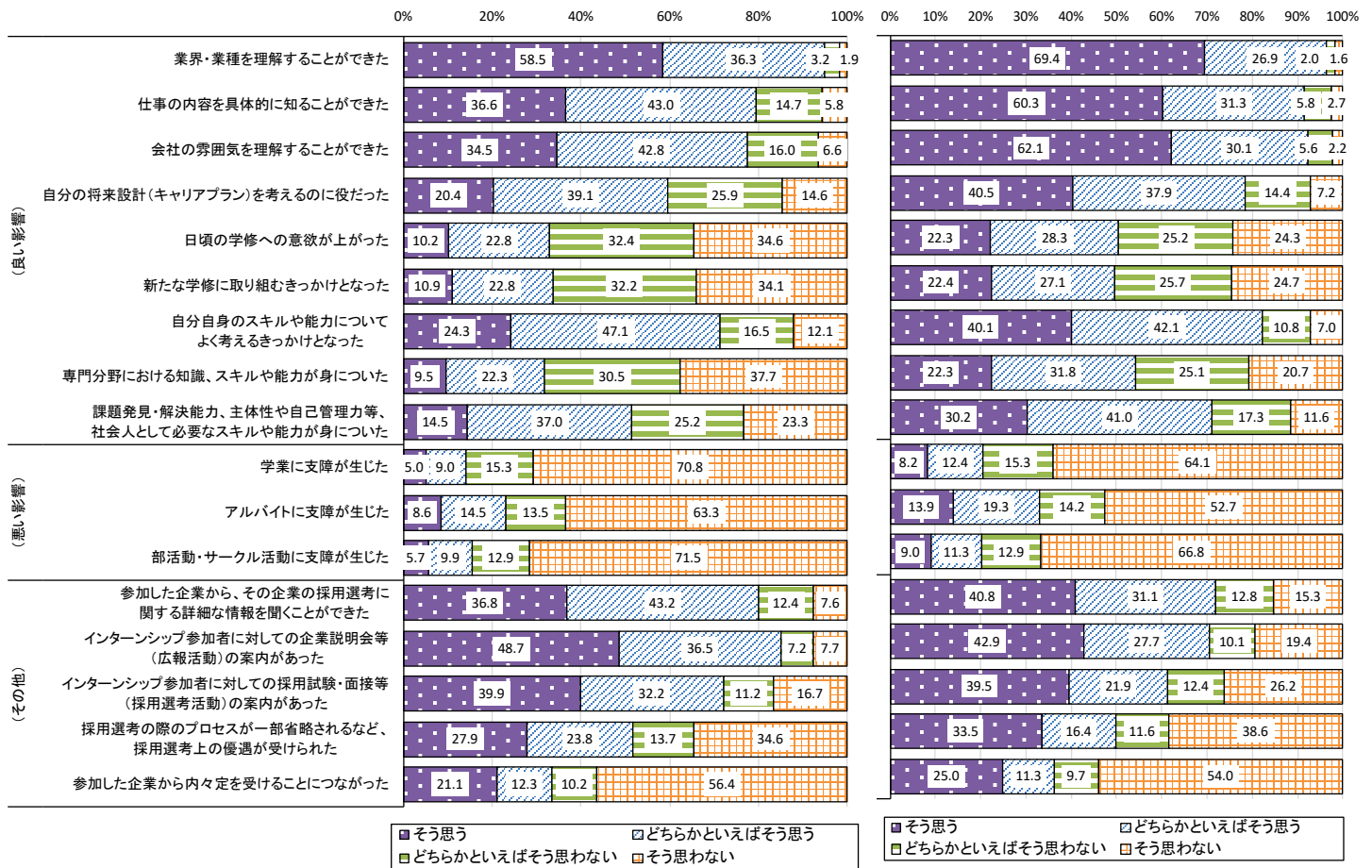
⁶³ 2015年度調査～2017年度調査では当該設問について調査を実施していない。2018年度調査では同内容の設問を設定しているが、マルチアンサー形式での項目としていることから、今年度調査との比較は行っていない。

⁶⁴ 「半日間又は1日間のインターンシップ」についての集計対象者は、「インターンシップに1回のみ、半日間又は1日間参加した」、「インターンシップに複数回参加していずれも半日間又は1日間であった」、「インターンシップに複数回参加して半日間又は1日間のインターンシップに参加したことがある」のいずれかに該当する者である。「2日間以上のインターンシップ」についての集計対象者は、「インターンシップに1回のみ、2日間以上参加した」、「インターンシップに複数回参加していずれも2日間以上であった」、「インターンシップに複数回参加して2日間以上のインターンシップに参加したことがある」のいずれかに該当する者である。インターンシップに複数回参加して半日間又は1日間のものと2日間以上のもののいずれにも参加したことがある場合は、参加したことがあるインターンシップについて「半日間又は1日間であったもの」と「2日間以上であったもの」のそれぞれについて回答いただくように設問を設定した。

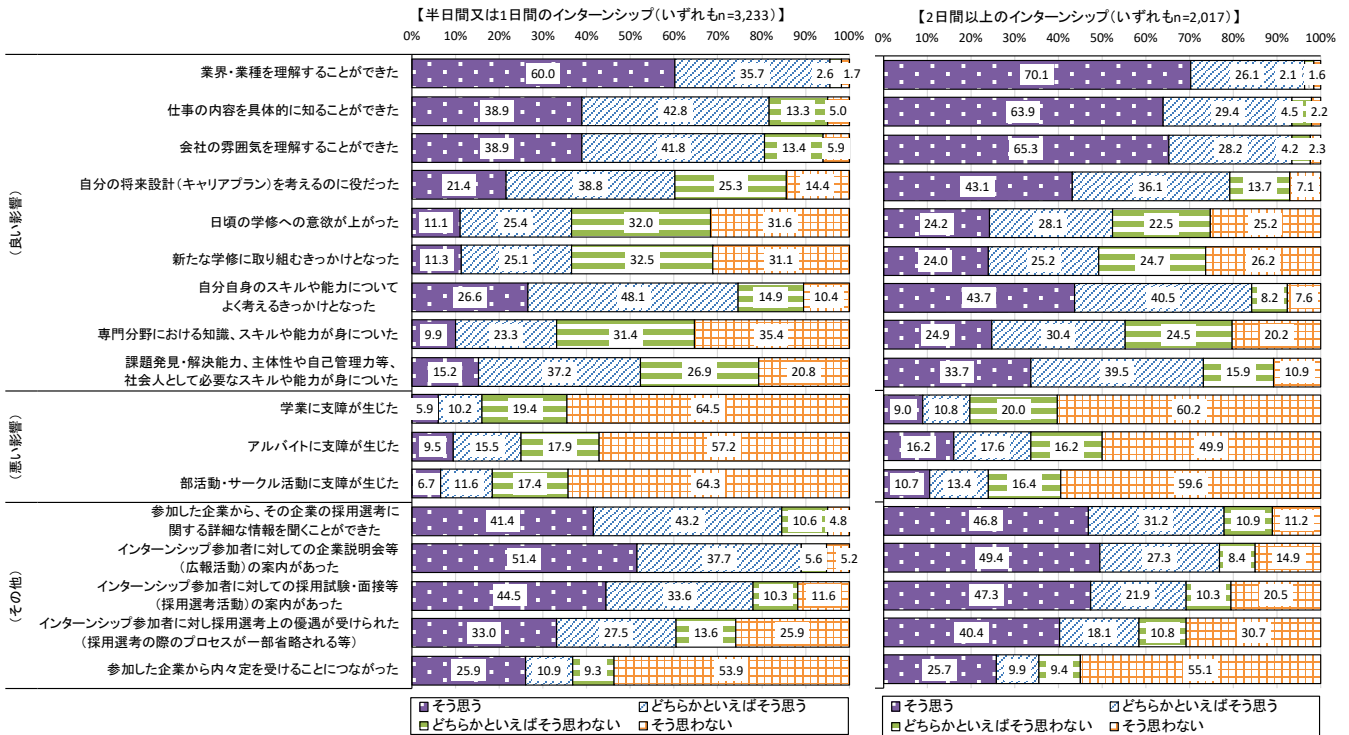
図表 3-9-13 2019 年度調査、インターンシップに参加して感じた効果
(大学4年生・大学院2年生)

【半日間又は1日間のインターンシップ(いずれもn=3,695)】

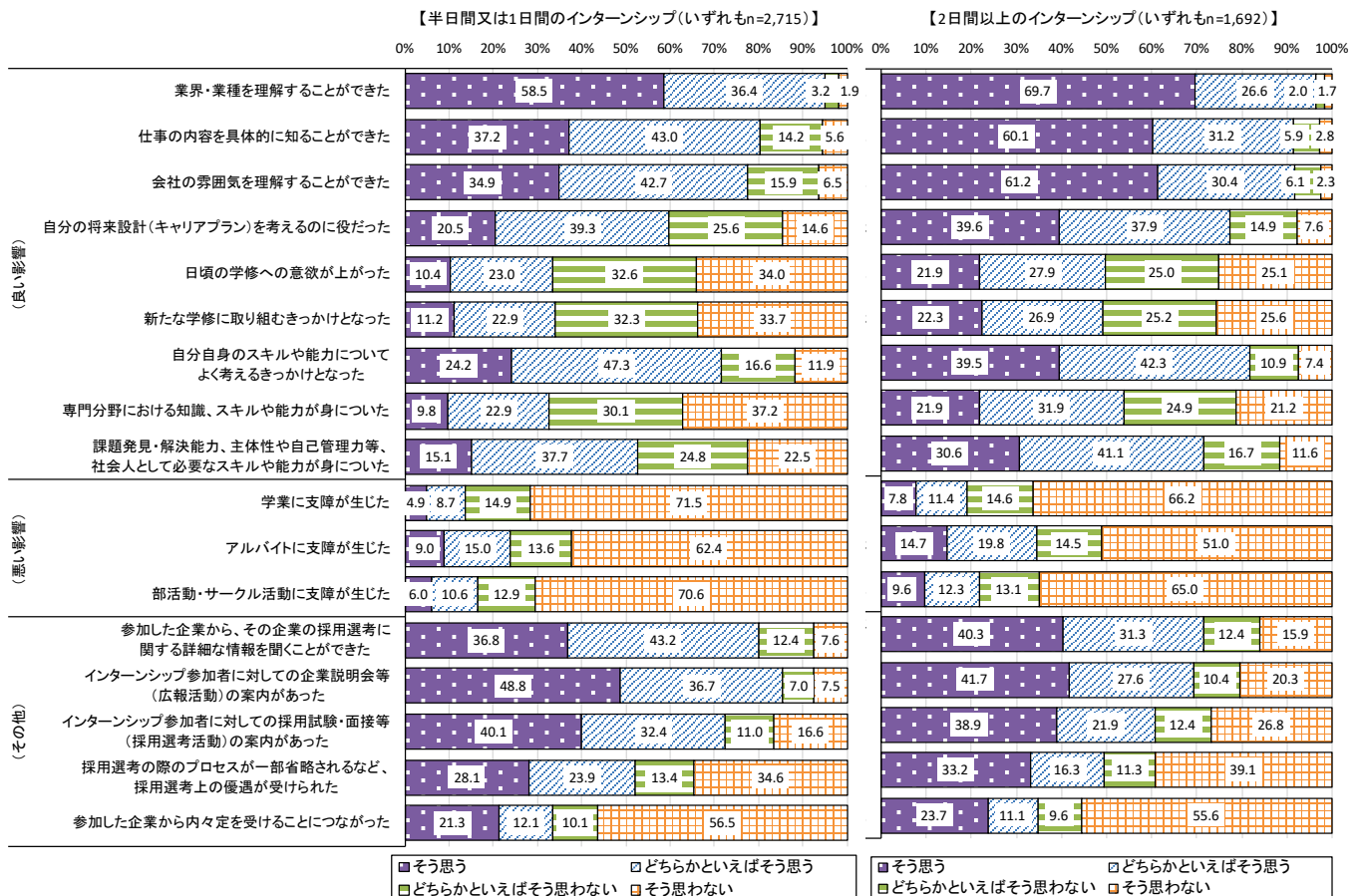
【2日間以上のインターンシップ(いずれもn=2,419)】



図表 3-9-14 インターンシップに参加して感じた効果
(大学4年生)

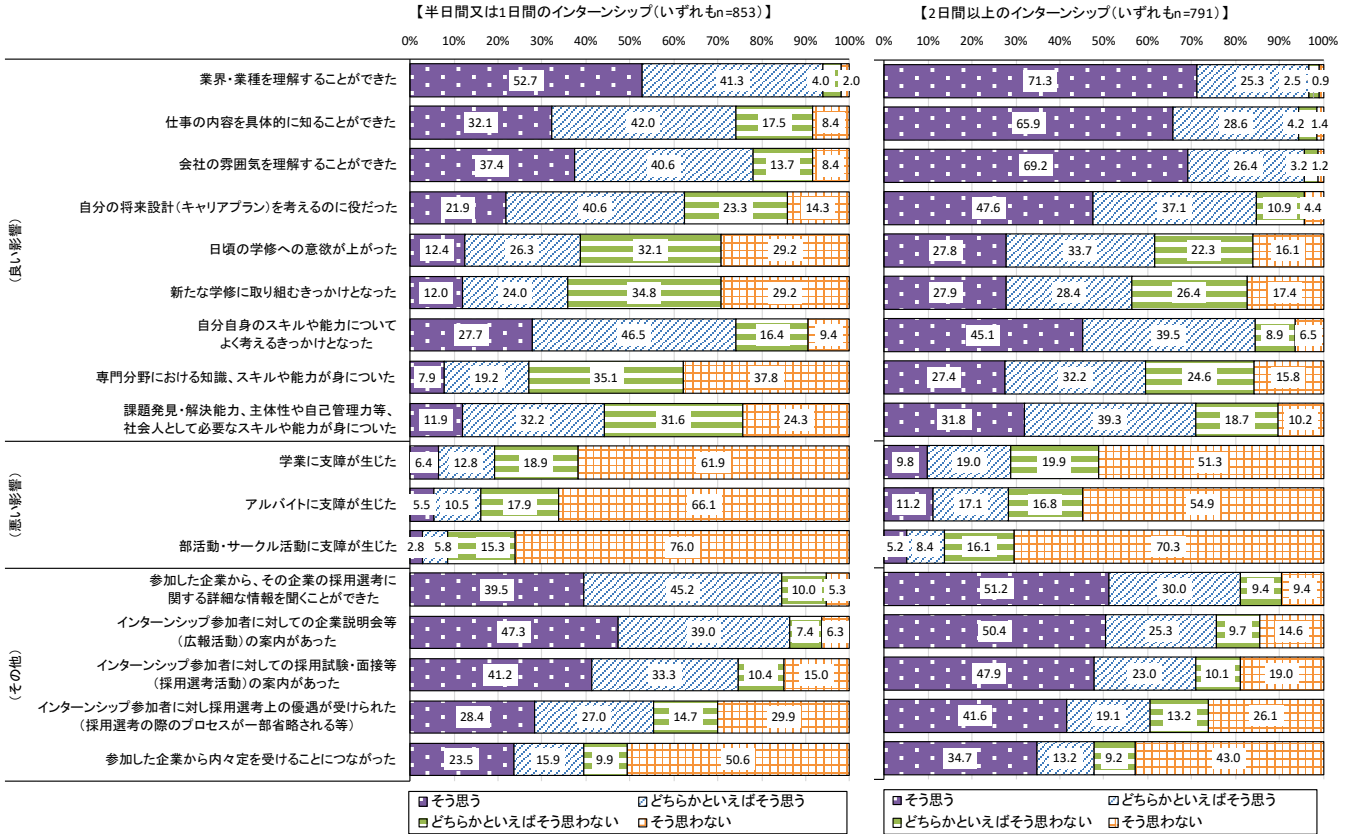


図表 3-9-15 2019年度、インターンシップに参加して感じた効果
(大学4年生)



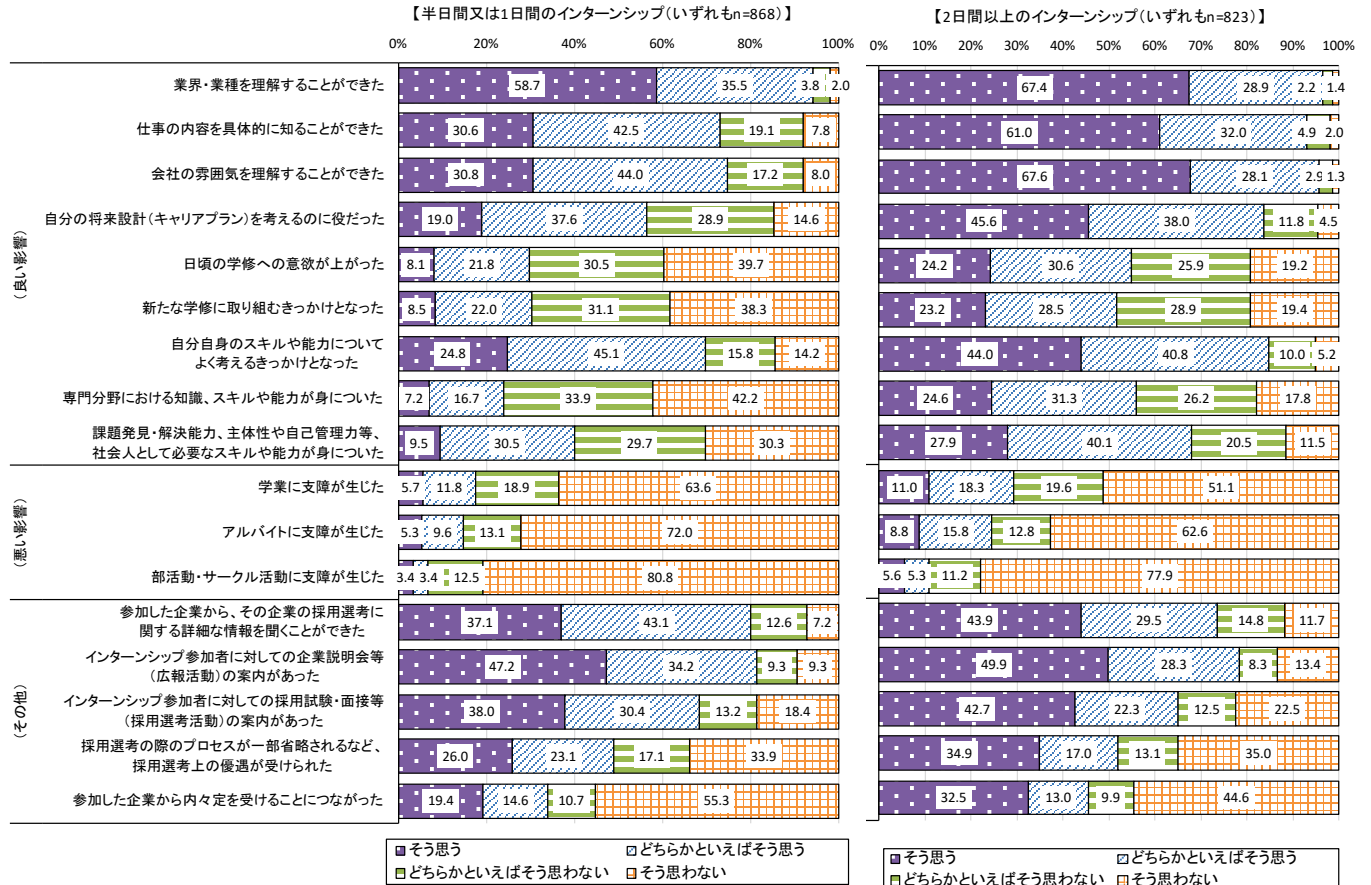
図表 3-9-16 インターンシップに参加して感じた効果

(大学院2年生)



図表 3-9-17 2019年度調査、インターンシップに参加して感じた効果

(大学院2年生)

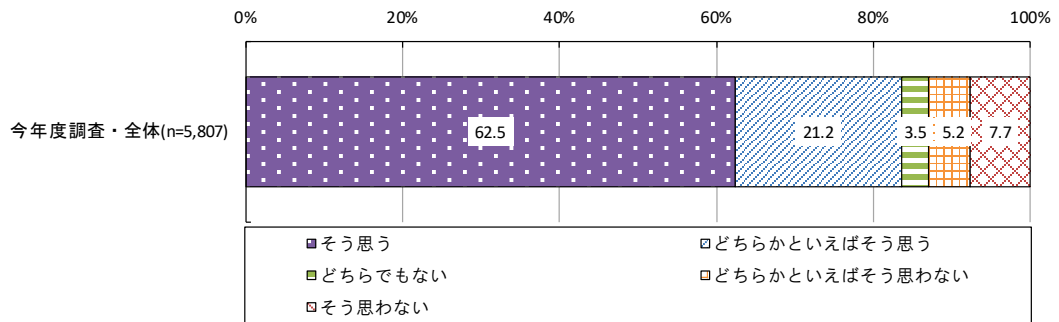


(10) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響

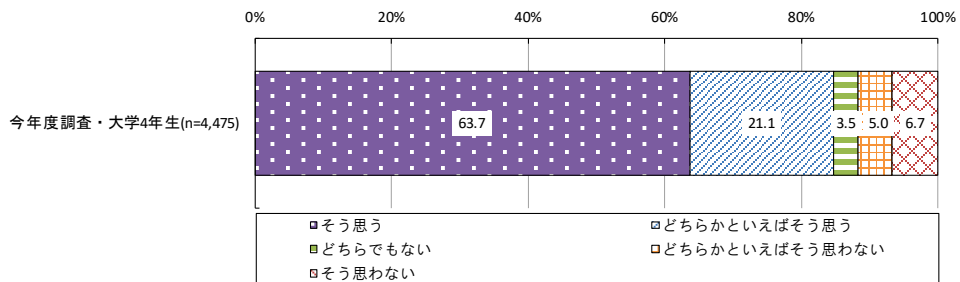
① 就職活動全般に対する新型コロナウイルス感染症の影響

就職活動全般について、新型コロナウイルス感染症によって影響を受けたと思うかについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合は約8割となっている。

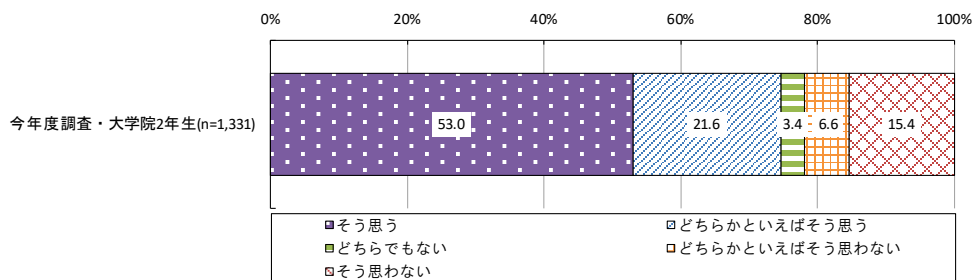
図表 3-10-1 就職活動全般に対する新型コロナウイルス感染症の影響
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



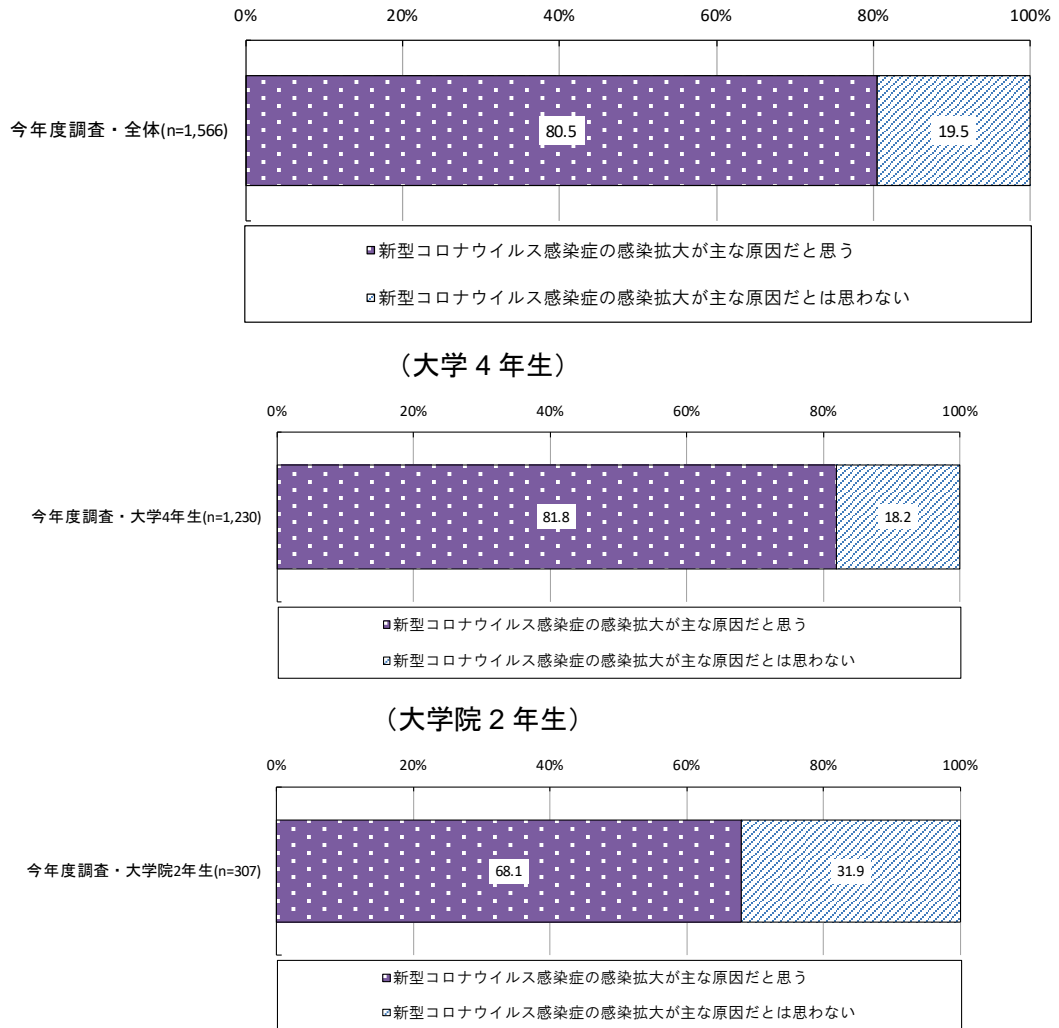
(大学院2年生)



②学生が就職活動の予定をたてる際の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響

どの時期にどのような就職活動をするか予定をたてるのが難しかったことについて、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大が主な原因だと思う」と回答した割合は、約8割となっている⁶⁵。

図表 3-10-2 就職活動の予定をたてるのが難しかった原因
(大学4年生・大学院2年生)



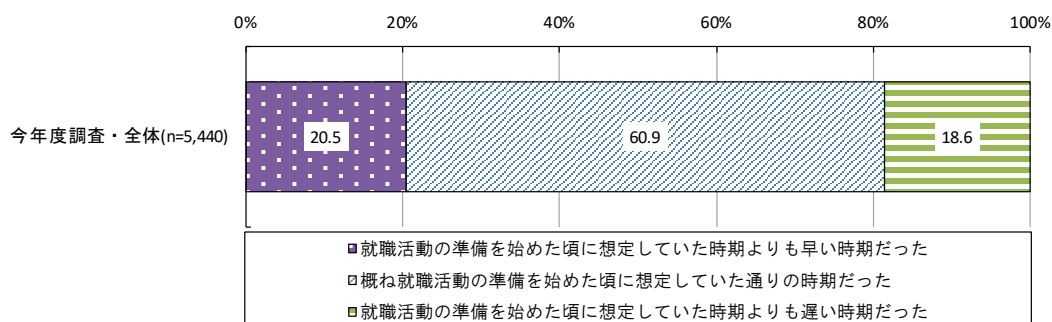
⁶⁵ 就職・採用活動時期に関し、昨年度と同様の時期に設定されたことについて、「どの時期にどのような就職活動をするか予定をたてやすく準備・行動ができた」に、「どちらかといえばそう思わない」、または「そう思わない」と回答した者のみを集計対象とした。

③企業説明会やセミナー等への参加時期についての就職活動初期の想定とのずれの状況

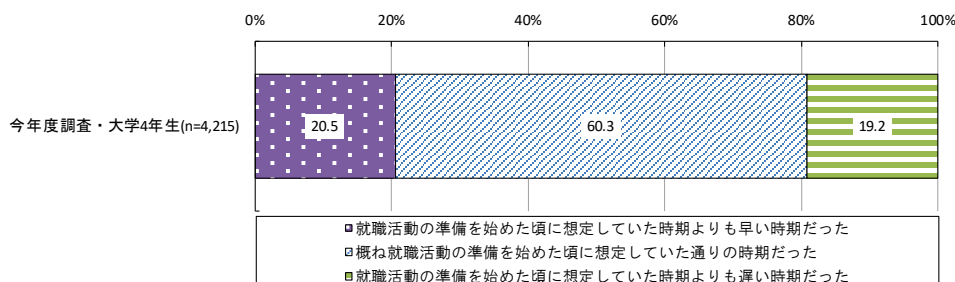
企業説明会やセミナー等への参加時期が就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期だったかについて、「概ね就職活動の準備を始めた頃に想定していた通りの時期だった」との回答が約 6 割となっている⁶⁶。なお、「就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期よりも遅い時期だった」との回答は約 2 割となっている。

「就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期よりも遅い時期だった」と回答した者にその原因について尋ねたところ、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大が主な原因だと思う」との回答が約 7 割となっている。

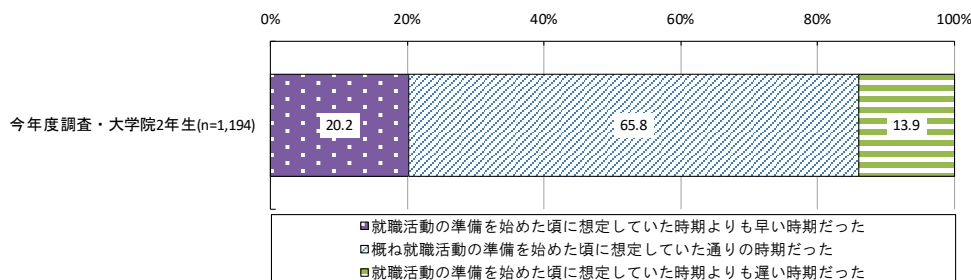
図表 3-10-3 企業説明会やセミナー等への参加時期についての就職活動初期の想定とのずれの状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)

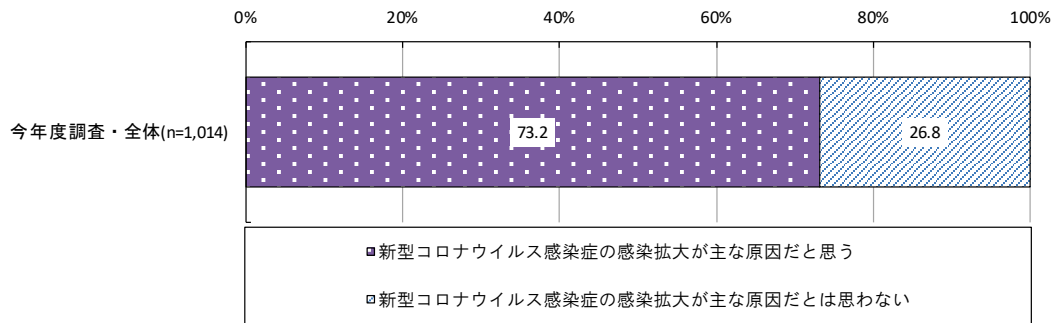


(大学院2年生)

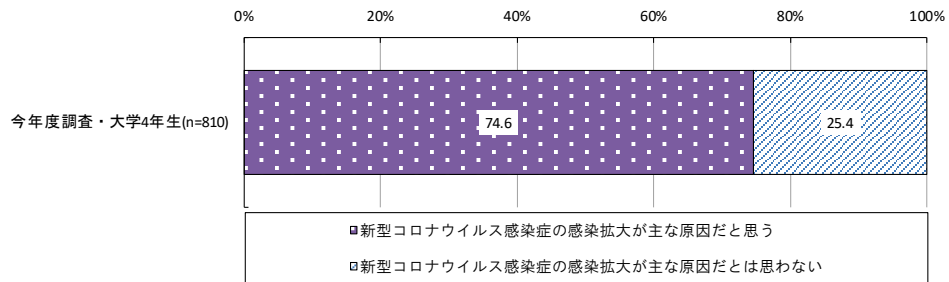


⁶⁶ 企業説明会やセミナー等に「特段参加しなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。

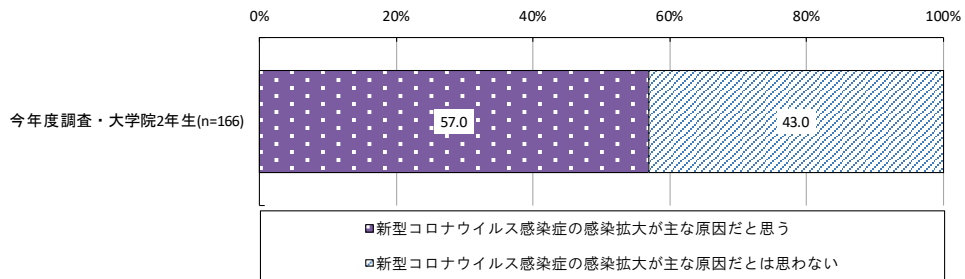
図表 3-10-4 企業説明会やセミナー等への参加が就職活動初期の想定より遅い時期であった原因
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)

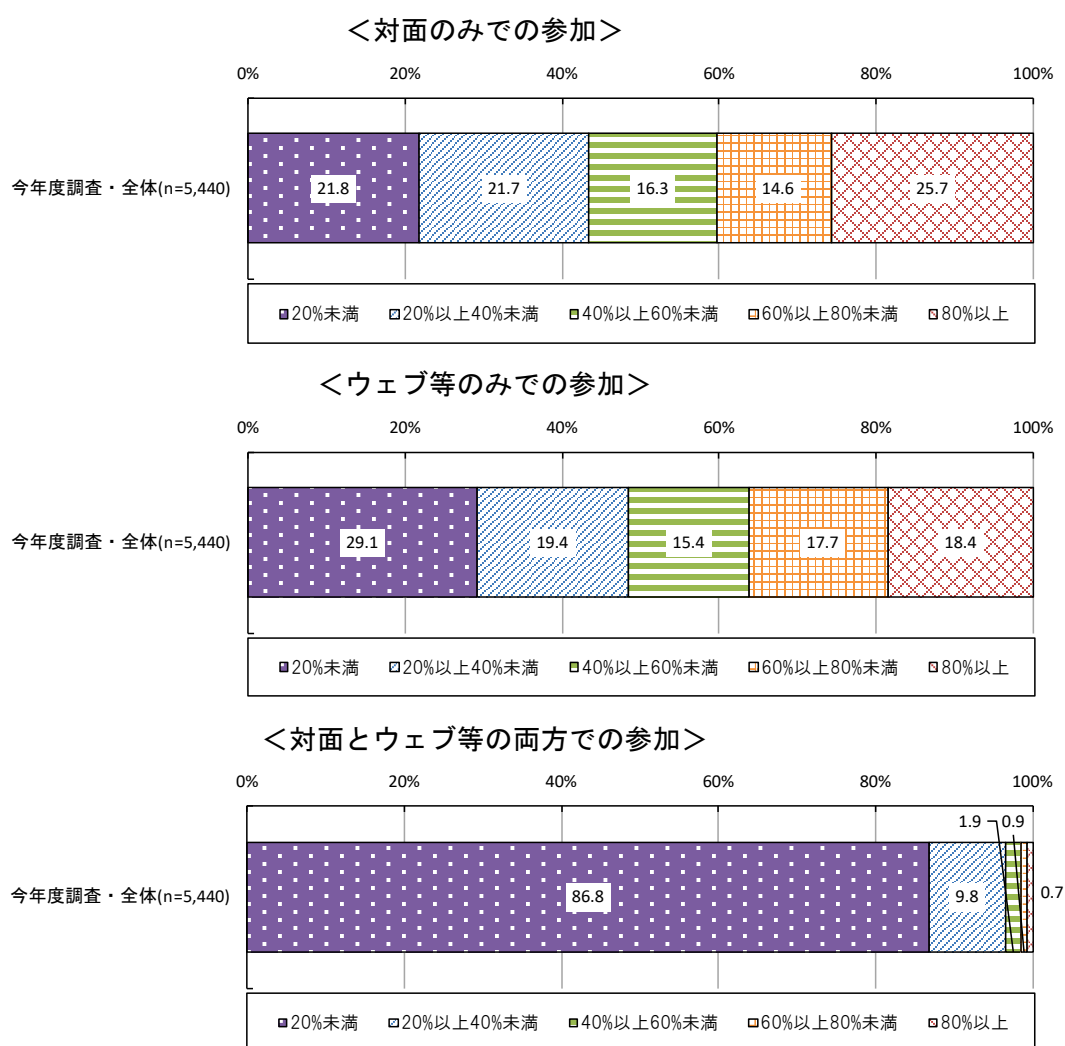


④企業説明会やセミナー等への参加数に対する方法別参加数の割合

企業説明会やセミナー等に参加した企業数の合計に対して、「対面のみでの参加」「ウェブ等のみでの参加」「対面とウェブ等の両方での参加」であった企業数の割合を集計した。参加方法別に回答をみると、集計対象者の約3割が、参加した企業説明会やセミナー等のうち「対面のみでの参加」が「80%以上」となっていた。また、集計対象者の約3割が「ウェブ等のみでの参加」が「20%未満」であり、約9割が「対面とウェブ等の両方での参加」が「20%未満」であったと回答している⁶⁷。

また、企業説明会やセミナー等について参加した方法別のすべての企業数を累計⁶⁸し、参加方法別の件数が占める割合を集計したところ、「ウェブ等のみでの参加」が約5割と最も多く、次いで「対面のみでの実施」が多くなっている。

図表 3-10-5 企業説明会やセミナー等への参加方法の状況
(大学4年生・大学院2年生)

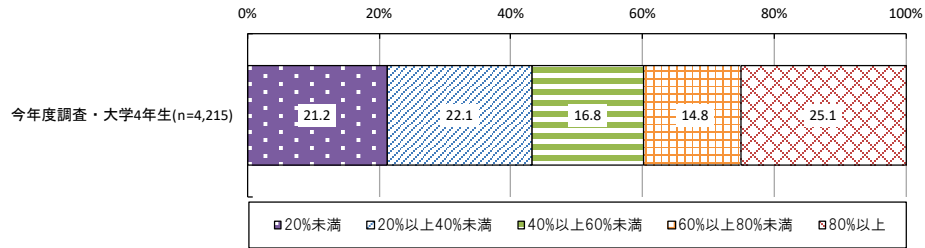


⁶⁷ 企業説明会やセミナー等について、「対面のみでの参加」「ウェブ等のみでの参加」「対面とウェブ等の両方での参加」であったと回答した企業数それぞれを、「参加した合計の企業数」で除した割合について集計している。

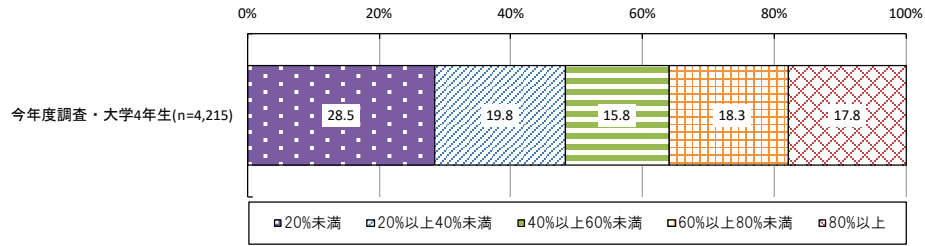
⁶⁸ 今年度調査においては、合計で何社の企業説明会やセミナー等に参加したかを尋ねる設問と、対面での参加、ウェブ等での参加の方法別に尋ねる設問を設けているが、前者の「参加した合計の企業数」と後者の「方法別で尋ねた企業数」の合計は必ずしも一致せずとも回答が可能ないように設定したことから、前者ではなく後者の合計を用いて累計の値とした。

(大学4年生)

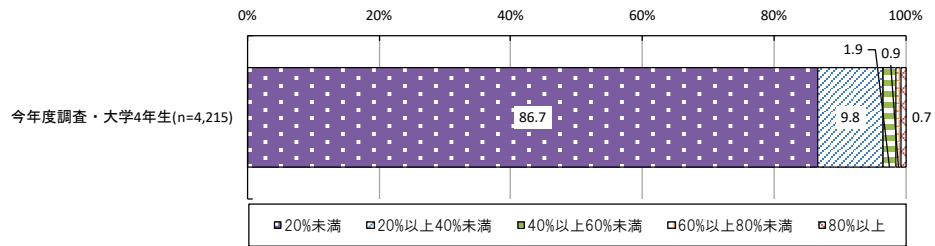
<対面のみでの参加>



<ウェブ等のみでの参加>

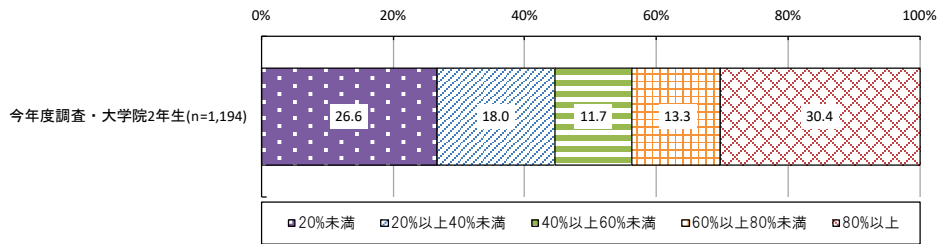


<対面とウェブ等の両方での参加>

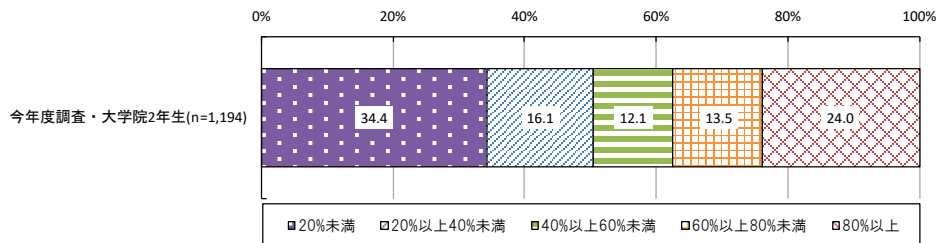


(大学院2年生)

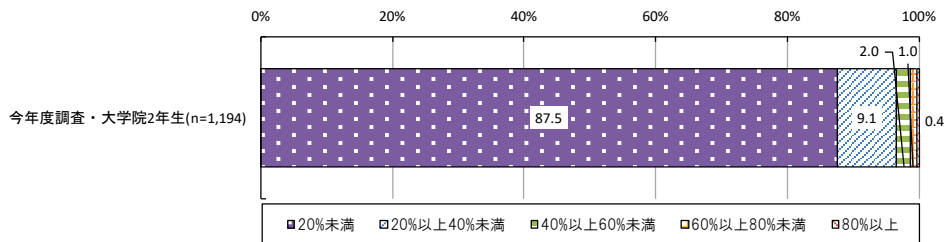
<対面のみでの参加>



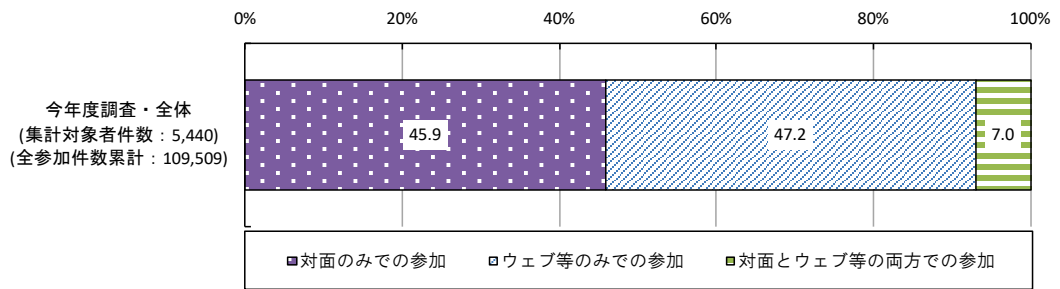
<ウェブ等のみでの参加>



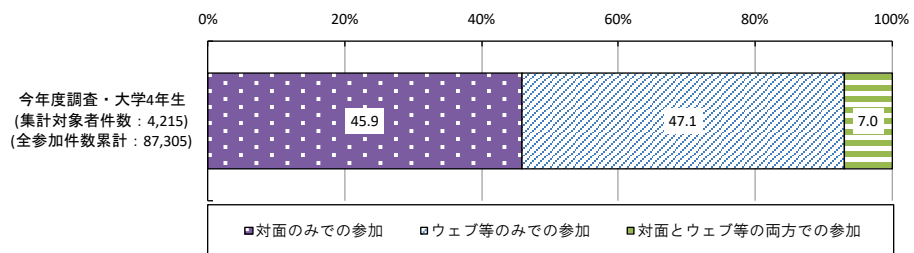
<対面とウェブ等の両方での参加>



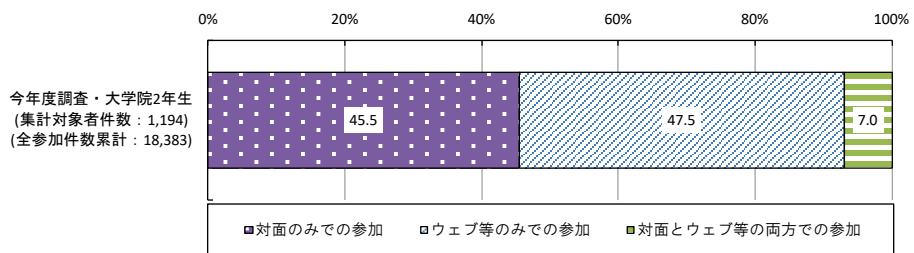
図表 3-10-6 参加した企業説明会やセミナー等の参加方法との関係
 (参加した企業説明会やセミナー等の企業数累計による集計)
 (大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)

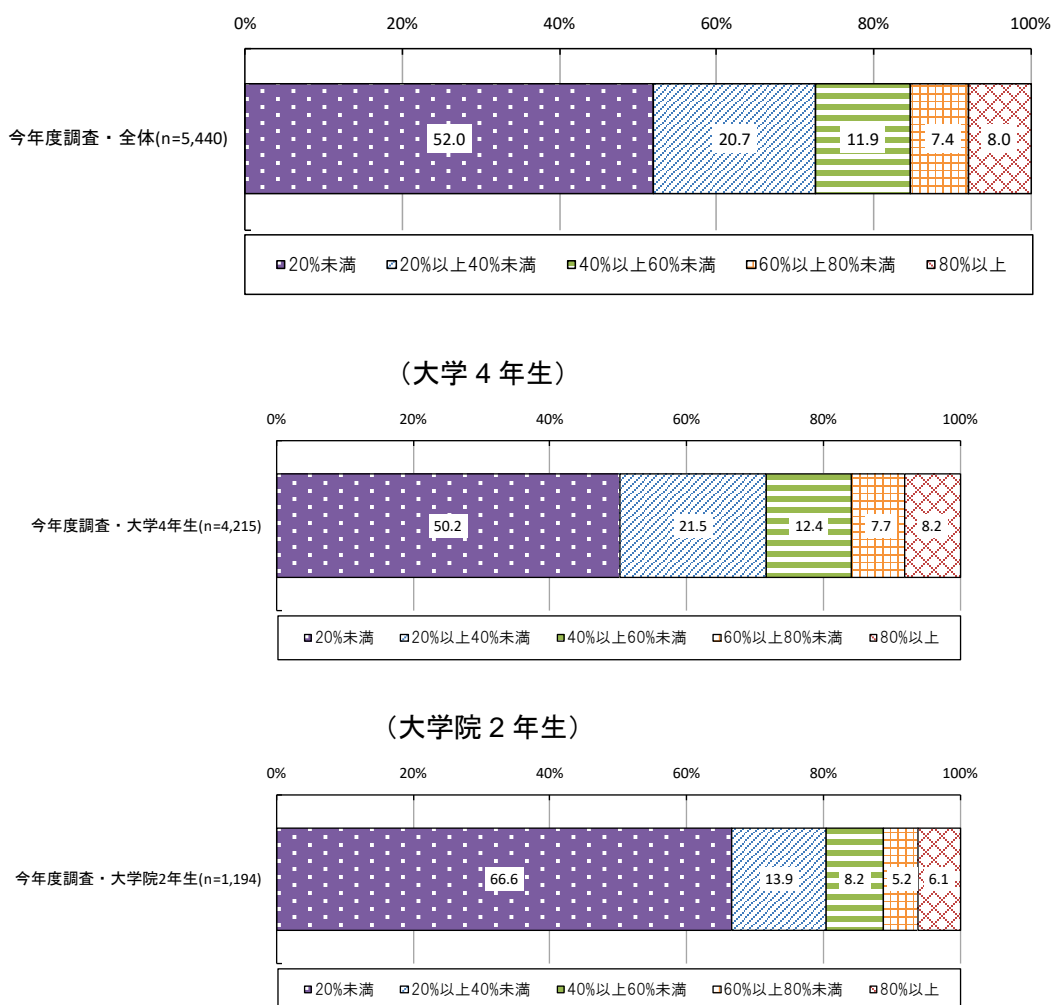


⑤新型コロナウイルス感染症による企業説明会やセミナー等の後ろ倒し・中止の状況

参加をした企業説明会やセミナー等に対する、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、当初の予定より開催時期が後ろ倒しに変更されたものの割合について集計したところ、集計対象の約2割が、企業説明会やセミナー等に参加した企業の60%以上が後ろ倒しに変更されたと回答している⁶⁹。

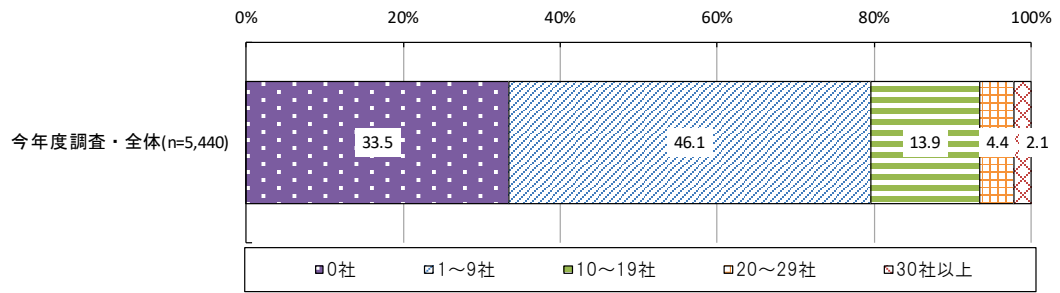
また参加を予定していた企業説明会やセミナー等で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、開催が中止になったものについて、「1～9社」であった者が約5割となっており、1社以上開催が中止になったと回答した者をみると約7割となっている。

図表 3-10-7 企業説明会やセミナー等の開催時期が後ろ倒しに変更された企業数の割合
(大学4年生・大学院2年生)

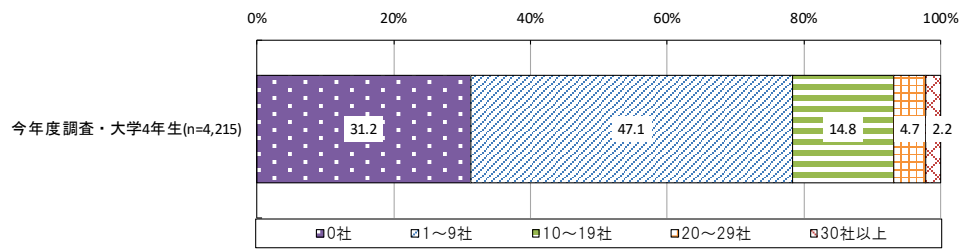


⁶⁹ 企業説明会やセミナー等について、「開催時期が後ろ倒しに変更された企業説明会やセミナー等」の企業数を、参加した企業数の合計で除した割合について集計している。

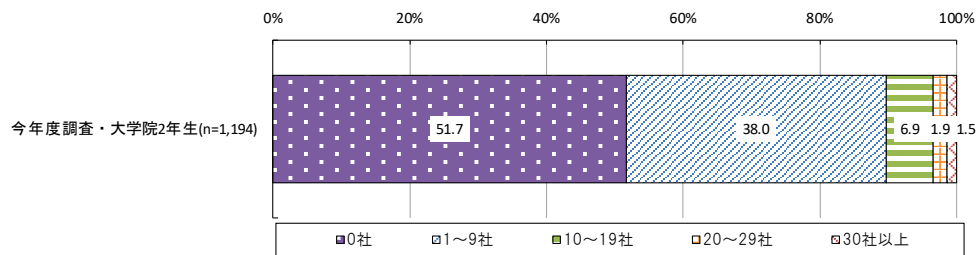
図表 3-10-8 参加を予定していたが開催が中止になった企業説明会やセミナー等の企業数
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



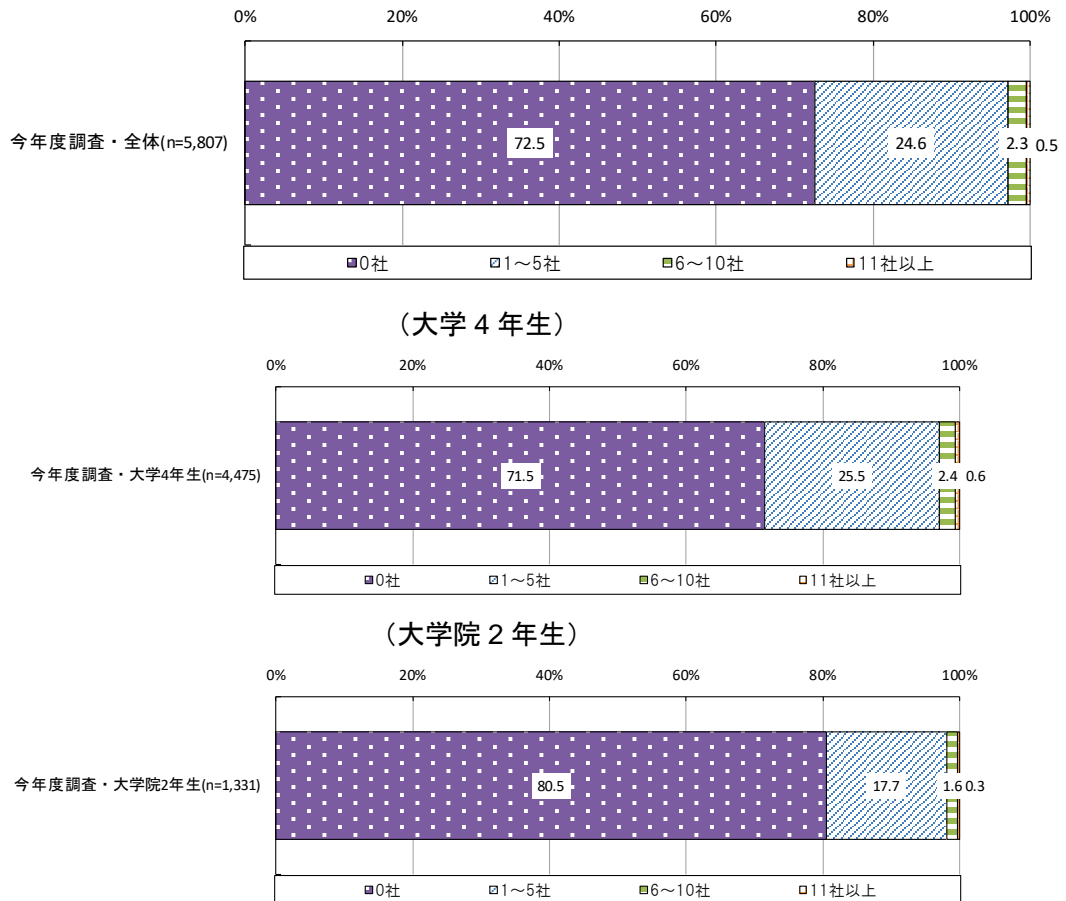
(大学院2年生)



⑥対面で実施された企業説明会やセミナー等における参加動向

参加を予定していた企業説明会やセミナー等で、対面で実施されることを理由として、自ら参加を取りやめたものについて、1社以上と回答した者が約3割となっている。

図表 3-10-9 対面で実施されることが理由で参加を取りやめた企業説明会やセミナー等の企業数
(大学4年生・大学院2年生)

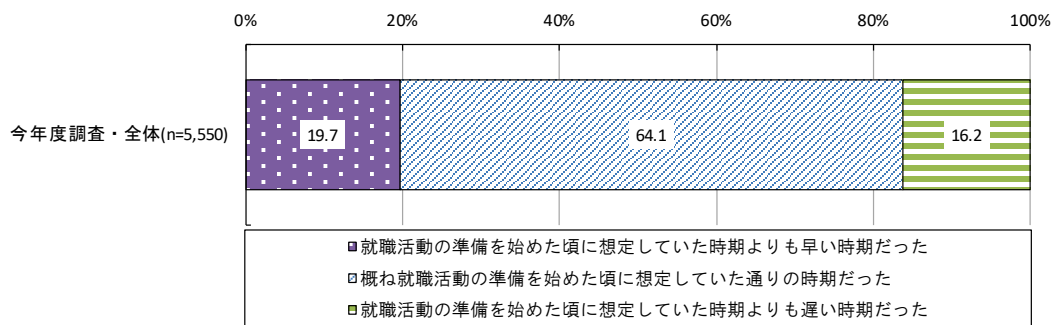


⑦ エントリーシートの提出時期についての就職活動初期の想定とのずれの状況

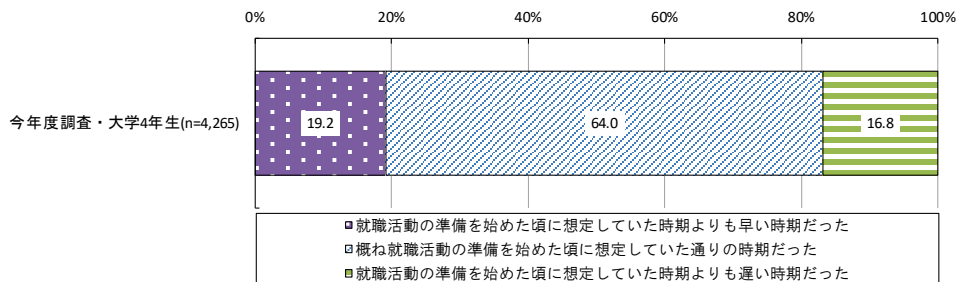
エントリーシートの提出時期が就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期だったかについて、「概ね就職活動の準備を始めた頃に想定していた通りの時期だった」との回答は約 6 割となっている⁷⁰。なお、「就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期よりも遅い時期だった」との回答は約 2 割となっている。

「就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期よりも遅い時期だった」と回答した者にその原因を尋ねたところ、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大が主な原因だと思ふ」との回答が約 7 割となっている。

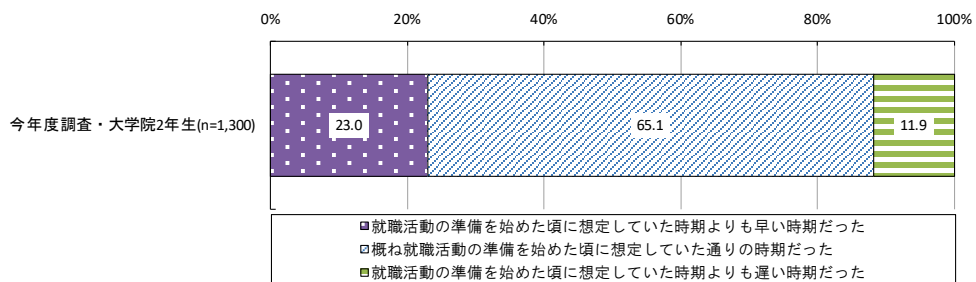
図表 3-10-10 エントリーシートの提出時期についての就職活動初期の想定とのずれの状況
(大学 4 年生・大学院 2 年生)



(大学 4 年生)

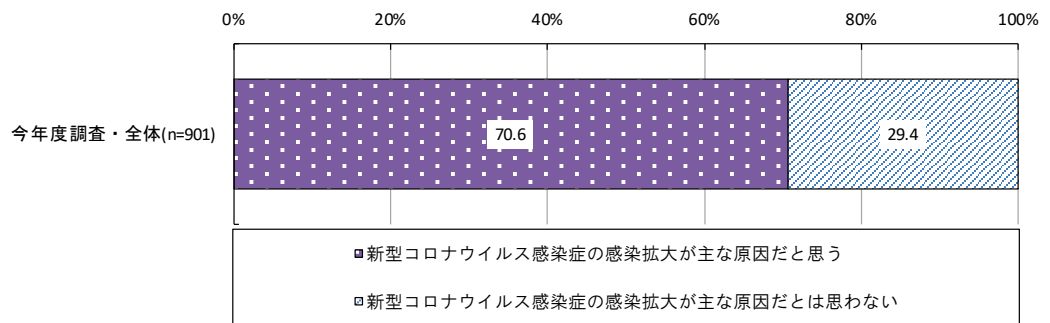


(大学院 2 年生)

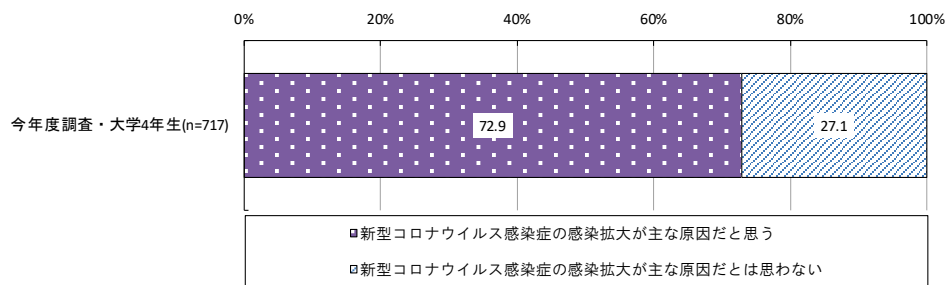


⁷⁰ エントリーシートの提出を「特段行わなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。

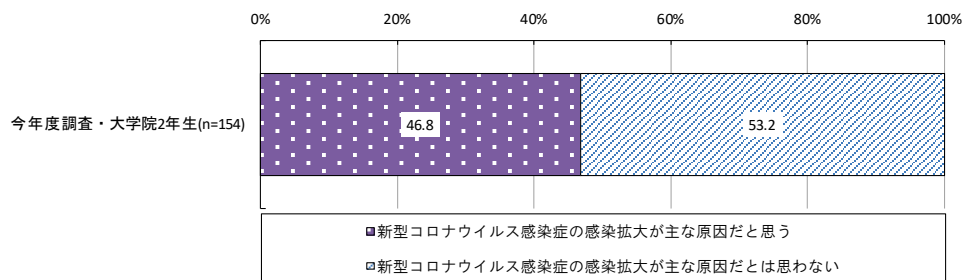
図表 3-10-11 エントリーシートの提出時期が就職活動初期の想定より遅い時期であった原因
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)

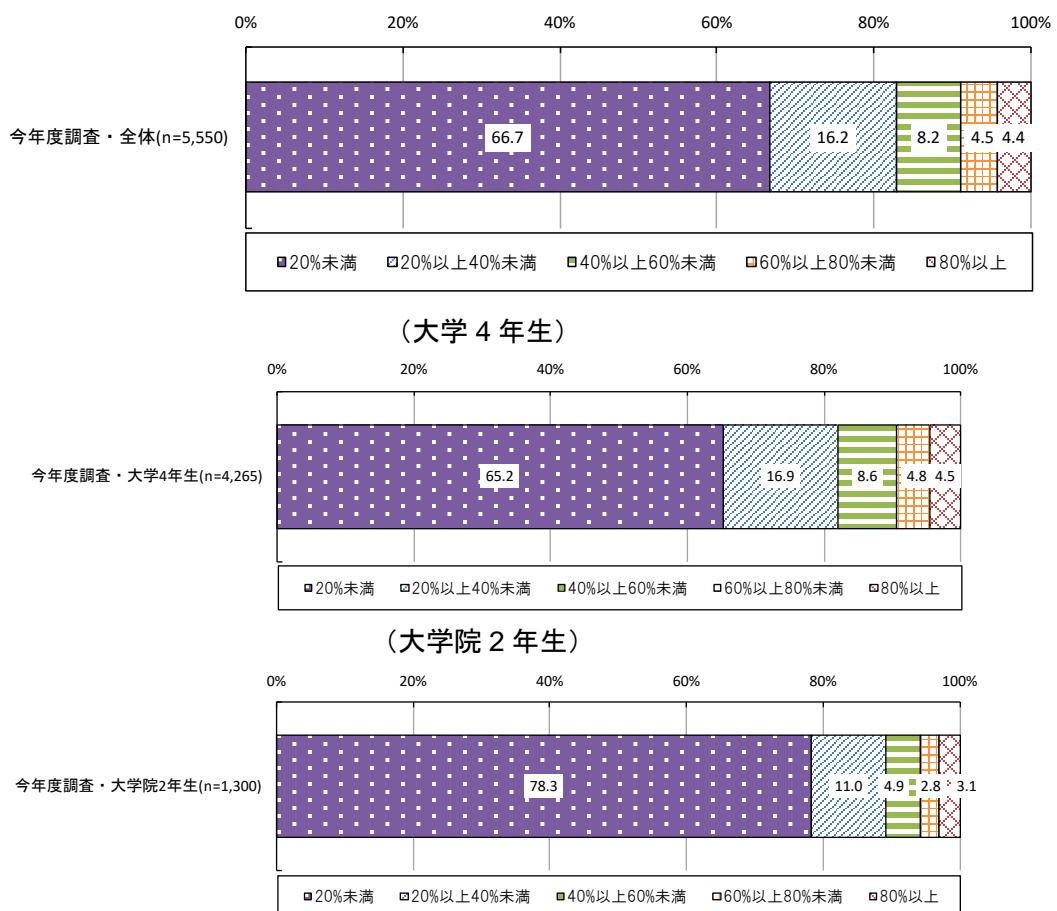


⑧新型コロナウイルス感染症によるエントリーシート提出受付の後ろ倒し・延長・中止の状況

エントリーシートを提出した企業数に対する、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、当初の予定よりエントリーシートの受付開始時期が後ろ倒しに変更された企業数・提出期限が延長された企業数の割合について集計したところ、集計対象の約1割が、エントリーシートを提出した企業の60%以上で受付開始時期が後ろ倒しになったと回答している⁷¹。エントリーシートの提出期限が延長された企業数の割合については、集計対象の約1割が、提出した企業の60%以上で延長されたと回答している⁷²。

また、エントリーシートの提出を予定していた企業で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、エントリーの受付が中止になったものについては、1社以上であった者が約2割となっている。

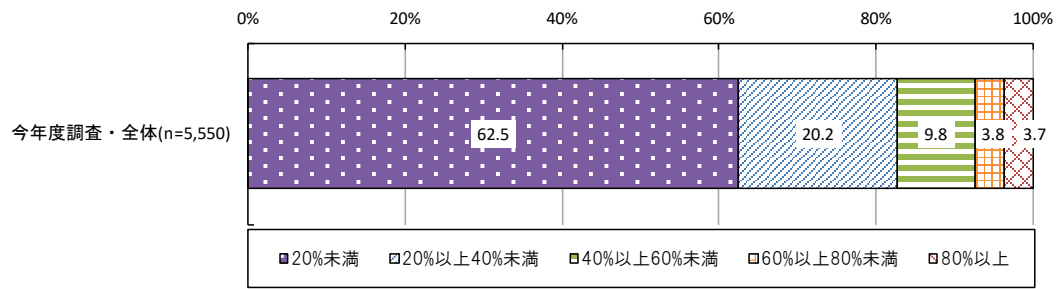
図表 3-10-12 エントリーシートの受付開始時期が後ろ倒しに変更された企業数の割合
(大学4年生・大学院2年生)



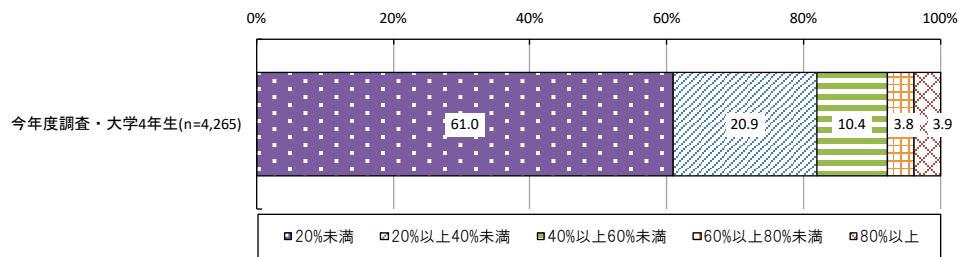
⁷¹ エントリーシートの受付開始時期が後ろ倒しに変更された企業数を、エントリーシートを提出した企業数で除した割合について集計している。

⁷² エントリーシートの提出期限が延長された企業数を、エントリーシートを提出した企業数で除した割合について集計している。

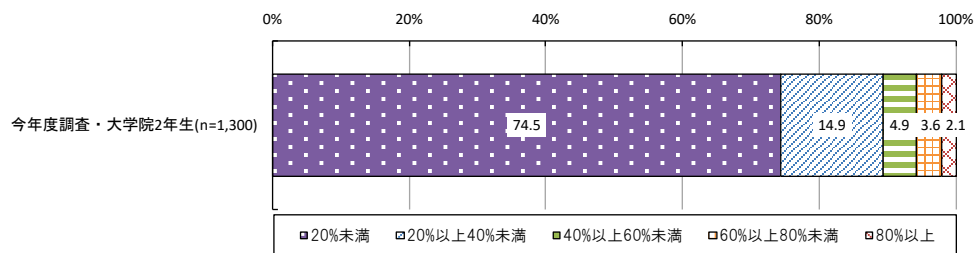
図表 3-10-13 エントリーシートの提出期限が延長された企業数の割合
(大学4年生・大学院2年生)



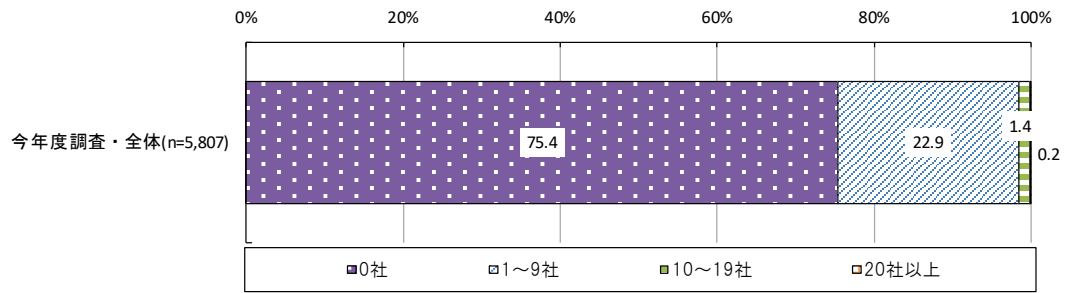
(大学4年生)



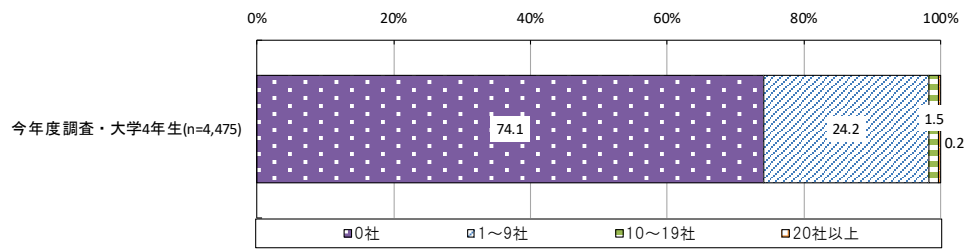
(大学院2年生)



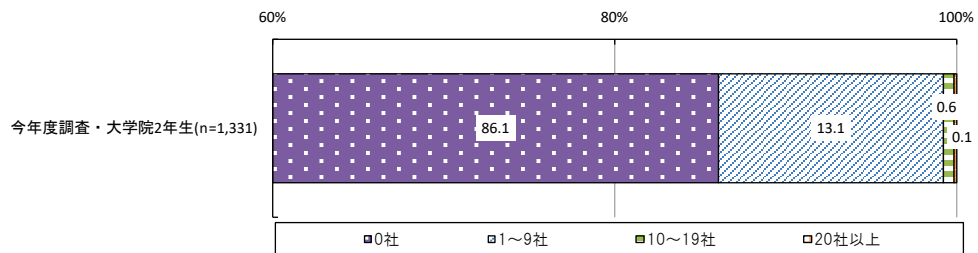
図表 3-10-14 エントリーシートの提出を予定していたがエントリーが中止になった企業数
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



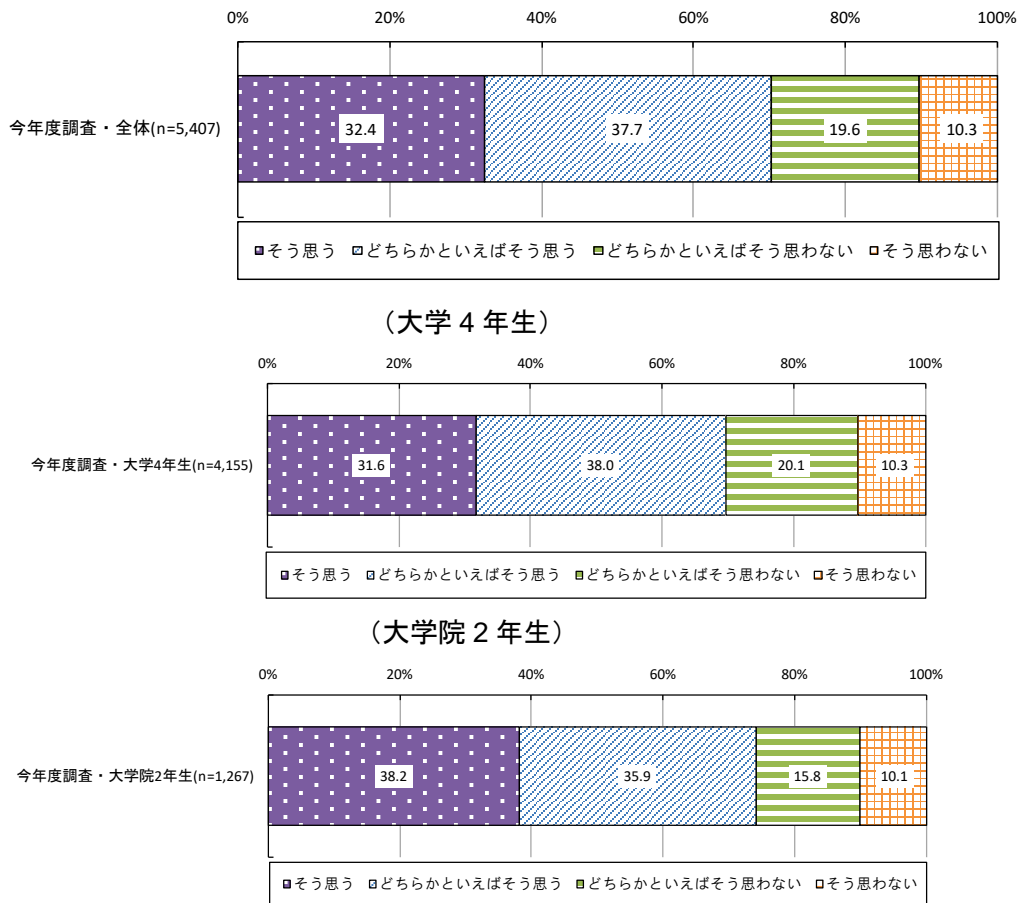
(大学院2年生)



⑨エントリーシートの提出にあたっての準備期間についての状況

エントリーシートの提出にあたっての準備時間が十分であったかについて、「わからない」と回答した者を除くと、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合は約7割となっている。

図表 3-10-15 エントリーシートの提出にあたっての準備期間が十分であったか
(大学4年生・大学院2年生)

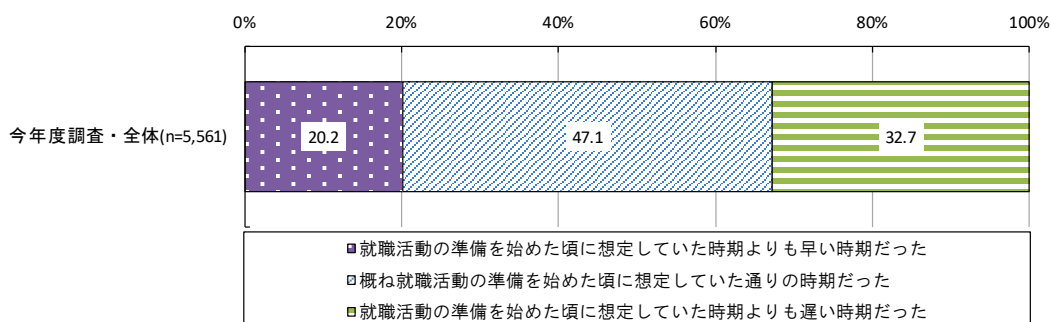


⑩採用面接の時期についての就職活動初期の想定とのずれの状況

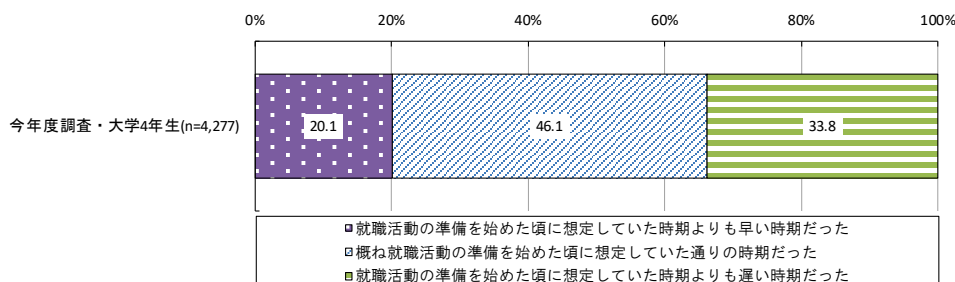
採用面接の時期が就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期だったかについて、「概ね就職活動の準備を始めた頃に想定していた通りの時期だった」の回答が約5割となっている⁷³。なお、「就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期よりも遅い時期だった」の回答は約3割となっている。

「就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期よりも遅い時期だった」と回答した者にその原因について尋ねたところ、「新型コロナウイルス感染症の拡大が主な原因だと思う」との回答が約9割となっている。

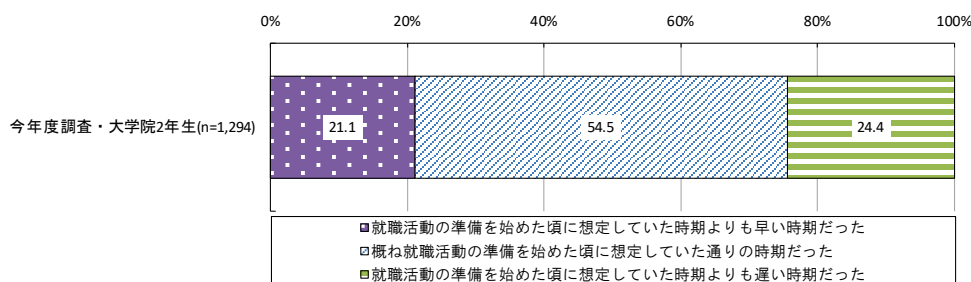
図表 3-10-16 採用面接の時期についての就職活動初期の想定とのずれの状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)

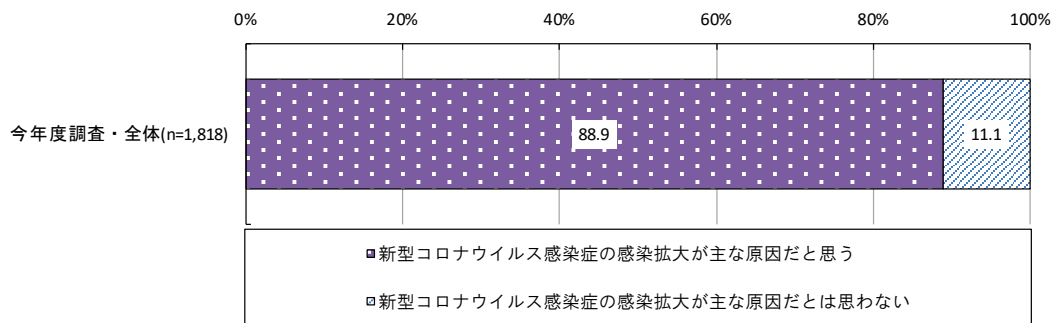


(大学院2年生)

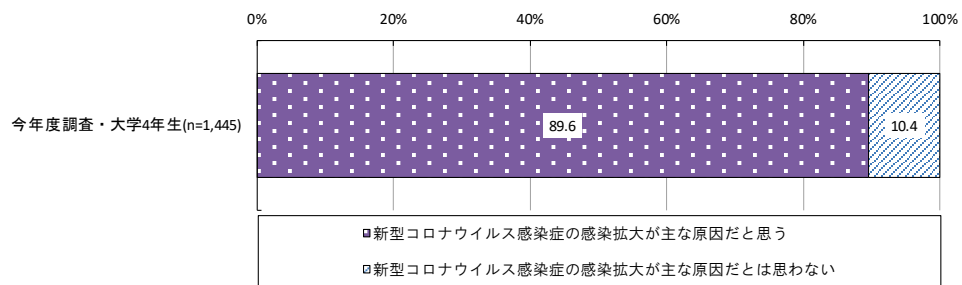


⁷³ 採用面接について「特段受けなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。

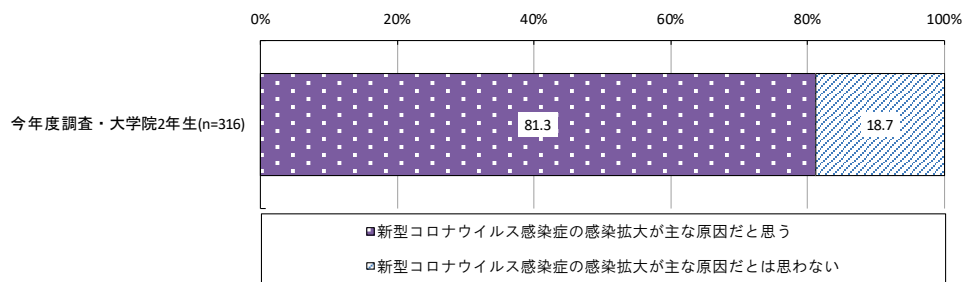
図表 3-10-17 採用面接の時期が就職活動初期の想定より遅い時期であった原因
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



⑪採用面接を受けた企業数に対する方法別実施数の割合

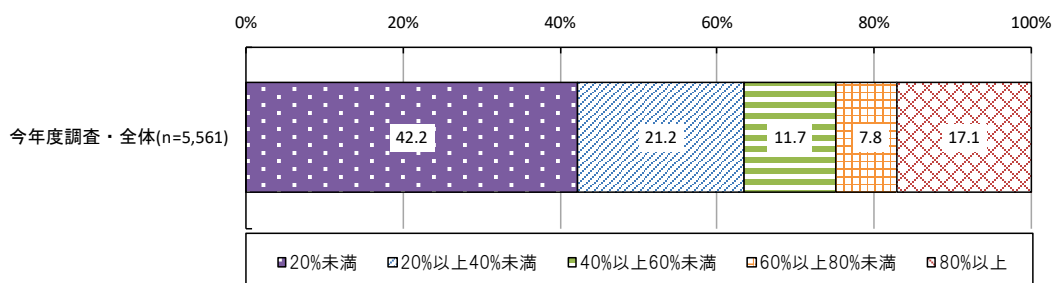
採用面接を受けた企業数の合計に対して、「対面のみでの実施」「ウェブ等のみでの実施」「対面とウェブ等の両方での実施」であった企業数の割合を集計した。実施方法別に回答をみると、集計対象者の約4割が、受けた採用面接のうち「対面のみでの実施」が「20%未満」となっていた。また、集計対象者の約3割が、「ウェブ等のみでの実施」が「20%未満」であり、約7割が「対面とウェブ等の両方での実施」が「20%未満」であったと回答している⁷⁴。「ウェブ等のみでの実施」については、「80%以上」という回答も比較的多くなっている。

また、採用面接について実施された方法すべての企業数を累計⁷⁵し、実施方法別の件数が占める割合を集計したところ、「ウェブ等のみでの実施」が最も多く約6割となっている。

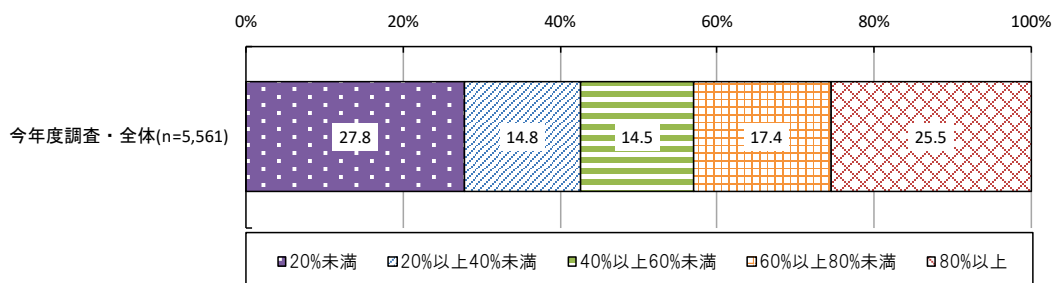
図表 3-10-18 採用面接の実施方法の状況

(大学4年生・大学院2年生)

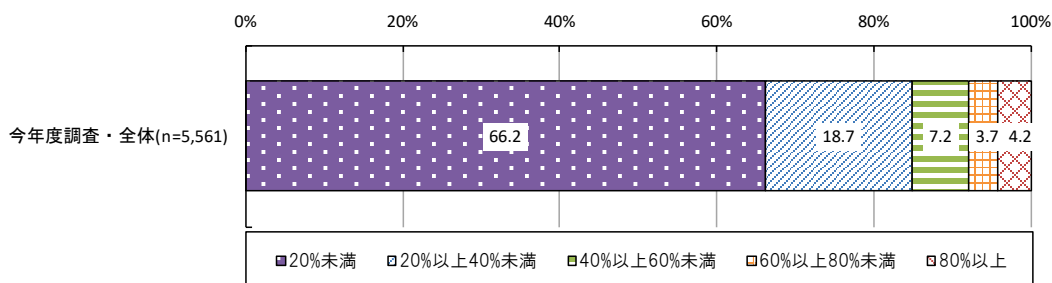
<対面のみでの実施>



<ウェブ等のみでの実施>



<対面とウェブ等の両方での実施>

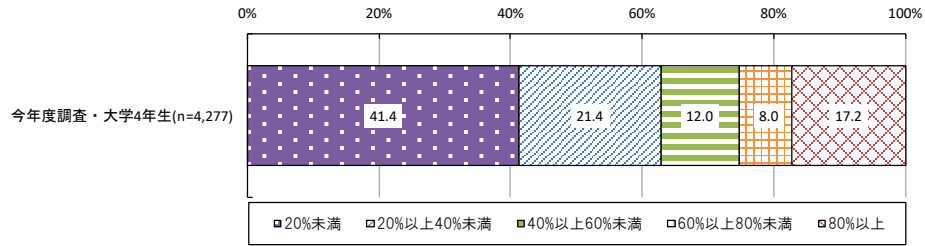


⁷⁴ 採用面接について「対面のみでの実施」「ウェブ等のみでの実施」「対面とウェブ等の両方での実施」であったと回答した企業数それぞれを、採用面接を受けた企業数の合計で除した割合について集計している。

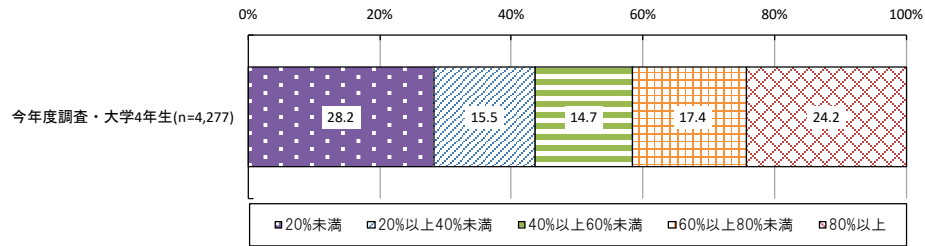
⁷⁵ 今年度調査においては、合計で何社の採用面接を受けたかを尋ねる設問と、対面での実施、ウェブ等での実施の方法別に尋ねる設問を設けているが、前者の「実施された合計の企業数」と後者の「方法別で尋ねた企業数」の合計は必ずしも一致せずとも回答が可能なように設定したことから、前者ではなく後者の合計を用いて累計の値とした。

(大学4年生)

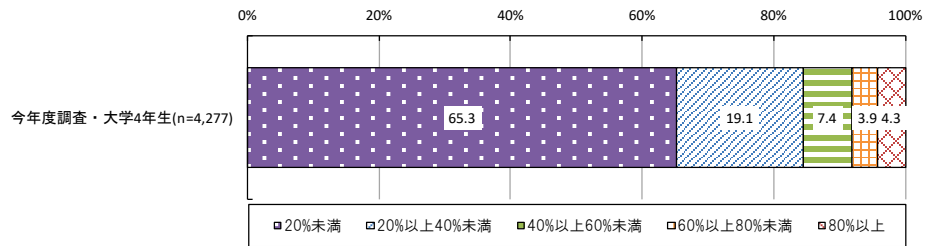
<対面のみでの実施>



<ウェブ等のみでの実施>

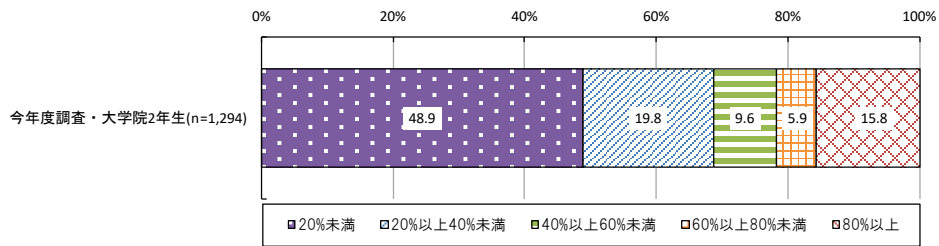


<対面とウェブ等の両方での実施>

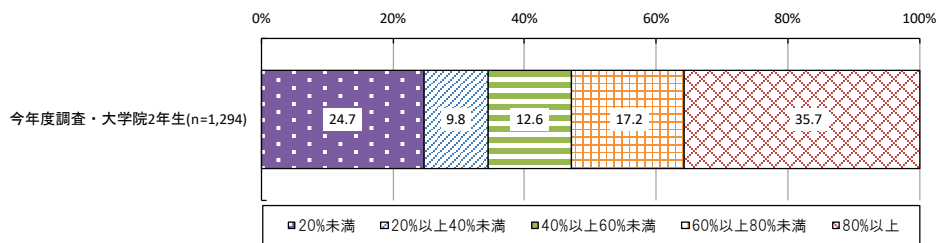


(大学院2年生)

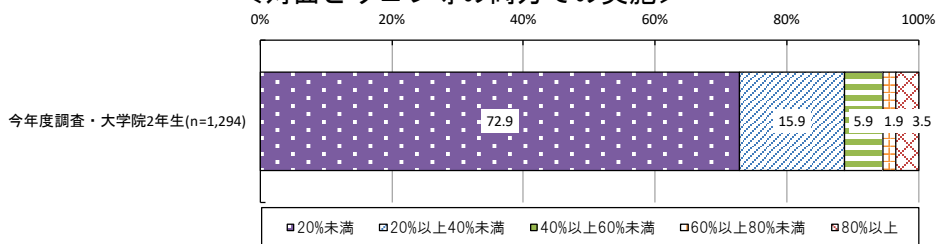
<対面のみでの実施>



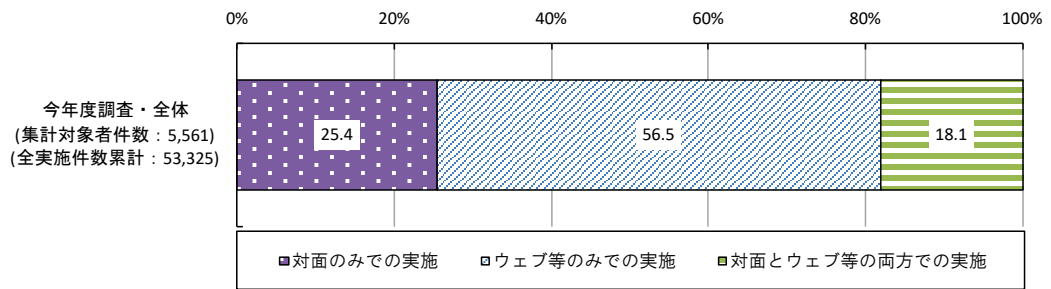
<ウェブ等のみでの実施>



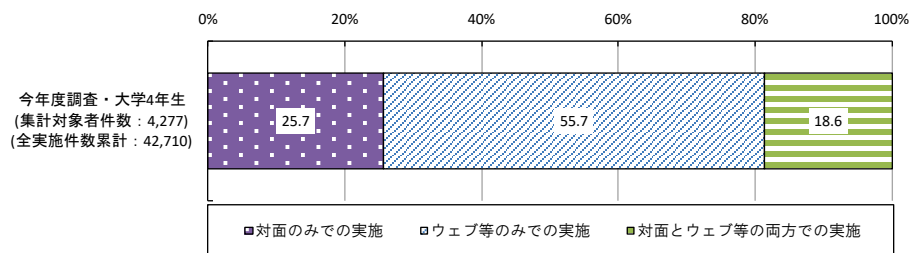
<対面とウェブ等の両方での実施>



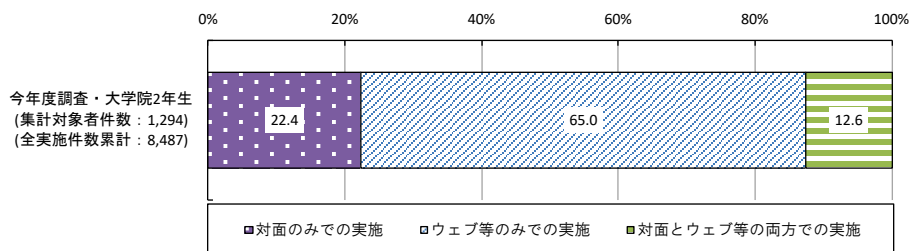
図表 3-10-19 実施された採用面接の実施方法との関係
 (実施された採用面接の企業数累計による集計)
 (大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)

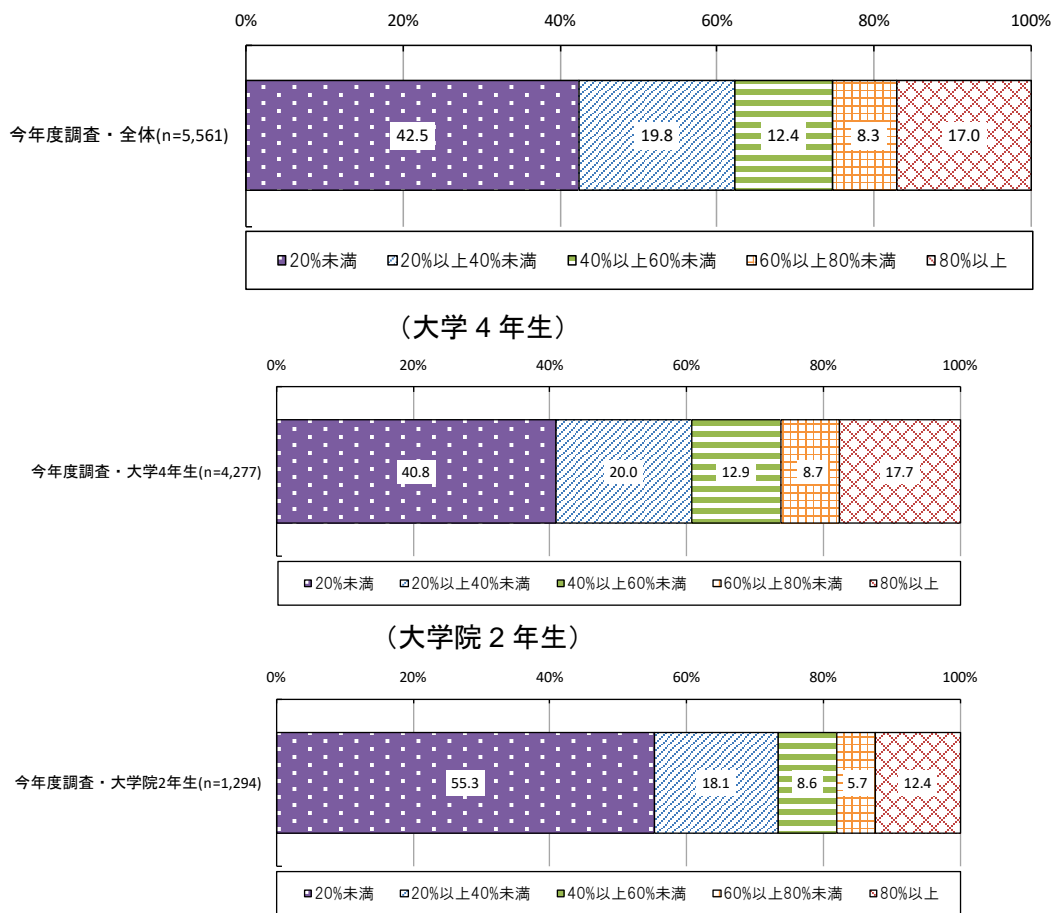


⑫新型コロナウイルス感染症による採用面接の実施時期の後ろ倒し・中止の状況

受けた採用面接に対する、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、当初の予定より実施時期が後ろ倒しに変更されたものの割合について集計したところ、集計対象の約3割が、受けた採用面接の60%以上で実施時期が後ろ倒しに変更されたと回答している⁷⁶。

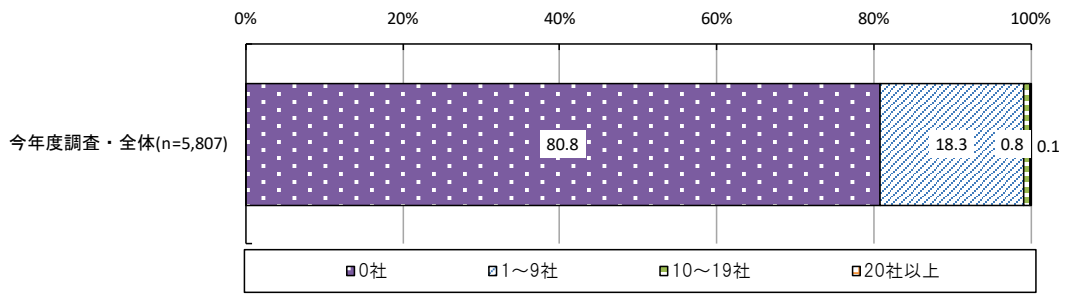
また受けることが予定されていた企業の採用面接で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で実施が中止になったものについて、1社以上であった者が約2割となっている。

図表 3-10-20 採用面接の実施時期が後ろ倒しに変更された企業数の割合
(大学4年生・大学院2年生)

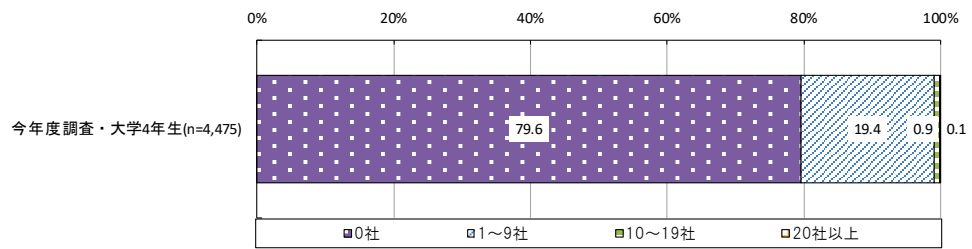


⁷⁶ 採用面接について、「実施時期が後ろ倒しに変更された採用面接」における企業数を、採用面接を受けた企業数の合計で除した割合について集計している。

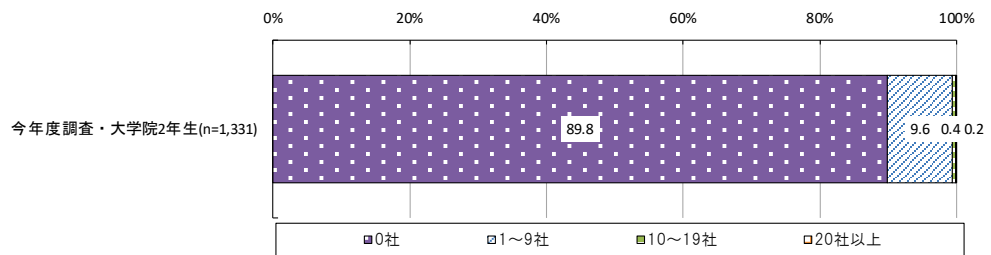
図表 3-10-21 受けることが予定されていたが実施が中止になった採用面接の企業数
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



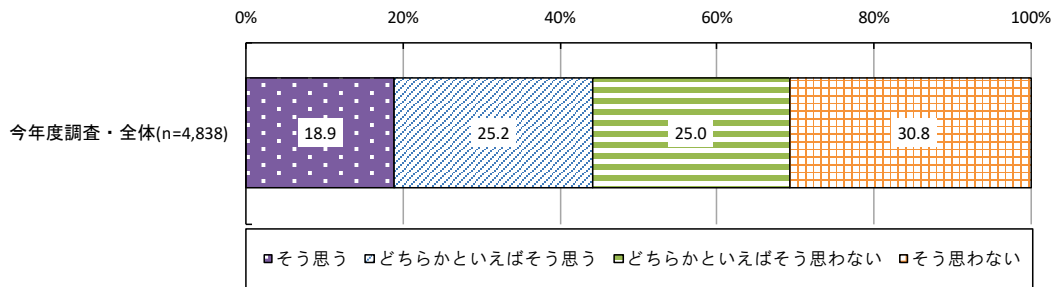
(大学院2年生)



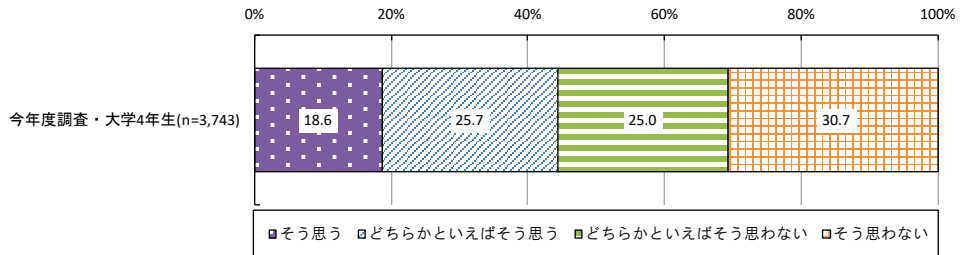
⑬秋採用や通年採用などに関する企業の機会提供や情報発信の状況

秋採用や通年採用などといった機会の提供や情報発信が企業からされていたかについて、「わからない」と回答した者を除くと、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合は約4割となっている。

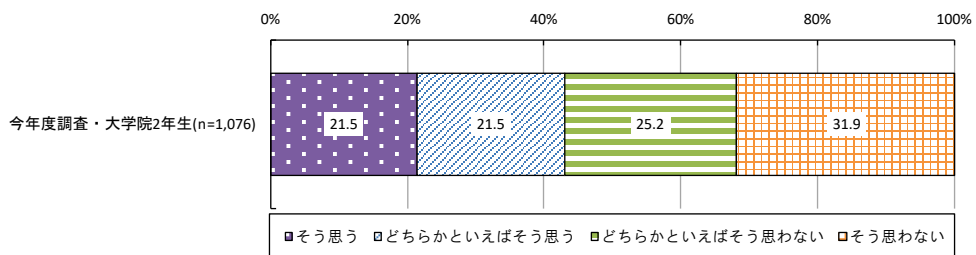
図表 3-10-22 秋採用や通年採用などに関する企業の機会提供や情報発信の状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



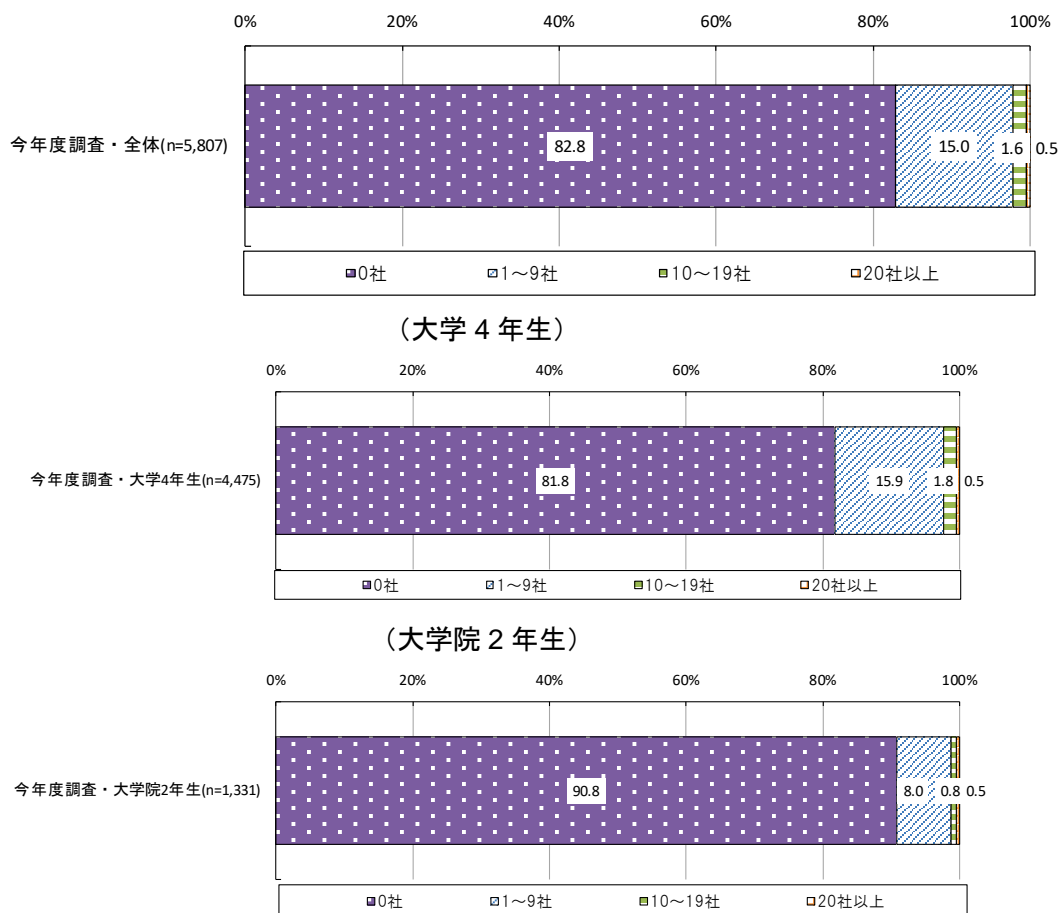
(大学院2年生)



⑭秋採用や通年採用などによる採用面接の予定

秋採用や通年採用などの実施により、今後採用面接を受ける予定の企業数について、1社以上である者が約2割となっている。

図表 3-10-23 秋採用や通年採用などにより採用面接を受ける予定の企業数
(大学4年生・大学院2年生)

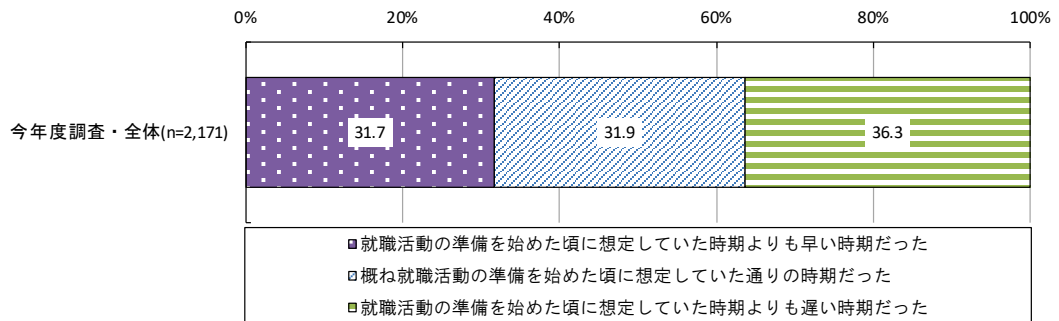


⑮内々定を受けた時期についての就職活動初期の想定とのずれの状況

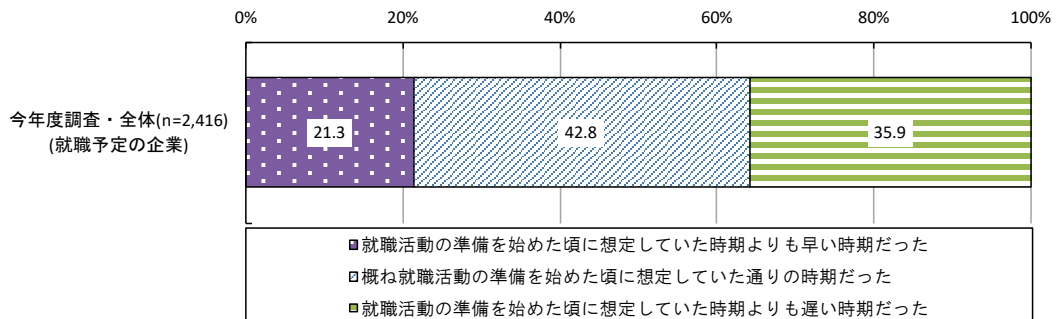
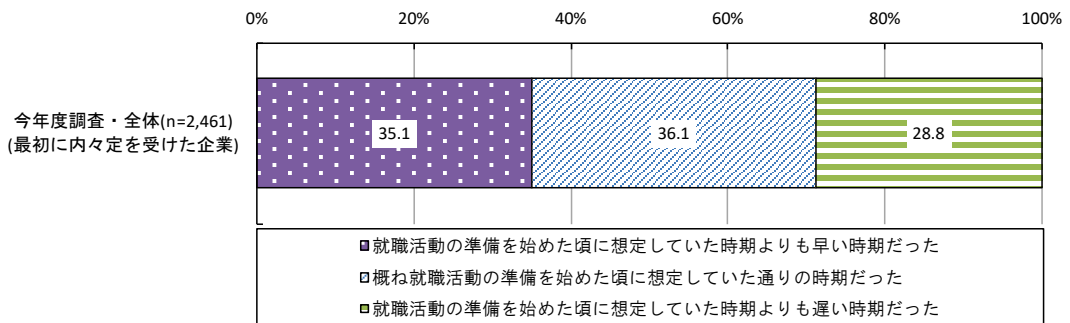
内々定を受けた時期が就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期だったかについて、1社から内々定を受けた者は「就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期よりも遅い時期だった」の回答割合が約4割、複数社から内々定を受けた者の最初の内々定・就職予定の企業の内々定について「概ね就職活動の準備を始めた頃に想定していた通りの時期だった」がそれぞれ約4割となっている。

また「就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期よりも遅い時期だった」と回答した者にその原因について尋ねたところ、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大が主な原因だと思う」との回答が、1社から内々定を受けた者と複数社から内々定を受けた者の最初の内々定では約7割、複数社から内々定を受けた者の就職予定の企業の内々定では約8割となっている。

図表 3-10-24 内々定を受けた時期についての就職活動初期の想定とのずれの状況
(大学4年生・大学院2年生)
<1社から内々定を受けた者>

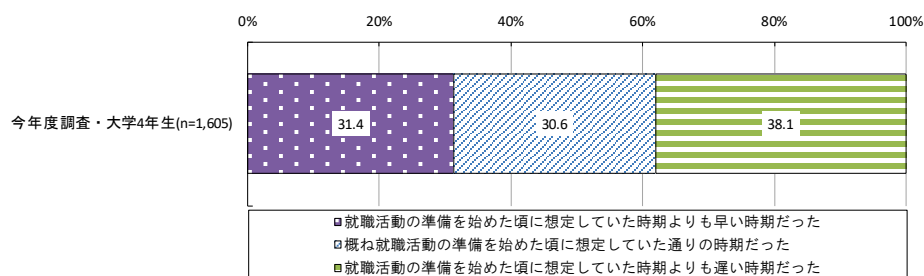


<複数社から内々定を受けた者>

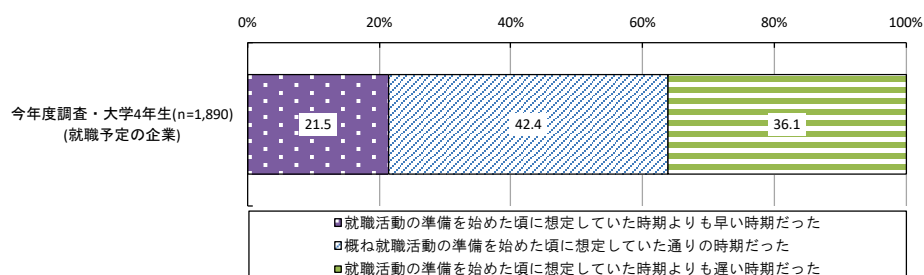
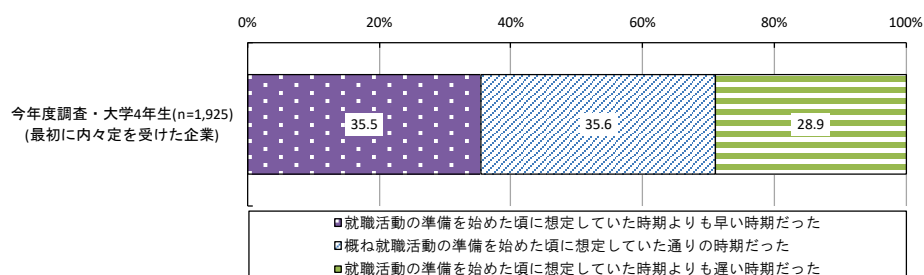


(大学4年生)

<1社から内々定を受けた者>

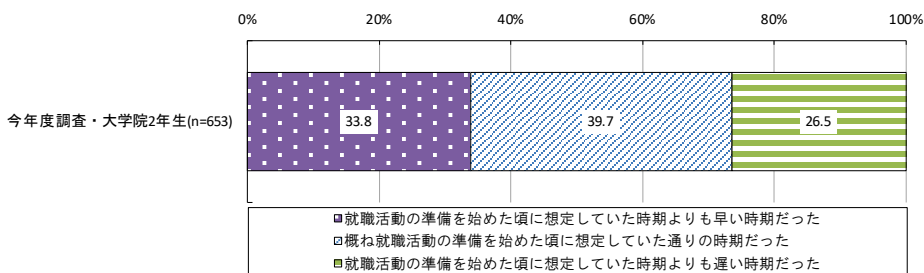


<複数社から内々定を受けた者>

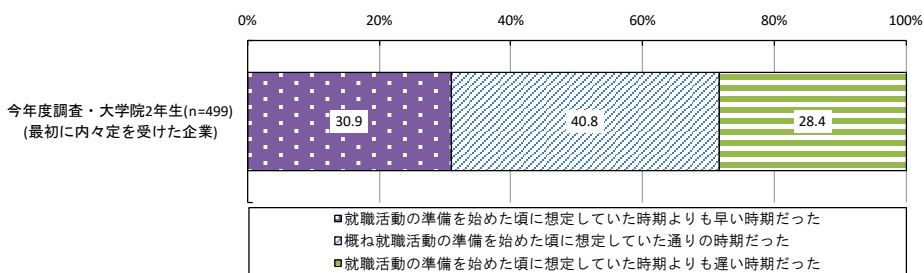


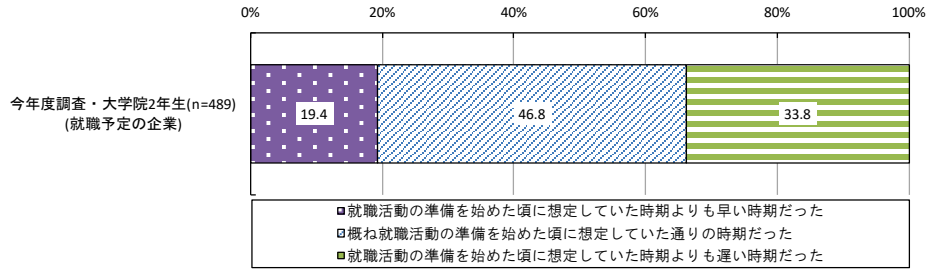
(大学院2年生)

<1社から内々定を受けた者>

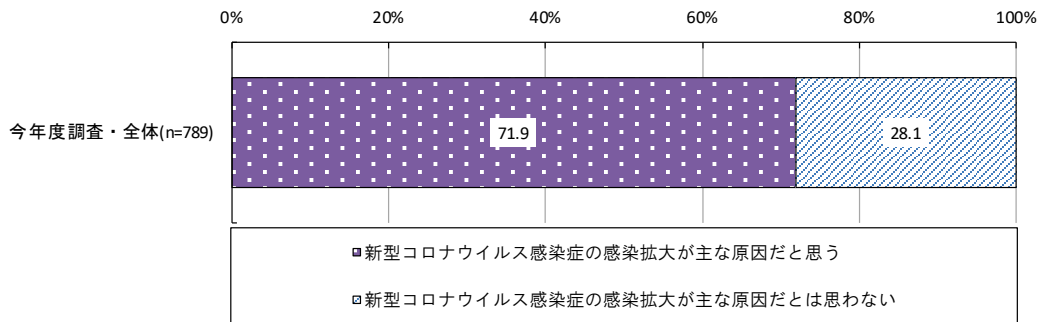


<複数社から内々定を受けた者>

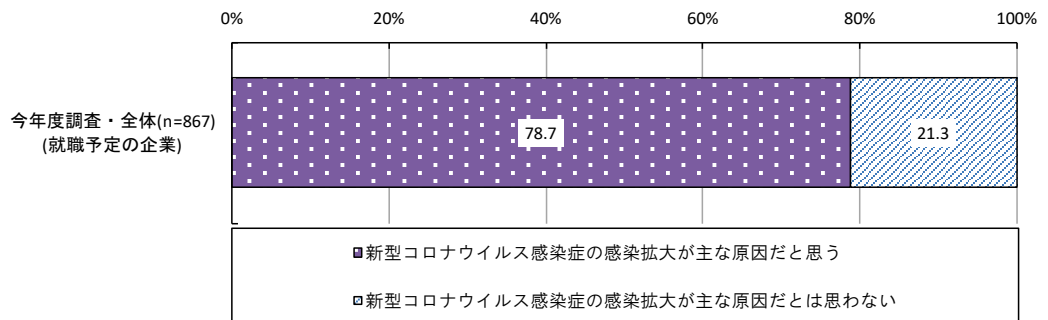
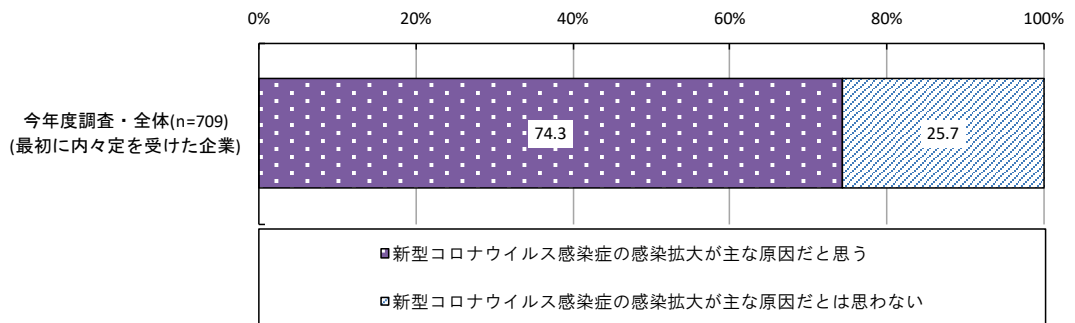




図表 3-10-25 内々定を受けた時期が就職活動初期の想定より遅い時期であった原因
(大学4年生・大学院2年生)
<1社から内々定を受けた者>

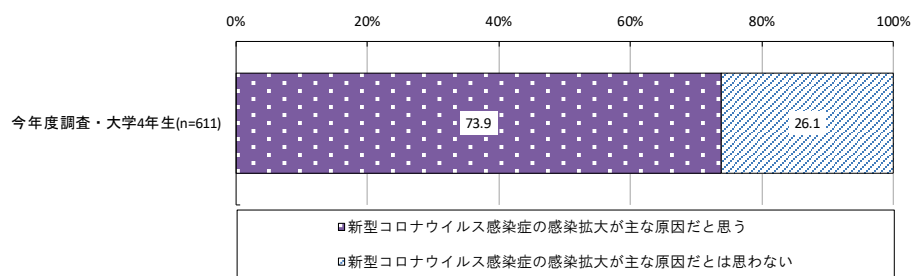


<複数社から内々定を受けた者>

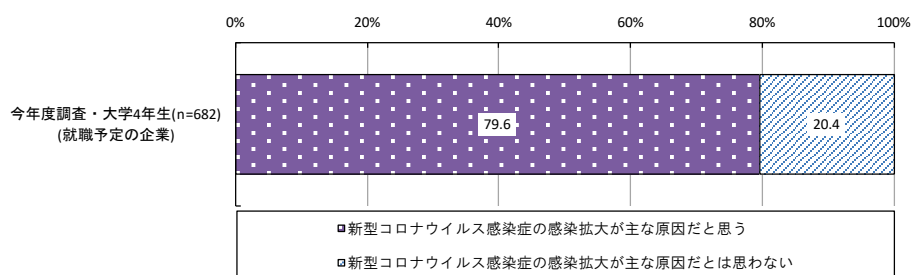
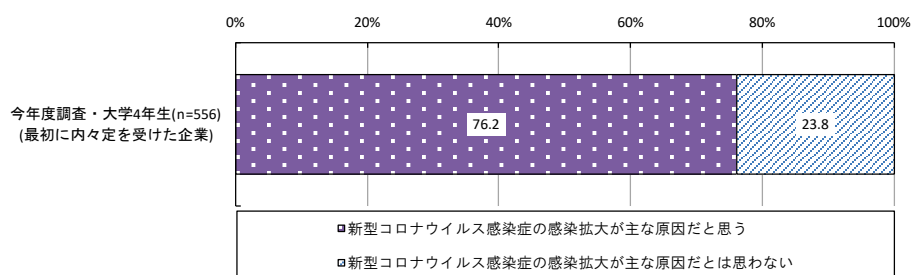


(大学4年生)

<1社から内々定を受けた者>

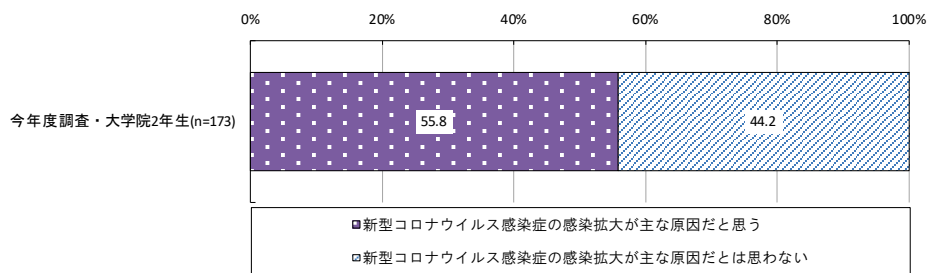


<複数社から内々定を受けた者>

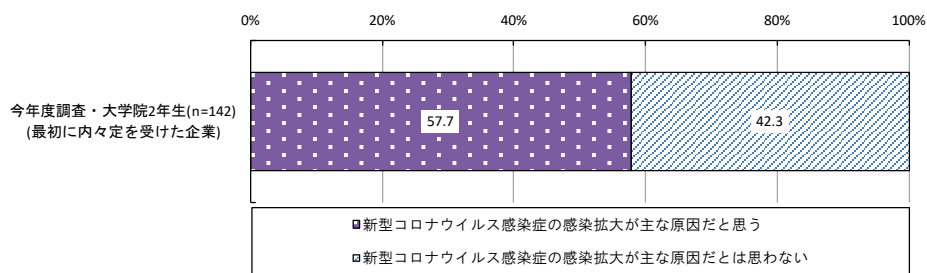


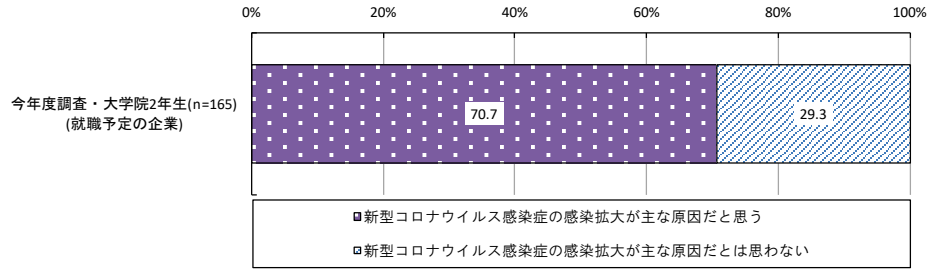
(大学院2年生)

<1社から内々定を受けた者>



<複数社から内々定を受けた者>

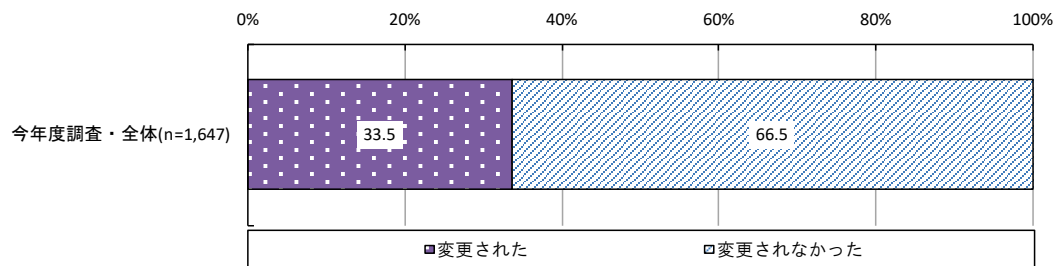




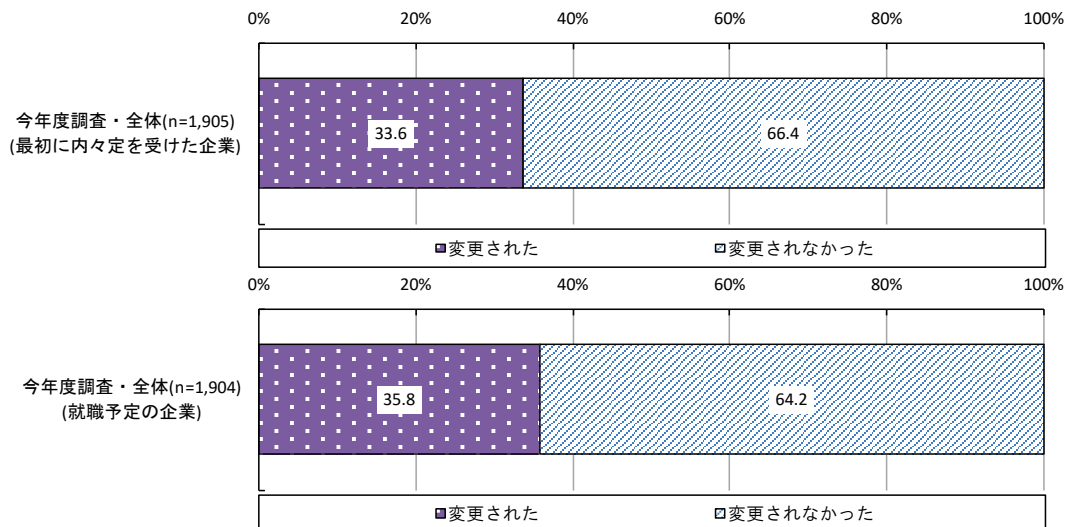
⑩新型コロナウイルス感染症による内々定の通知時期の後ろ倒しの状況

内々定を受けた時期が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、当初企業から案内されていた時期から後ろ倒しに変更されたかについて、「内々定時期について企業から事前に案内がなかったため、わからない」と回答した者を除くと、1社から内々定を受けた者、複数社から内々定を受けた者の最初の内々定・就職予定の企業の内々定のいずれについても、「変更された」の回答割合が約3割となっている⁷⁷。

図表 3-10-26 内々定の通知時期の後ろ倒しの変更状況
(大学4年生・大学院2年生)
<1社から内々定を受けた者>



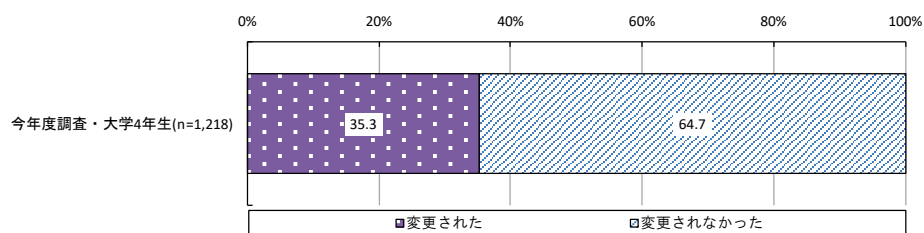
<複数社から内々定を受けた者>



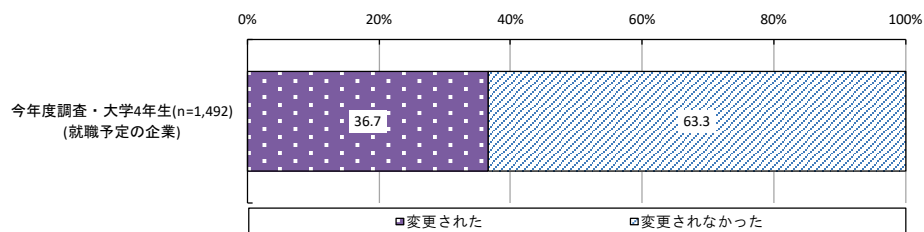
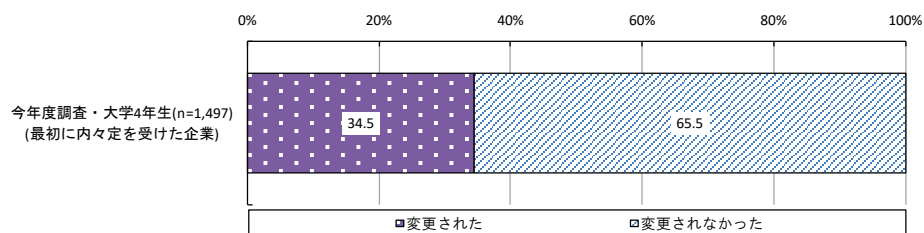
⁷⁷ 1社から内々定を受けた者についてはその内々定、複数社から内々定を受けた者については最初の内々定と就職予定の企業の内々定それぞれを集計した。

(大学4年生)

<1社から内々定を受けた者>

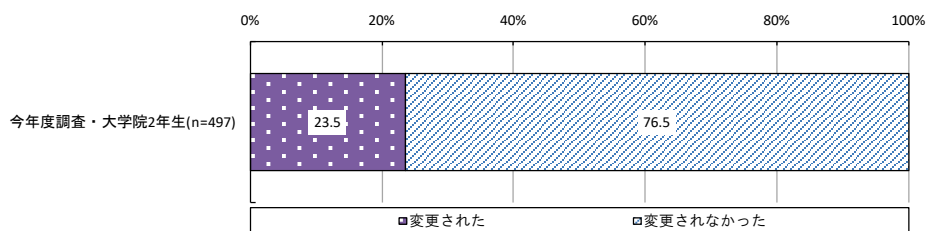


<複数社から内々定を受けた者>

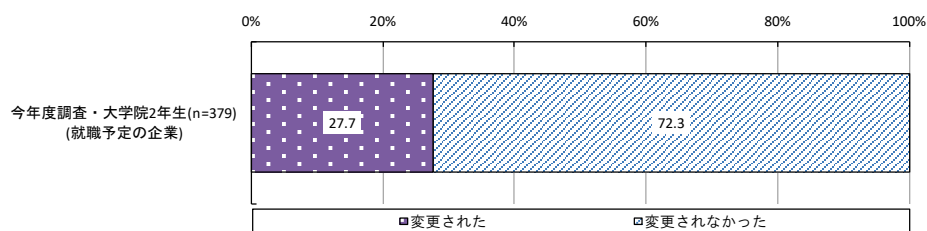
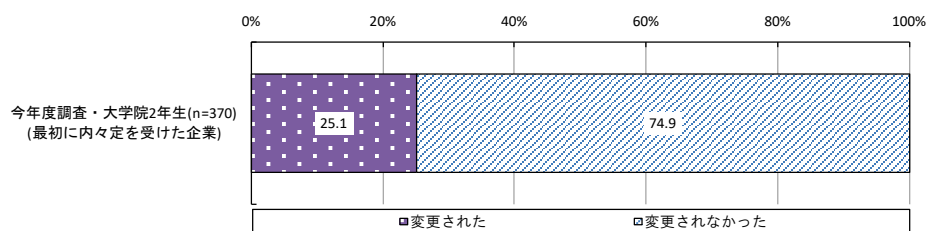


(大学院2年生)

<1社から内々定を受けた者>



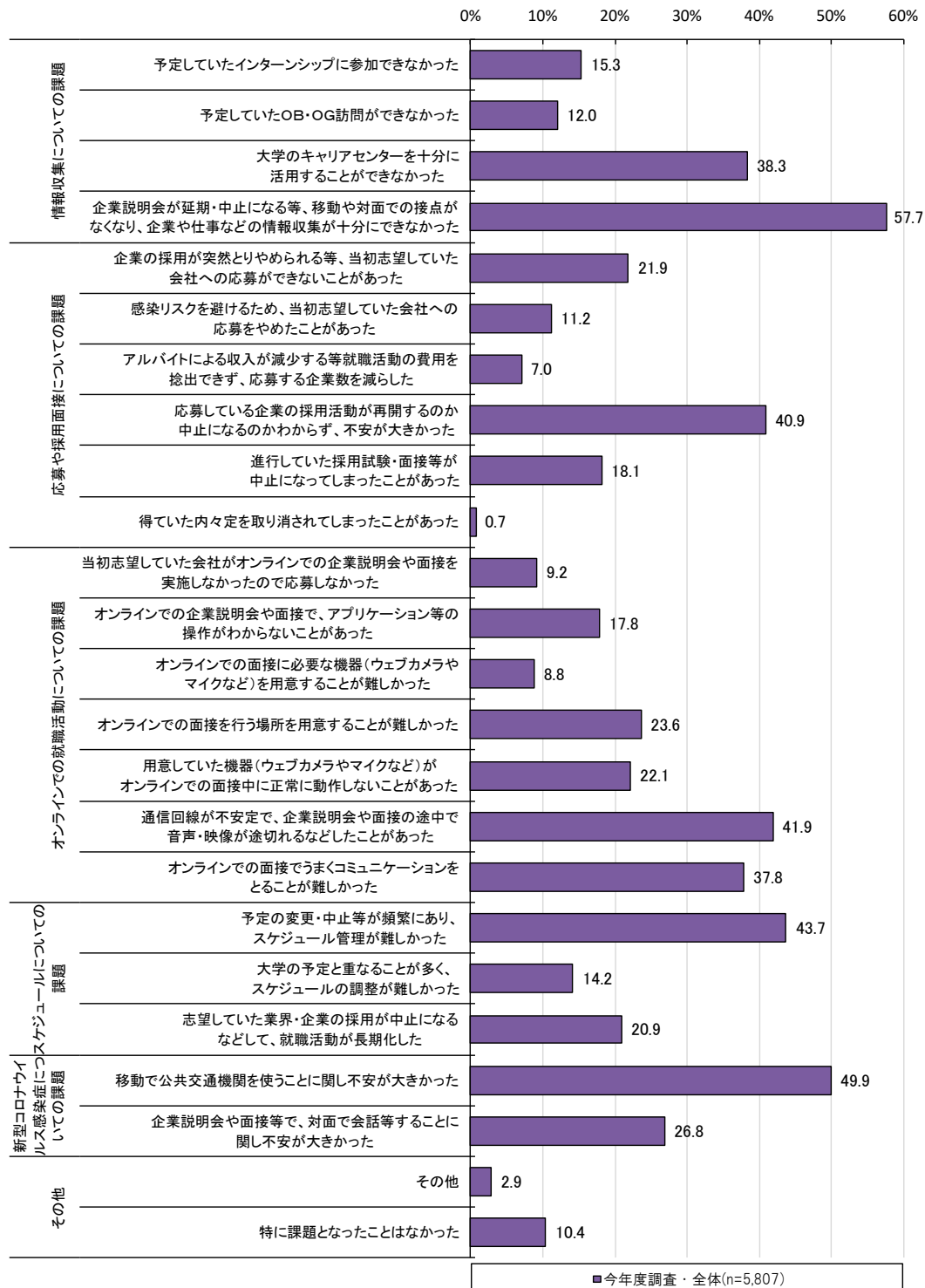
<複数社から内々定を受けた者>



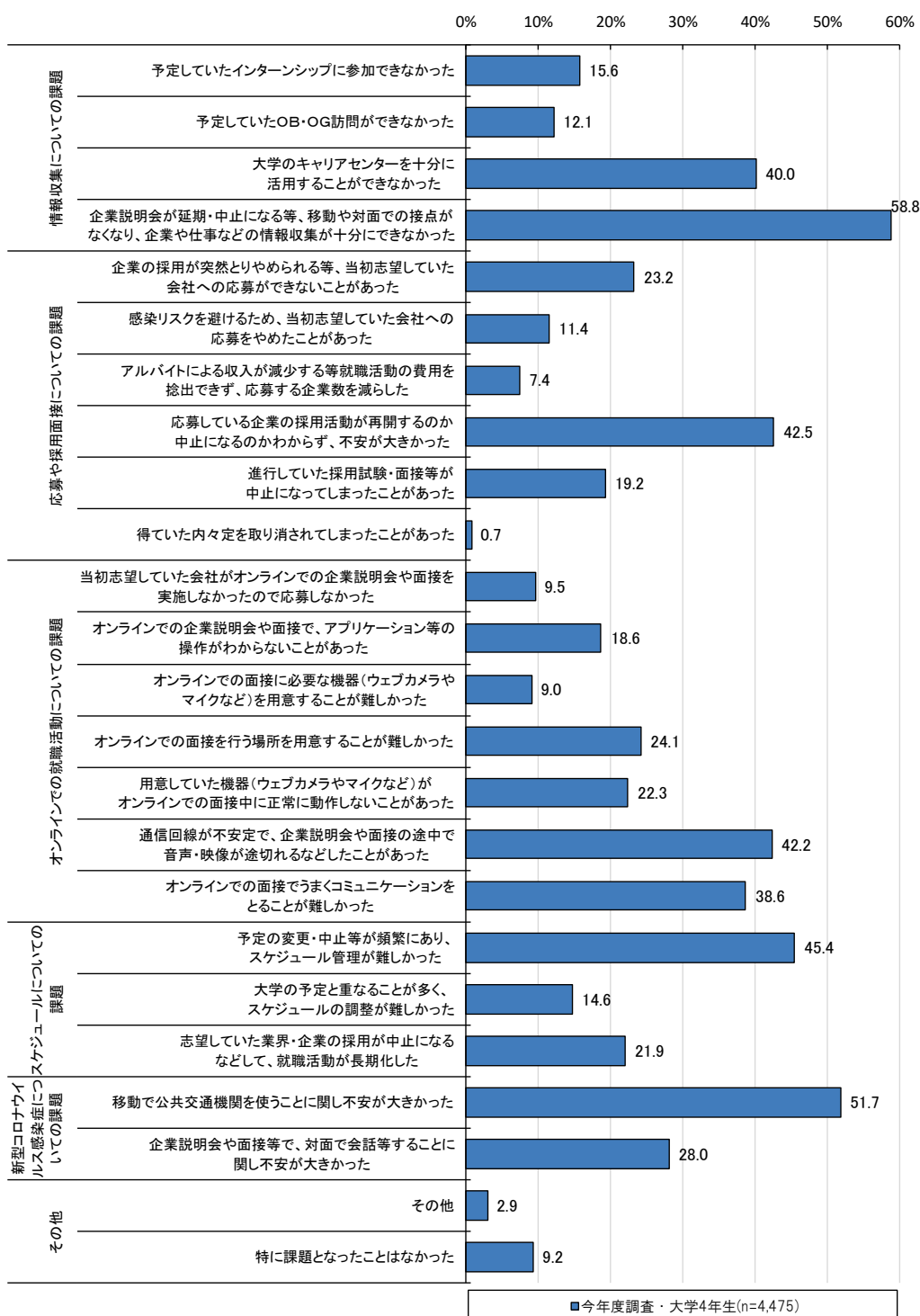
⑰就職活動に関する新型コロナウイルス感染症による課題

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、課題になったこととして、「企業説明会が延期・中止になる等、移動や対面での接点がなくなり、企業や仕事などの情報収集が十分にできなかった」の回答割合が約6割と最も高く、次いで「移動で公共交通機関を使うことに関し不安が大きかった」が約5割となっている。

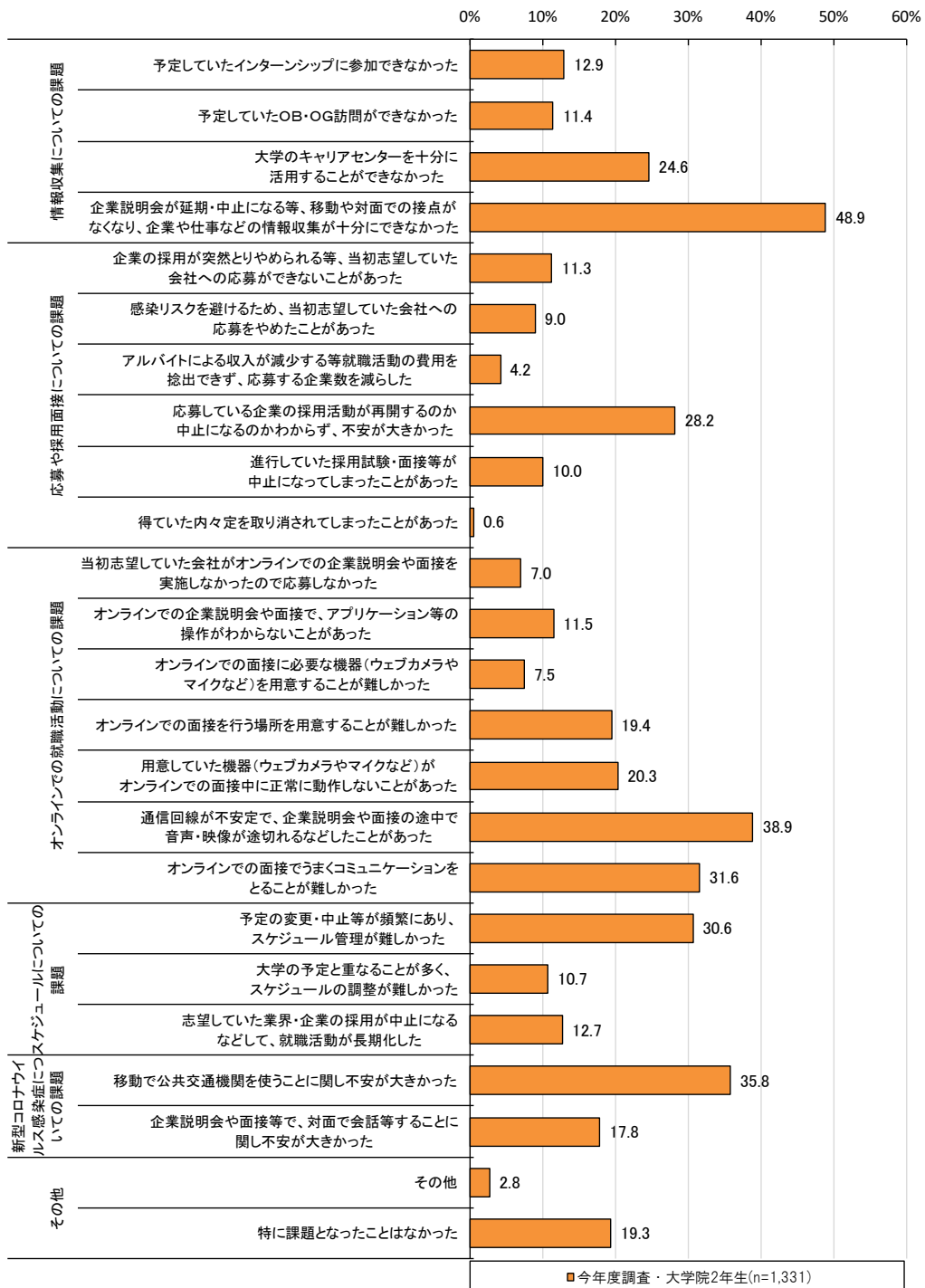
図表 3-10-27 就職活動に関する新型コロナウイルス感染症による課題（複数回答）
（大学4年生・大学院2年生）



(大学4年生)



(大学院2年生)



第4章 企業による学業などに対する配慮の状況等

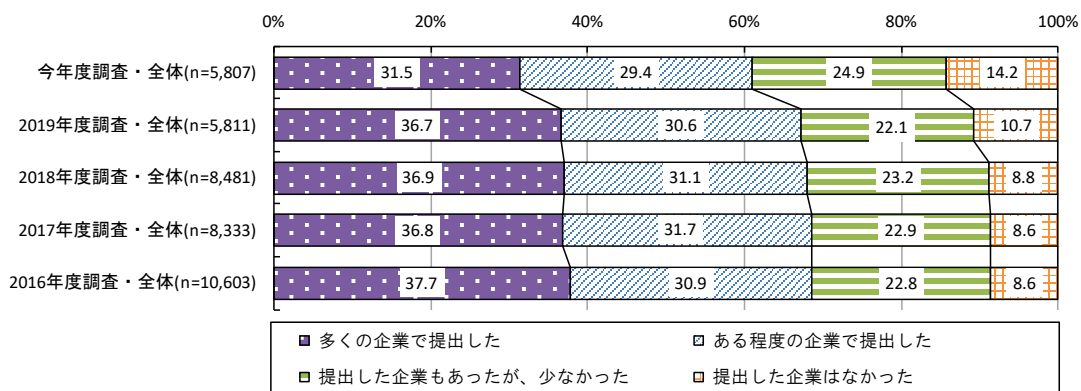
(1) 履修履歴（成績証明書など）の提出の状況

① 提出の状況

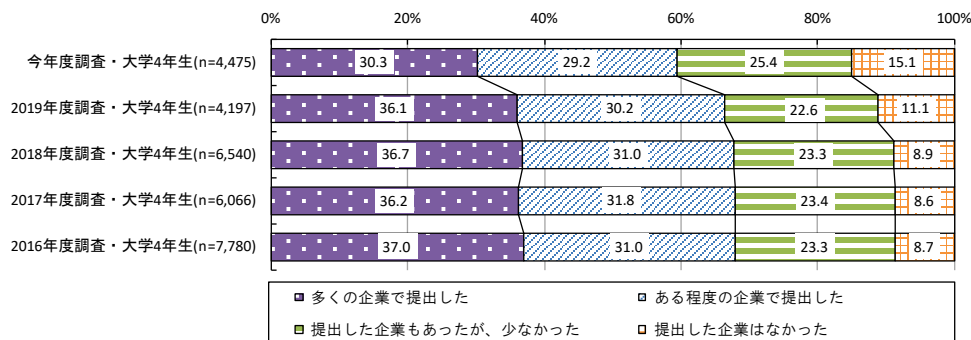
就職活動の面接や試験を受けるにあたり、履修履歴（成績証明書など）を提出することがどの程度あったかについて、「多くの企業で提出した」の回答割合は約3割となっている。

2016年度調査～2019年度調査と比較すると「多くの企業で提出した」の回答割合が低くなっており、「提出した企業もあったが、少なかった」「提出した企業はなかった」の回答割合が高くなっている⁷⁸。

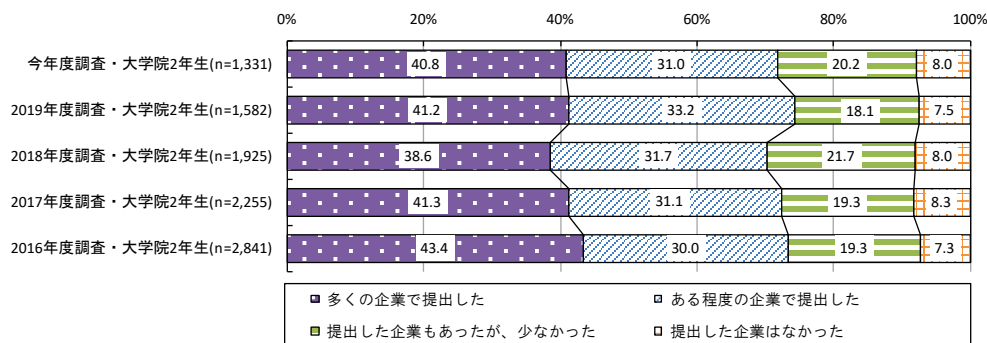
図表 4-1-1 履修履歴（成績証明書など）の提出の状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



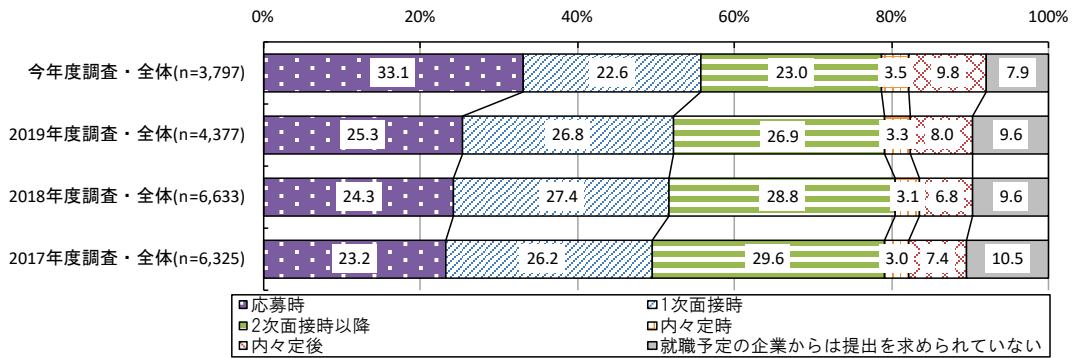
⁷⁸ 2015年度調査では当該設問について調査を実施していない。

②提出のタイミング

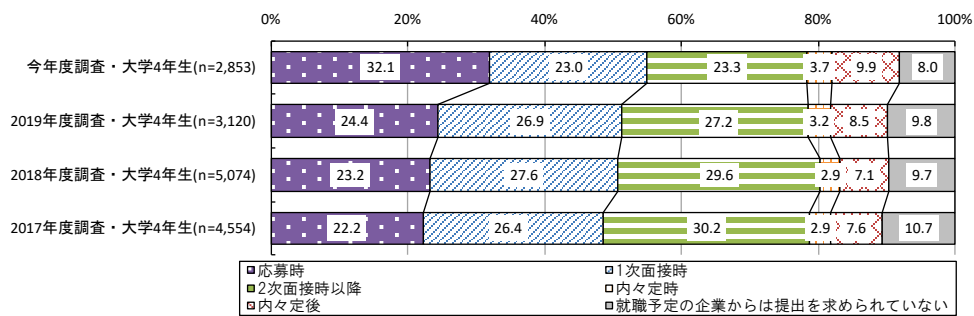
就職予定の企業から履修履歴（成績証明書など）の提出がいつ頃求められたかについて、「応募時」の回答割合が約3割で最も高く、次いで「2次面接時以降」の回答割合が約2割となっている。

2017年度調査～2019年度調査と比べると、「応募時」の回答割合が高くなっている⁷⁹。

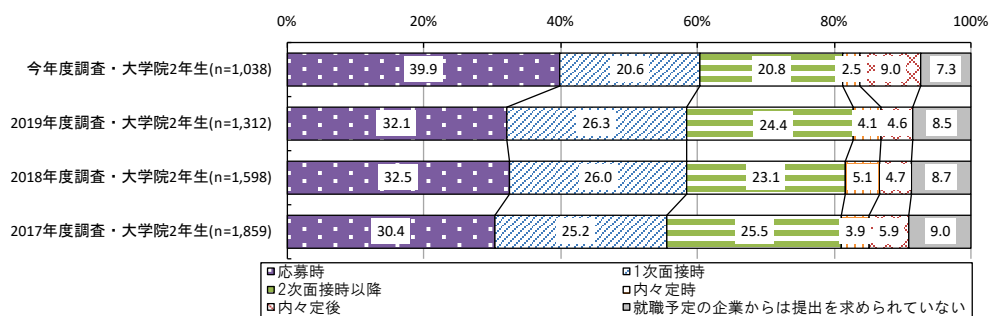
図表 4-1-2 就職予定の企業への履修履歴（成績証明書など）の提出のタイミング
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



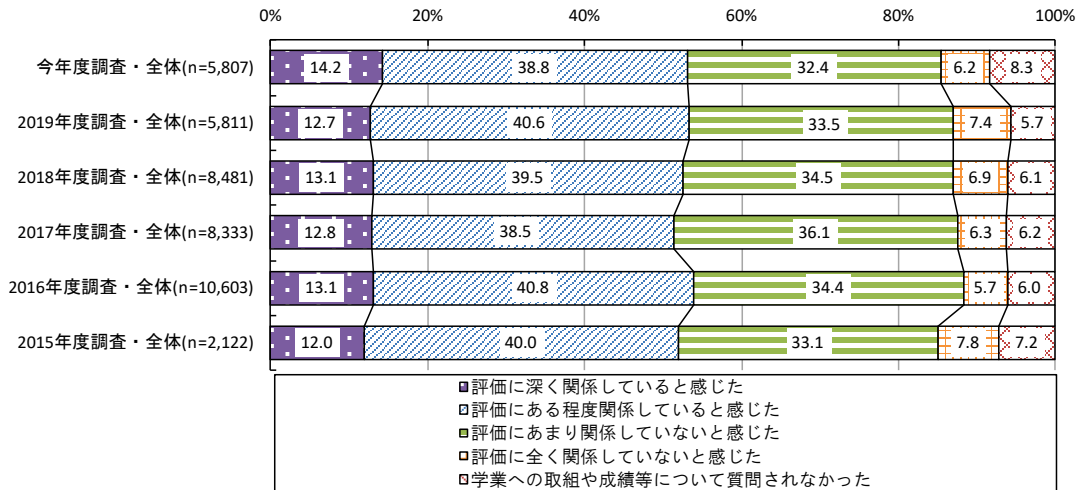
⁷⁹ 2015年度調査・2016年度調査では当該設問について調査を実施していない。

(2) 採用面接の際の学業や成績等への評価

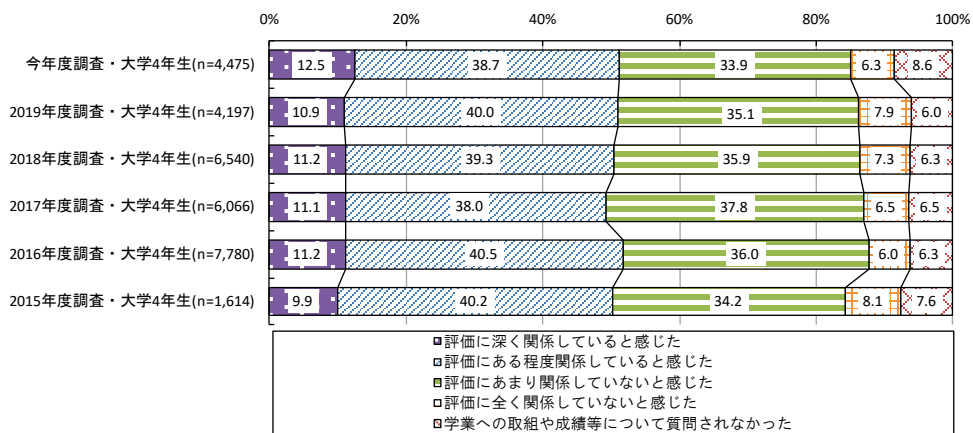
採用面接において、研究・ゼミや専門分野などの学業への取組や成績等の質問を受け、その内容が採用選考の評価に関係していると感じたかについて、「評価に深く関係していると感じた」と「評価にある程度関係していると感じた」を合わせた割合は約5割となっている。

これは、過年度調査とほぼ同様の結果となっている。

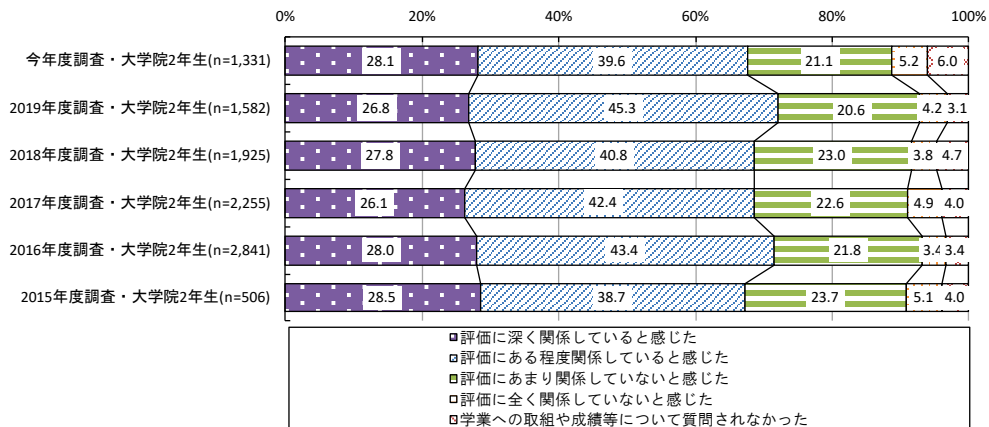
図表 4-2-1 採用面接の際に学業の取組や成績等の質問を受け、評価に関係していると感じたか
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



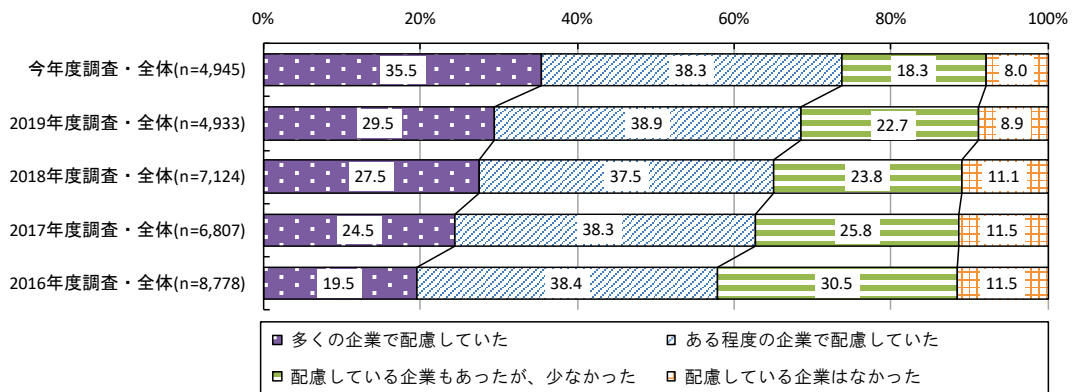
(3) 就職活動の日程・時間帯等に関する配慮

① 説明会や面接等の日程・時間帯等についての配慮

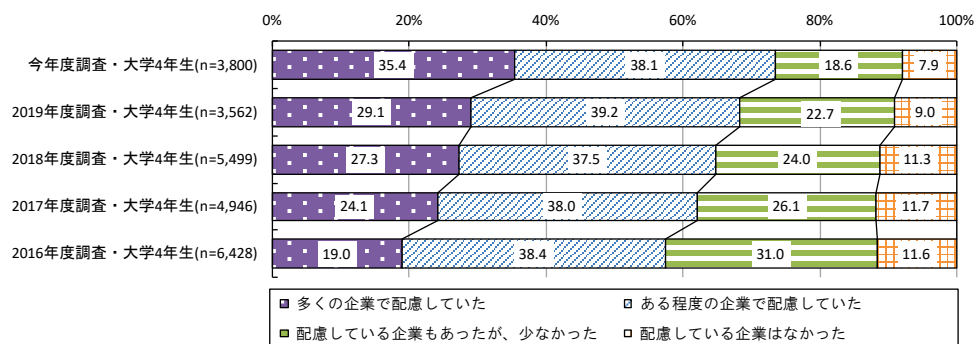
就職活動を行った企業において説明会や面接等の日程・時間帯等について配慮があったかについて、「よくわからない」と回答した者を除くと⁸⁰、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は約7割となっている。

2016年度調査～2019年度調査と比較すると、今年度調査では特に「多くの企業で配慮していた」の回答割合が約4割と高くなっている⁸¹。

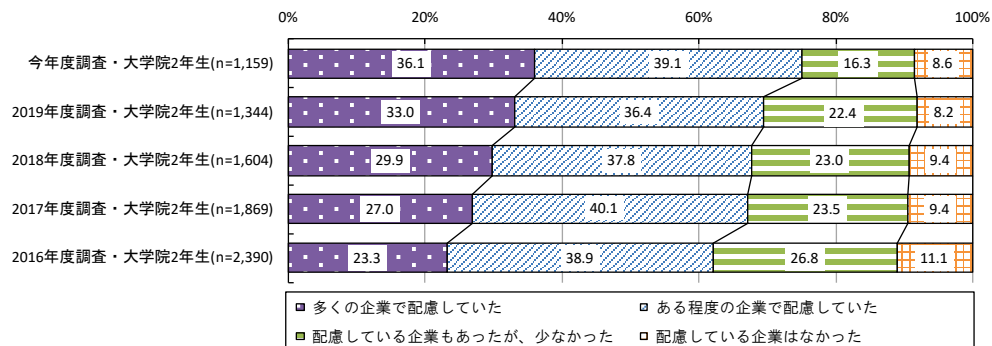
図表 4-3-1 説明会や面接等の日程・時間帯等についての配慮の状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



⁸⁰ 就職活動を行った企業について、「説明会や面接等の日程・時間帯等について、就職活動が授業・試験等の妨げにならないよう、時間の設定などの配慮をしていましたか」という設問に対して、「就職活動最優先で活動していたため、よくわからない」と回答した者は除いて集計した。

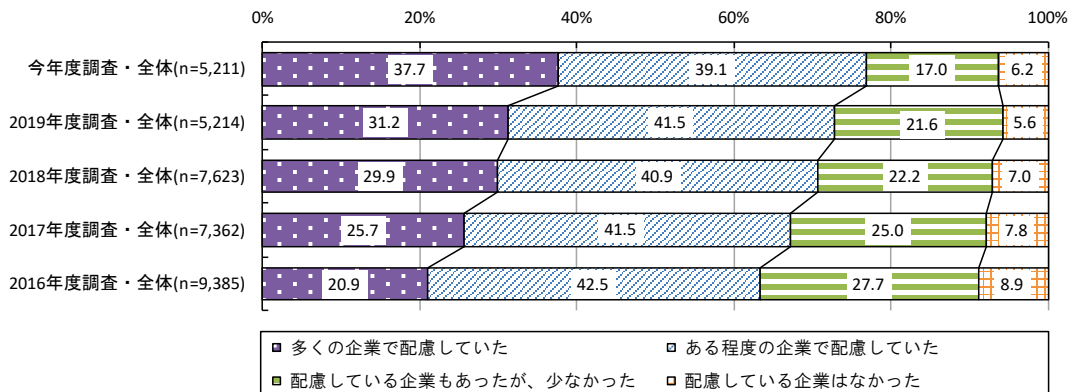
⁸¹ 2015年度調査では当該設問について調査を実施していない。

②個別の面接日時等の設定にあたっての配慮

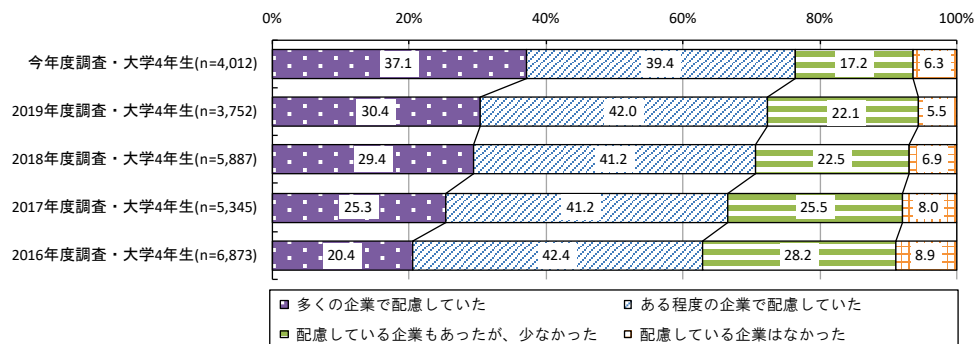
就職活動を行った企業において個別の面接日時等の設定に当たり配慮があったかについて、「よくわからない」と回答した者を除くと⁸²、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は約8割となっている。

2016年度調査～2019年度調査と比較すると、今年度調査では特に「多くの企業で配慮していた」の回答割合が高くなっている⁸³。

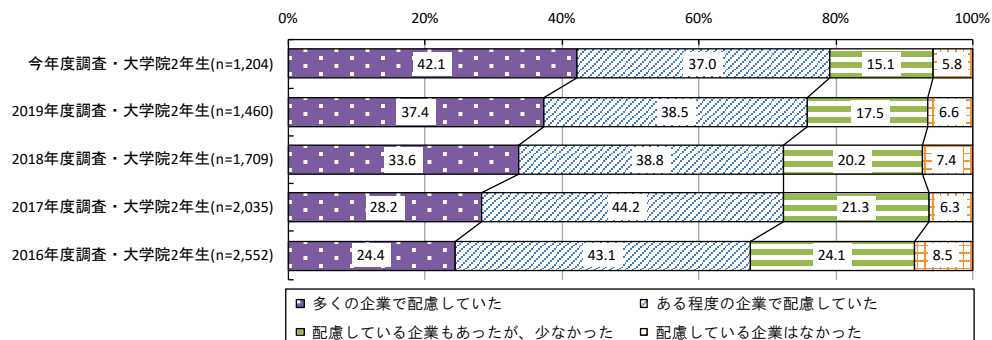
図表 4-3-2 個別の面接日時等の設定にあたっての配慮の状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



⁸² 就職活動を行った企業について、「個別の面接日時等の設定に当たり、就職活動が授業・試験等の妨げにならないよう、連絡が余裕をもって行われたり、土日や平日夕方などの対応があったり、日程の候補が複数提示されたり、学生の要望を聞いたりするなどの配慮がありましたか」という設問に対して、「就職活動最優先で活動していたため、よくわからない」と回答した者は除いて集計した。

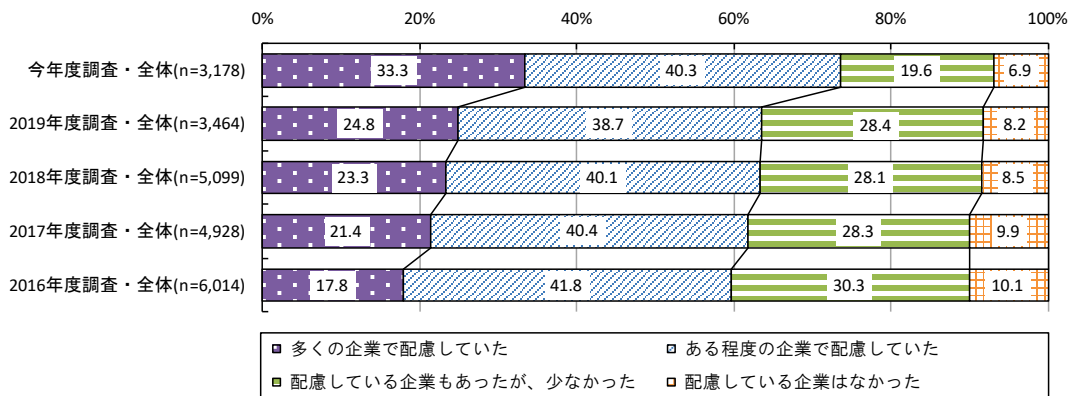
⁸³ 2015年度調査では当該設問について調査を実施していない。

(4) 遠隔地への就職活動への配慮

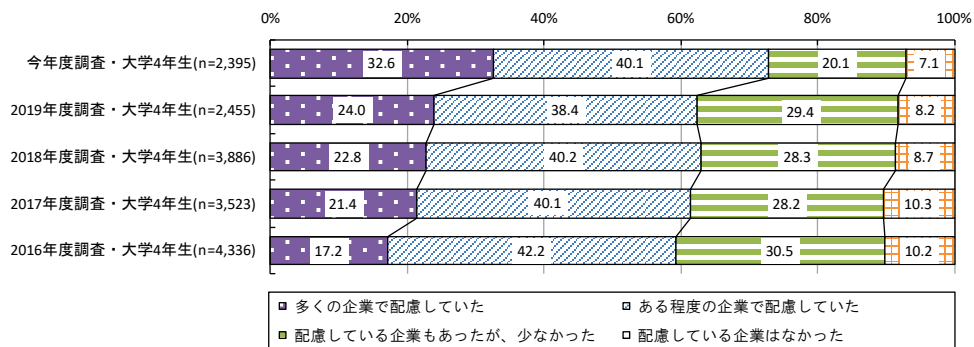
地方から都市部への就職活動や、Uターン・Iターン・Jターン就職など、学生の負担の大きい遠隔地への就職活動に際して、企業側からの配慮があったかについて、「よくわからない」と回答した者を除くと⁸⁴、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は約7割となっている。

2016年度調査～2019年度調査と比較すると、今年度調査は「多くの企業で配慮していた」の回答割合が高くなっている⁸⁵。

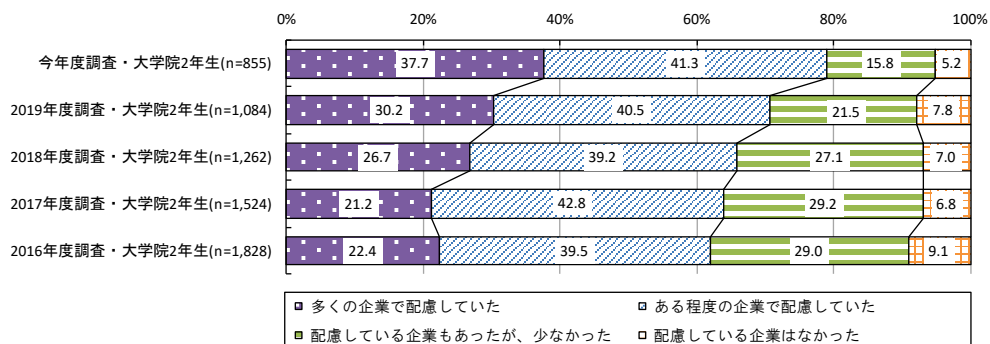
図表 4-4-1 遠隔地への就職活動に際する企業側からの配慮の状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



⁸⁴ 「地方から都市部への就職活動や、Uターン・Iターン・Jターン就職など、学生の負担の大きい遠隔地への就職活動に際して、企業側からの配慮がありましたか」という設問に対して、「自身が該当しないため、よくわからない」と回答した者は除いて集計した。

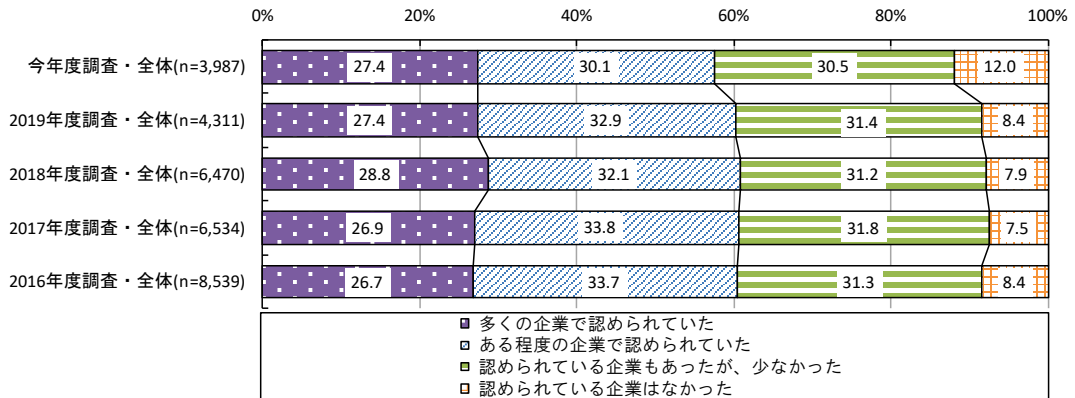
⁸⁵ 2015年度調査では当該設問について調査を実施していない。

(5) クールビズでの対応

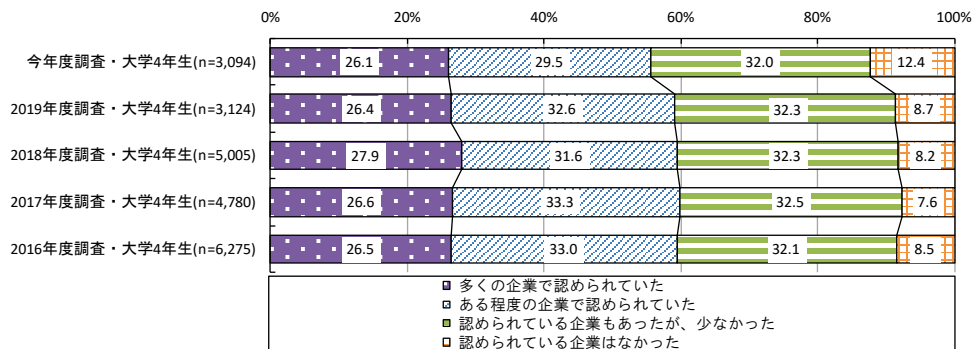
面接の実施にあたり、クールビズでの対応が認められていたかについて、「わからない」と回答した者を除くと⁸⁶、「多くの企業で認められていた」と「ある程度の企業で認められていた」を合わせた回答割合は約6割となっている。

これは、2016年度調査～2019年度調査とほぼ同様の結果となっている⁸⁷。

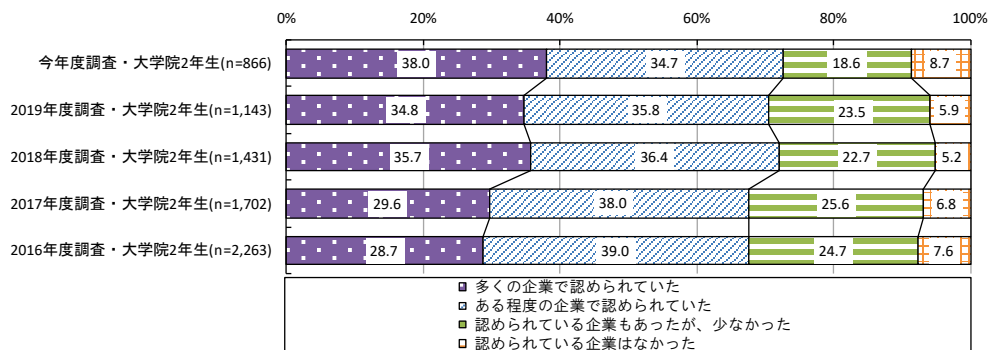
図表 4-5-1 面接の実施におけるクールビズでの対応の状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



⁸⁶ 「面接の実施等にあたり、クールビズでの対応が認められていましたか」という設問に対して、「暑い時期に就職活動を行っていない」「わからない」と回答した者は除いて集計した。

⁸⁷ 2015年度調査では当該設問について調査を実施していない。

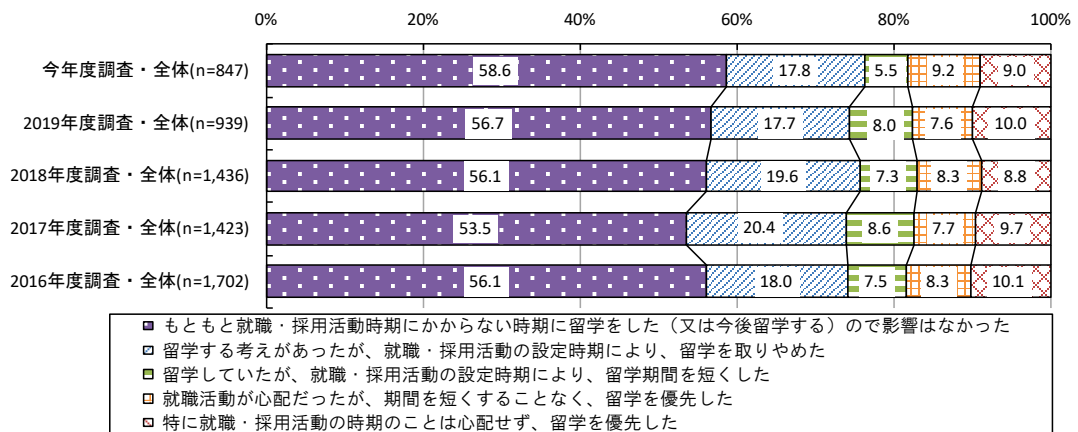
(6) 留学経験者への配慮

① 留学経験者及び留学を検討していた者の状況

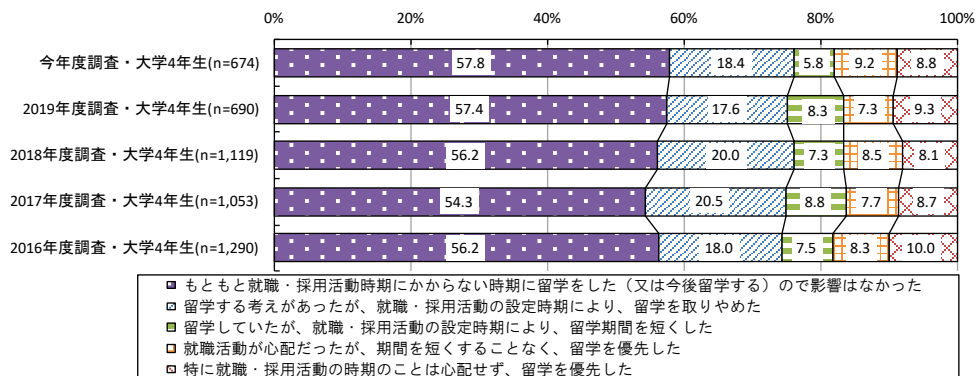
就職・採用活動の設定時期により留学の予定等に影響があったかについて、留学経験者及び留学を検討していた者のうち⁸⁸、約6割は「もともと就職・採用活動時期にかからない時期に留学をした（又は今後留学する）ので影響はなかった」と回答している。一方、約2割が「留学する考えがあったが、就職・採用活動の設定時期により、留学を取りやめた」と回答している。

これは、2016年度調査～2019年度調査とほぼ同様の結果となっている⁸⁹。

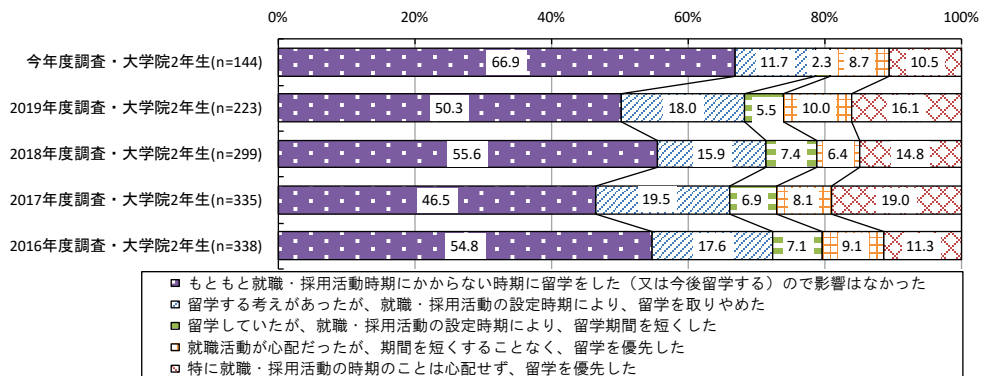
図表 4-6-1 留学経験者及び留学を検討していた者の状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



⁸⁸ 「就職・採用活動の設定時期（広報活動は3月1日以降、採用選考活動は6月1日以降に開始）により、留学の予定等に影響はありましたか」という設問に対して、「もともと留学する予定はなく、留学はしていない」と回答した者を除いて集計した。

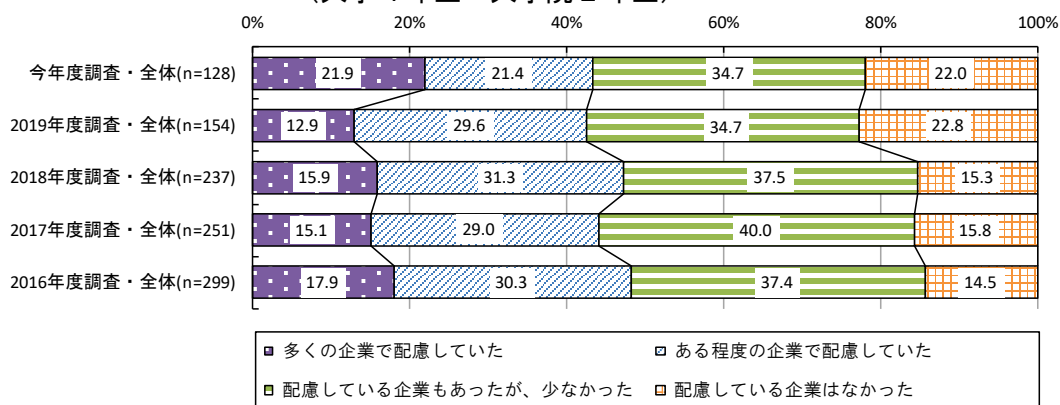
⁸⁹ 2015年度調査では当該設問について調査を実施していない。

②企業側から留学経験者に対する配慮の状況

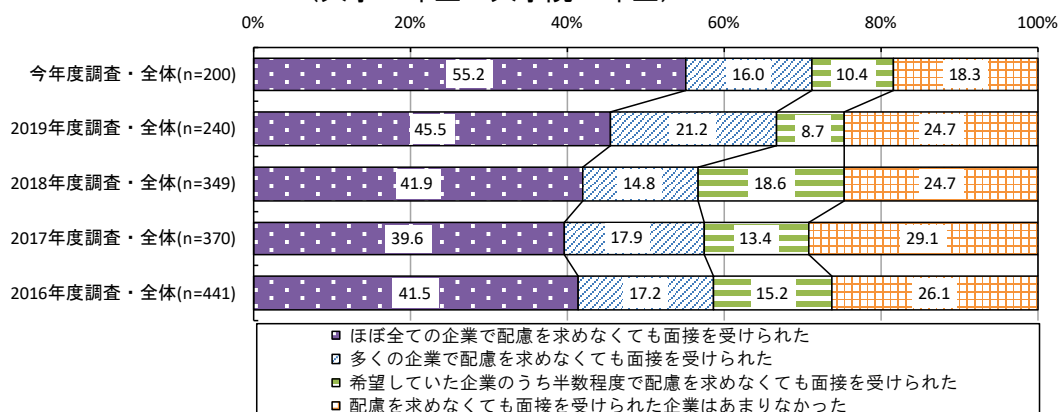
就職・採用活動期間中に留学を実際に行っていた者⁹⁰に関して、就職を希望した企業において、留学経験者が不利にならないよう留学経験者向けのスケジュールや情報を別途示すなど配慮があったかについて、「わからない」との回答を除くと⁹¹、約4割が「多くの企業で配慮していた」または「ある程度の企業で配慮していた」と回答している⁹²。この割合は2019年度調査と同様であるが、特に「多くの企業で配慮していた」の回答割合が高くなっている。

また、就職を希望していた企業のうち、面接の時期が留学と重なっていなかった、または留学経験者のための別日程が示されていたため、配慮を求めなくても面接を受けられた企業がどれくらいあったかについては、「ほぼ全ての企業で配慮を求めなくても面接を受けられた」の回答割合が約6割となっている。この割合は、過年度調査と比較して高くなっている。

図表 4-6-2 留学経験者に対する企業側の配慮の状況
(大学4年生・大学院2年生)



図表 4-6-3 留学経験者が配慮を求めなくても面接を受けられた企業の状況
(大学4年生・大学院2年生)



⁹⁰ 「留学していたが、就職・採用活動の設定時期により、留学期間を短くした」「就職活動が心配だったが、期間を短くすることなく、留学を優先した」「特に就職・採用活動の時期のことは心配せず、留学を優先した」と回答した者について集計した。なお、留学経験者に関する各設問について、2015年度調査では実施していない。

⁹¹ 「あなたが就職を希望した企業は、企業側から留学経験者向けのスケジュール・情報を別途示すなど、留学により不利にならないように配慮していましたか」という設問に対して、「留学経験者であることを特に意識せず就職活動を行ったため、わからない」と回答した者は除いて集計した。

⁹² 留学経験者の数が必ずしも多いわけではないことから、ここでは、大学4年生・大学院2年生について合わせて集計した結果のみ参照した。

③配慮を求めた際の対応等

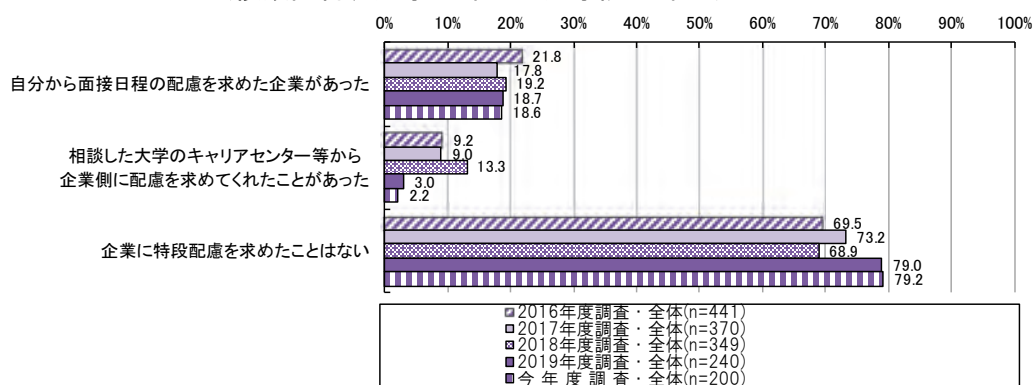
留学と採用選考の時期が重なることに関して、就職を希望した企業に対して面接日程の配慮を求めたことがあったかについて、「自分から面接日程の配慮を求めた企業があった」との回答が約 2 割となっており、「相談した大学のキャリアセンター等から企業側に配慮を求めてくれたことがあった」との回答は 1 割未満となっている⁹³。

自分から配慮を求めた場合の企業側の対応状況について⁹⁴、「配慮を求めた企業のほぼ全てが対応してくれた」「対応してくれた企業のほうが多い」の回答割合は合わせて約 6 割となっている。

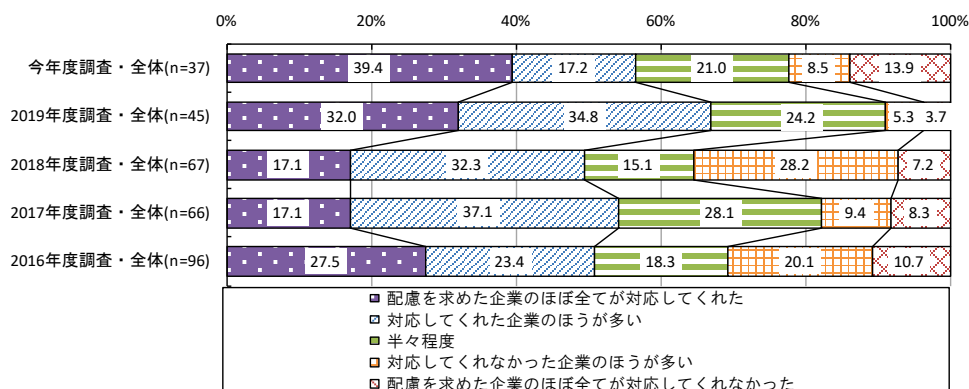
2016 年度調査～2019 年度調査と比較すると、今年度では 2019 年度よりこの割合が低くなっている一方、「配慮を求めた企業のほぼ全てが対応してくれなかった」の回答割合が過年度調査よりも高くなっている。

また、就職を希望していた企業のうち、企業側に面接日程についての配慮を求めることをせず、結果として留学と日程が重なり面接を諦めた企業がどのくらいあったかについては、「ほぼ全ての企業に対して配慮を求めることなく面接を諦めた」「多くの企業に対して配慮を求めることなく面接を諦めた」の回答割合を合わせると約 2 割となっている。

図表 4-6-4 留学経験者が就職を希望した企業に対して面接日程について配慮を求めたことがあったか
(複数回答、大学 4 年生・大学院 2 年生)



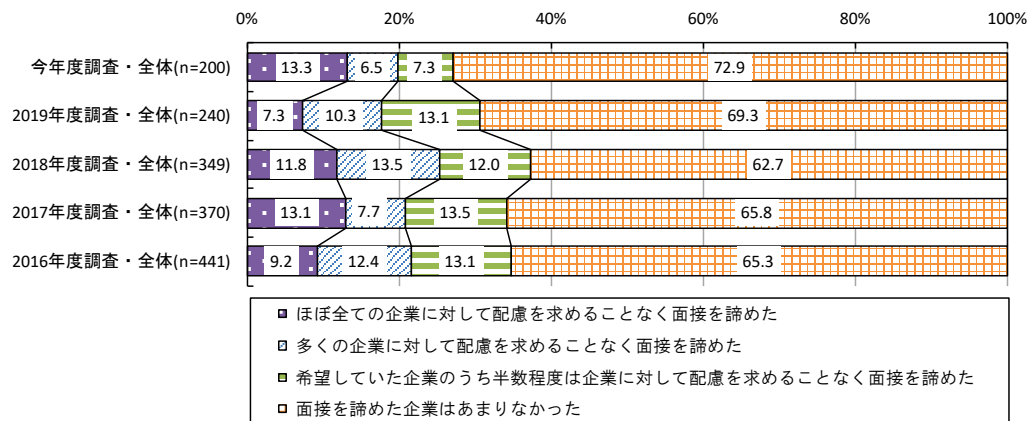
図表 4-6-5 留学経験者が配慮を求めた場合の企業の対応 (自分から配慮を求めた場合)
(大学 4 年生・大学院 2 年生)



⁹³ 留学経験者に関する各設問について、「留学していたが、就職・採用活動の設定時期により、留学期間を短くした」「就職活動が心配だったが、期間を短くすることなく、留学を優先した」「特に就職・採用活動の時期のことは心配せず、留学を優先した」と回答した者について集計した。なお、留学経験者に関する設問について、2015 年度調査では実施していない。

⁹⁴ 大学のキャリアセンター等から配慮を求めた場合に関しては、集計対象の件数が非常に少ないことから集計結果を掲載しなかった。

図表 4-6-6 留学経験者が企業に配慮を求めず、結果的に面接を諦めた企業の状況
(大学4年生・大学院2年生)



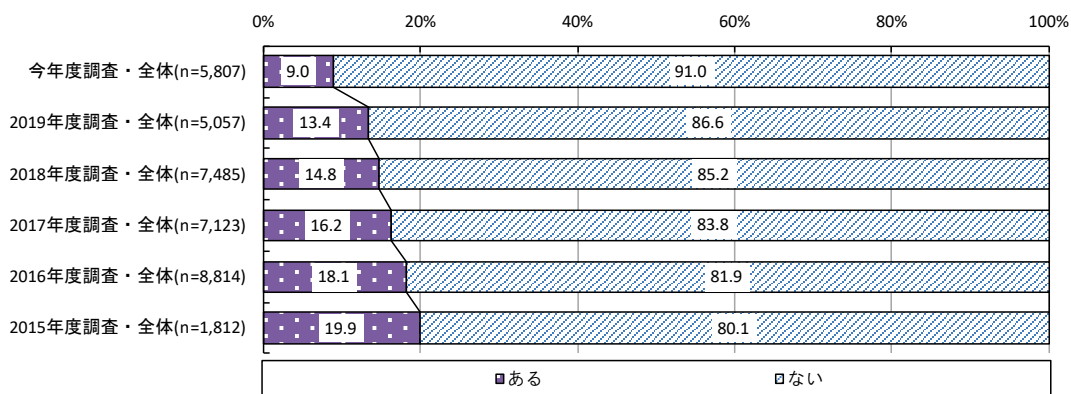
(7) 「オワハラ」の状況

① 「オワハラ」の有無

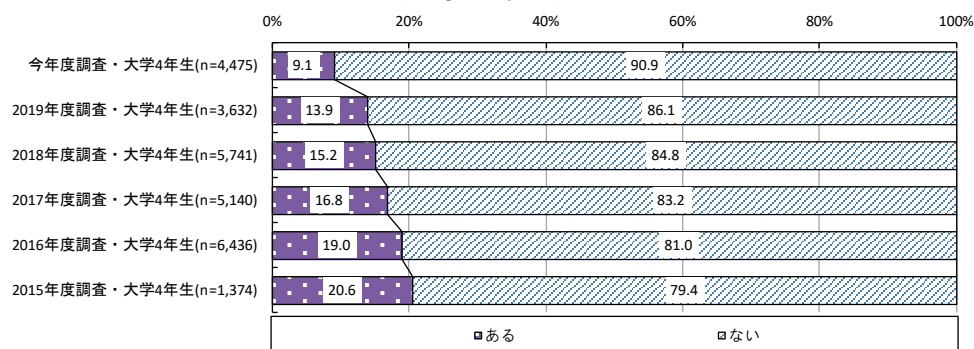
企業等から、他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為（「オワハラ」）を受けたことがあるかについて⁹⁵、約1割の者が「ある」と回答している。

過年度調査と比較すると、今年度調査では「ある」の回答割合が低くなっている。

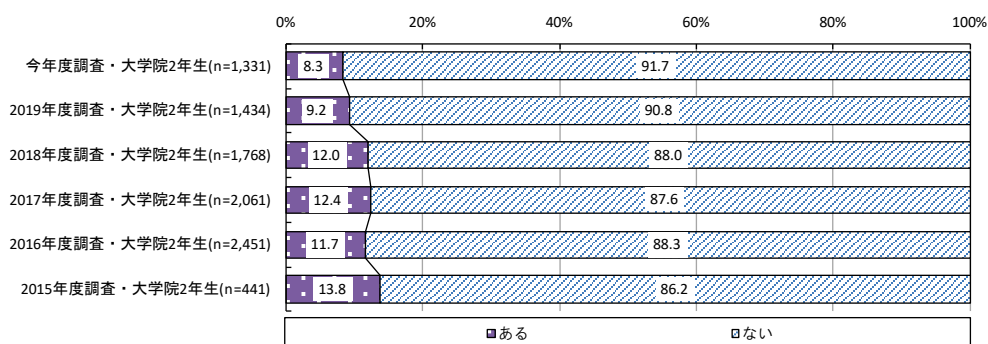
図表 4-7-1 企業から「オワハラ」を受けた経験の有無
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)

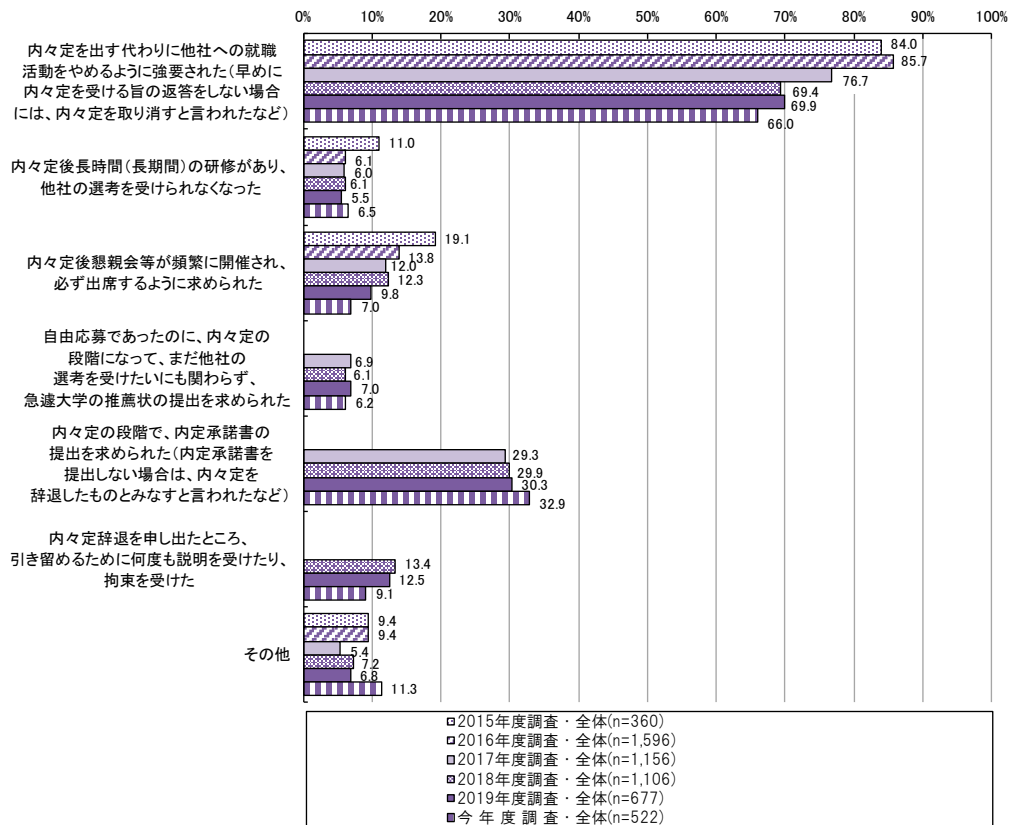


⁹⁵ 内々定を1社以上から受けた者を集計の対象とした。

②「オワハラ」の内容

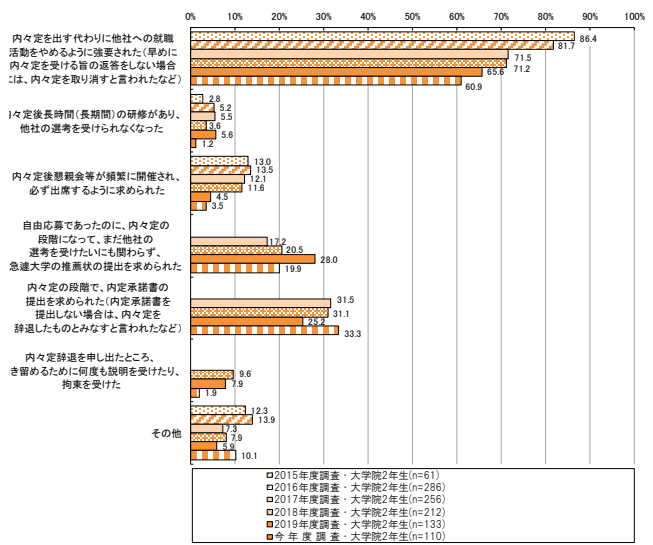
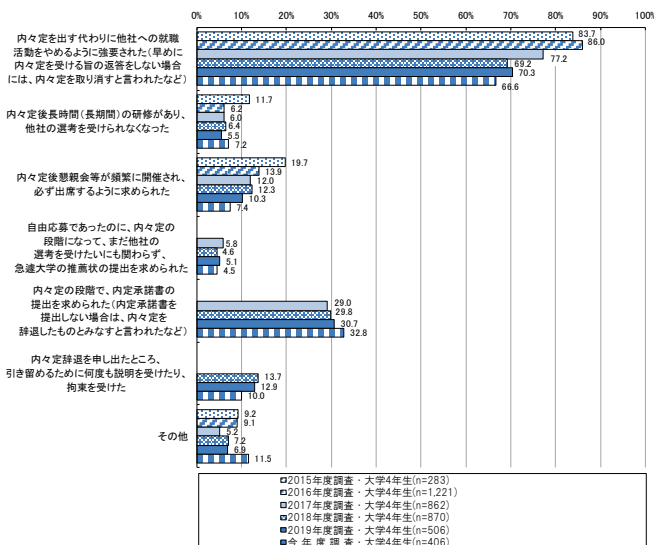
企業等から、「オワハラ」を受けたことがあると回答した者に関し、どのような行為を受けたかについては、「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された（早めに内々定を受ける旨の返答をしない場合には、内々定を取り消すと言われたなど）⁹⁶」の回答割合が約7割となっている。次いで、「内々定の段階で、内定承諾書の提出を求められた（内定承諾書を提出しない場合は、内々定を辞退したものとみなすと言われたなど）」の回答割合が約3割となっている。

図表 4-7-2 「オワハラ」の内容（複数回答）
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)

(大学院2年生)



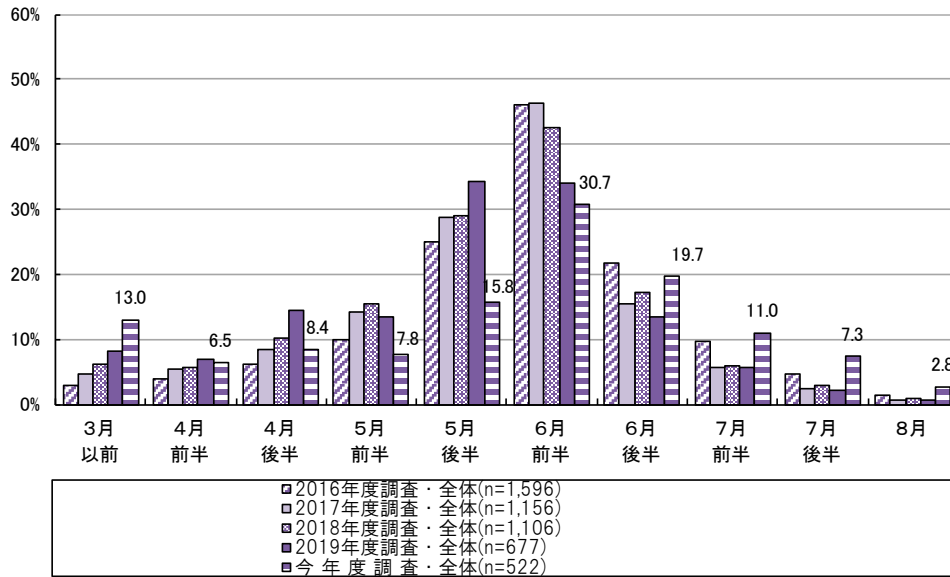
⁹⁶ 2018年度調査以前は、「早めに内々定を受ける旨の返答をしない場合には、内々定を取り消すと言われたなど」の例示はせず単に「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された」の項目で調査を実施している。

③ 「オワハラ」があった時期

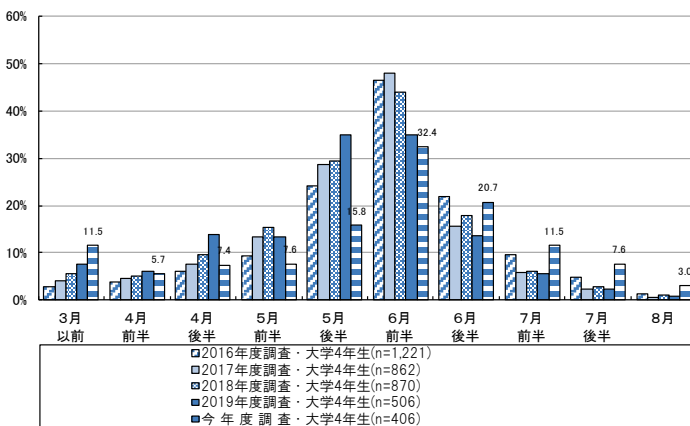
「オワハラ」を受けた時期について、「6月前半」の回答割合が約3割、次いで「6月後半」が約2割となっている。

2016年度調査～2019年度調査と比較すると、今年度調査では「3月以前」や「6月後半」以降の時期の回答割合が高くなっている。また、「4月前半」から「6月前半」の時期の回答割合は低くなっている⁹⁷。

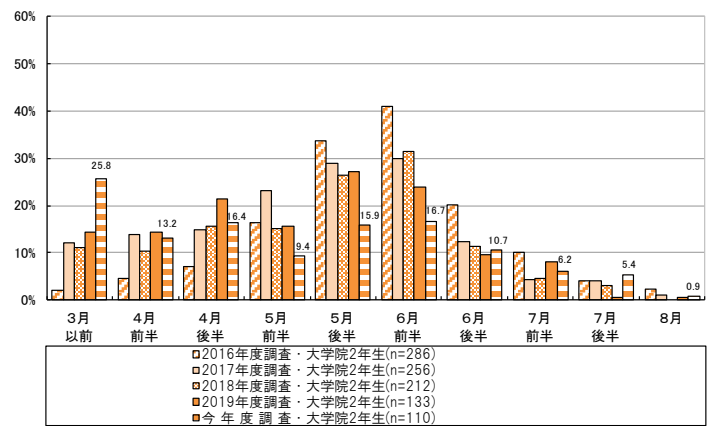
図表 4-7-3 「オワハラ」を受けた時期（複数回答）
（大学4年生・大学院2年生）



（大学4年生）



（大学院2年生）



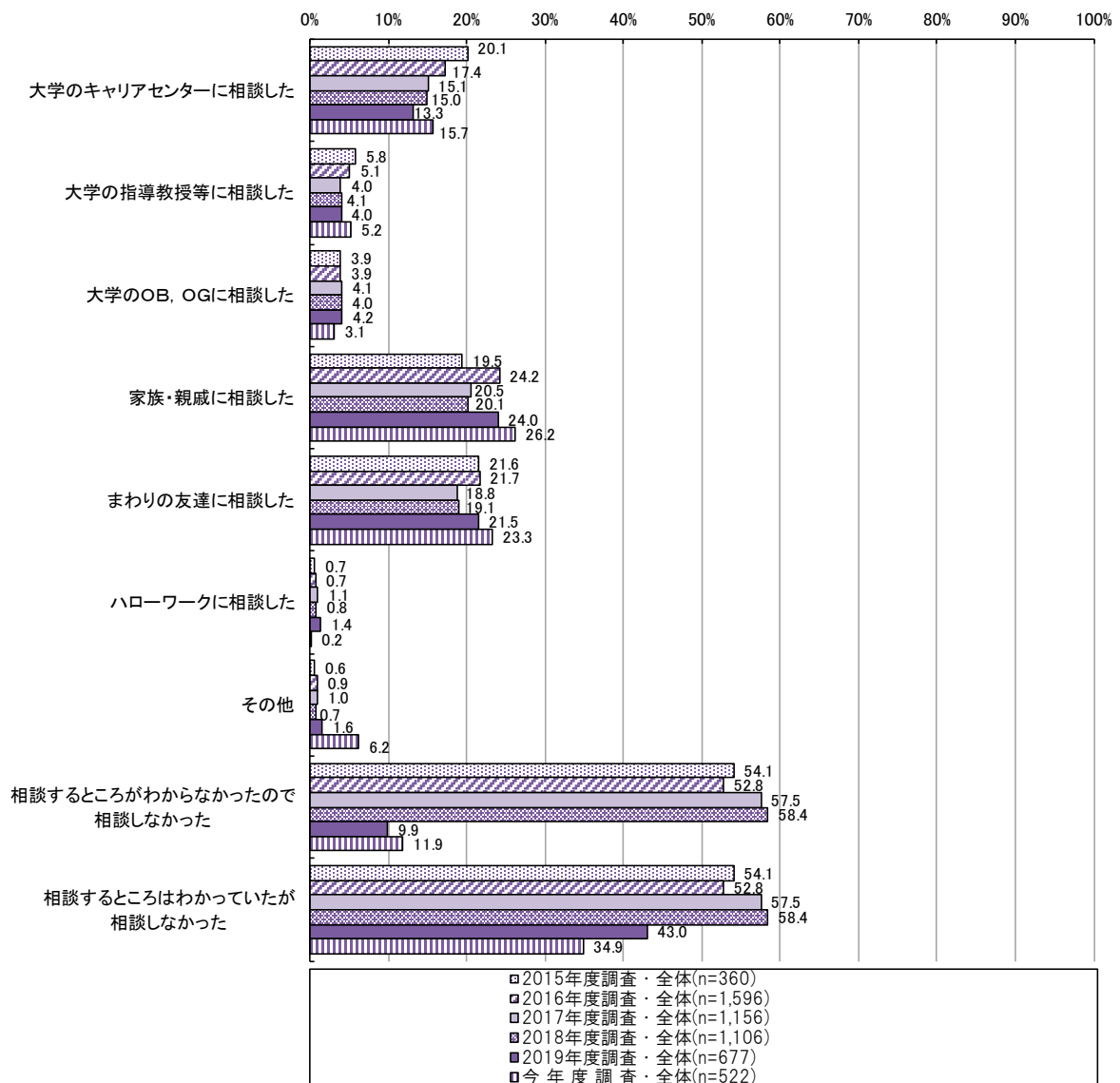
⁹⁷ 2015年度調査でもハラスメント的な行為を受けた時期に関する設問の調査をしているが、選択肢として設定している時期が他の年度の調査とは異なることから、ここでは比較の対象としなかった。

④「オワハラ」への対応

ハラスメント的な行為を受けた際の対応については、「家族・親戚に相談した」の回答割合が約3割、「まわりの友達に相談した」の回答割合が約2割となっている。これは、2019年度調査と比較するといずれも若干高くなっている。

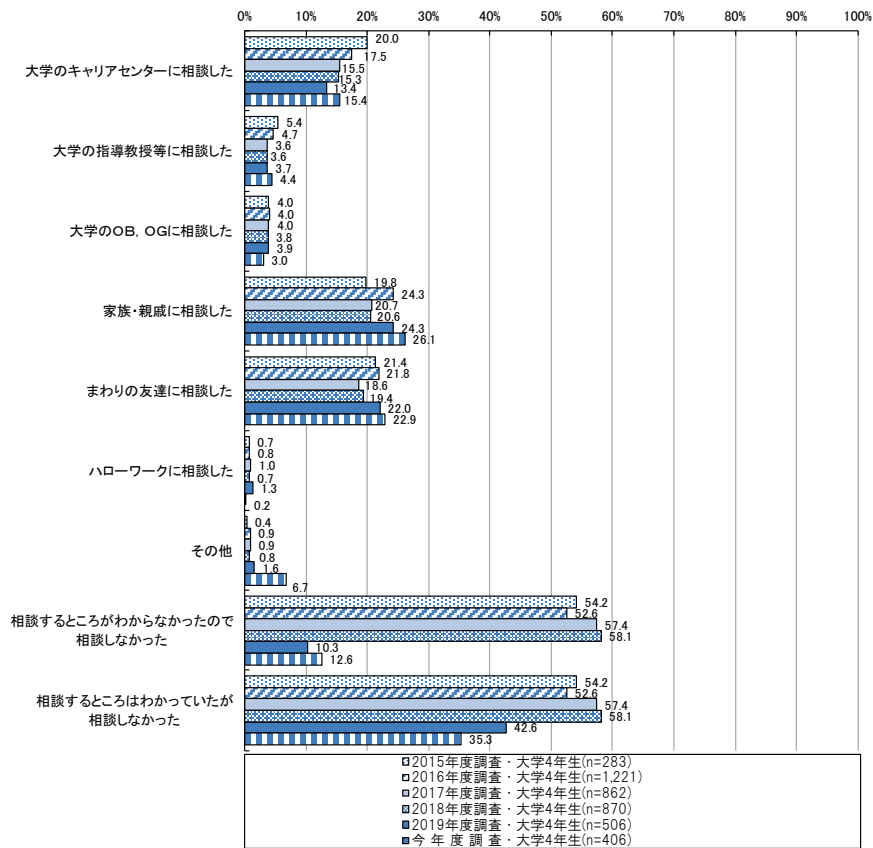
一方、「相談するところがわからなかったので相談しなかった」が約1割、「相談するところはわかっていたが相談しなかった」が約3割となっている⁹⁸。過年度調査と比較すると、2019年度調査との比較において、「相談するところはわかっていたが相談しなかった」の回答割合が低くなっている。

図表 4-7-4 企業からハラスメント的な行為を受けた際の対応（複数回答）
（大学4年生・大学院2年生）

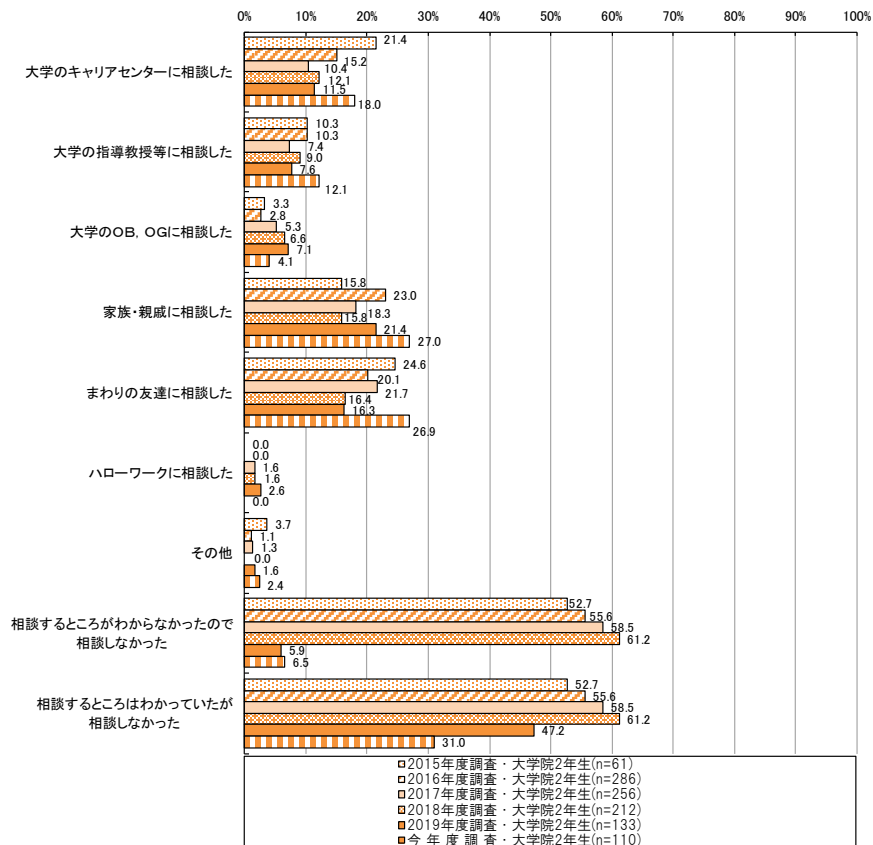


⁹⁸ 「相談するところがわからなかったので相談しなかった」と「相談するところはわかっていたが相談しなかった」は、2019年度調査以降新たに設けた項目で、2018年度調査以前は単に「相談しなかった」という項目で調査していた。図表4-7-4の2015年度調査～2018年度調査の結果では、「相談しなかった」という項目の回答割合を、「相談するところがわからなかったので相談しなかった」と「相談するところはわかっていたが相談しなかった」の項目の中で繰り返して掲載している。

(大学4年生)



(大学院2年生)

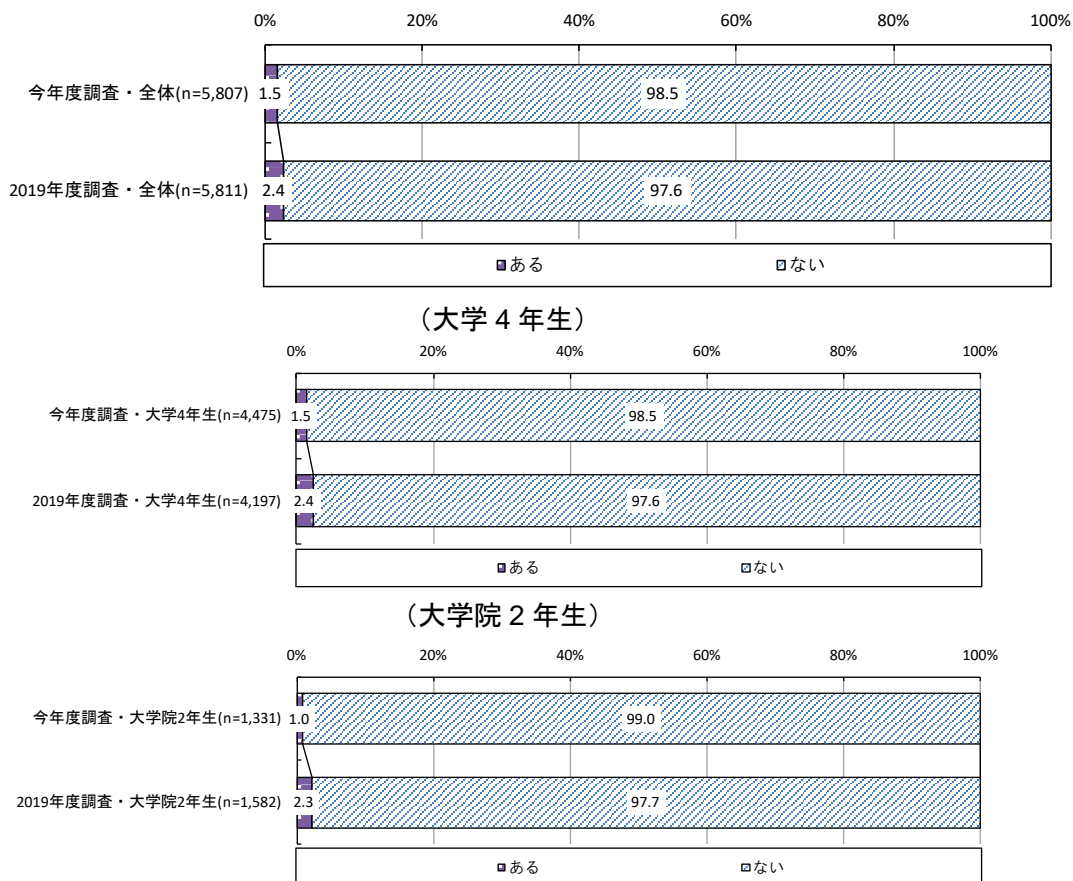


(8) セクシュアルハラスメントの状況

①セクシュアルハラスメント行為の有無

就職活動の過程において、セクシュアルハラスメント行為を受けたことがあるかについて、「ある」の回答割合は1.5%であった⁹⁹。

図表 4-8-1 セクシュアルハラスメント行為を受けた経験の有無
(大学4年生・大学院2年生)



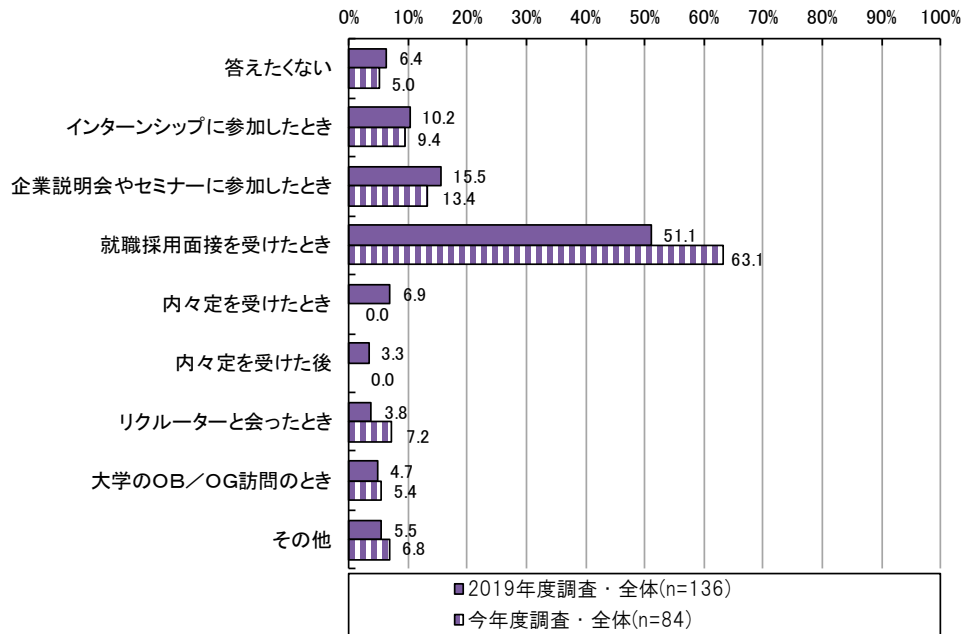
⁹⁹ 2018年度調査以前は当該設問について調査を実施していない。(以降のセクシュアルハラスメント行為に関する各設問についても同様)

②セクシュアルハラスメント行為を受けたタイミング

セクシュアルハラスメント行為を受けたことがあると回答した者に関し¹⁰⁰、行為を受けたタイミングとしては、「就職採用面接を受けたとき」との回答が約6割と最も多く、次いで「企業説明会やセミナーに参加したとき」が約1割となっている。また、「内々定を受けたとき」「内々定を受けた後」と回答した者はいない結果となっている。

2019年度調査と比較すると、「就職採用面接を受けたとき」の回答割合が高くなっている。

図表 4-8-2 セクシュアルハラスメント行為を受けたタイミング（複数回答）
（大学4年生・大学院2年生）



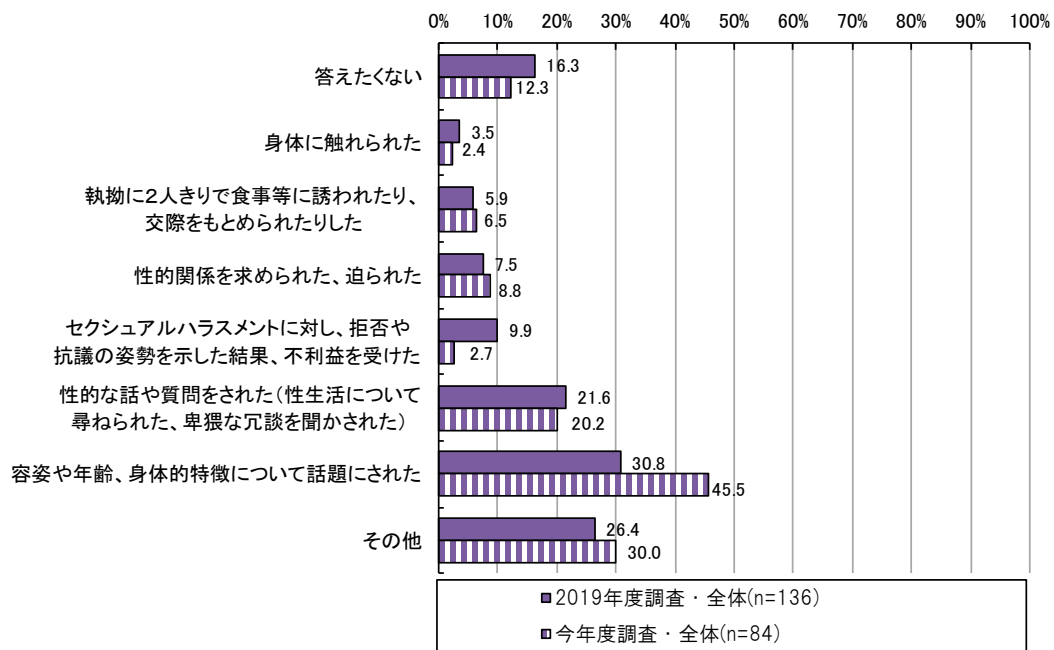
¹⁰⁰ 以降の設問に関してはセクシュアルハラスメント行為を受けたことがあると回答した者を調査・集計の対象としたが、選択肢として「答えたくない」の項目を設けた上で、差し支えない範囲で回答いただくように案内をした（アンケート調査の最終の項目とし、当該調査項目に回答しなくても回答終了とすることが可能なように設定をした）。なお、集計対象者の数が必ずしも多いわけではないことから、ここでは、大学4年生・大学院2年生について合わせて集計した結果のみ参照した。

③セクシュアルハラスメント行為の内容

どのようなセクシュアルハラスメント行為を受けたかについて、「容姿や年齢、身体的特徴について話題にされた」が約 5 割、「性的な話や質問をされた（性生活について尋ねられた、卑猥な冗談を聞かされた）」が約 2 割となっている。また、「その他」の回答割合も約 3 割となっている。

2019 年度調査と比較すると、「容姿や年齢、身体的特徴について話題にされた」の回答割合は高くなっている。

図表 4-8-3 セクシュアルハラスメント行為の内容（複数回答）
（大学 4 年生・大学院 2 年生）

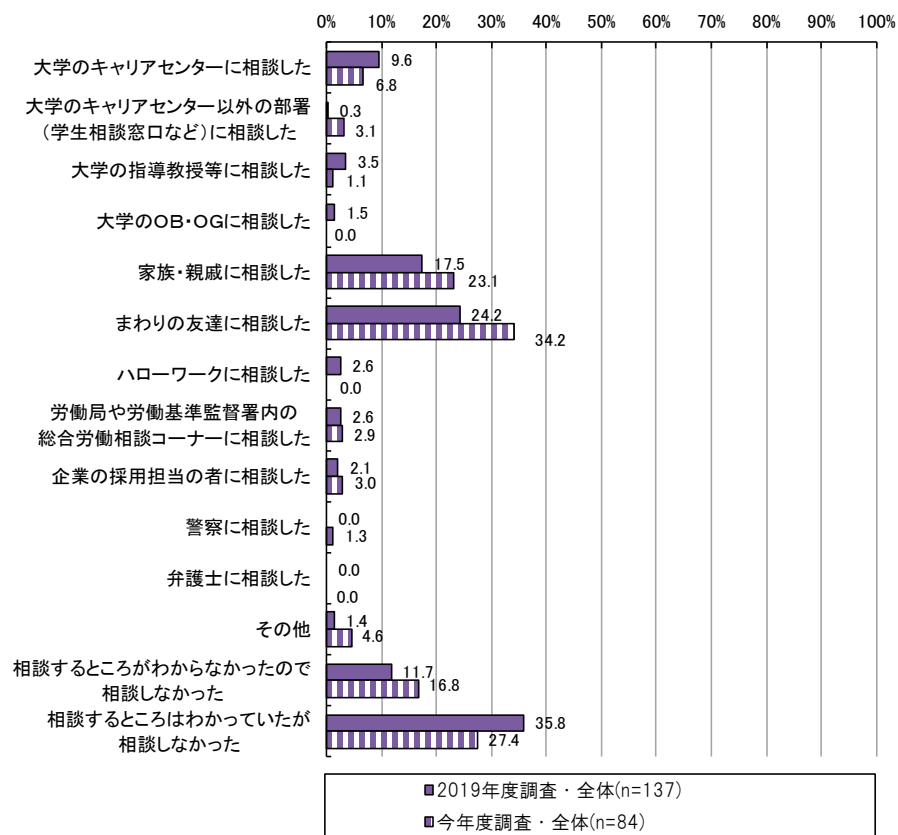


④セクシュアルハラスメント行為に関する相談

セクシュアルハラスメント行為に関し相談したことがあるかについて、「相談するところはわかっていたが相談しなかった」が約3割、「相談するところがわからなかったので相談しなかった」は約2割となっている。相談先としては、「まわりの友達に相談した」が約3割、「家族・親戚に相談した」が約2割となっている。

2019年度調査と比較すると、「相談するところがわからなかったので相談しなかった」の回答割合は高くなっているが、「相談するところはわかっていたが相談しなかった」は低くなっている。相談先としては「家族・親戚に相談した」「まわりの友達に相談した」などの項目で回答割合が高くなっている。

図表 4-8-4 セクシュアルハラスメント行為に関する相談（複数回答）
（大学4年生・大学院2年生）

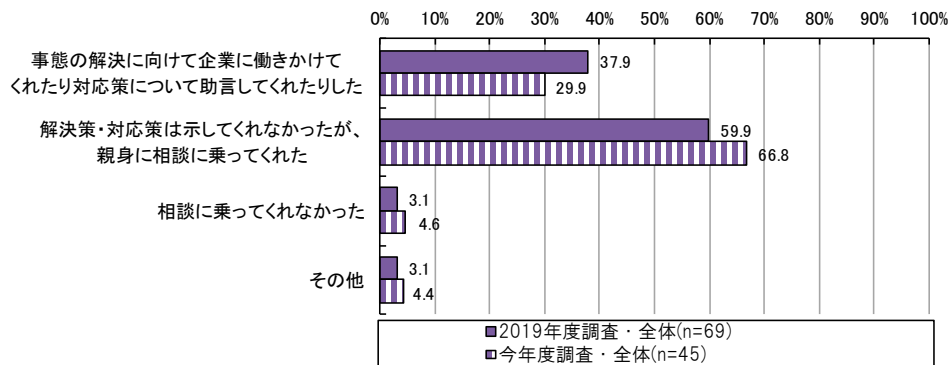


⑤セクシュアルハラスメント行為に関する相談への対応

セクシュアルハラスメント行為を相談したときの対応について、「解決策・対応策は示してくれなかったが、親身に相談に乗ってくれた」が約 7 割、「事態の解決に向けて企業に働きかけてくれたり対応策について助言してくれたりした」が約 3 割となっている。

2019 年度調査と比較すると、「事態の解決に向けて企業に働きかけてくれたり対応策について助言してくれたりした」の回答割合は低くなり、「解決策・対応策は示してくれなかったが、親身に相談に乗ってくれた」や「相談に乗ってくれなかった」の回答割合は高くなっている。

図表 4-8-5 セクシュアルハラスメント行為に関する相談への対応（複数回答）
（大学 4 年生・大学院 2 年生）

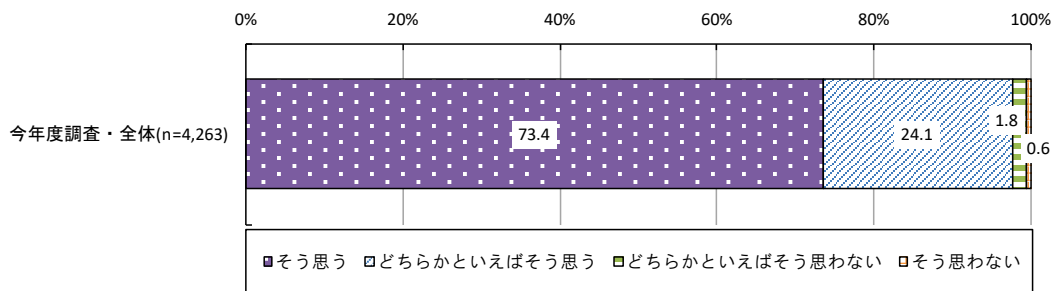


(9) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響

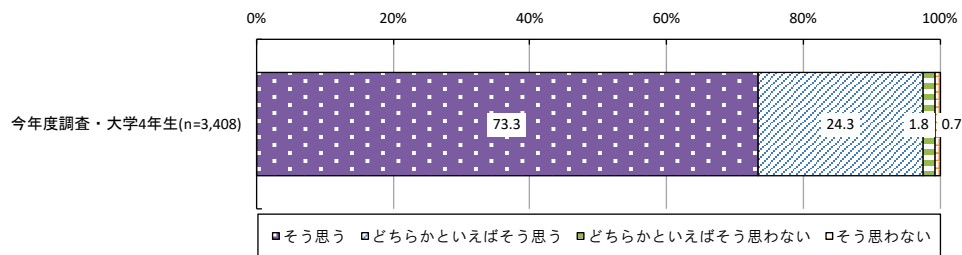
① 企業説明会やセミナー等における感染拡大防止の配慮

対面での企業説明会やセミナー等の開催にあたって、出席者へのマスクの着用や手洗いの推奨、アルコール消毒薬の設置、こまめな換気など、感染の拡大防止について企業が配慮していたかについて、「新型コロナウイルス感染症の拡大前の時期の参加であったため、わからない」と回答した者を除くと、「そう思う」の回答割合が約7割、「どちらかといえばそう思う」と合わせた回答割合が9割以上となっている¹⁰¹。

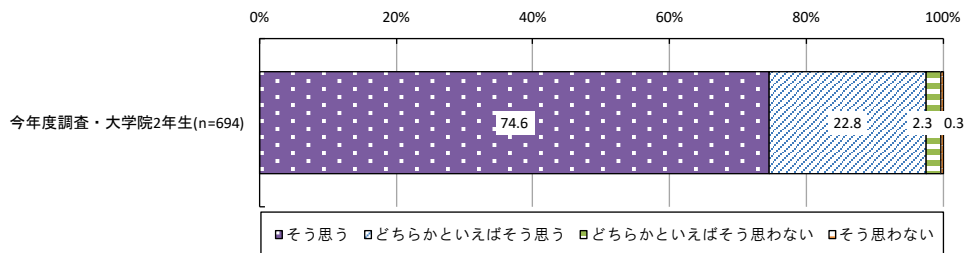
図表 4-9-1 対面での説明会やセミナーにおける企業の感染拡大防止の配慮の状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)

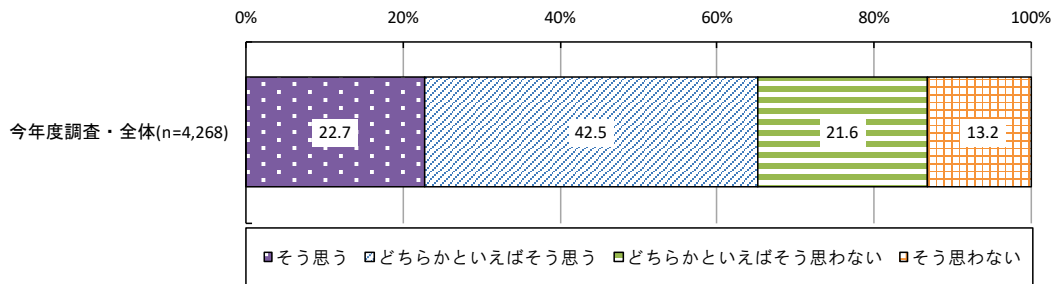


¹⁰¹ 企業説明会やセミナー等について、「対面のみでの参加」または「対面とウェブ等の両方での参加」に1社以上回答した者のみを集計対象とした。

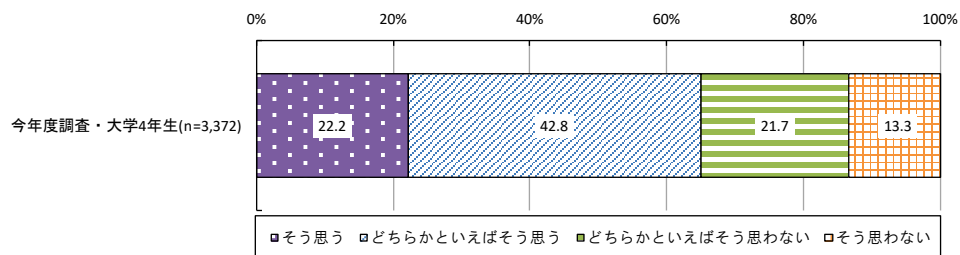
②企業説明会やセミナー等の開催時期変更・中止に関する連絡の学生への影響の考慮

企業説明会やセミナー等の開催時期の変更や中止に関する企業からの連絡が、できるだけ早期に、余裕を持って行われるなど、学生への影響を考慮していたかについて、「わからない」と回答した者を除くと、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合は約7割となっている¹⁰²。

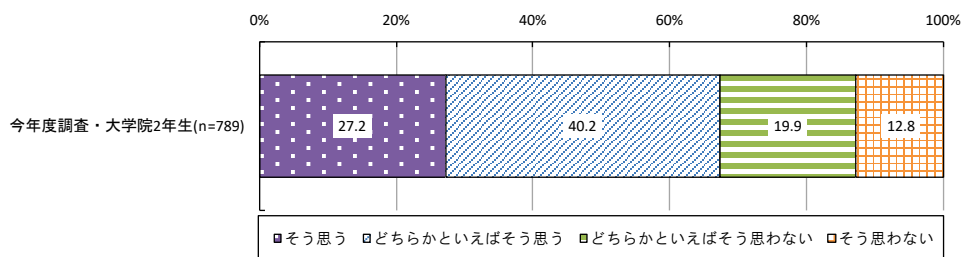
図表 4-9-2 企業説明会やセミナー等の開催時期に関する連絡の学生への影響の考慮の状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)

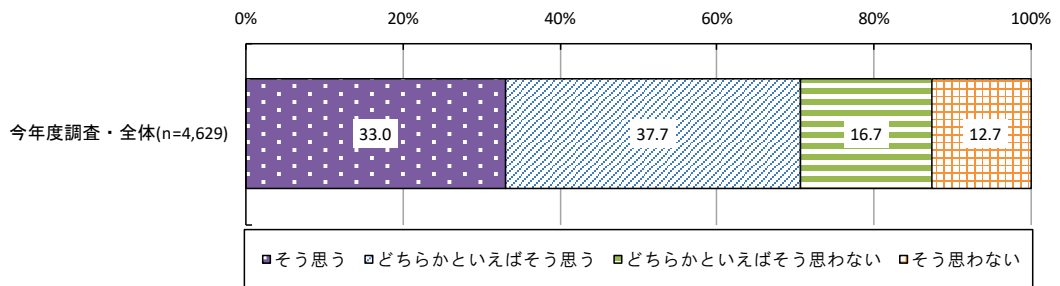


¹⁰² 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響で、「開催時期が後ろ倒しに変更された」、または「参加を予定していたが開催が中止になった」企業説明会やセミナー等が1社以上あったと回答した者のみを集計対象とした。

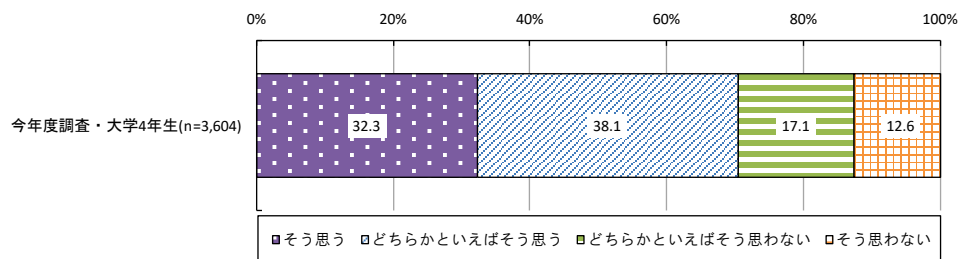
③対面での企業説明会やセミナー等への欠席と採用選考への影響に関する説明

対面での企業説明会やセミナー等について、参加できなかったことをもってその後の採用選考に影響を与えることはない旨の説明が企業等からされていたかについて、「わからない」と回答した者を除くと、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合は約7割となっている。

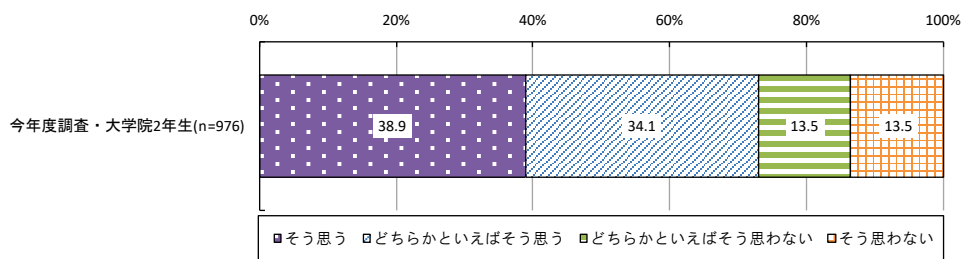
図表 4-9-3 対面での企業説明会やセミナー等への欠席と採用選考への影響に関する説明の状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



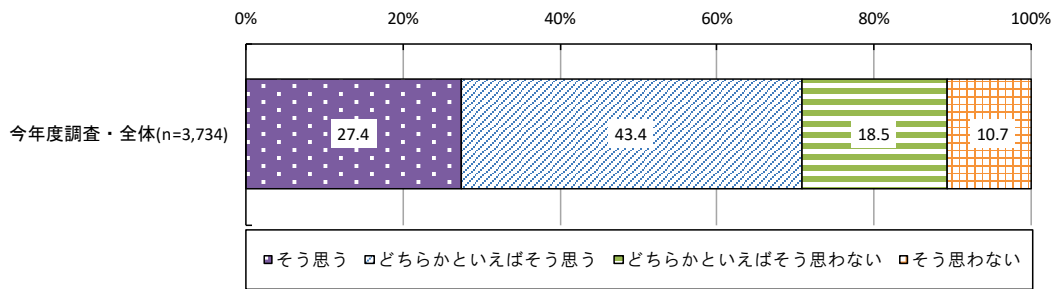
(大学院2年生)



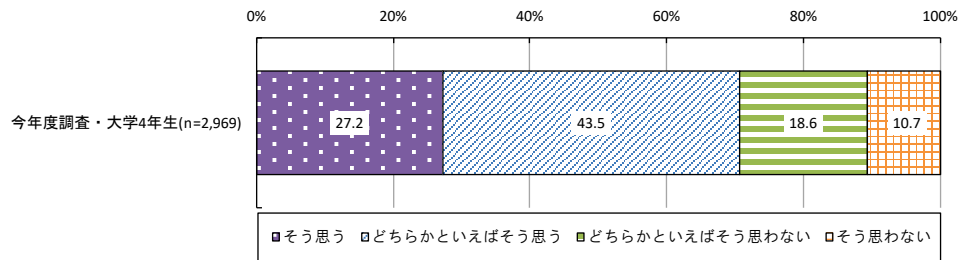
④エントリーシートの受付期間の変更・中止に関する連絡

エントリーシートの受付開始時期の変更や提出期限の延長、中止の企業からの連絡が、できるだけ早期に、余裕を持っておこなわれるなど、学生への影響を考慮していたかについて、「わからない」と回答した者を除くと、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合は約 7 割となっている¹⁰³。

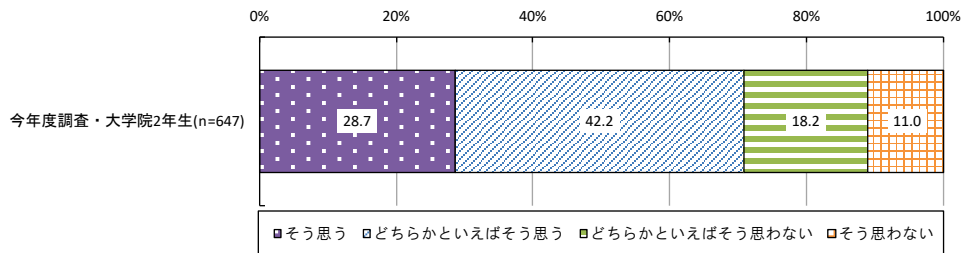
図表 4-9-4 エントリーシートの受付期間に関する連絡の学生への影響の考慮の状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)

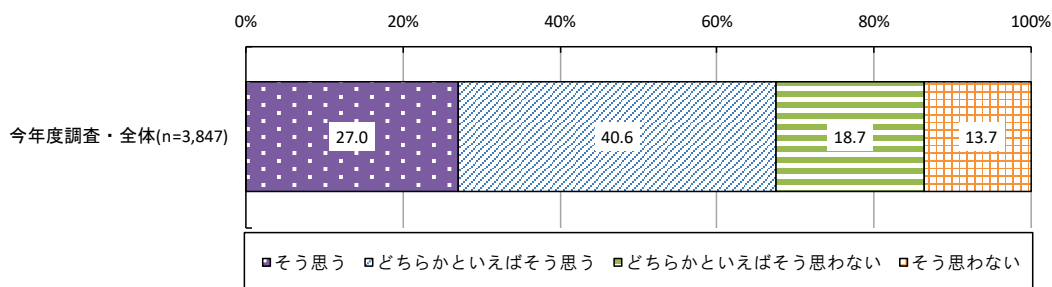


¹⁰³ 新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、「エントリーシート受付開始時期が後ろ倒しに変更された」、「エントリーシートの提出期限が延長された」、または「エントリーシート提出を予定していたがエントリーの受付が中止になった」企業が1社以上あった者のみを集計対象とした。

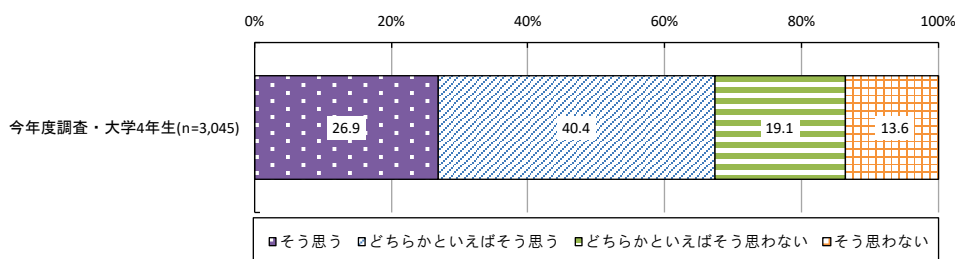
⑤採用面接の時期の変更・中止に関する連絡

採用面接の時期を後ろ倒しに変更することや中止の連絡が、できるだけ早期に、余裕を持って行われるなど、学生への影響を考慮していたかについて、「わからない」と回答した者を除くと、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合は約7割となっている¹⁰⁴。

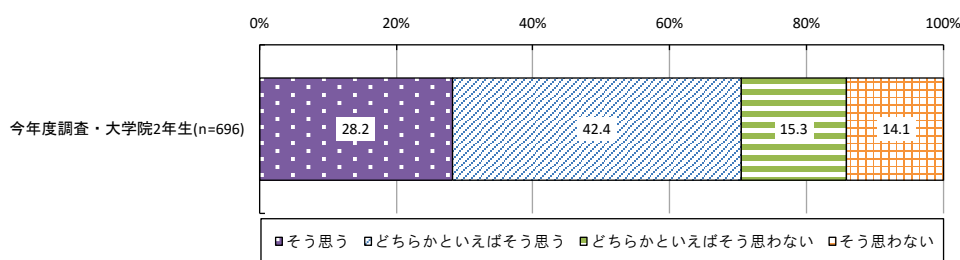
図表 4-9-5 採用面接の時期に関する連絡の学生への影響の考慮の状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)

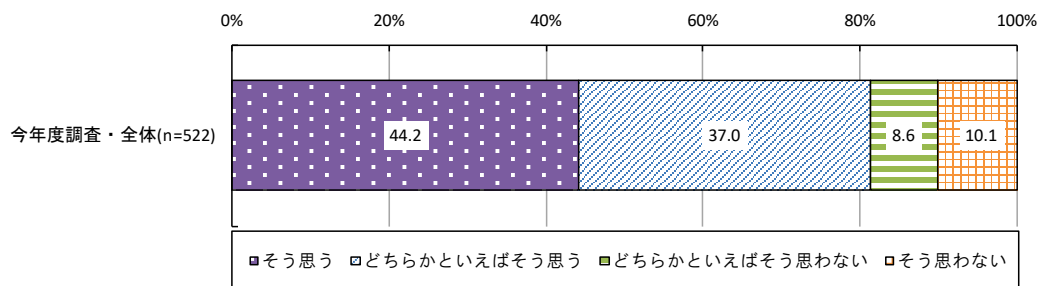


¹⁰⁴ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響で、「実施時期が後ろ倒しに変更された」、または「受けることが予定されていたが中止になった」採用面接が1社以上あったと回答した者のみを集計対象とした。

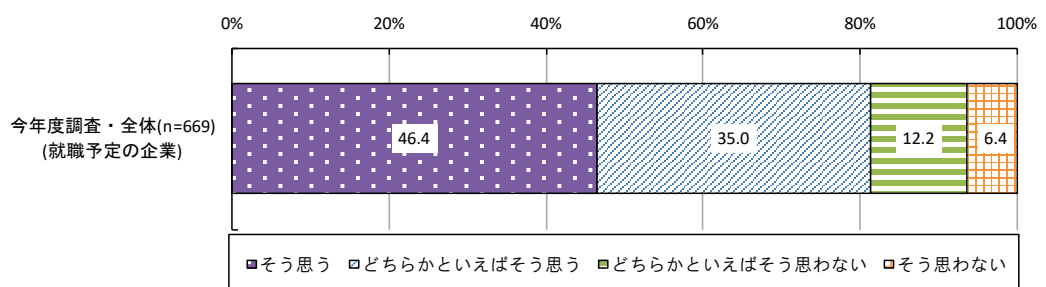
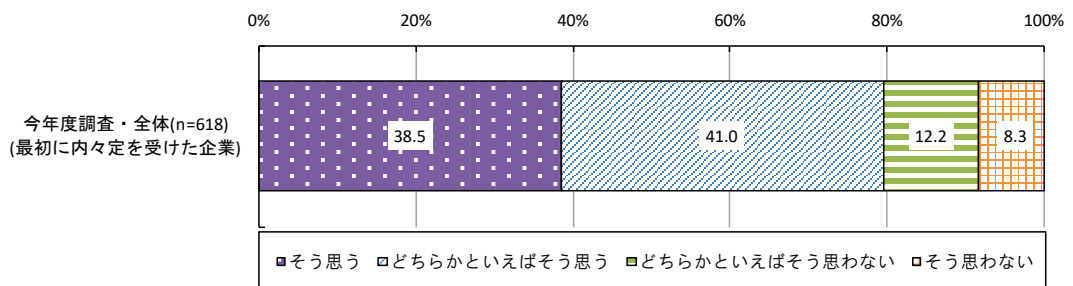
⑥内々定の通知時期変更に関する連絡

内々定の通知時期を後ろ倒しに変更することの連絡が、できるだけ早期に、余裕を持って行われるなど、学生への影響を考慮していたかについて、「わからない」と回答した者を除くと、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合は、1社から内々定を受けた者、複数社から内々定を受けた者の最初の内々定の企業・就職予定の企業いずれについても、約8割となっている¹⁰⁵。

図表 4-9-6 内々定の通知時期変更に関する連絡の学生への影響の考慮の状況
(大学4年生・大学院2年生)
<1社から内々定を受けた者>



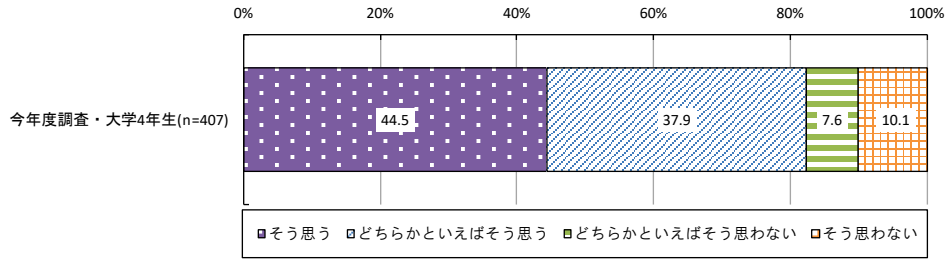
<複数社から内々定を受けた者>



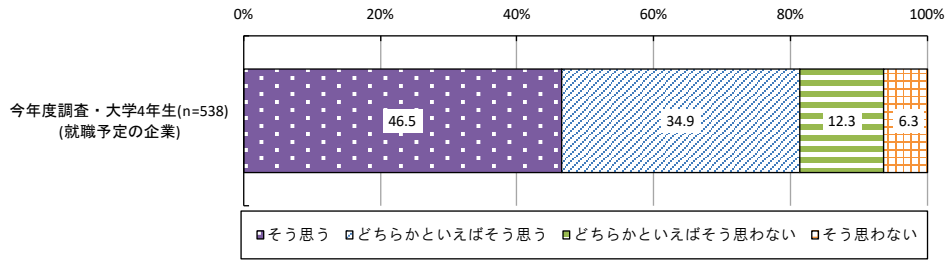
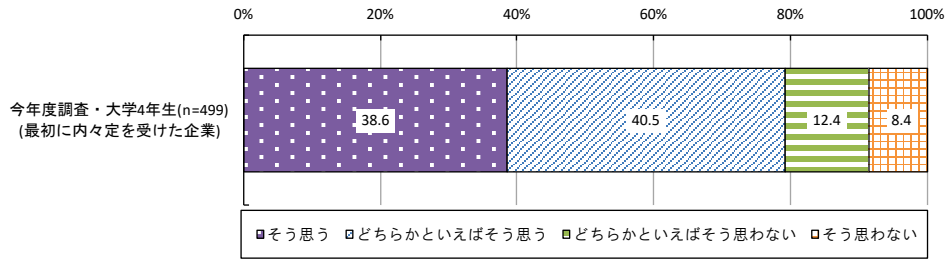
¹⁰⁵ 1社から内々定を受けた者についてはその内々定を受けた時期が、複数社から内々定を受けた者については最初の内々定と就職予定の企業の内々定それぞれを受けた時期が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、当初企業から案内されていた時期から後ろ倒しに「変更された」と回答した者のみを集計対象とした。

(大学4年生)

<1社から内々定を受けた者>

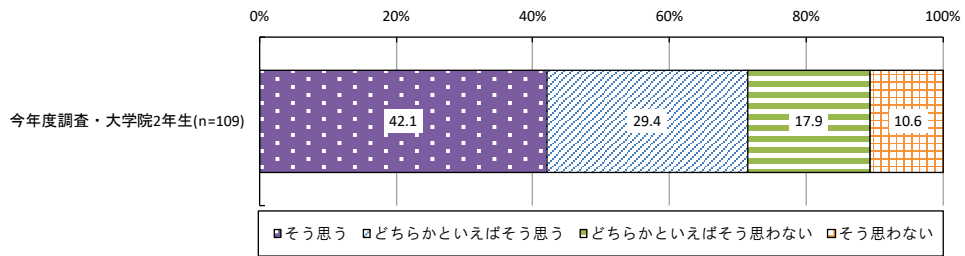


<複数社から内々定を受けた者>

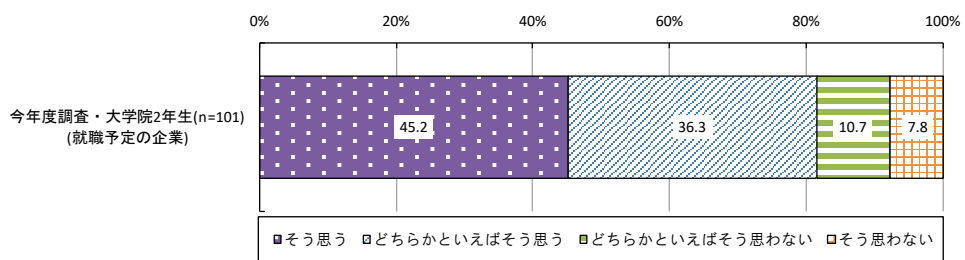
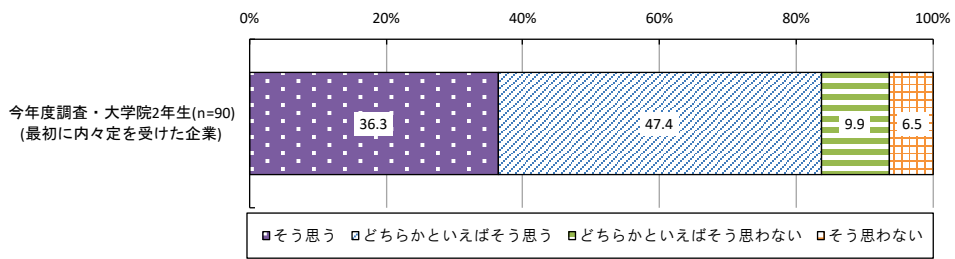


(大学院2年生)

<1社から内々定を受けた者>



<複数社から内々定を受けた者>

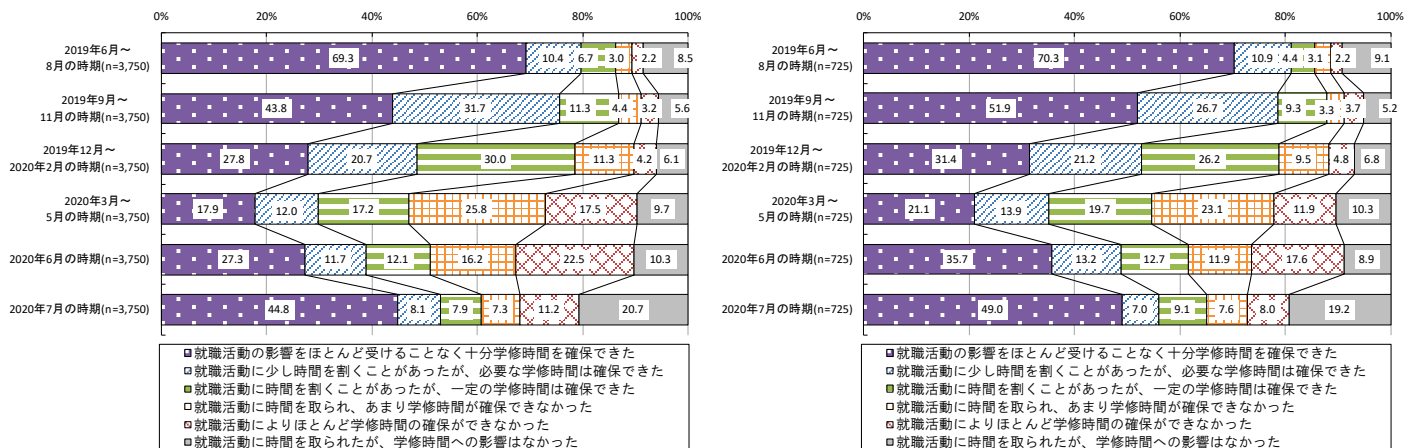


第5章 文系・理系別の集計

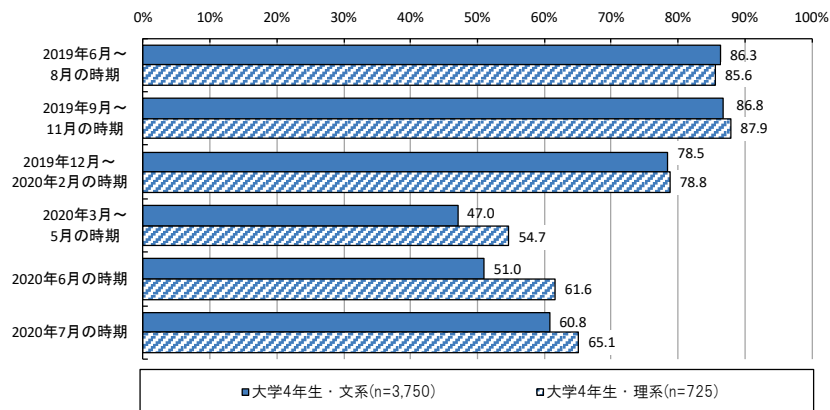
①文系・理系別の就職活動と学修時間確保の状況

就職活動と学修時間確保の状況について、大学4年生・大学院2年生のそれぞれについて文系・理系別に集計すると、「十分学修時間を確保できた」、「必要な学修時間は確保できた」、「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合は、大学4年生・大学院2年生ともに「2020年3月～5月の時期」以降で理系の学生の方が高くなっている。

図表 5-1-1 大学4年生の文系・理系別、就職活動と学修時間確保の状況
(文系) (理系)

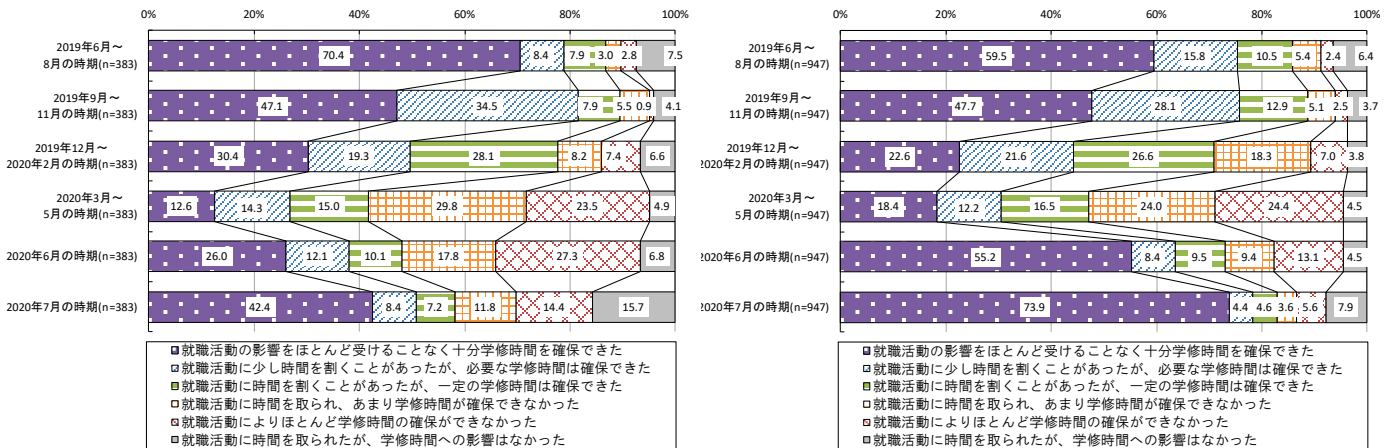


(文系・理系別比較)

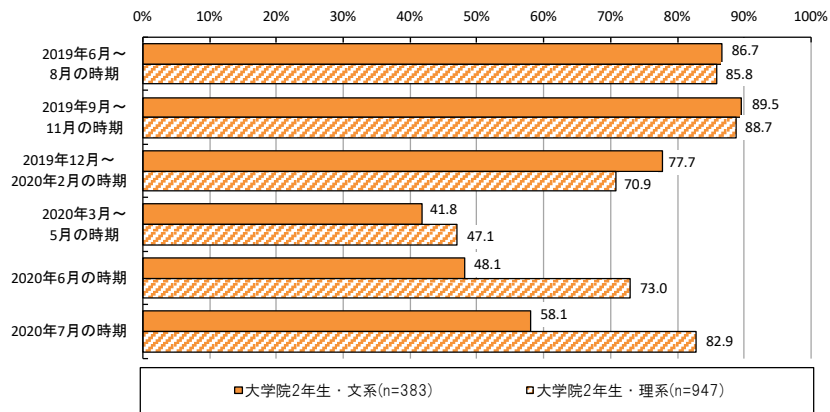


※「十分学修時間を確保できた」「必要な学修時間は確保できた」「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合

図表 5-1-2 大学院 2 年生の文系・理系別、就職活動と学修時間確保の状況
(文系) (理系)



(文系・理系別比較)

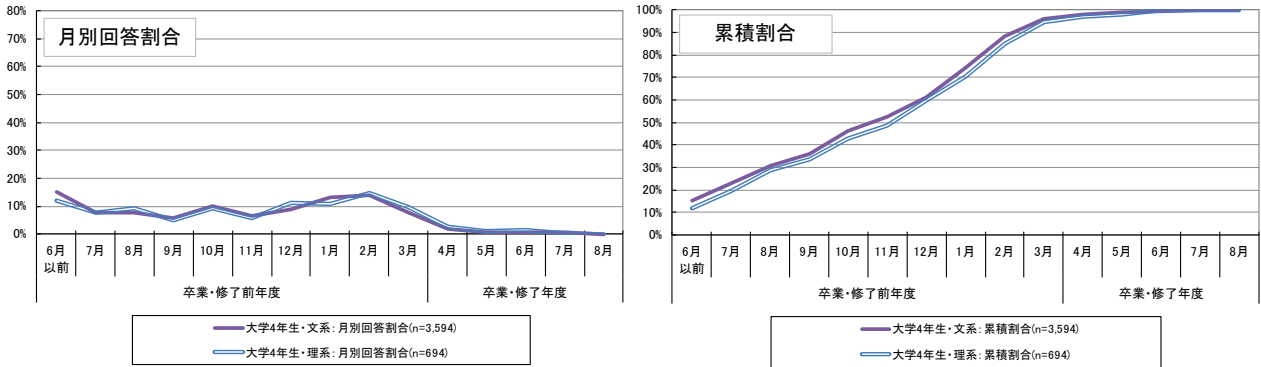


※「十分学修時間を確保できた」「必要な学修時間は確保できた」「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合

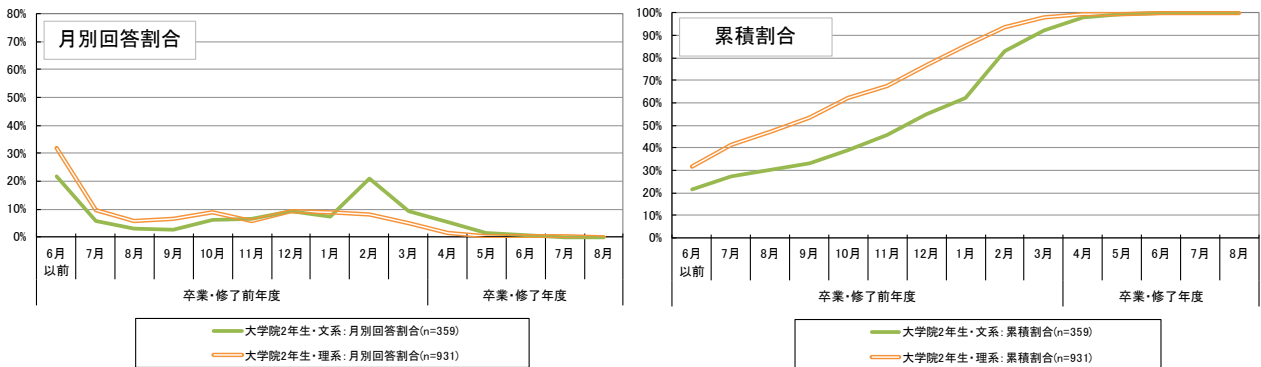
②文系・理系別の業界や企業に関する分析を開始した時期

文系・理系別に、業界や企業に関する分析を開始した時期を集計すると106、大学4年生は文系・理系で概ね同様の結果となっている。大学院2年生では、理系の学生の方がより早期の回答割合が高くなっている。

図表 5-2-1 文系・理系別、業界や企業に関する分析を開始した時期
(大学4年生)



(大学院2年生)



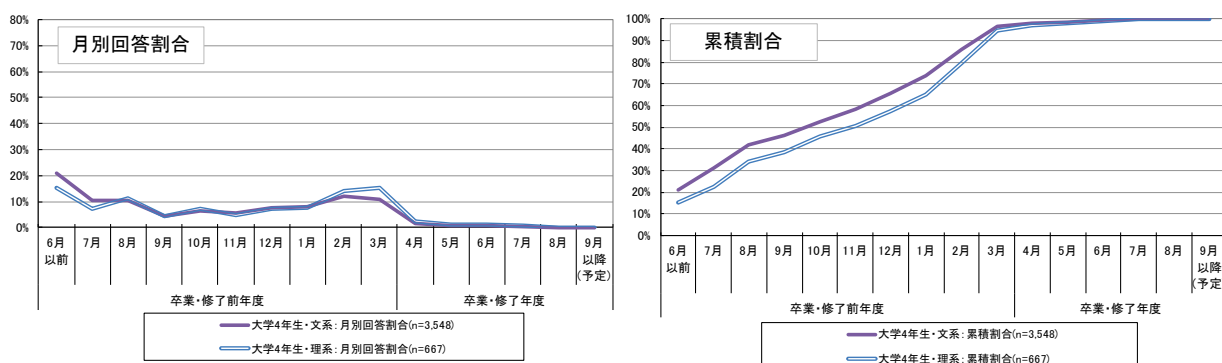
106 業界や企業に関する分析について「特段行わなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

③文系・理系別の企業説明会やセミナー等の参加状況

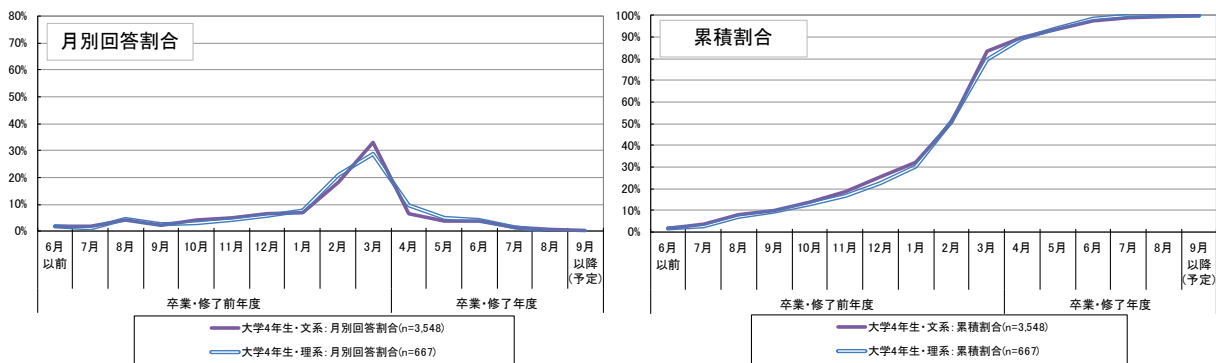
文系・理系別に、企業説明会やセミナー等の参加状況について集計すると¹⁰⁷、大学4年生では、「最初に参加した時期」は文系の学生の方が早期の回答割合が若干高く、「参加のピーク」は文系・理系で概ね同様となっている。「最後に参加した時期」は、卒業前年度2月までは文系・理系で概ね同様だが、3月以降は理系の学生の方が早期の回答割合が若干高くなっている。なお、大学4年生の企業説明会やセミナーの参加数の平均値は、文系の学生が22.4社、理系の学生が15.5社であった。

大学院2年生では、「最初に参加した時期」、「参加のピーク」、「最後に参加した時期」いずれについても理系の学生の方が早期の回答割合が高くなっている。なお、大学院2年生の企業説明会やセミナーの参加数の平均値は、文系の学生が20.1社、理系の学生が14.4社であった。

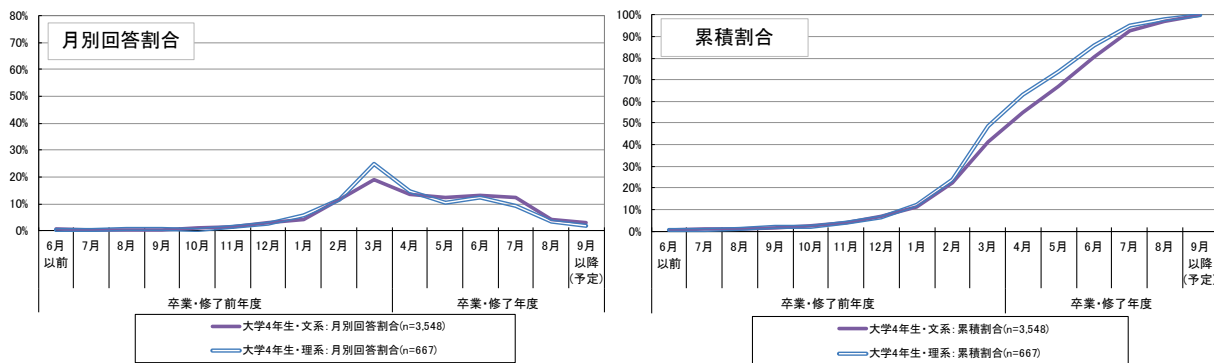
図表 5-3-1 大学4年生の文系・理系別、企業説明会やセミナー等の参加時期
 <最初に参加した時期>



<参加のピーク>



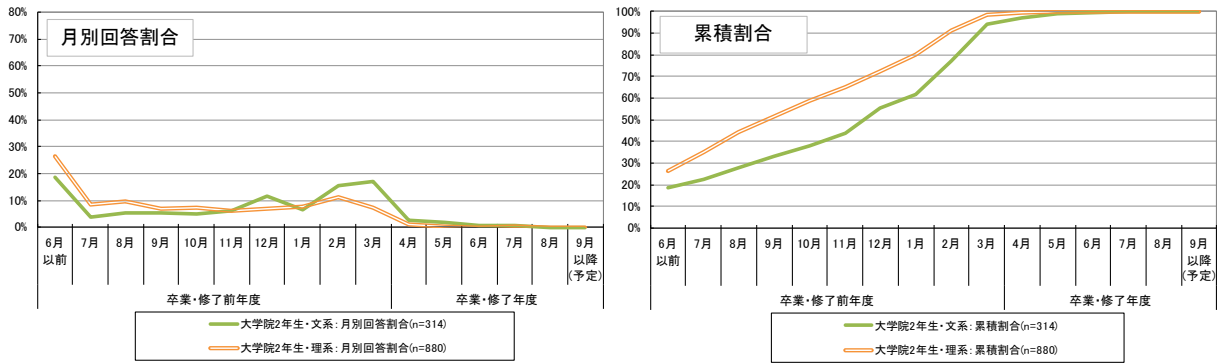
<最後に参加した時期>



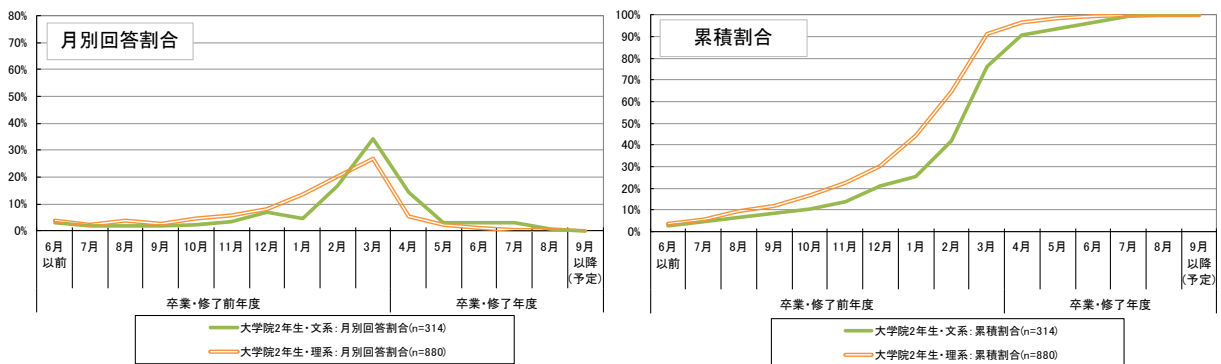
¹⁰⁷ 企業説明会やセミナー等に「特段参加しなかった」と回答した者は集計の対象外とした。また、「第一志望の企業の企業説明会等に最初に参加した時期」について、特段参加していない場合は集計の対象外とした。

図表 5-3-2 大学院2年生の文系・理系別、企業説明会やセミナー等の参加時期

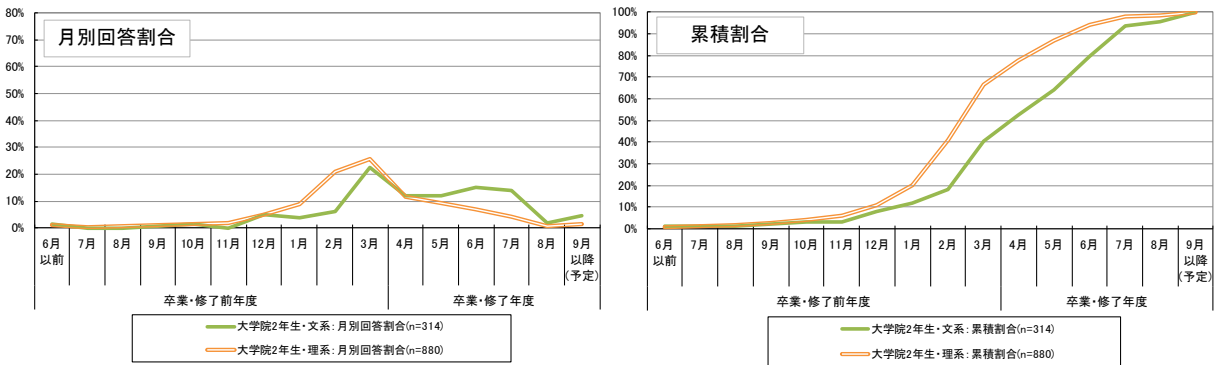
<最初に参加した時期>



<参加のピーク>



<最後に参加した時期>



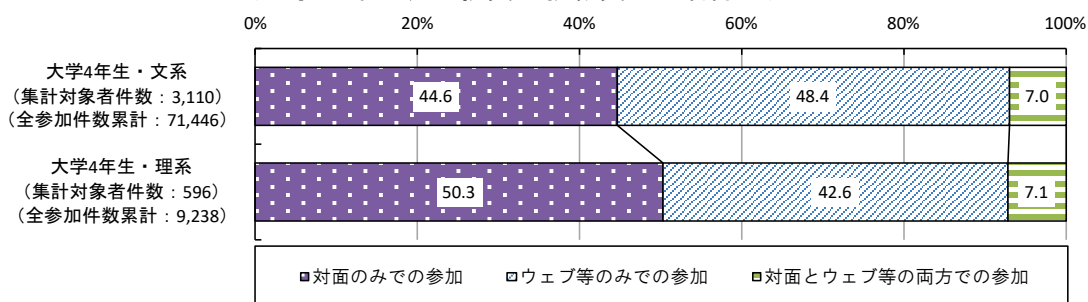
④文系・理系別の企業説明会やセミナー等への参加数に対する方法別参加数の割合

文系・理系別に、企業説明会やセミナー等について参加した方法別のすべての企業数を累計¹⁰⁸し、参加方法別の件数が占める割合を集計したところ、大学4年生については、「ウェブ等のみでの参加」は文系では約5割、理系では約4割となっている。

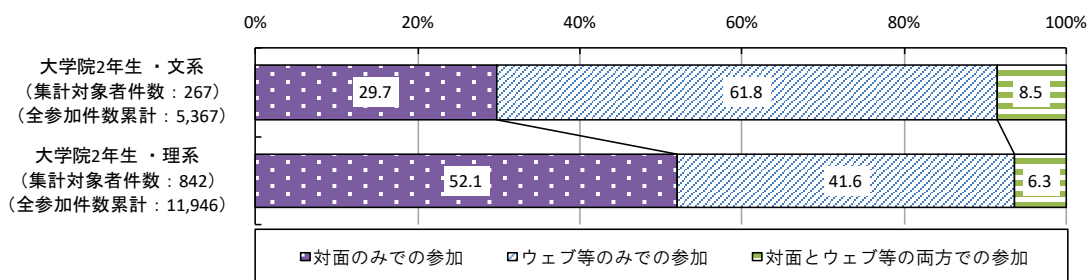
また、大学院2年生については、「ウェブ等のみでの参加」は文系で約6割、理系で約4割となっている。

図表 5-4-1 文系・理系別の参加した企業説明会やセミナー等の参加方法との関係
(参加した企業説明会やセミナー等の企業数累計による集計)

(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)

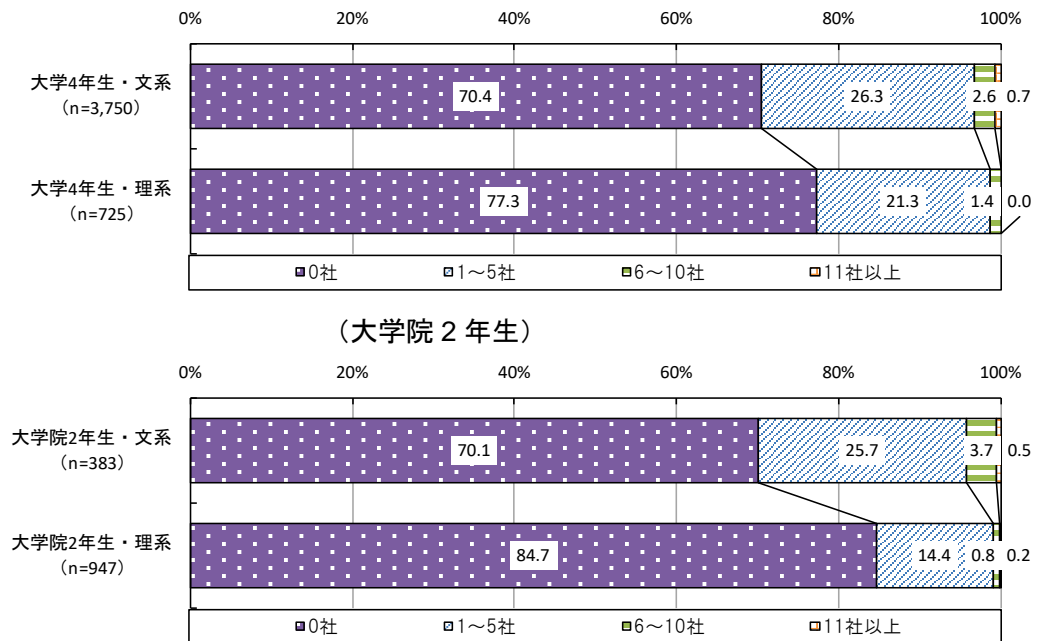


¹⁰⁸ 今年度調査においては、合計で何社の企業説明会やセミナー等に参加したかを尋ねる設問と、対面での参加、ウェブ等での参加の方法別に尋ねる設問を設けているが、前者の「参加した合計の企業数」と後者の「方法別で尋ねた企業数」の合計は必ずしも一致せずとも回答が可能ないように設定したことから、前者ではなく後者の合計を用いて累計の値とした。

⑤文系・理系別の対面で実施された企業説明会やセミナー等における参加動向

文系・理系別に、参加を予定していた企業説明会やセミナー等で、対面で実施されることを理由として、自ら参加を取りやめたものについて集計したところ、大学4年生・大学院2年生ともに、1社以上と回答した者は文系では約3割、理系では約2割となっている。

図表 5-5-1 対面で実施されることが理由で参加を取りやめた企業説明会やセミナー等の企業数
(大学4年生)



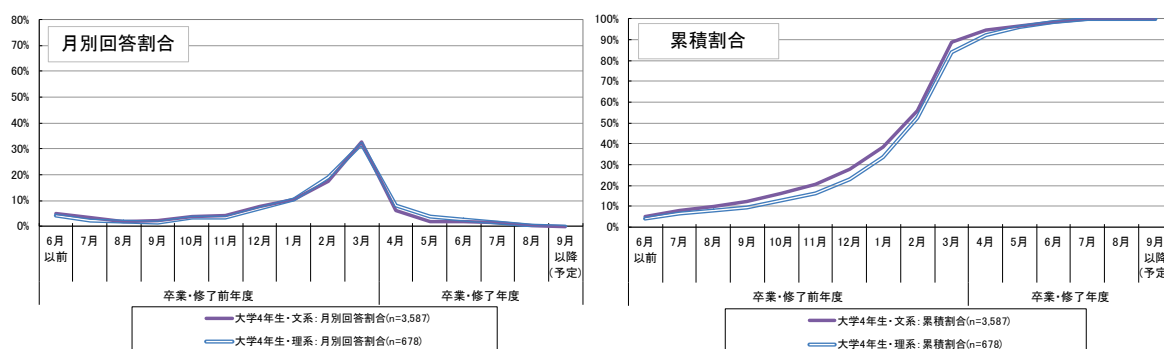
⑥文系・理系別のエントリーシートの提出状況

文系・理系別に、エントリーシートの提出¹⁰⁹状況について集計すると¹¹⁰、大学4年生では、「最初に提出した時期」及び「提出のピーク」は文系・理系とで概ね同様の結果となっているが、「最後に提出した時期」については、理系の学生の方が早期の回答割合が若干高くなっている。なお、大学4年生のエントリーシート提出数の平均値は、文系の学生が18.1社、理系の学生が11.5社であった。

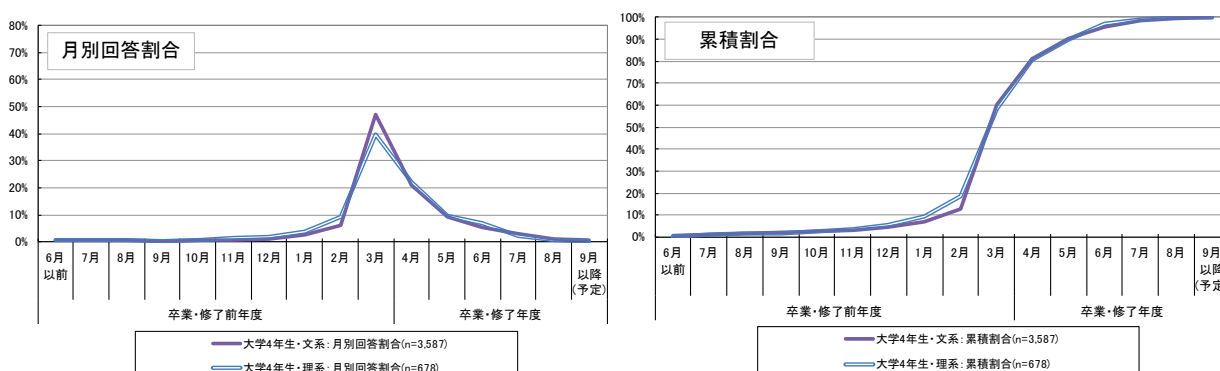
大学院2年生では、「最初に提出した時期」は修了前年度12月以降、「提出のピーク」「最後に提出した時期」は1月以降の時期で理系の学生の方が早期の回答割合が高くなっている。なお、大学院2年生のエントリーシート提出数の平均値は、文系の学生が16.1社、理系の学生が10.7社であった。

図表 5-6-1 大学4年生の文系・理系別、エントリーシートの提出時期

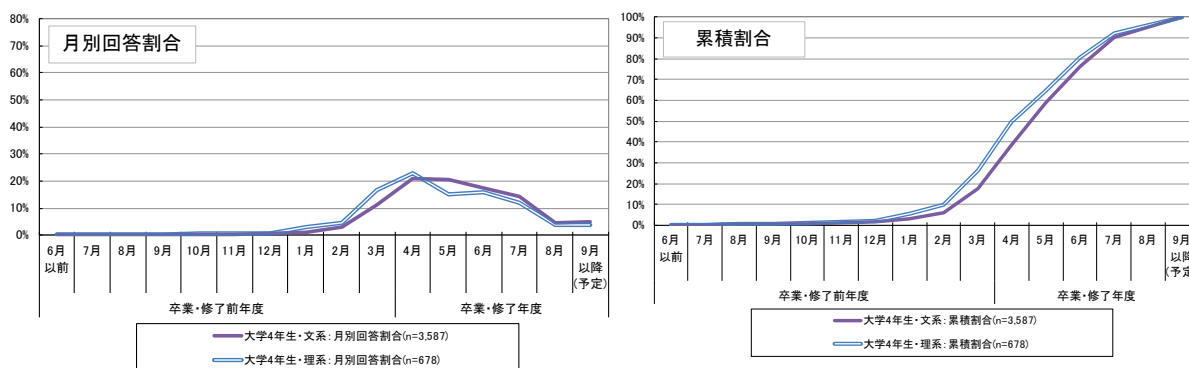
<最初に提出した時期>



<提出のピーク>



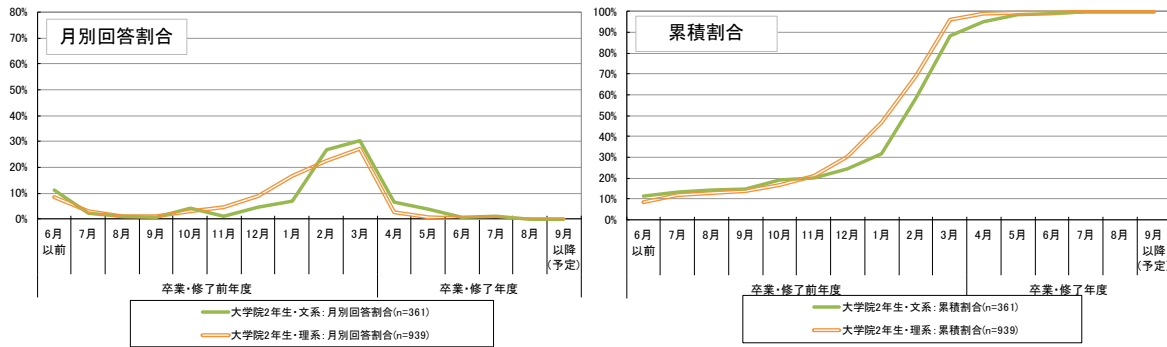
<最後に提出した時期>



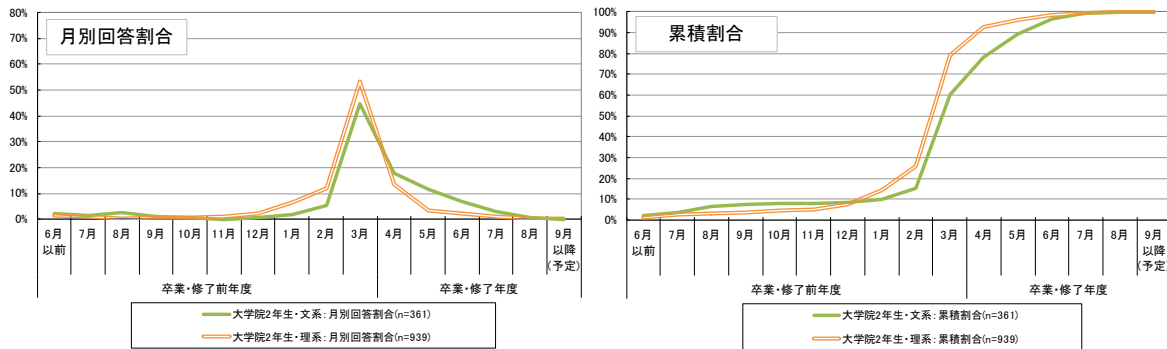
109 エントリーシートの提出とは、企業や官公庁などの採用選考に参加するための応募シートを提出することを指すものとし、就職情報会社のサイト等への登録のみの場合は提出数に入れないように、回答者に案内した上で調査を行った。

110 エントリーシートの提出を「特段行わなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。また、「第一志望の企業にエントリーシートを提出した時期」について、特段提出していない場合は集計の対象外とした。

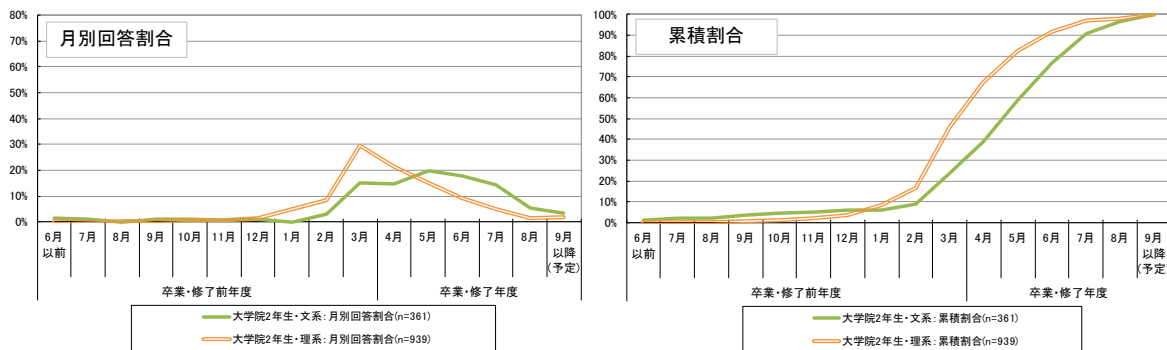
図表 5-6-2 大学院2年生の文系・理系別、エントリーシートの提出時期
 <最初に提出した時期>



<提出のピーク>



<最後に提出した時期>

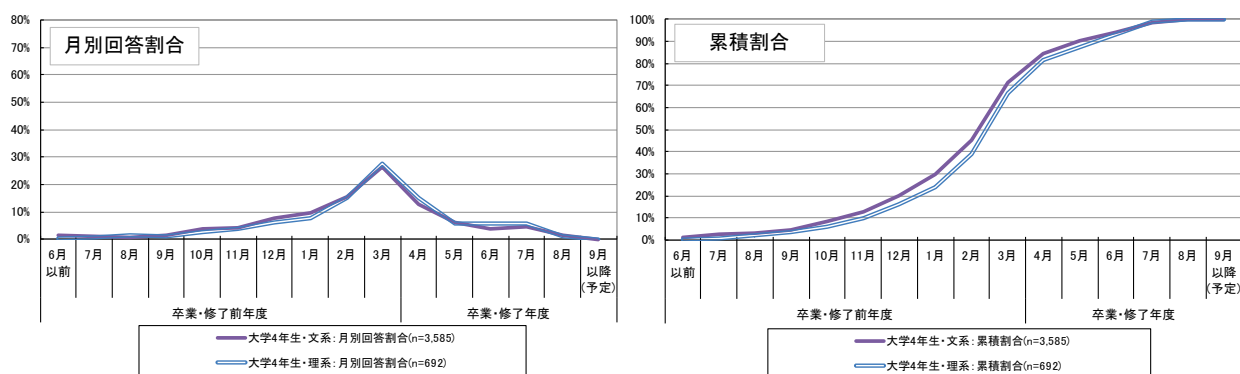


⑦文系・理系別の採用面接の実施状況

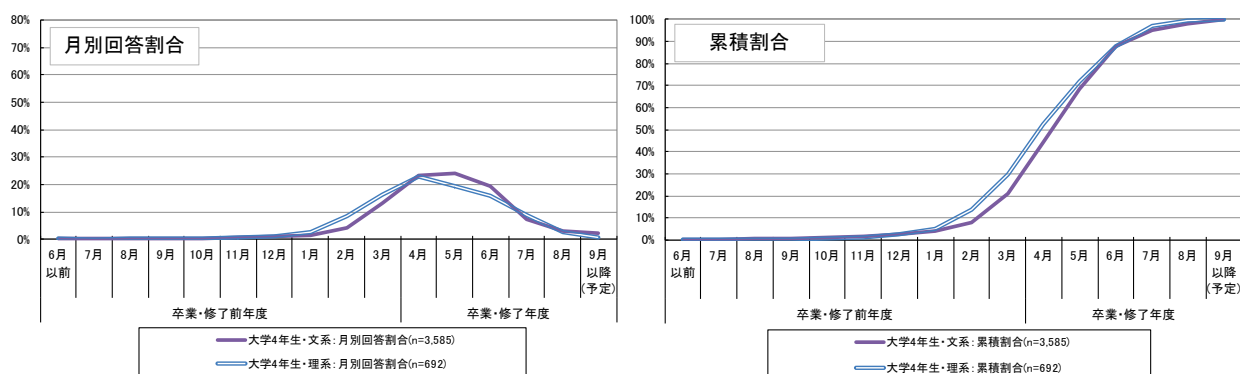
文系・理系別に、採用面接¹¹¹の実施状況について集計すると¹¹²、大学4年生では、「最初に受けた採用面接の時期」は文系の学生の方が早期の回答割合が若干高くなっているが、「採用面接のピーク」「最後に受けた採用面接の時期」は理系の学生の方がより早期の回答割合が若干高くなっている。なお、大学4年生の採用面接を受けた企業数の平均値は、文系の学生が10.9社、理系の学生が7.0社であった。

大学院2年生では、「最初に受けた採用面接の時期」については修了前年度1月以降、「採用面接のピーク」については2月以降、「最後に受けた採用面接の時期」については3月以降の時期において、理系の学生の方がより早期の回答割合が高くなっている。なお、大学院2年生の採用面接を受けた企業数の平均値は、文系の学生が8.0社、理系の学生が6.2社であった。

図表 5-7-1 大学4年生の文系・理系別、採用面接の実施時期（公務員・教職員志望者除く）
 <最初に受けた採用面接の時期>



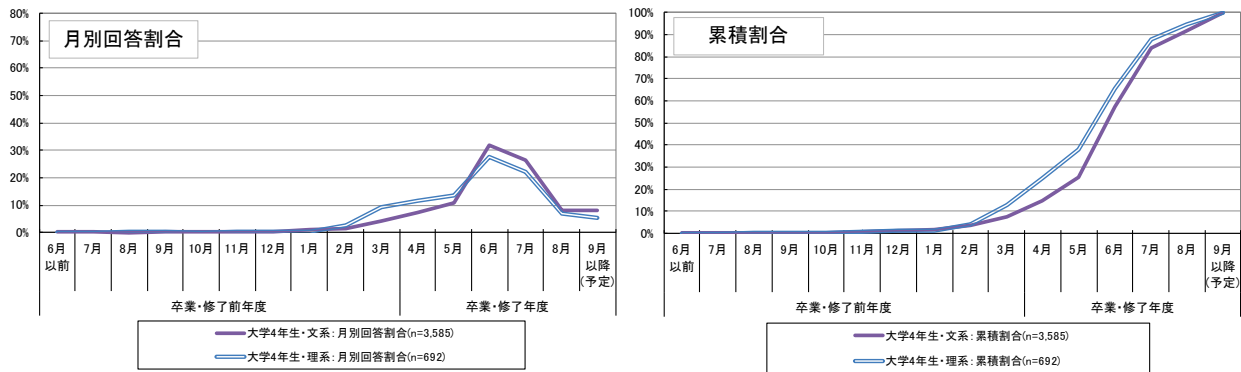
<採用面接のピーク>



111 採用面接に関して、「面談」や「相談会」などの名称の下に行われた企業との接触について、それが実質的に採用面接だと感じた場合は、採用面接と考えていただくよう回答者に案内した上で調査を行った。

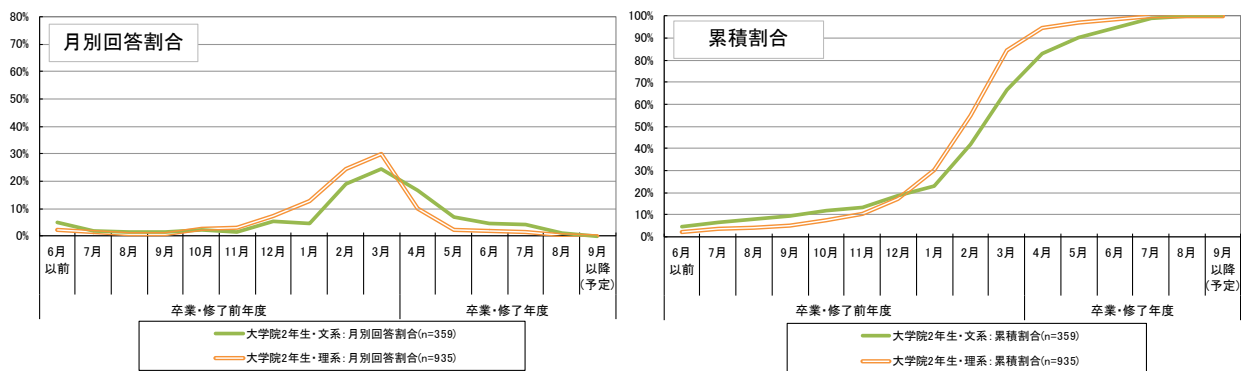
112 公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点で採用の面接等が行われていないと想定されたことから、ここでは集計の対象外とした。また、その上で、採用面接について「特段行わなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

<最後に受けた採用面接の時期>

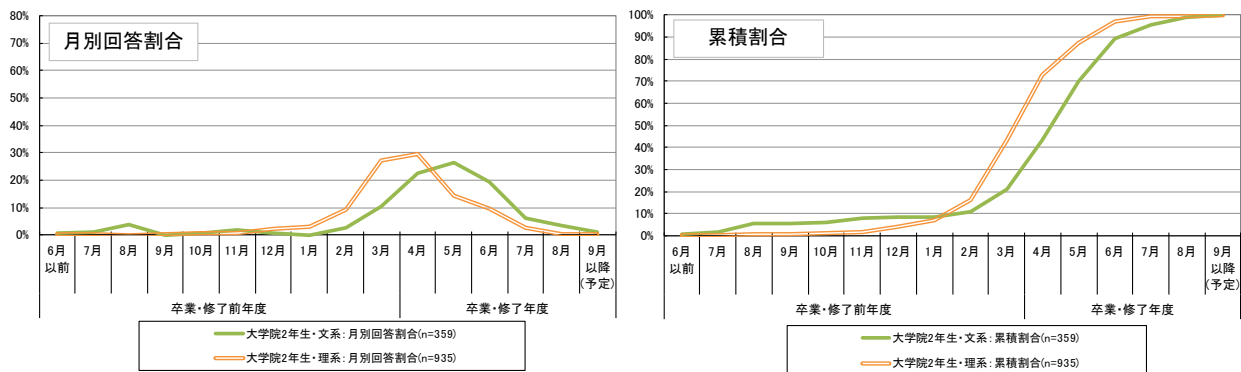


図表 5-7-2 大学院2年生の文系・理系別、採用面接の実施時期（公務員・教職員志望者除く）

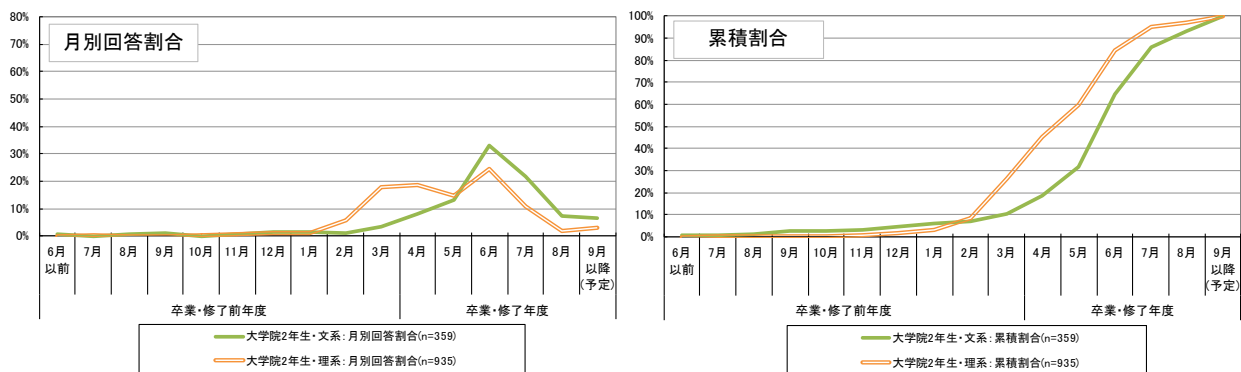
<最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



<最後に受けた採用面接の時期>

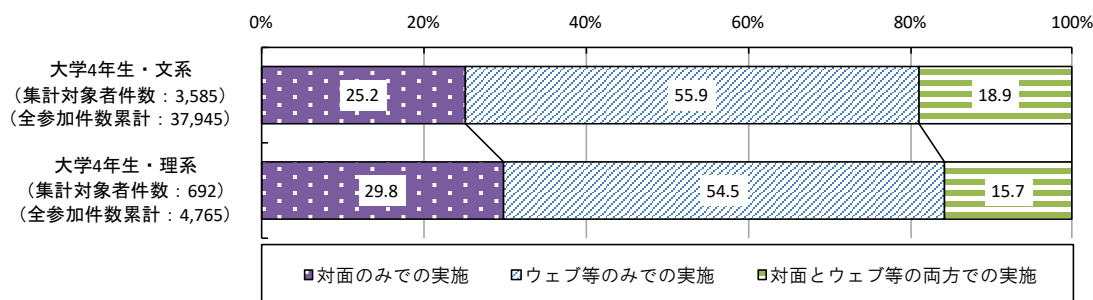


⑧文系・理系別の採用面接を受けた企業数に対する方法別実施数の割合

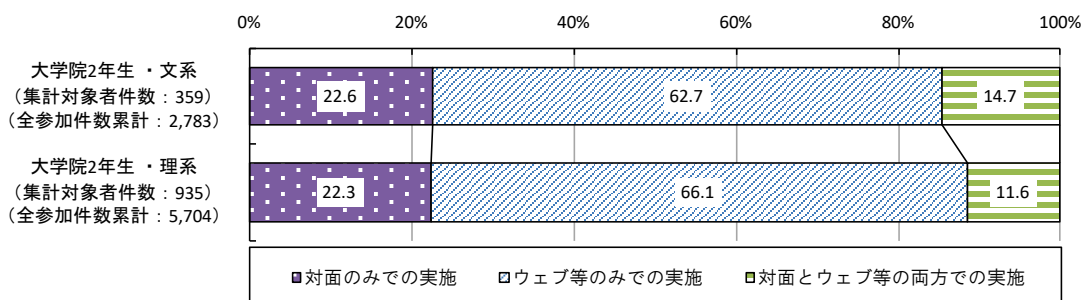
文系・理系別に、採用面接について実施された方法別のすべての企業数を累計¹¹³し、実施方法別の件数が占める割合を集計したところ、大学4年生について「ウェブ等のみでの実施」は文系と理系で同程度となっている。

大学院2年生については、「ウェブ等のみでの実施」は文系では約6割、理系では約7割となっている。

図表 5-8-1 実施された採用面接の実施方法との関係
(実施された採用面接の企業数累計による集計)
(大学4年生)



(大学院2年生)

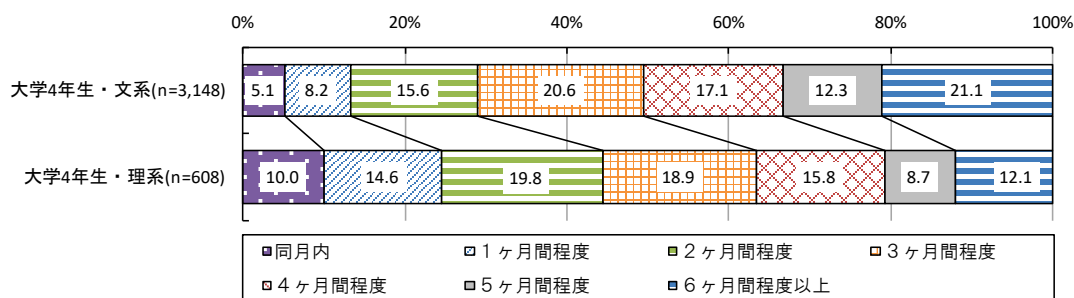


¹¹³ 今年度調査においては、合計で何社の採用面接を受けたかを尋ねる設問と、対面での実施、ウェブ等での実施の方法別に尋ねる設問を設けているが、前者の「実施された合計の企業数」と後者の「方法別で尋ねた企業数」の合計は必ずしも一致せずとも回答が可能ないように設定したことから、前者ではなく後者の合計を用いて累計の値とした。

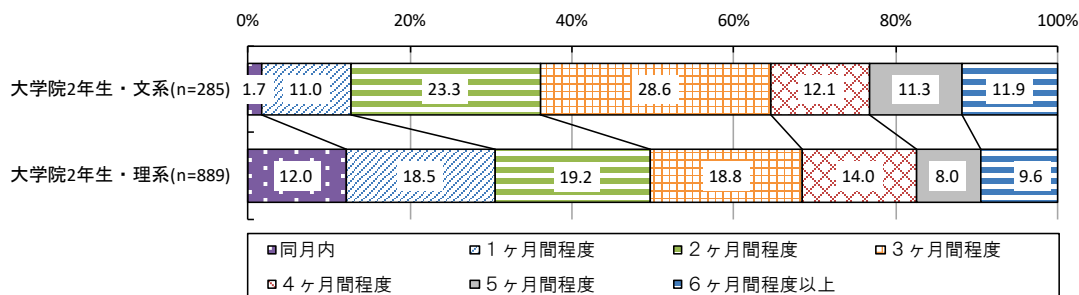
⑨文系・理系別の最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

文系・理系別に、「最初に受けた採用面接の時期」¹¹⁴から「最後に受けた採用面接の時期」までの期間を集計すると¹¹⁵、大学4年生・大学院2年生ともに、文系の学生よりも理系の学生の方が、期間が短い者の割合が高くなっている¹¹⁶。

図表 5-9-1 文系・理系別の最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間
(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



¹¹⁴ 採用面接に関して、「面談」や「相談会」などの名称の下に行われた企業との接触について、それが実質的に採用面接だと感じた場合は、採用面接と考えていただくよう回答者に案内した上で得られた回答である。

¹¹⁵ 公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点で採用の面接等が行われていないと想定されたことから、ここでは集計の対象外とした。また、その上で、採用面接について「特段行わなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

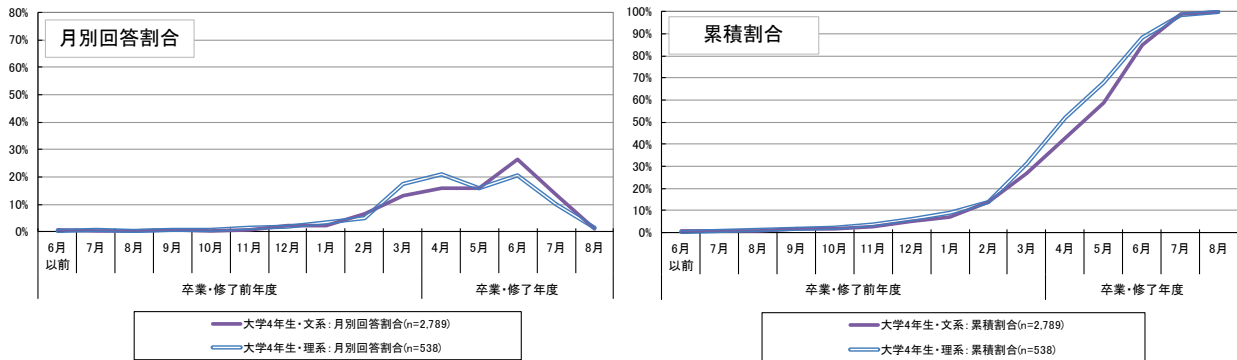
¹¹⁶ ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が3月、「最後に受けた採用面接の時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも採用面接を受けていた実際の期間を意味するものではない点に留意が必要である。

⑩文系・理系別の内々定を受けた時期

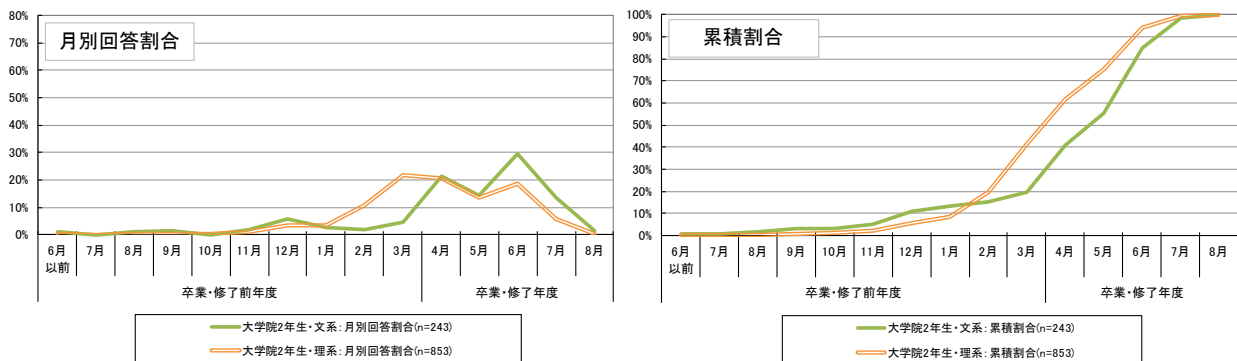
文系・理系別に、内々定を受けた時期について集計すると¹¹⁷、大学4年生では、文系の学生は卒業年度の6月、理系の学生は4月の回答割合が高くなっている。

大学院2年生では、文系の学生は修了年度の6月、理系の学生は修了前年度の3月の回答割合が高くなっている。

図表 5-10-1 文系・理系別、内々定を受けた時期
(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)

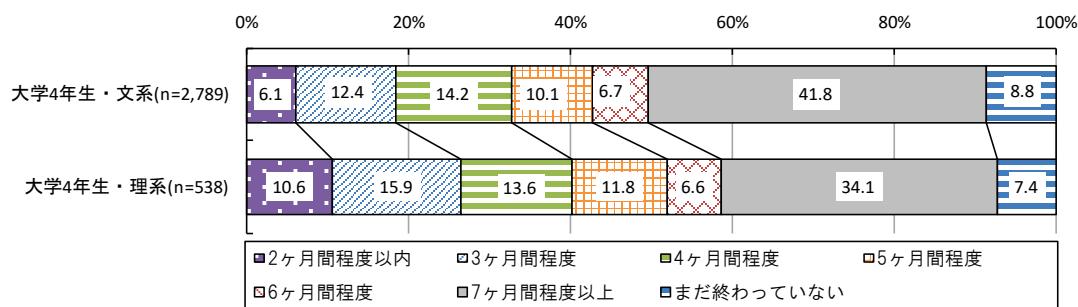


¹¹⁷ 1社から内々定を受けた者はその時期について、複数社から内々定を受けた者は最初に内々定を受けた時期について集計した。なお、ここでの集計でも、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。また、内々定を受けていないと回答した者は集計の対象外としている。

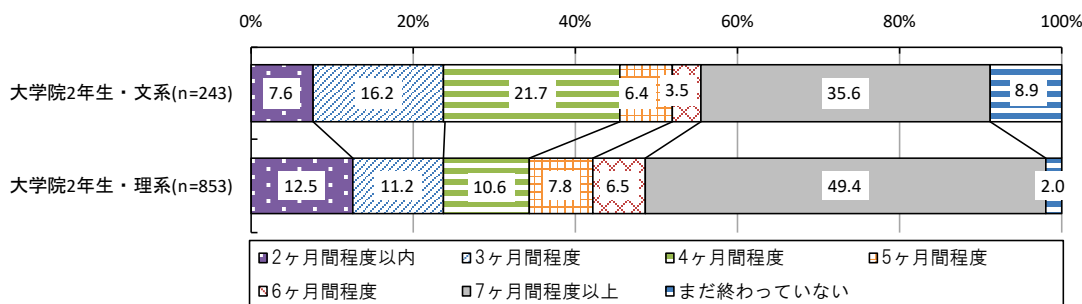
⑪文系・理系別の就職活動の始まりから終わりまでの期間

文系・理系別に、「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」までの期間¹¹⁸を集計すると¹¹⁹、特に大学4年生に関して、理系の学生の方がより短い期間の割合が高くなっている。大学院2年生についてみると、理系の学生は「まだ終わっていない」の回答割合は比較的低く、「2ヶ月間程度以内」と「5ヶ月間程度」以上の期間の割合が比較的高くなっている。

図表 5-11-1 文系・理系別、就職活動の始まりから終わりまでの期間
(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



¹¹⁸ ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「就職活動が始まったと考える時期」が3月、「就職活動が終わったと考える時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも就職活動を行っていた実際の期間を意味するものではない点に留意が必要である。

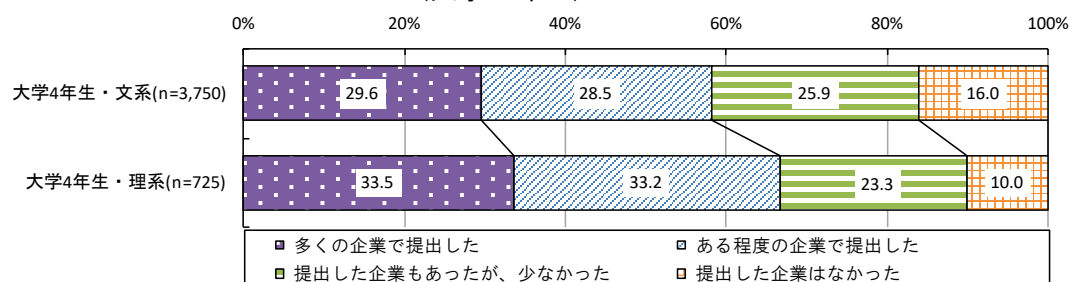
¹¹⁹ 公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。

⑫文系・理系別の学業重視の選考

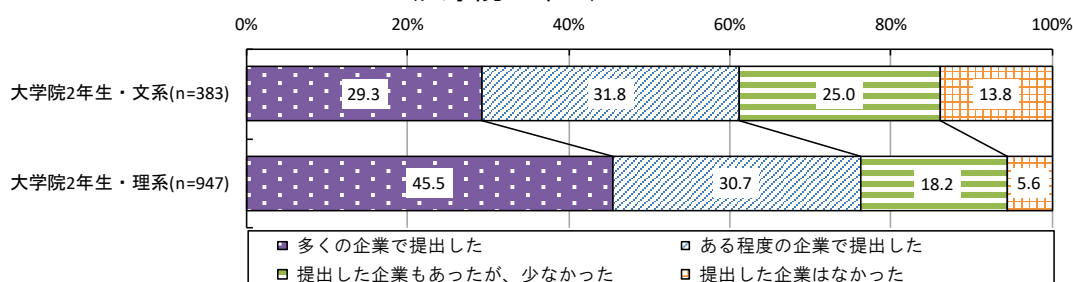
文系・理系別に、就職活動の面接や試験を受けるにあたり、履修履歴（成績証明書など）の提出がどの程度求められたかについて集計すると、大学4年生・大学院2年生ともに、「多くの企業で提出した」の回答割合は、理系の学生の方が高く、特に大学院2年生においてその差が大きくなっている。

また、採用面接において、研究・ゼミや専門分野などの学業への取組や成績等の質問を受け、その内容が採用選考の評価に関係していると感じたかについて、文系・理系別に集計すると、大学4年生・大学院2年生ともに、「評価に深く関係していると感じた」の回答割合は、理系の学生の方が高く、特に大学院2年生においてその差が大きくなっている。

図表 5-12-1 文系・理系別、履修履歴（成績証明書など）の提出の状況
(大学4年生)

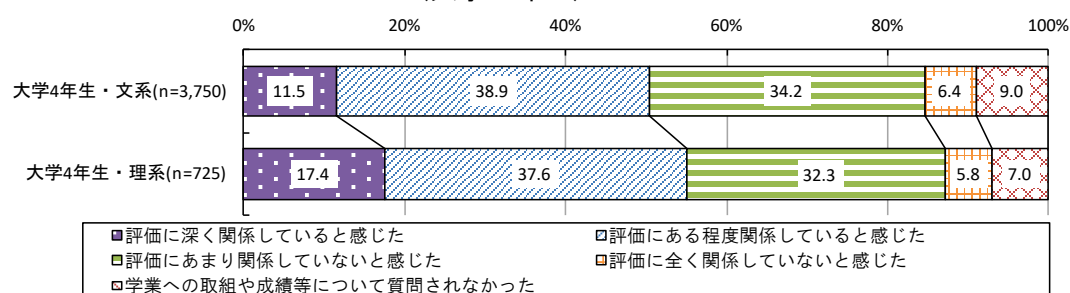


(大学院2年生)

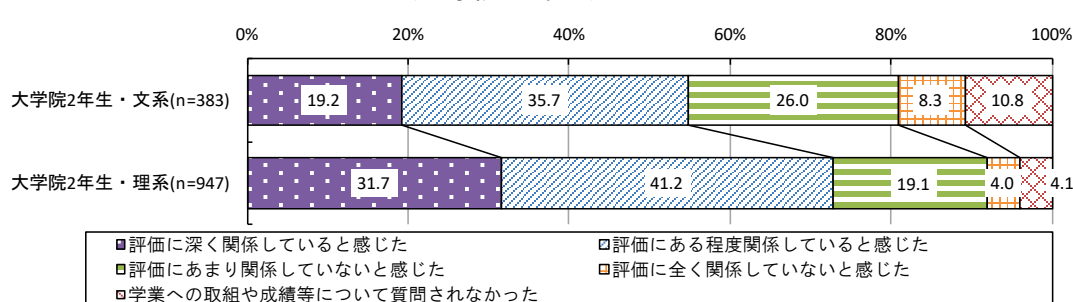


図表 5-12-2 文系・理系別、採用面接の際に学業の取組や成績等の質問を受け、評価に関係していると感じたか

(大学4年生)



(大学院2年生)

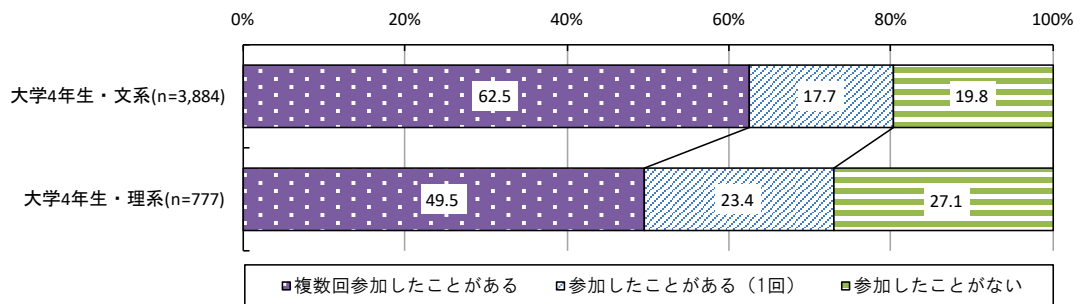


⑬文系・理系別のインターンシップの参加状況

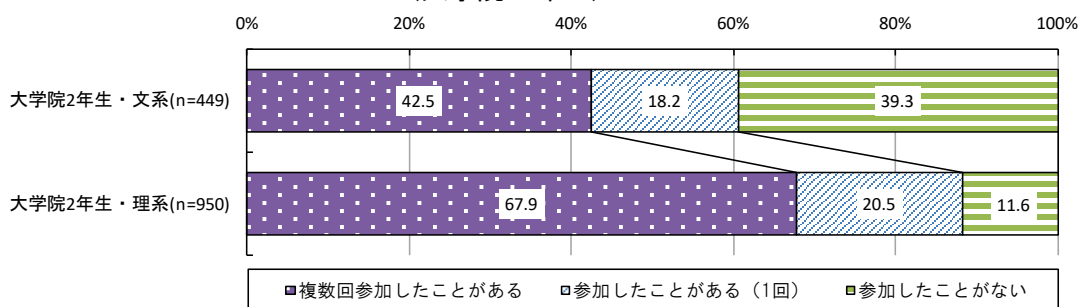
文系・理系別に、インターンシップの参加経験の有無について集計すると、「参加したことがある」の回答割合は、大学4年生では文系の学生の方が高く、大学院2年生では理系の学生の方が高くなっている。

また、参加日数（参加したインターンシップのうち、最長の日数のもの）について、大学4年生では文系・理系で概ね同様の結果となっているが、大学院2年生では、5日以上など、より長期間のインターンシップに参加したことがある者の割合は、理系の学生の方が高くなっている。

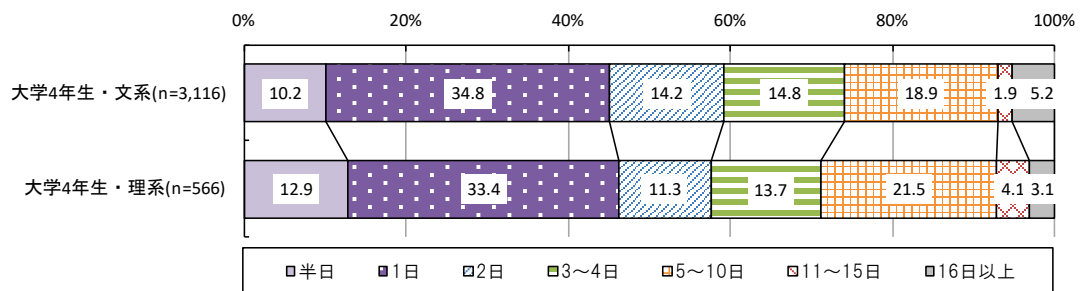
図表 5-13-1 文系・理系別、インターンシップの参加経験の有無
(大学4年生)



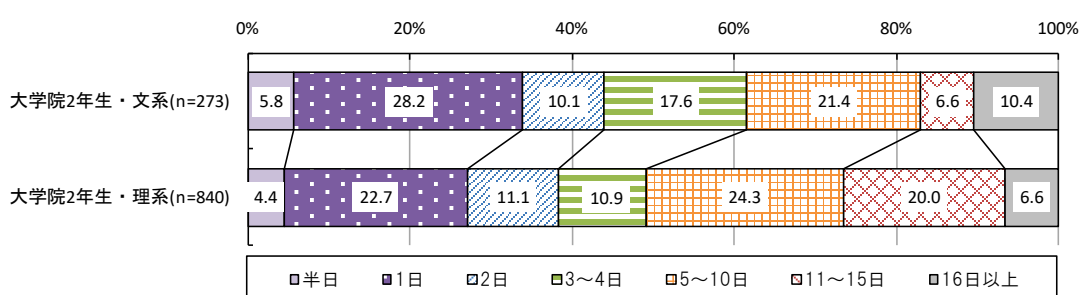
(大学院2年生)



図表 5-13-2 インターンシップ参加日数
(大学4年生)



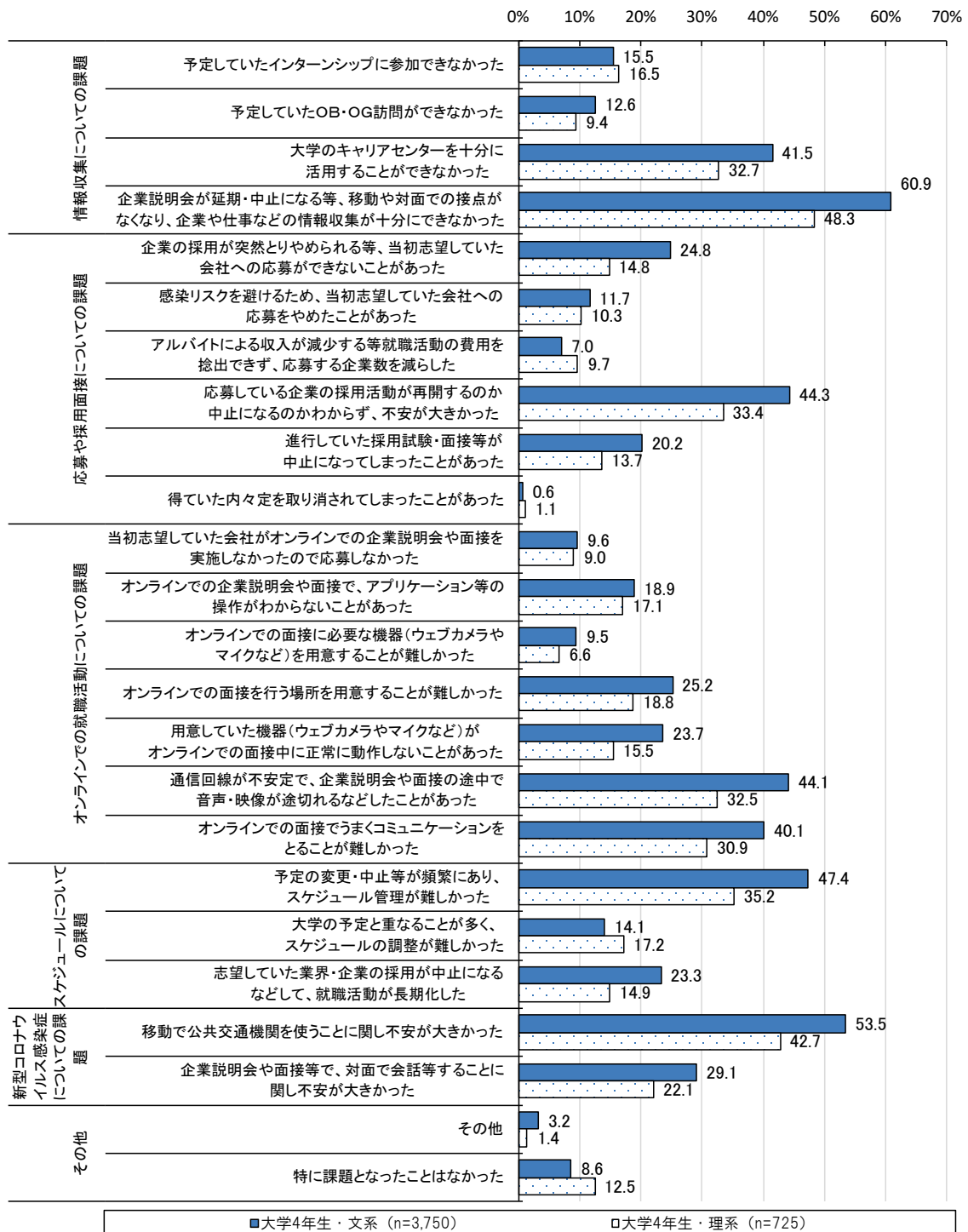
(大学院2年生)



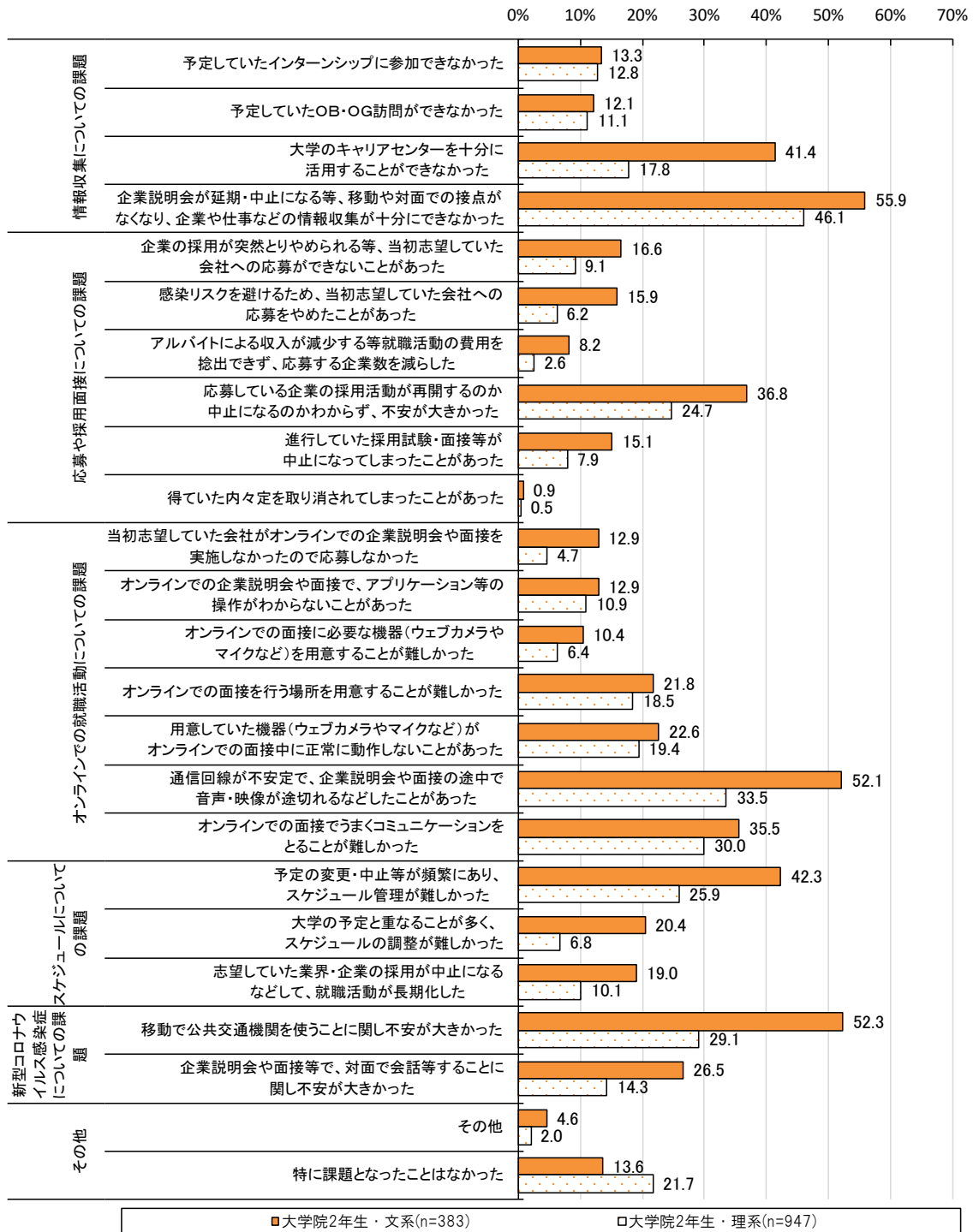
⑭文系・理系別の就職活動に関する新型コロナウイルス感染症による課題

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、課題になったこととして、大学4年生・大学院2年生ともに、「企業説明会が延期・中止になる等、移動や対面での接点がなくなり、企業や仕事などの情報収集が十分にできなかった」の回答割合が最も高く、文系で約6割、理系で約5割となっている。

図表 5-14-1 就職活動に関する新型コロナウイルス感染症による課題（複数回答）
（大学4年生）



(大学院2年生)

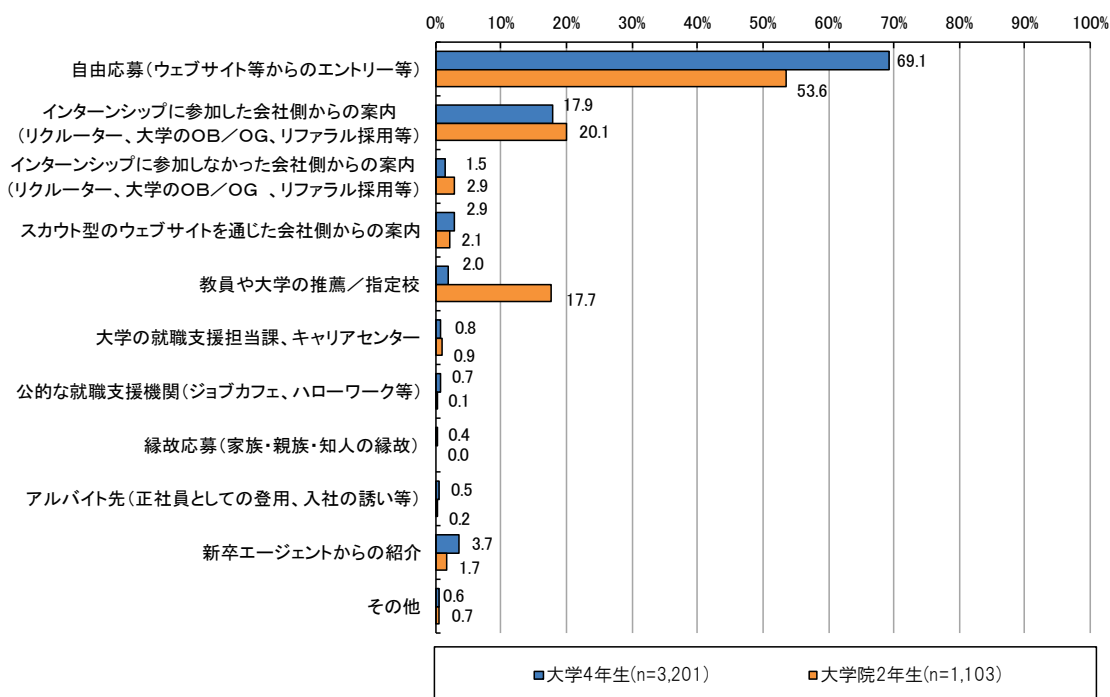


第6章 就職予定の企業への入職経路別の集計

①入職経路に関する回答状況

内々定を受けた者に関して、就職予定の企業についてどのような経路で採用試験・面接等を受けたかについて集計すると¹²⁰、大学4年生・大学院2年生ともに、「自由応募（ウェブサイト等からのエントリー等）」の回答割合が最も高く、大学4年生で約7割、大学院2年生では約5割となっている。また、特に理系の学生についてみると、「教員や大学の推薦／指定校」の回答割合が比較的高くなっており、大学院2年生では約2割となっている。

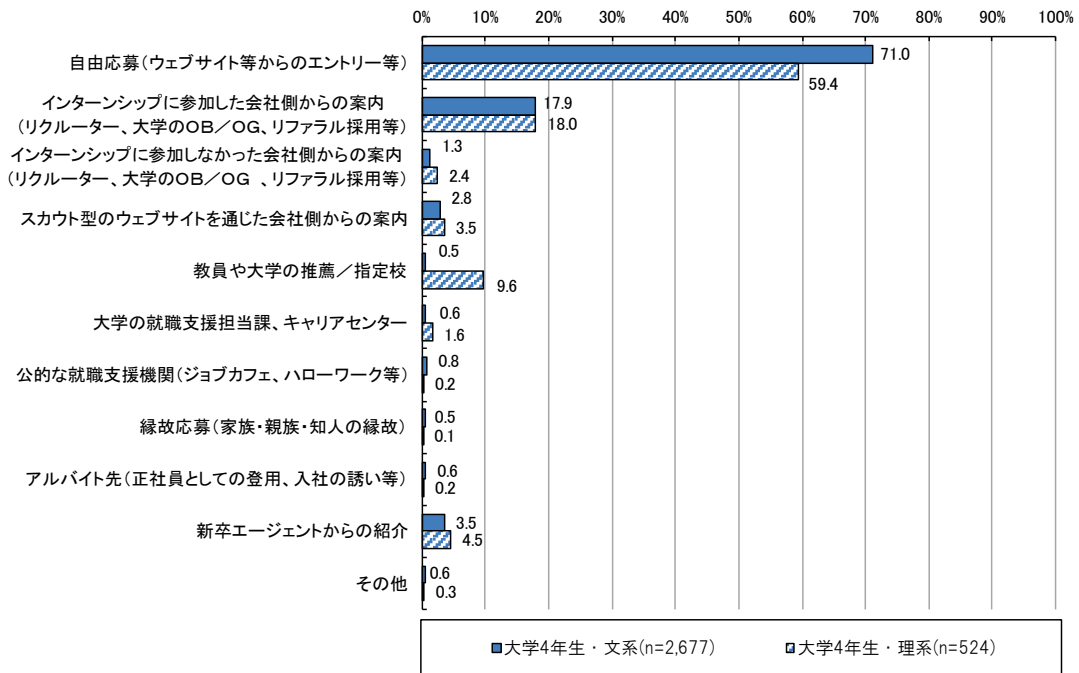
図表 6-1-1 就職予定の企業についてどのような経路で採用試験・面接等を受けたか



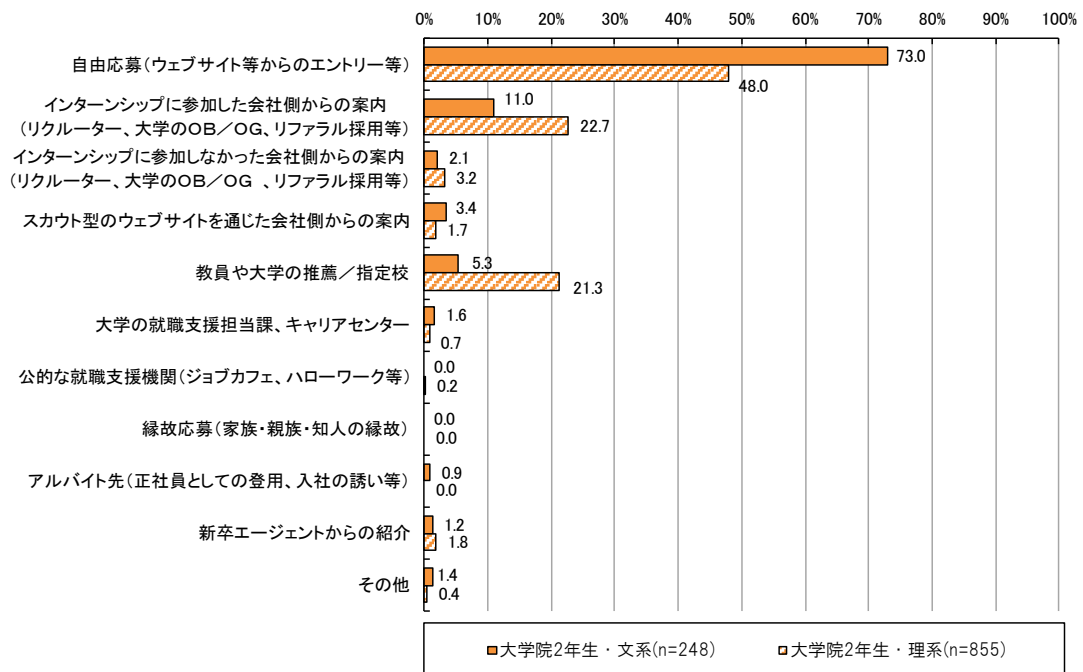
¹²⁰ 就職予定の企業について、選択肢よりひとつのみ回答する方式によるものである。第6章における図表6-2-1以降の集計は、就職予定の企業の入職経路に関する回答を基に分類して行ったものである。なお、2019年度調査では「リクルーター」「リファラル採用」「新卒エージェント」、さらに今年度調査では新しく設定した「スカウト型のウェブサイト」の項目に、それぞれ用語説明を付した。

図表 6-1-2 文系理系別、就職予定の企業についてどのような経路で採用試験・面接等を受けたか

(大学4年生)



(大学院2年生)

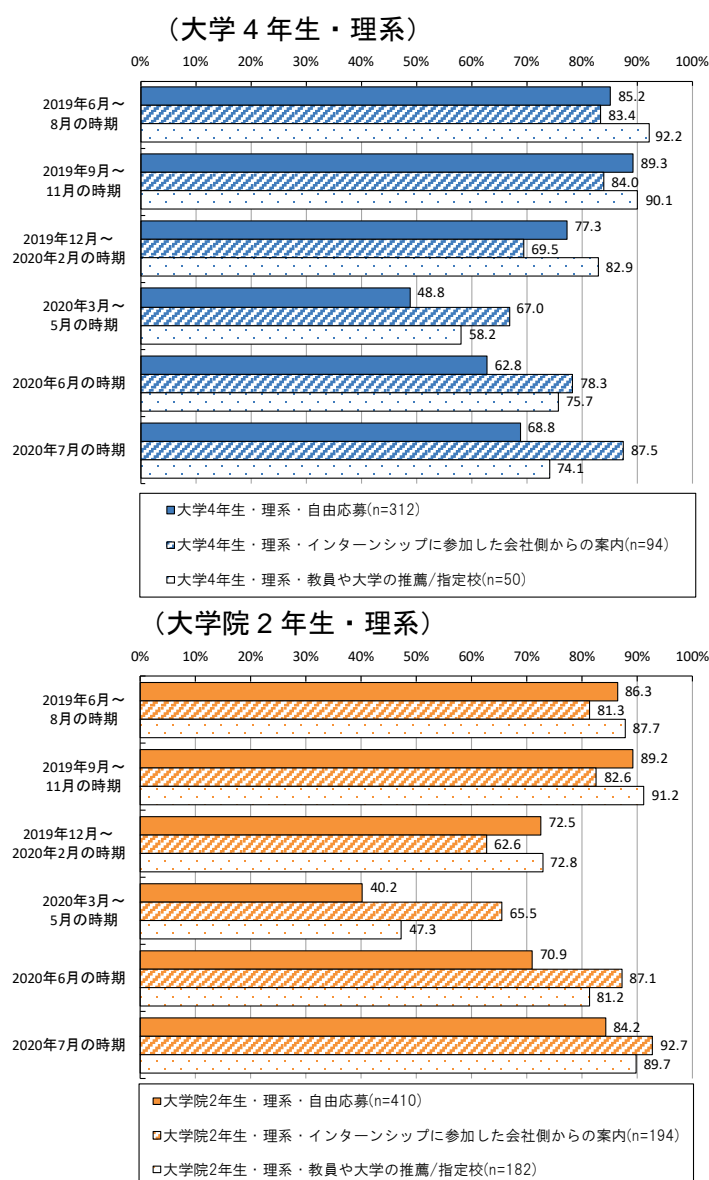


②就職予定の企業への入職経路別の就職活動と学修時間確保の状況

入職経路に関する回答状況をふまえ、理系の学生について¹²¹、就職予定の企業に関して「自由応募（ウェブサイト等からのエントリー等）」であった者、「インターンシップに参加した会社側からの案内（リクルーター、大学のOB/OG、リファラル採用等）」であった者、「教員や大学の推薦/指定校」であった者の3つに分類し、それぞれの就職活動の状況等に違いがあるかについて集計した¹²²。

就職活動と学修時間確保の状況について、「十分学修時間を確保できた」、「必要な学修時間は確保できた」、「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合を集計すると、大学4年生・大学院2年生ともに、卒業・修了前年度の3月～卒業・修了年度の7月の時期において、「自由応募」であった者は他の者と比較して「学修時間が確保できた」の回答割合が低い傾向にある。

図表 6-2-1 就職予定の企業への入職経路別、就職活動と学修時間確保の状況



※就職活動との関係で学修時間の確保ができたかどうかを尋ねた設問について、「就職活動の影響をほとんど受けることなく十分学修時間を確保できた」、「就職活動に少し時間を割くことがあったが、必要な学修時間は確保できた」、「就職活動に時間を割くことがあったが、一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合

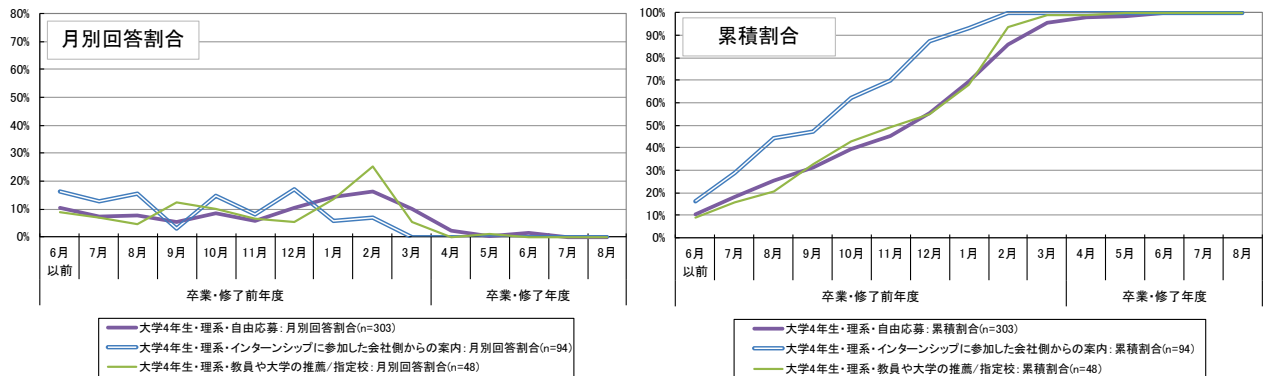
¹²¹ 文系の学生は、分類別の集計を行うと対象件数が非常に少なくなることから、ここでは、理系の学生のみ対象として集計を行った（以降第6章⑩まで同じ）。

¹²² 一部集計対象の度数が少なくなっている点には留意が必要である。

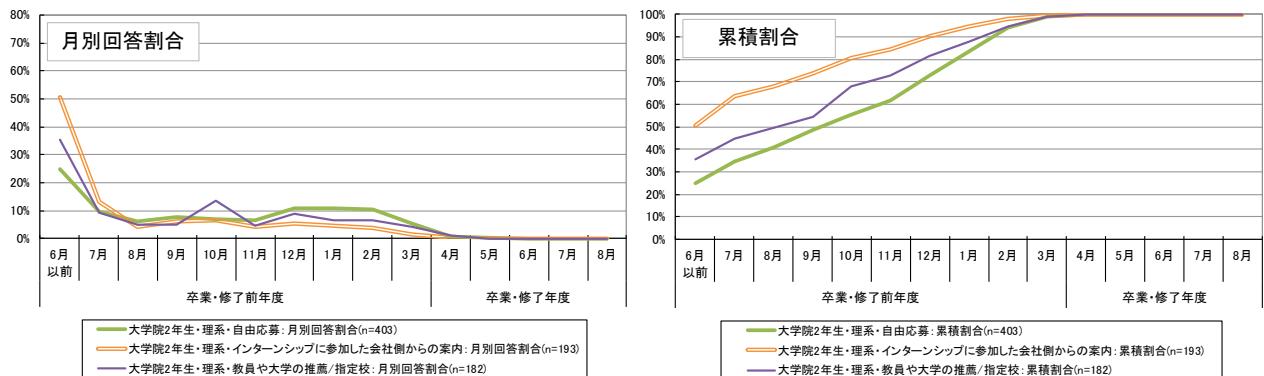
③就職予定の企業への入職経路別の業界や企業に関する分析を開始した時期

就職予定の企業への入職経路別に、理系の学生の業界や企業に関する分析を開始した時期を集計すると¹²³、大学4年生・大学院2年生ともに、「インターンシップに参加した会社側からの案内」であった者でより早期の回答割合が高くなっている。

図表 6-3-1 就職予定の企業への入職経路別、業界や企業に関する分析を開始した時期
(大学4年生・理系)



(大学院2年生・理系)



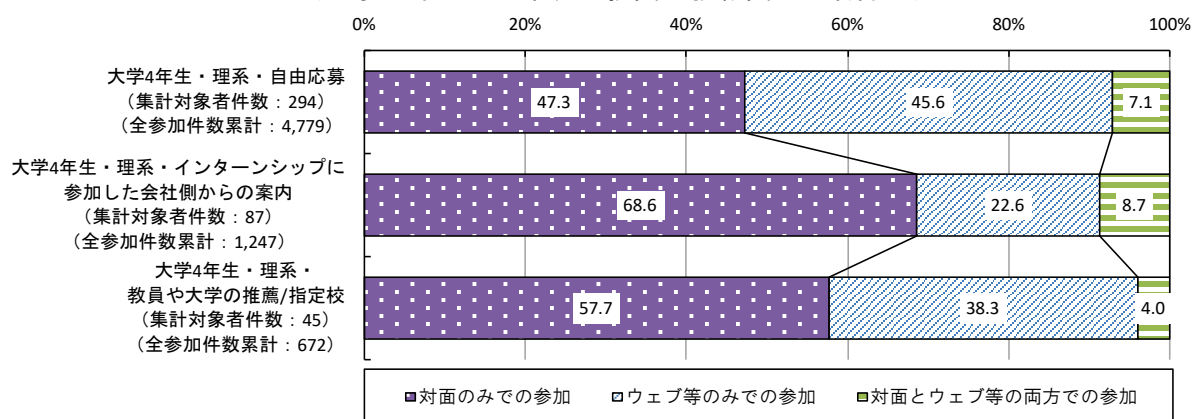
¹²³ 業界や企業に関する分析について「特段行わなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

④就職予定の企業への入職経路別の企業説明会やセミナー等への参加数に対する方法別参加数の割合

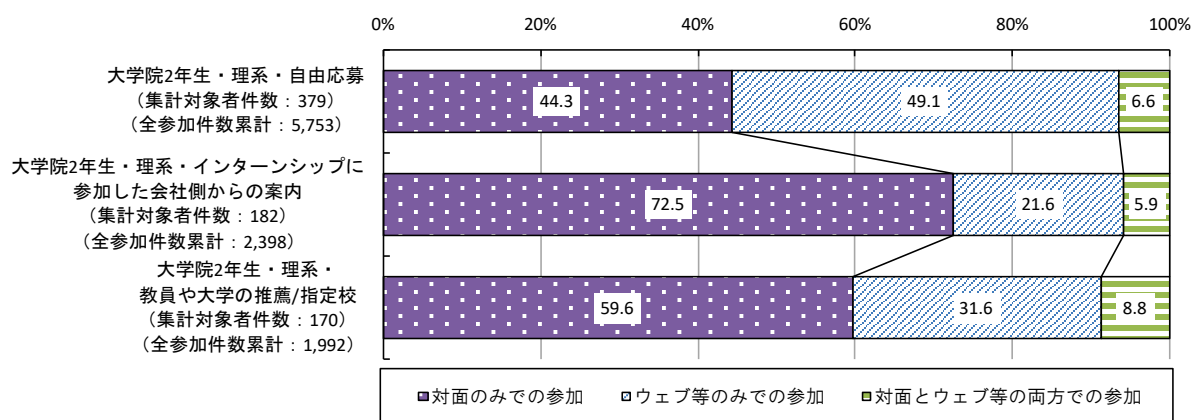
就職予定の企業への入職経路別に、理系の学生の企業説明会やセミナー等について参加した方法別のすべての企業数を累計¹²⁴し、参加方法別の件数が占める割合を集計したところ、「インターンシップに参加した会社側からの案内」であった者について、大学4年生・大学院2年生ともに「ウェブ等のみでの参加」の回答割合が、他の者と比較して低くなっている。

図表 6-4-1 就職予定の企業への入職経路別の参加した企業説明会やセミナー等の参加方法との関係
(参加した企業説明会やセミナー等の企業数累計による集計)

(大学4年生・理系、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生・理系、公務員・教職員志望者除く)

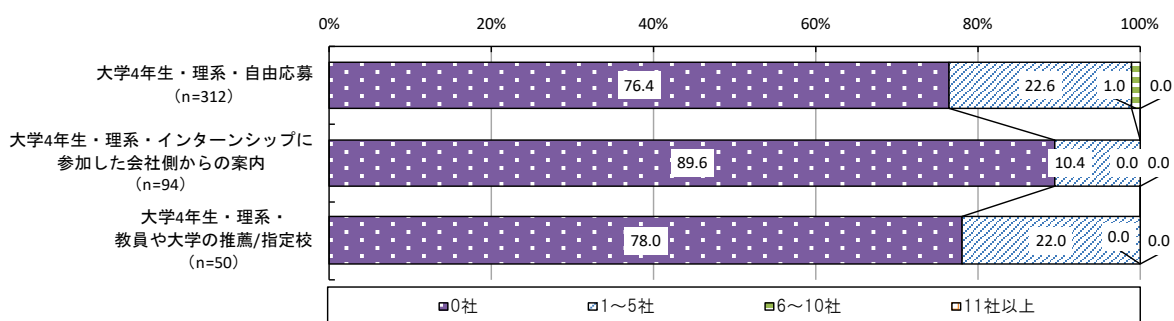


¹²⁴ 今年度調査においては、合計で何社の企業説明会やセミナー等に参加したかを尋ねる設問と、対面での参加、ウェブ等での参加の方法別に尋ねる設問を設けているが、前者の「参加した合計の企業数」と後者の「方法別で尋ねた企業数」の合計は必ずしも一致せずとも回答が可能ないように設定したことから、前者ではなく後者の合計を用いて累計の値とした。

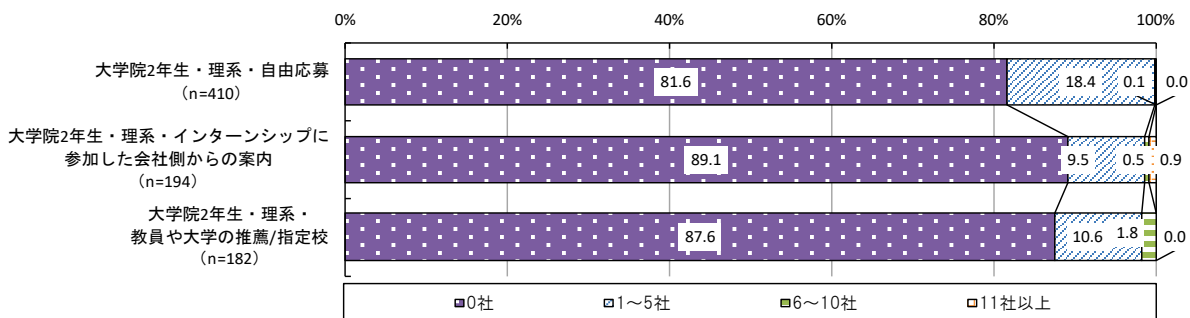
⑤就職予定の企業への入職経路別の対面で実施された企業説明会やセミナー等における参加動向

就職予定の企業への入職経路別に、理系の学生の参加を予定していた企業説明会やセミナー等で、対面で実施されることを理由として、自ら参加を取りやめたものについて集計したところ、大学4年生・大学院2年生ともに、「自由応募」であった者で1社以上と回答した割合が他の者と比べて高くなっている。

図表 6-5-1 就職予定の企業の入職経路別、対面で実施されることが理由で参加を取りやめた企業説明会やセミナー等の企業数
(大学4年生・理系)



(大学院2年生・理系)



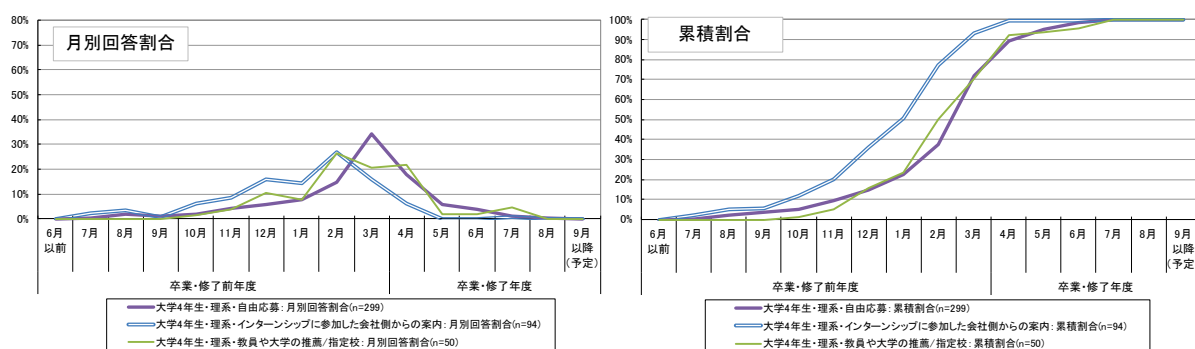
⑥就職予定の企業への入職経路別の採用面接の実施状況

就職予定の企業への入職経路別に、理系の学生の採用面接の実施状況を集計すると¹²⁵、大学4年生・大学院2年生ともに、「インターンシップに参加した会社側からの案内」であった者は全体としてより早期の回答割合が高く、「自由応募」であった者は特に「ピーク」「最後の時期」においてより遅い時期の回答割合が比較的高くなっている。

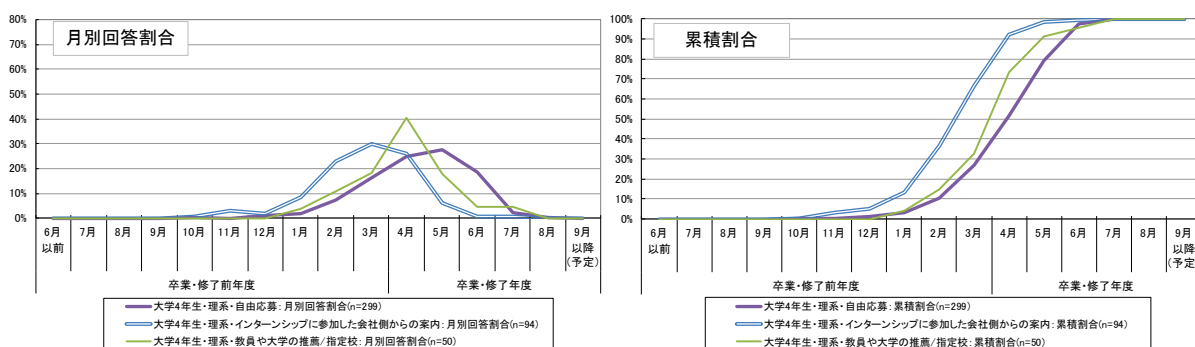
なお、大学4年生の採用面接の企業数の平均値は、「自由応募」であった者は8.6社、「インターンシップに参加した会社側からの案内」であった者は6.0社、「教員や大学の推薦/指定校」であった者は5.4社となっている。大学院2年生では、「自由応募」であった者は7.8社、「インターンシップに参加した会社側からの案内」であった者は4.1社、「教員や大学の推薦/指定校」であった者は4.8社となっている。

図表 6-6-1 大学4年生・理系の就職予定の企業の入職経路別、採用面接の実施時期
(公務員・教職員志望者除く)

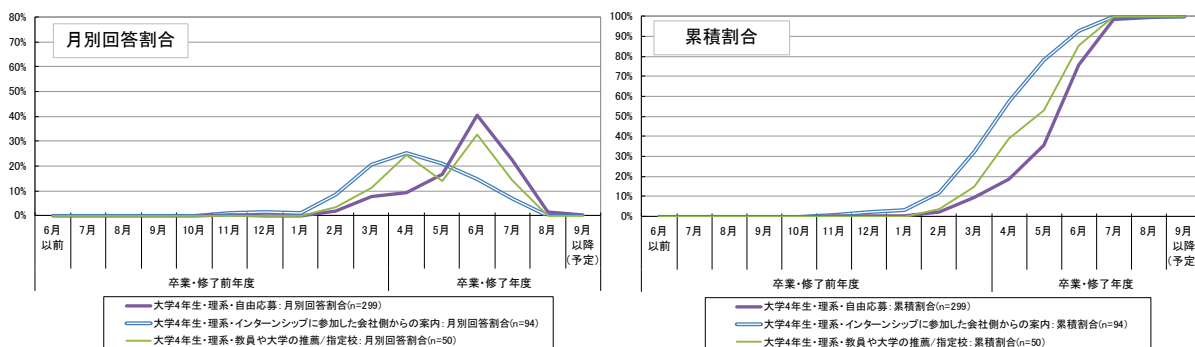
<最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



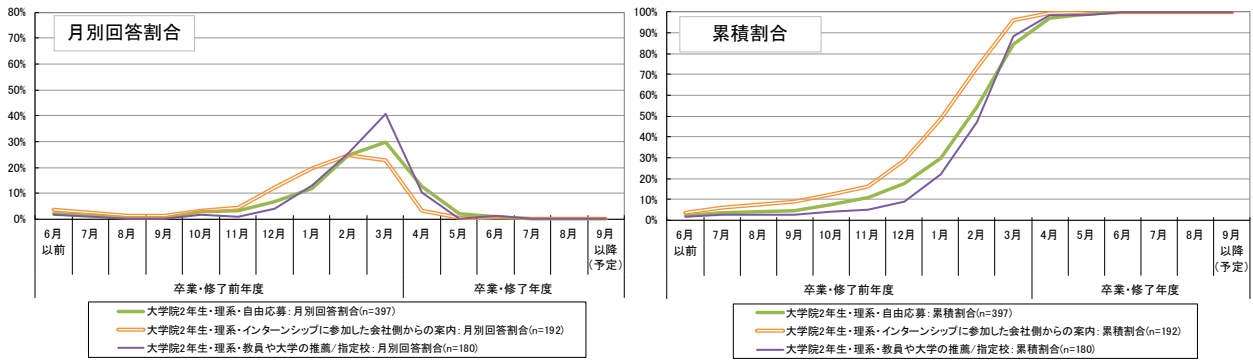
<最後に受けた採用面接の時期>



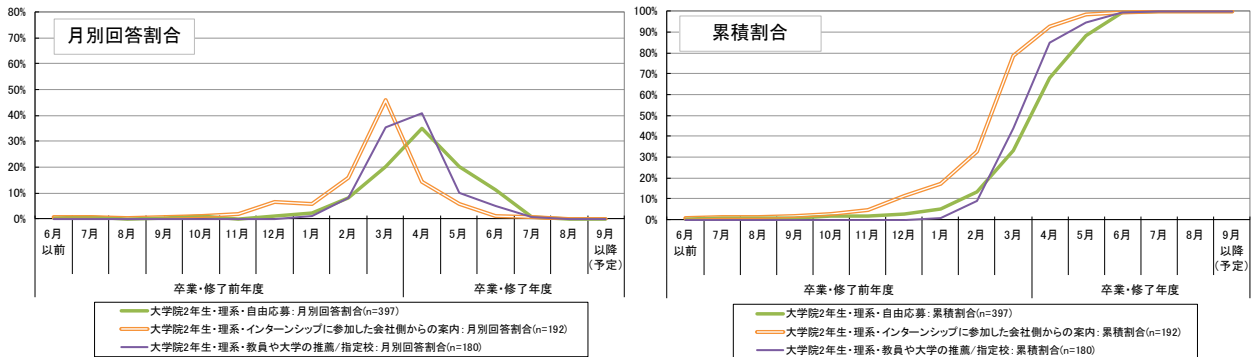
¹²⁵ 公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点で採用の面接等が行われていないと想定されたことから、ここでは集計の対象外とした。また、その上で、採用面接について「特段行わなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

図表 6-6-2 大学院2年生・理系の就職予定の企業の入職経路別、採用面接の実施時期
(公務員・教職員志望者除く)

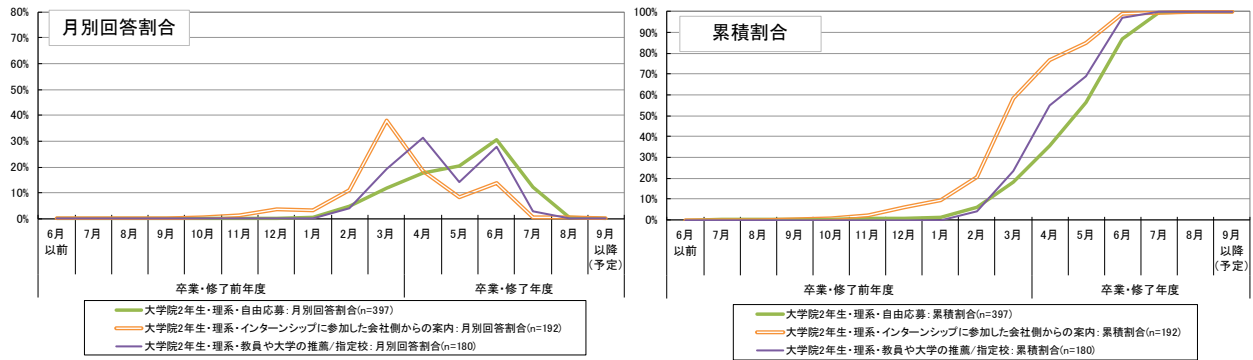
＜最初に受けた採用面接の時期＞



＜採用面接のピーク＞



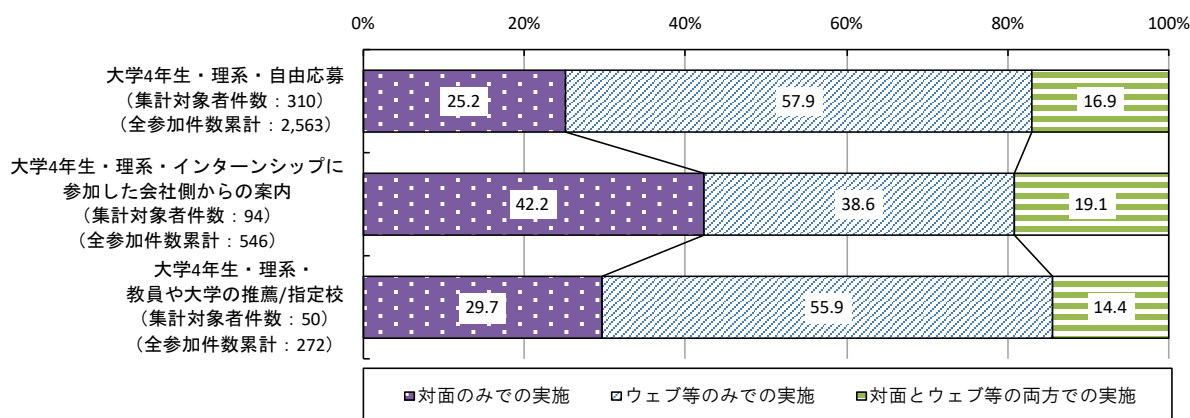
＜最後に受けた採用面接の時期＞



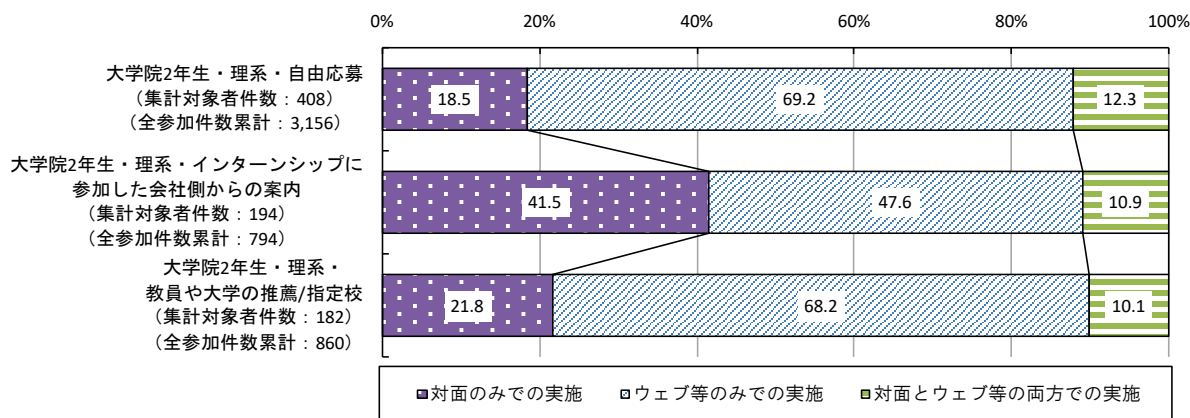
⑦就職予定の企業への入職経路別の採用面接を受けた企業数に対する方法別実施数の割合

就職予定の企業への入職経路別に、理系の学生の採用面接について実施された方法別のすべての企業数を累計¹²⁶し、実施方法別の件数が占める割合を集計したところ、大学4年生・大学院2年生ともに、「インターンシップに参加した会社側からの案内」であった者の「ウェブ等のみでの実施」の回答割合が比較的低くなっている。

図表 6-7-1 就職予定の企業の入職経路別、実施された採用面接の実施方法との関係
(実施された採用面接の企業数累計による集計)
(大学4年生・理系)



(大学院2年生・理系)



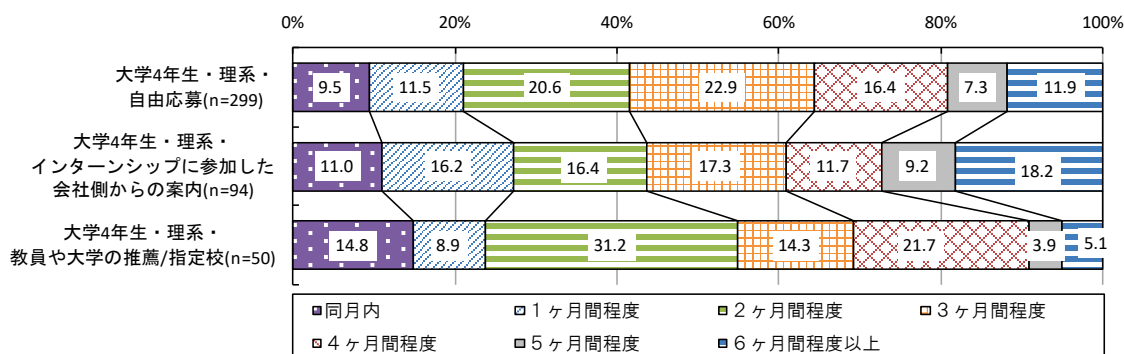
¹²⁶ 今年度調査においては、合計で何社の採用面接を受けたかを尋ねる設問と、対面での実施、ウェブ等での実施の方法別に尋ねる設問を設けているが、前者の「実施された合計の企業数」と後者の「方法別で尋ねた企業数」の合計は必ずしも一致せずとも回答が可能ないように設定したことから、前者ではなく後者の合計を用いて累計の値とした。

⑧就職予定の企業への入職経路別の最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

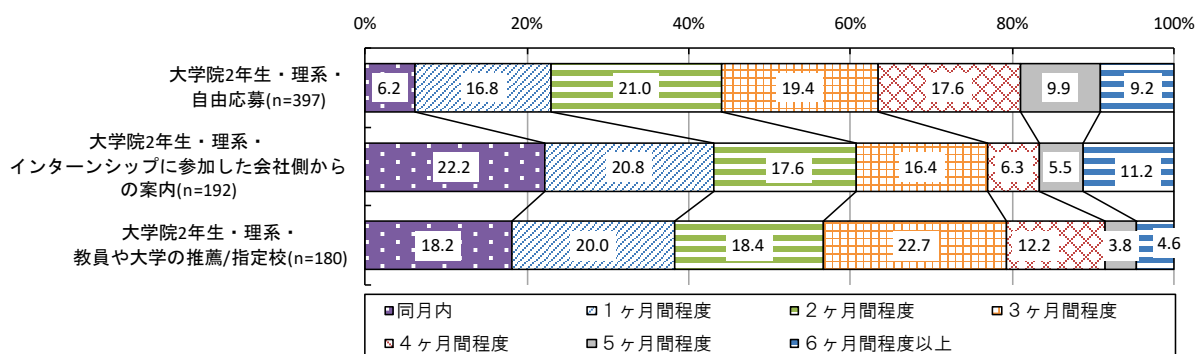
就職予定の企業への入職経路別に、理系の学生の「最初に受けた採用面接の時期」¹²⁷から「最後に受けた採用面接の時期」までの期間¹²⁸を集計すると¹²⁹、大学4年生・大学院2年生ともに、「自由応募」であった者は、「1ヶ月間程度」以下の期間の割合が低くなっている。

図表 6-8-1 就職予定の企業への入職経路別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

(大学4年生・理系、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生・理系、公務員・教職員志望者除く)



¹²⁷ 採用面接に関して、「面談」や「相談会」などの名称の下に行われた企業との接触について、それが実質的に採用面接だと感じた場合は、採用面接と考えていただくよう回答者に案内した上で得られた回答である。なお、ここでの「採用面接」は就職予定の企業のものに限らない。

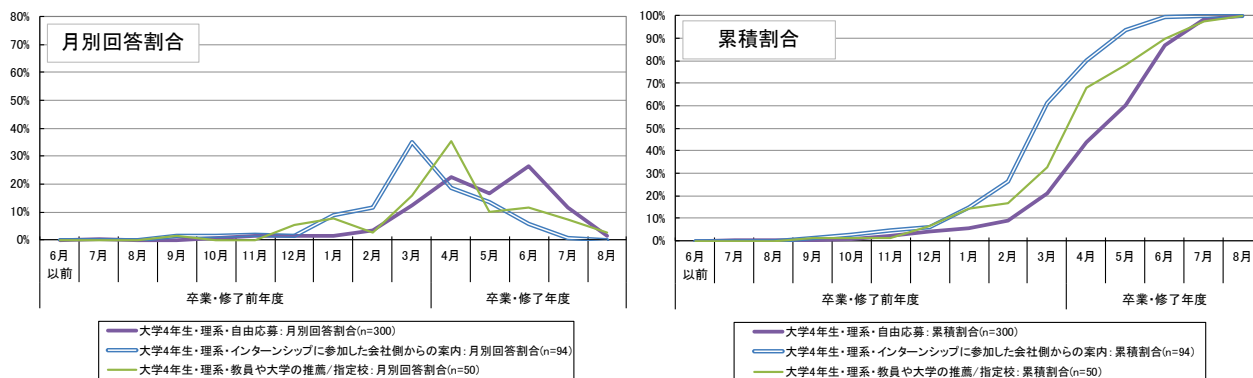
¹²⁸ ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が3月、「最後に受けた採用面接の時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも採用面接を受けていた実際の期間を意味するものではない点に留意が必要である。

¹²⁹ 公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点で採用の面接等が行われていないと想定されたことから、ここでは集計の対象外とした。また、その上で、採用面接について「特段行わなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

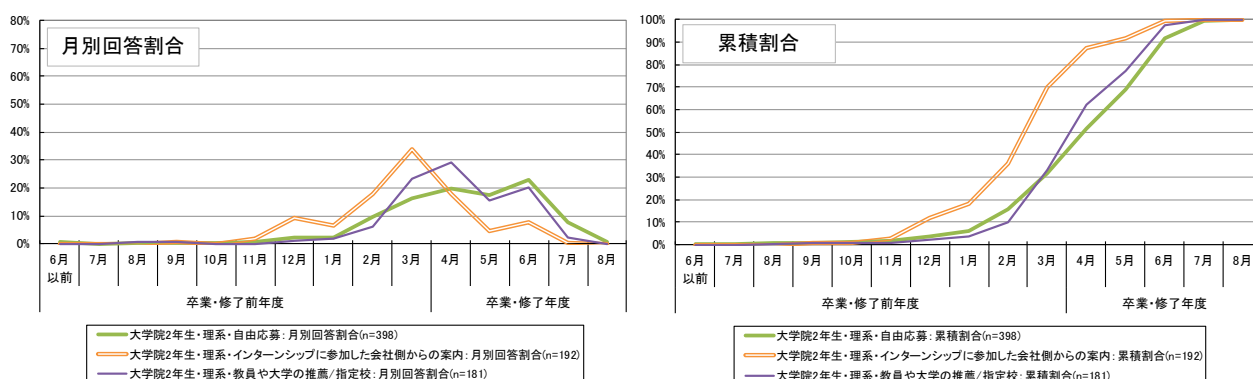
⑨就職予定の企業への入職経路別の内々定を受けた時期

就職予定の企業への入職経路別に、理系の学生の内々定を受けた時期を集計すると¹³⁰、大学4年生・大学院2年生ともに、「インターンシップに参加した会社側からの案内」であった者で、より早期の回答割合が高くなっている。

図表 6-9-1 就職予定の企業への入職経路別、内々定を受けた時期
(大学4年生・理系、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生・理系、公務員・教職員志望者除く)

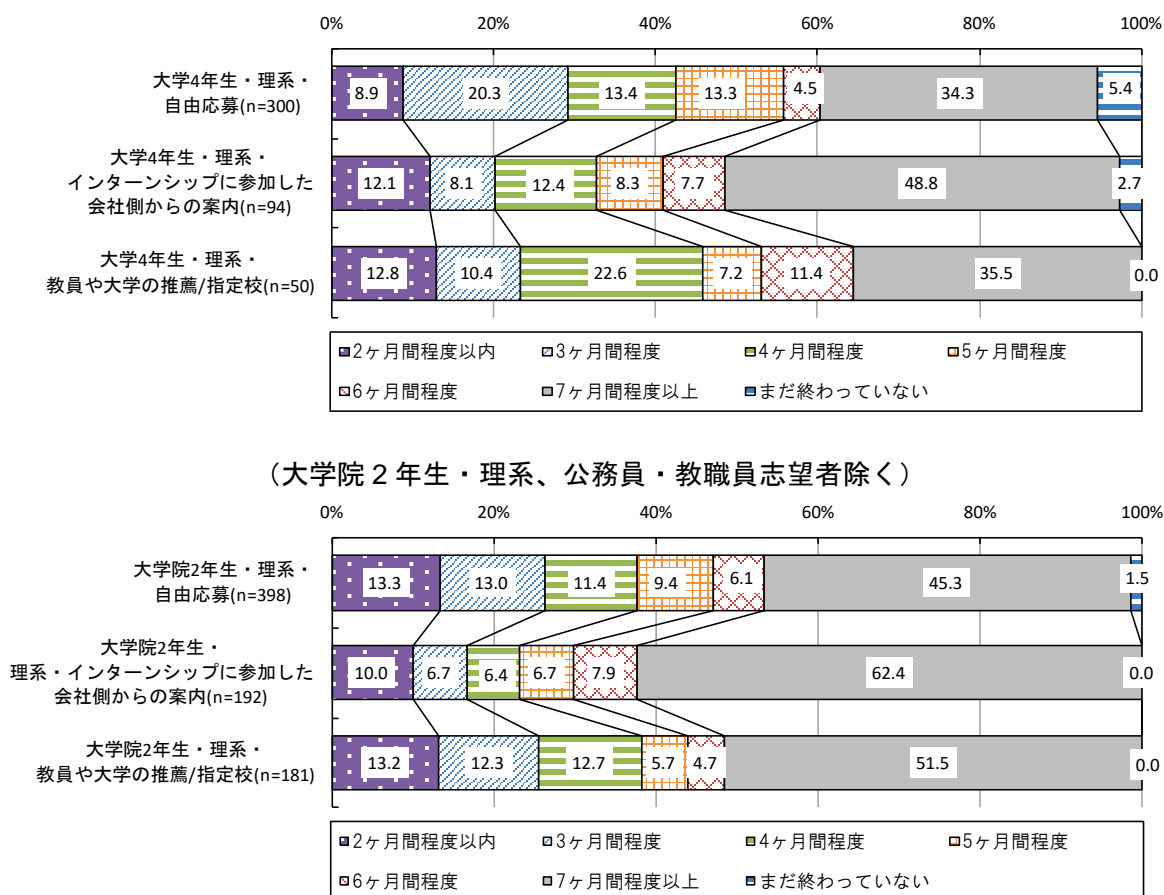


¹³⁰ 1社から内々定を受けた者はその時期について、複数社から内々定を受けた者は最初に内々定を受けた時期について集計した。なお、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。ここでの「内々定」は就職予定の企業のものに限らない。

⑩就職予定の企業への入職経路別の就職活動の始まりから終わりまでの期間

就職予定の企業への入職経路別に、理系の学生の「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」までの期間¹³¹を集計すると¹³²、大学4年生・大学院2年生ともに、「インターンシップに参加した会社側からの案内」であった者は「4ヶ月間程度」以上の期間の割合が他の者と比べて高くなっており、特に「7ヶ月間程度以上」など比較的長い期間の割合が高くなっている。

図表 6-10-1 就職予定の企業への入職経路別、就職活動の始まりから終わりまでの期間
(大学4年生・理系、公務員・教職員志望者除く)



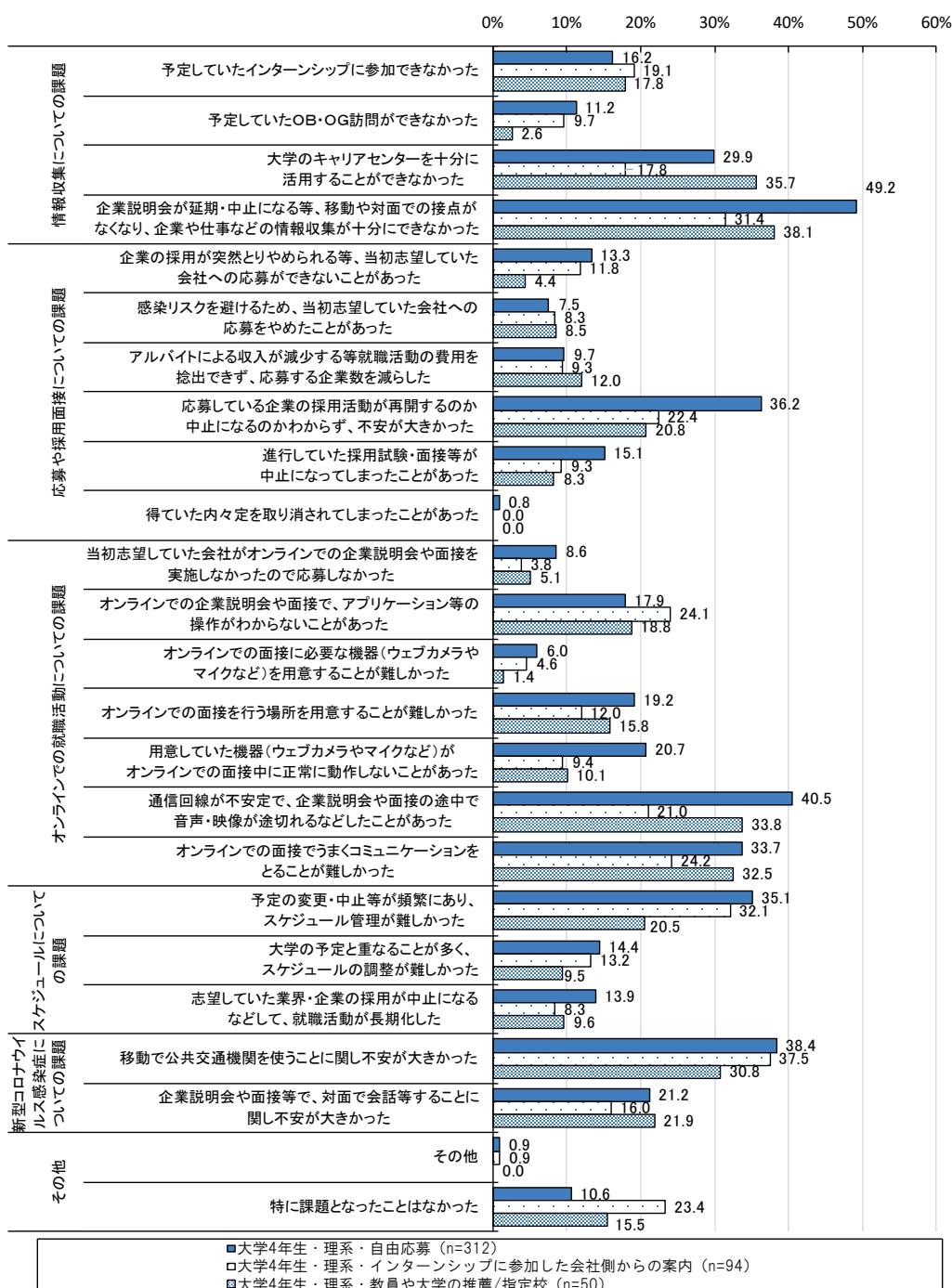
¹³¹ ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「就職活動が始まったと考える時期」が3月、「就職活動が終わったと考える時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも就職活動を行っていた実際の期間を意味するものではない点に留意が必要である。

¹³² 公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。

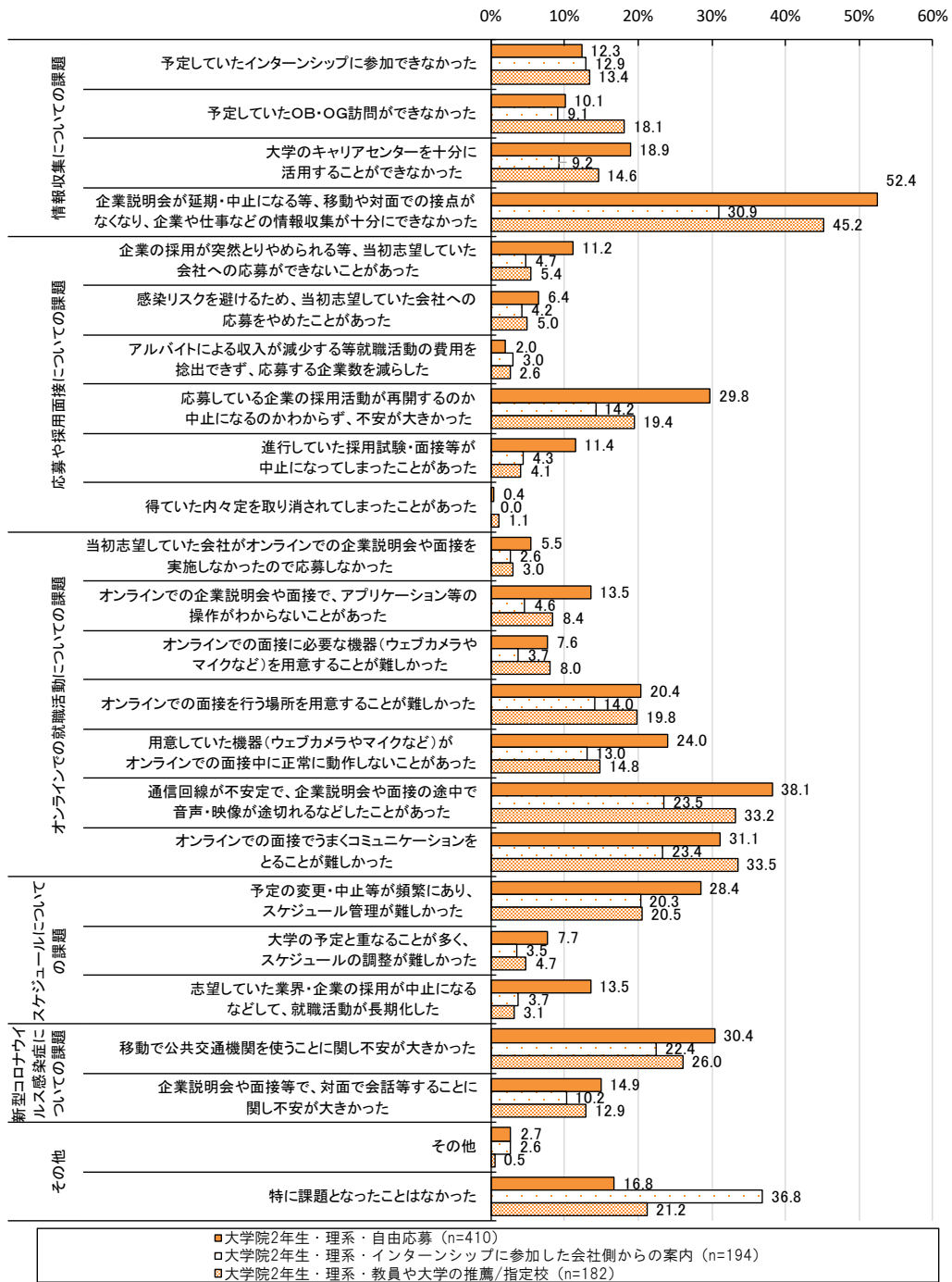
⑪就職予定の企業への入職経路別の就職活動に関する新型コロナウイルス感染症による課題

就職予定の企業への入職経路別に、理系の学生について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、課題になったことを集計すると、大学4年生・大学院2年生ともに、「自由応募」「教員や大学の推薦/指定校」であった者については「企業説明会が延期・中止になる等、移動や対面での接点がなくなり、企業や仕事などの情報収集が十分にできなかった」の回答割合が最も高くなっている。なお、大学院2年生の「インターンシップに参加した会社側からの案内」であった者については「特に課題となったことはなかった」の回答割合が最も高くなっている。

図表 6-11-1 就職予定の企業への入職経路別、就職活動に関する新型コロナウイルス感染症による課題（複数回答）
（大学4年生・理系）



(大学院2年生・理系)



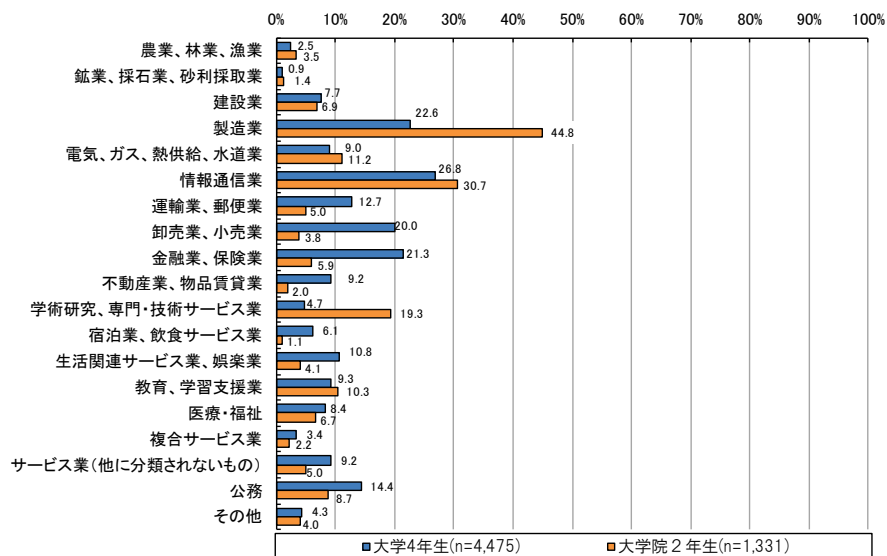
第7章 就職予定の企業の業界別の集計

①志望業界・就職予定の企業の業界に関する回答状況

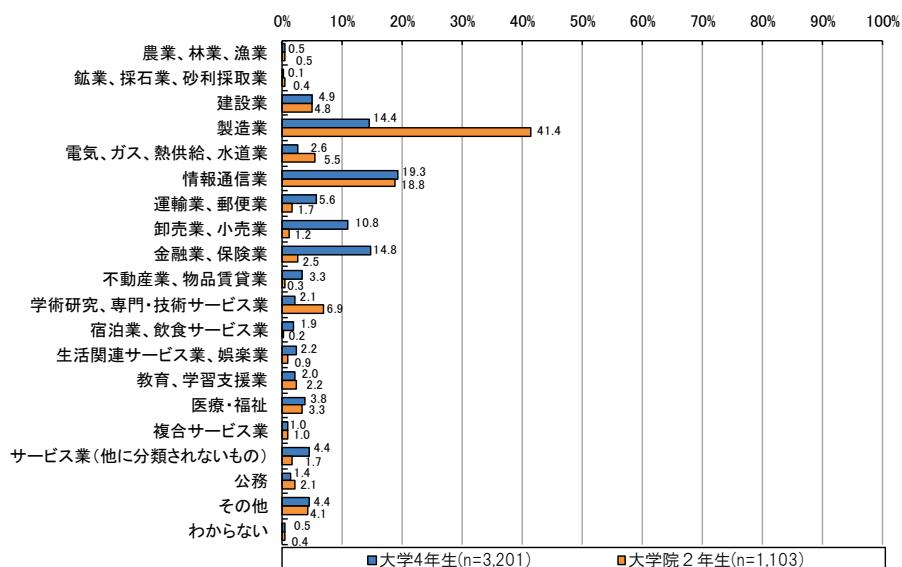
就職活動を行うにあたり、志望していた（志望している）就職先の業界について集計すると¹³³、大学4年生では「情報通信業」「製造業」「金融業、保険業」の順、大学院2年生では「製造業」「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」の順で回答割合が高くなっている。

また、内々定を受けた者に関して、就職予定の企業の業界¹³⁴について集計しても同様に、大学4年生では「情報通信業」、「製造業」、「金融業、保険業」の順、大学院2年生では「製造業」、「情報通信業」、「学術研究、専門・技術サービス業」の順で回答割合が高くなっている。

図表 7-1-1 志望業界（複数回答）



図表 7-1-2 内々定を受けた就職予定の企業の業界



¹³³ この設問の対象は、「就職活動を行った（終えた）」「就職活動を行っている（継続している）」「これから就職活動を行う予定である」と回答した者であったが、ここでは、「就職活動を行った（終えた）」「就職活動を行っている（継続している）」とした者のみを集計対象とした。

¹³⁴ 図表 7-1-1 に掲載した集計結果は、志望していた就職先の業界について該当するものをすべて回答してもらったものであるのに対し、図表 7-1-2 に掲載した集計結果は、就職予定の企業について選択肢よりひとつのみ回答する方式によるものである。なお、第7章における図表 7-2-1 以降の集計は、就職予定の企業の業界に関する回答を基に分類して行ったものである。

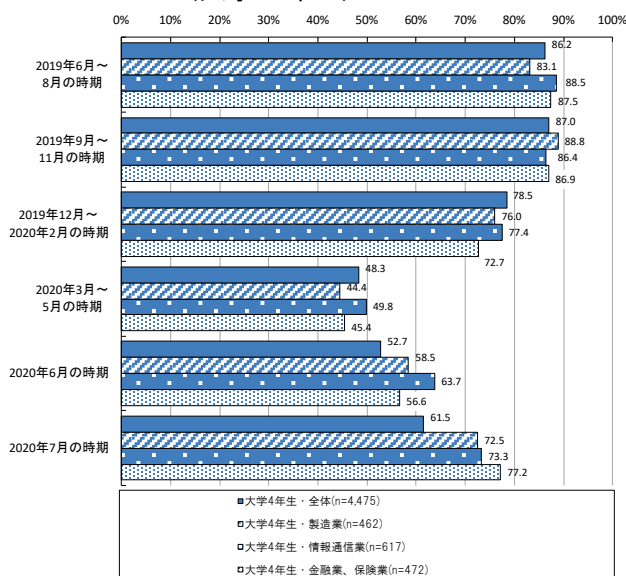
②就職予定の企業の業界別の就職活動と学修時間確保の状況

就職予定の企業の業界について該当する学生の割合が高い3業種（大学4年生に関しては「情報通信業」「製造業」「金融業、保険業」の3業種、大学院2年生に関しては「製造業」「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」の3業種）に着目し、それぞれの就職活動の状況等に違いがあるかについて集計した。

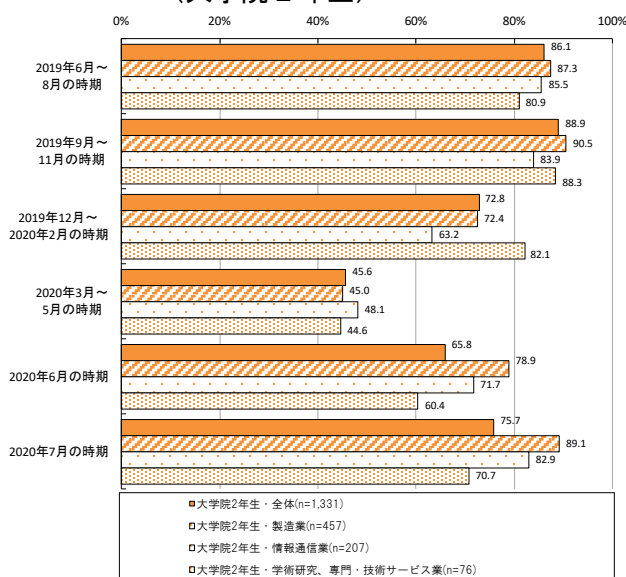
就職活動と学修時間確保の状況に関し、「十分学修時間を確保できた」、「必要な学修時間は確保できた」、「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合について、大学4年生では、広報活動開始時期後の3月から採用選考活動開始時期後6月の時期の回答割合が、就職予定の企業の業界が「情報通信業」の者で高くなっている。

大学院2年生では、就職予定の企業の業界が「製造業」の者について、採用選考活動開始時期後6月以降の時期に「学修時間が確保できた」の回答割合が高くなっている。

図表 7-2-1 就職予定の企業の業界別の就職活動と学修時間確保の状況
(大学4年生)



(大学院2年生)

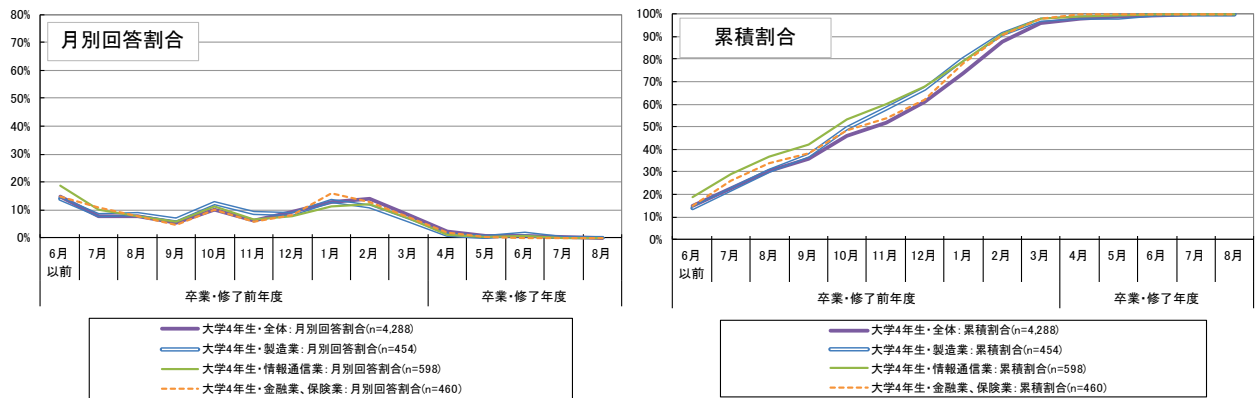


※就職活動との関係で学修時間の確保ができたかどうかを尋ねた設問について、「就職活動の影響をほとんど受けることなく十分学修時間を確保できた」「就職活動に少し時間を割くことがあったが、必要な学修時間は確保できた」「就職活動に時間を割くことがあったが、一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合

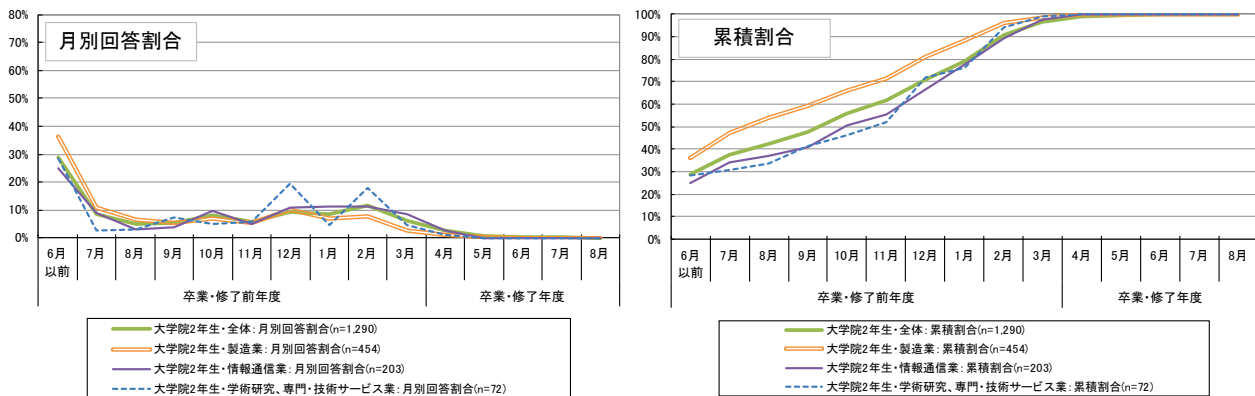
③就職予定の企業の業界別の業界や企業に関する分析を開始した時期

就職予定の企業の業界別に、業界や企業に関する分析を開始した時期を集計すると¹³⁵、大学4年生ではどの業界でも概ね同様となっているが、大学院2年生では「製造業」の者が比較的早い時期、「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」の者で比較的遅い時期の回答割合が高くなっている。

図表 7-3-1 就職予定の企業の業界別の業界や企業に関する分析を開始した時期
(大学4年生)



(大学院2年生)



¹³⁵ 業界や企業に関する分析について「特段行わなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

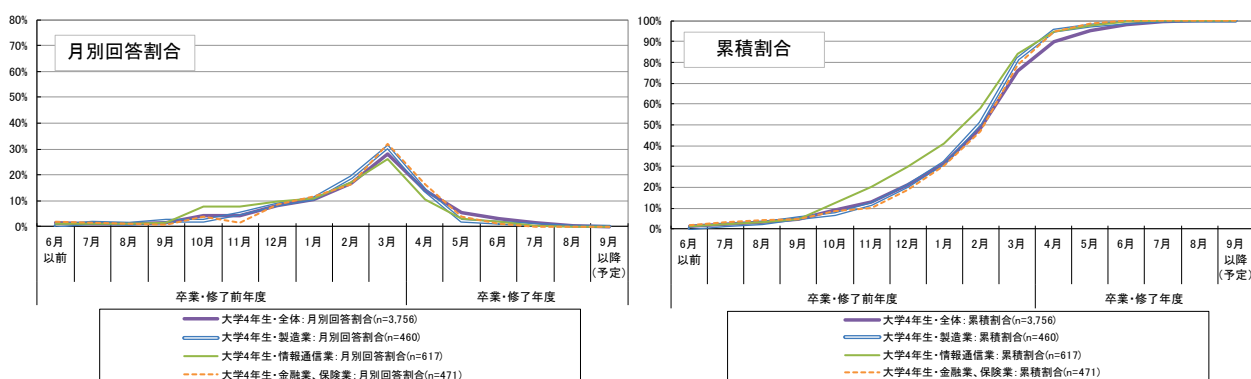
④就職予定の企業の業界別の採用面接の実施状況

就職予定の企業の業界別に、採用面接の実施状況を集計すると¹³⁶、大学4年生では、就職予定の企業の業界が「情報通信業」の者で、「最初」「ピーク」「最後」のいずれについても、より早期の回答割合が若干高くなっている。大学院2年生では、就職予定の企業の業界が「情報通信業」の者について「最初」でより早期の回答割合が高くなっている。

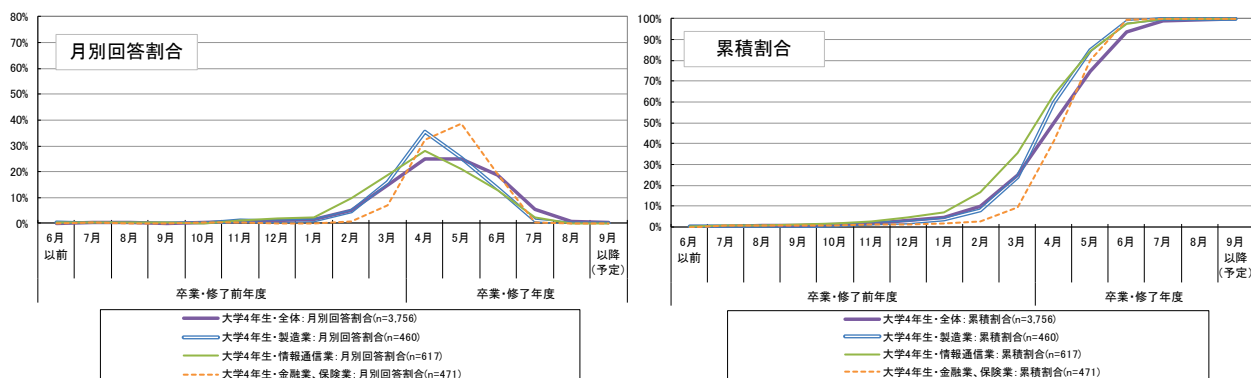
なお、採用面接の企業数の平均値は、大学4年生で「製造業」の者が11.8社、「情報通信業」の者が11.3社、「金融業、保険業」の者が13.3社、大学院2年生では、「製造業」の者が6.1社、「情報通信業」の者が6.5社、「学術研究、専門・技術サービス業」の者が7.0社となっている。

図表 7-4-1 大学4年生の就職予定の企業の業界別の採用面接の実施時期

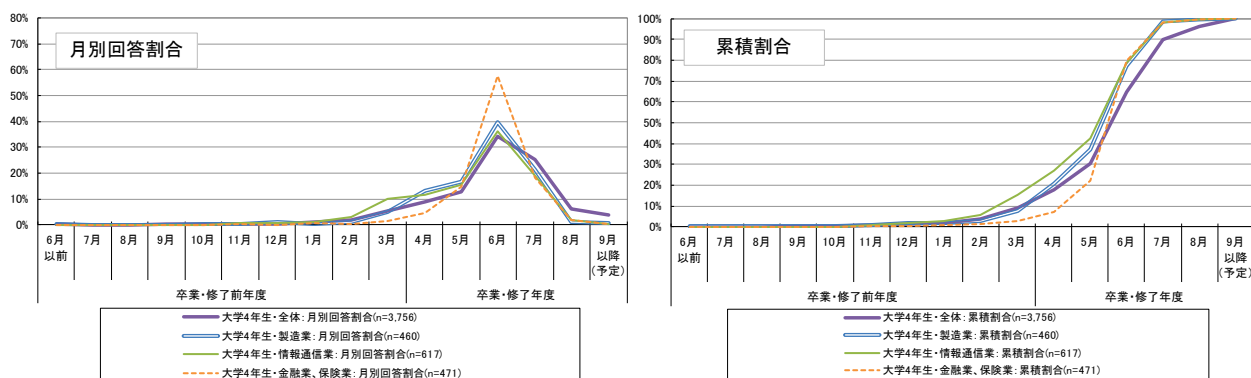
<最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



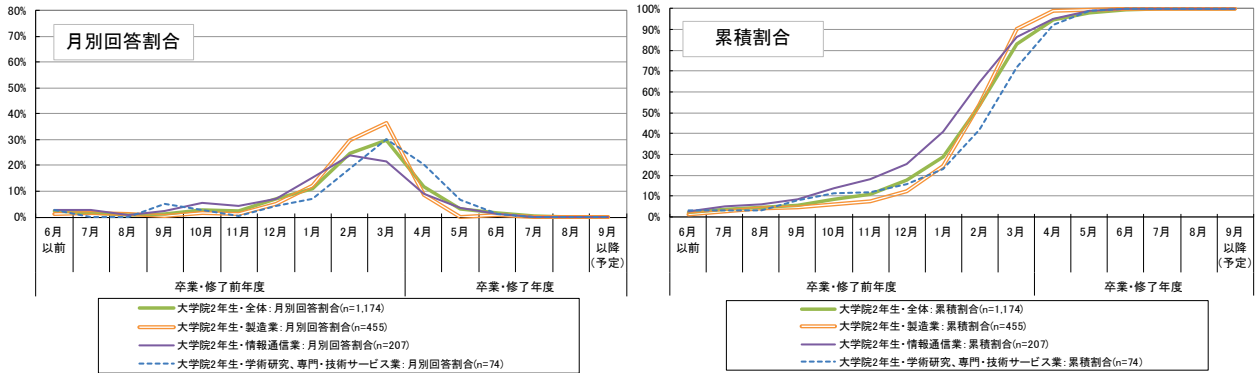
<最後に受けた採用面接の時期>



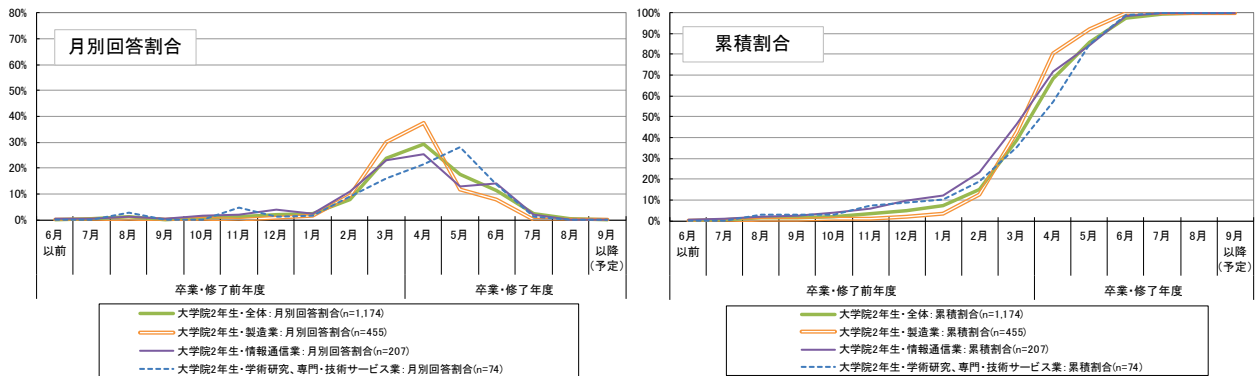
¹³⁶ 採用面接について「特段行わなかった」と回答した者は集計の対象外とした。「全体」の集計結果は公務員や教職員志望者を除いて集計したものである。

図表 7-4-2 大学院 2 年生の就職予定の企業の業界別の採用面接の実施時期

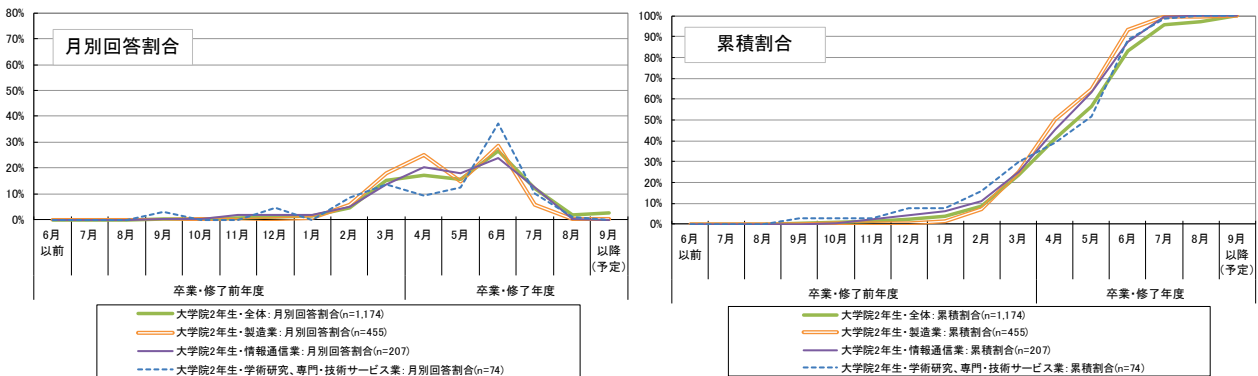
＜最初に受けた採用面接の時期＞



＜採用面接のピーク＞



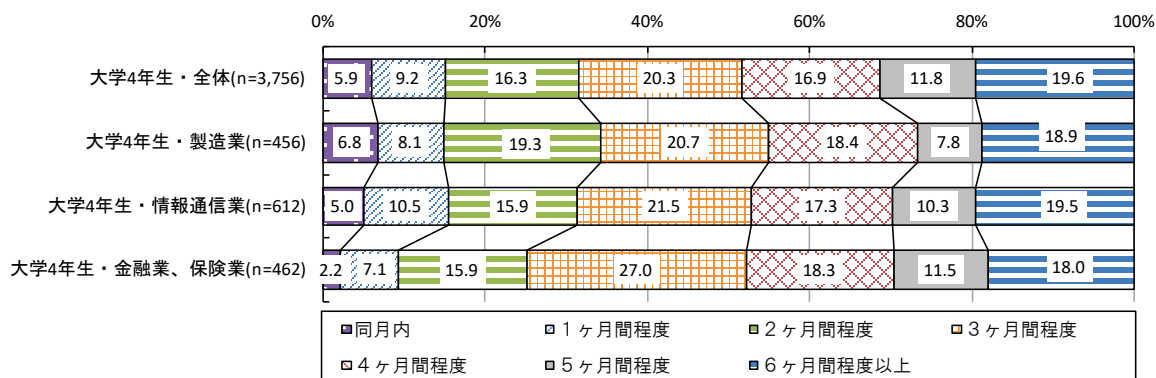
＜最後に受けた採用面接の時期＞



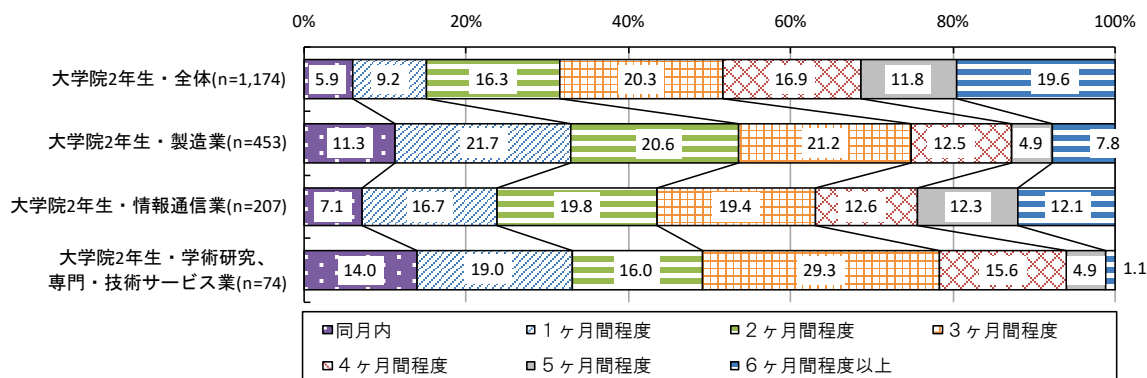
⑤就職予定の企業の業界別の最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

就職予定の企業の業界別に、「最初に受けた採用面接の時期」¹³⁷から「最後に受けた採用面接の時期」までの期間¹³⁸を集計すると¹³⁹、大学4年生では、就職予定の企業の業界が「金融業、保険業」の者で「同月内」や「1ヶ月間程度」の割合が比較的低く、「3ヶ月間程度」の割合が比較的高くなっている。また、大学院2年生では、就職予定の企業の業界が「情報通信業」の者で「同月内」や「1ヶ月間程度」の割合が「製造業」や「学術研究、専門・技術サービス業」の者よりも低くなっている。

図表 7-5-1 就職予定の企業の業界別の最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間
(大学4年生)



(大学院2年生)



¹³⁷ 採用面接に関して、「面談」や「相談会」などの名称の下に行われた企業との接触について、それが実質的に採用面接だと感じた場合は、採用面接と考えていただくよう回答者に案内した上で得られた回答である。なお、ここでの「採用面接」は就職予定の企業のものに限らない

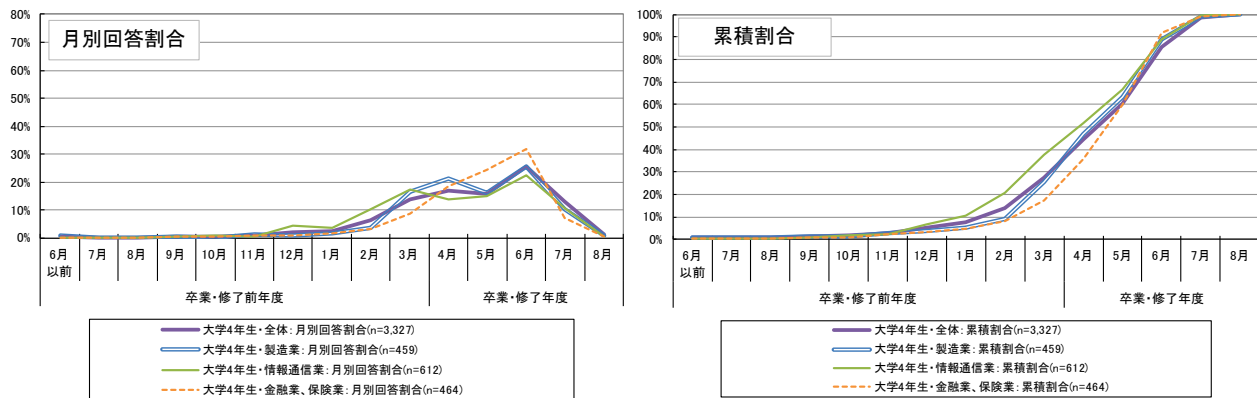
¹³⁸ ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が3月、「最後に受けた採用面接の時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも採用面接を受けていた実際の期間を意味するものではない点に留意が必要である。

¹³⁹ 採用面接について「特段行わなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。なお、「全体」の集計結果は公務員や教職員志望者を除いて集計したものである。

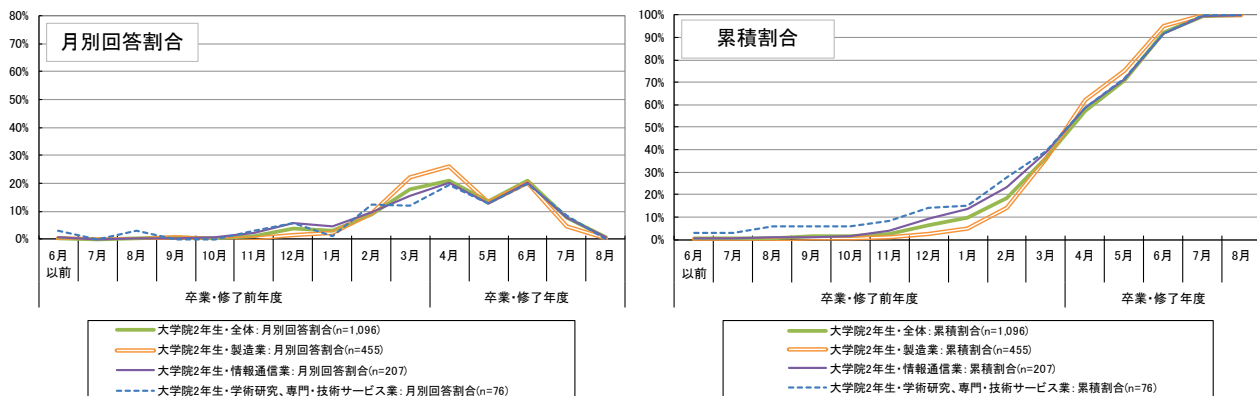
⑥就職予定の企業の業界別の内々定を受けた時期

就職予定の企業の業界別に内々定を受けた時期について集計すると¹⁴⁰、大学4年生では、就職予定の企業の業界が「情報通信業」の者は、より早い時期に内々定を受けた割合が若干高くなっている。また、大学院2年生では、就職予定の企業の業界が「情報通信業」の者や「学術研究、専門・技術サービス業」の者で、より早い時期に内々定を受けた割合が若干高くなっている。

図表 7-6-1 就職予定の企業の業界別の内々定を受けた時期
(大学4年生)



(大学院2年生)



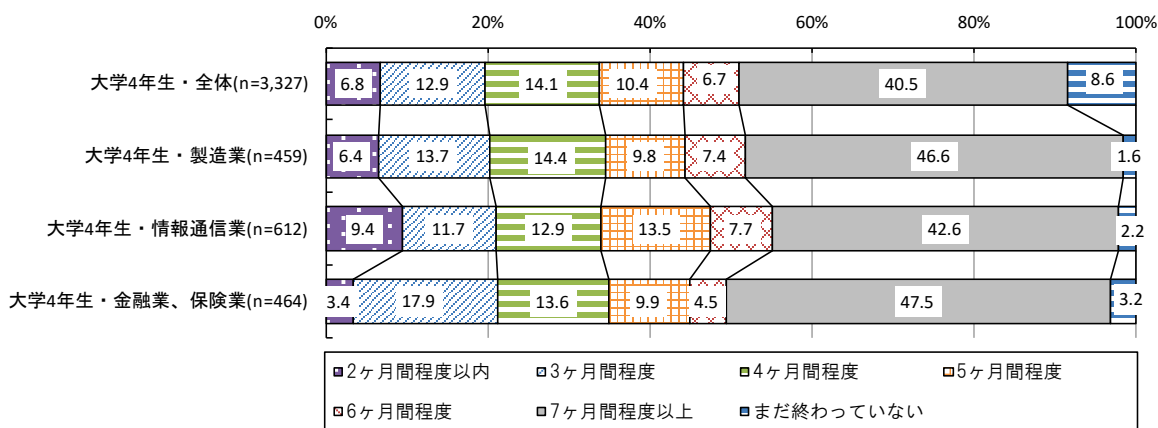
¹⁴⁰ 1社から内々定を受けた者はその時期について、複数社から内々定を受けた者は最初に内々定を受けた時期について集計した。なお、ここでの「内々定」は就職予定の企業のものに限らない。「全体」の集計結果は公務員や教職員志望者を除いて集計したものである。

⑦就職予定の企業の業界別の、就職活動の始まりから終わりまでの期間

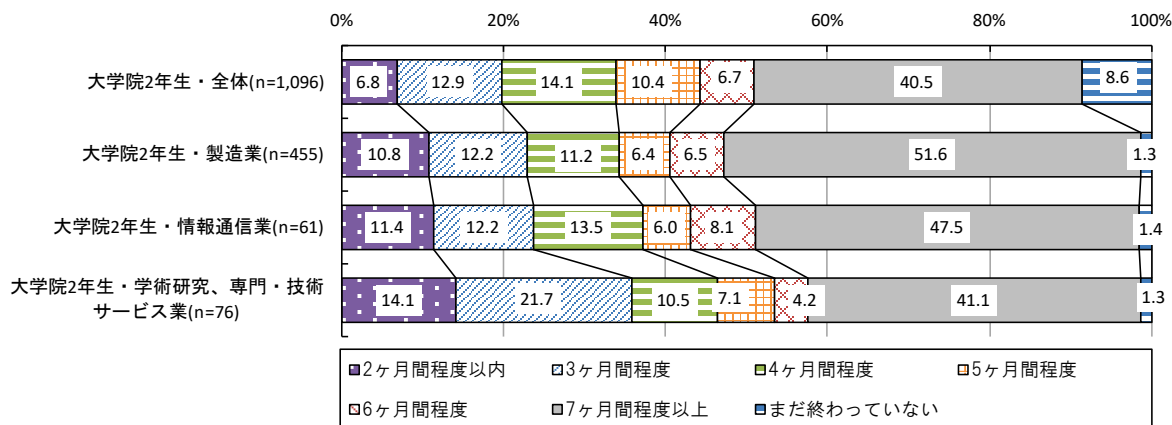
就職予定の企業の業界別に、「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」までの期間を集計すると¹⁴¹、大学4年生では就職予定の企業の業界が「金融業、保険業」の者で「2ヶ月間程度以内」の回答割合が低く、他方、「3ヶ月間程度」と「7ヶ月間程度以上」の割合は比較的高くなっている¹⁴²。

大学院2年生では、「学術研究、専門・技術サービス業」の者で、比較的短い期間の割合が高くなっている。「製造業」「情報通信業」の者については、「7ヶ月程度以上」の割合が高くなっている。

図表 7-7-1 就職予定の企業の業界別の就職活動の始まりから終わりまでの期間
(大学4年生)



(大学院2年生)



¹⁴¹ 「全体」の集計結果は公務員や教職員志望者を除いて集計したものである。

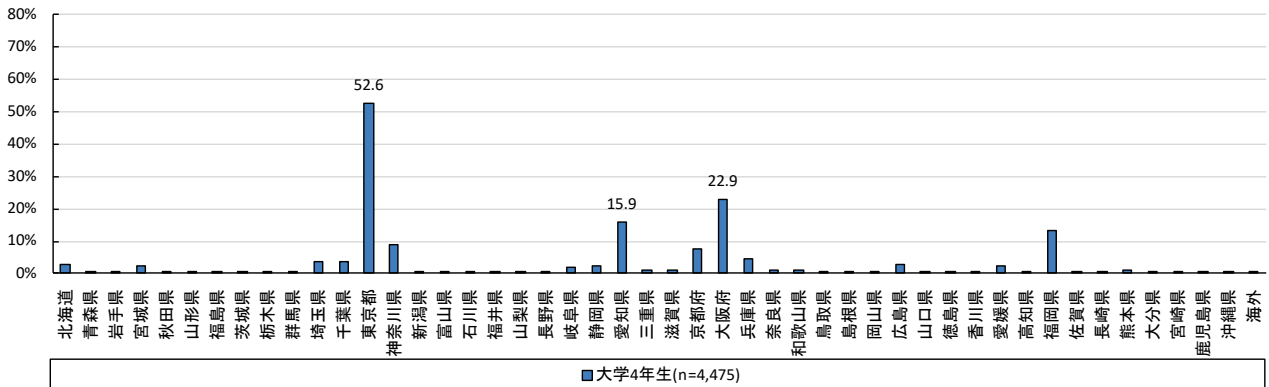
¹⁴² ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「就職活動が始まったと考える時期」が3月、「就職活動が終わったと考える時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも就職活動を行っていた実際の期間を意味するものではない点に留意が必要である。

第8章 就職活動地域別の集計

①就職活動地域に関する回答状況

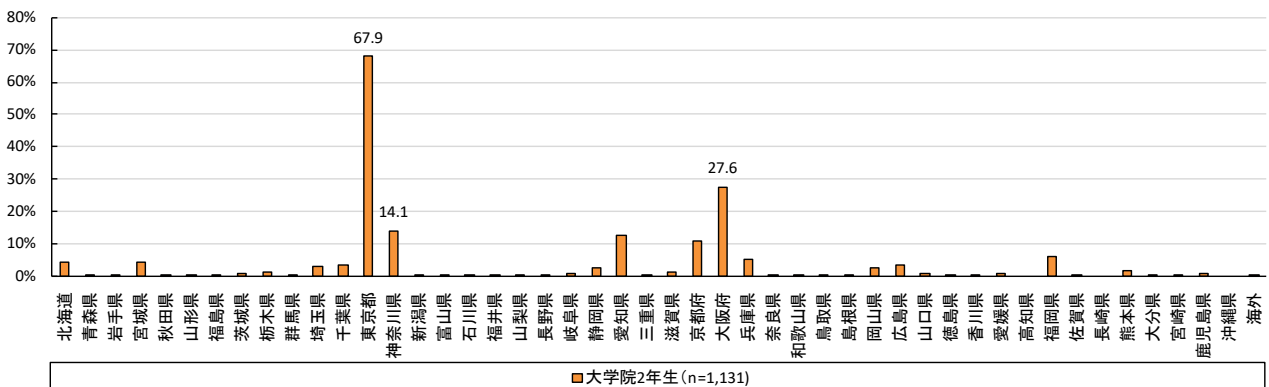
就職活動を行った地域（都道府県）について集計すると143、大学4年生・大学院2年生ともに、「東京都」の割合が最も高く、次いで「大阪府」の割合が高くなっている。

図表 8-1-1 就職活動地域（3つまで）
（大学4年生）



■大学4年生(n=4,475)

（大学院2年生）



■大学院2年生(n=1,131)

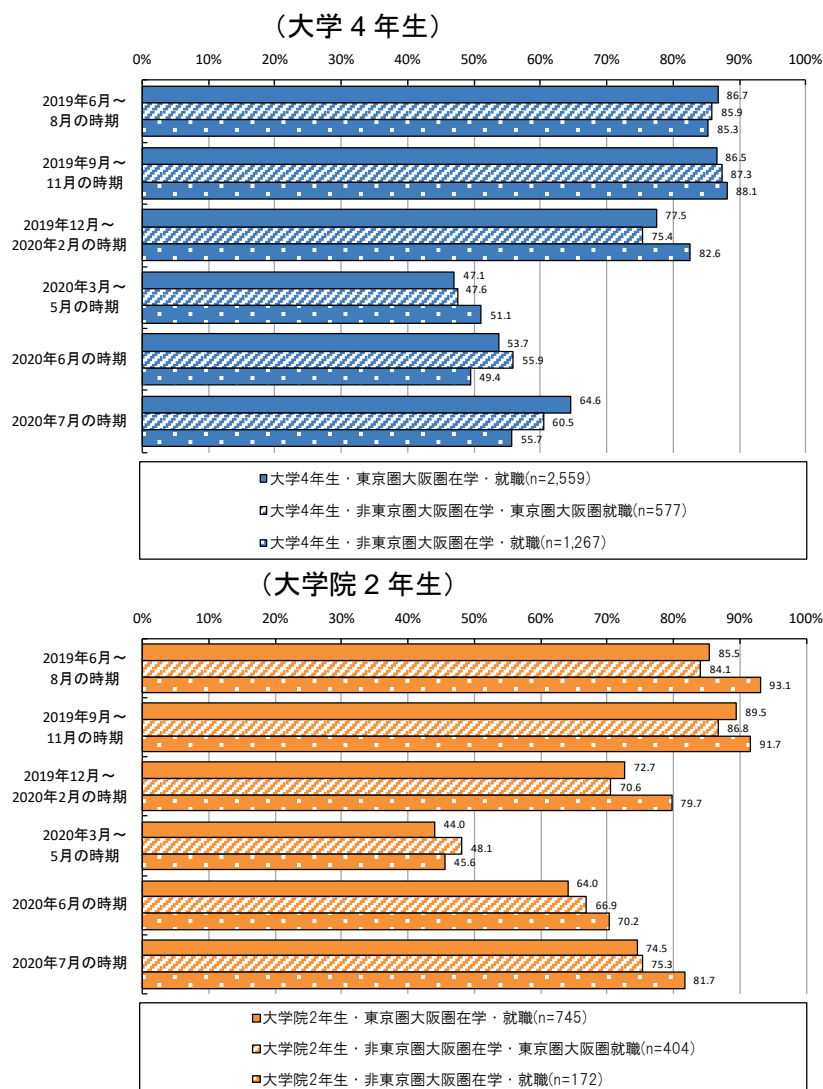
143 主な地域について3地域まで回答されたものを集計したものである。

②就職活動地域別の就職活動と学修時間確保の状況

就職活動地域に関する回答状況と、大学所在地との関係をふまえ、「東京圏大阪圏在学・東京圏大阪圏就職」の者と、「非東京圏大阪圏在学・東京圏大阪圏就職」の者、「非東京圏大阪圏在学・非東京圏大阪圏就職」の者の3つに分類して、それぞれの就職活動の状況等について集計した¹⁴⁴。

就職活動と学修時間確保の状況について、「十分学修時間を確保できた」、「必要な学修時間は確保できた」、「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合を集計すると、「東京圏大阪圏在学・就職」者について、大学4年生・大学院2年生ともに、広報活動開始時期後の3月～5月の時期は「学修時間が確保できた」の回答割合が比較的低くなっているが、6月以降については、大学4年生は比較的高くなっているが、大学院2年生は比較的低い傾向が続いている。

図表 8-2-1 就職活動地域別の就職活動と学修時間確保の状況



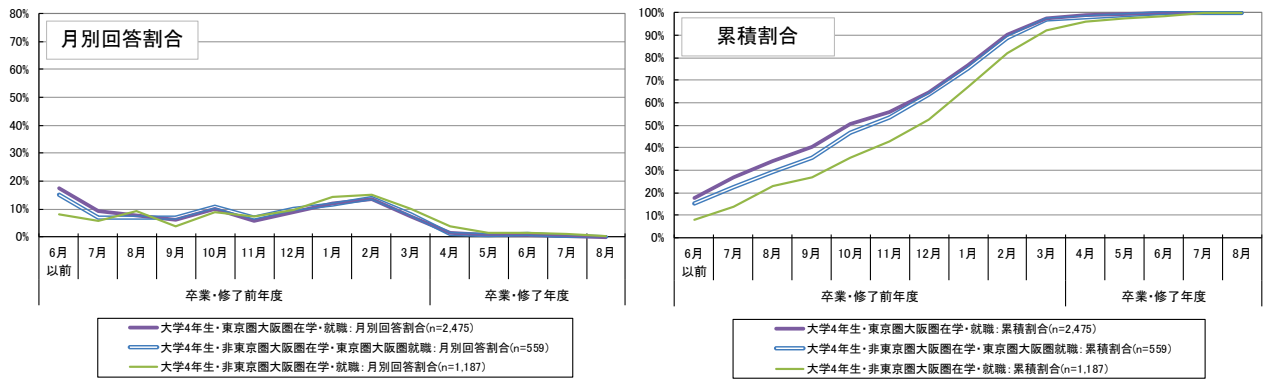
※就職活動との関係で学修時間の確保ができたかどうかを尋ねた設問について、「就職活動の影響をほとんど受けることなく十分学修時間を確保できた」「就職活動に少し時間を割くことがあったが、必要な学修時間は確保できた」「就職活動に時間を割くことがあったが、一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合

¹⁴⁴ 「東京都」「埼玉県」「千葉県」「神奈川県」を「東京圏」、「大阪府」「京都府」「兵庫県」「奈良県」を「大阪圏」とした。就職活動地域については、3地域まで回答したなかで、「東京都」「埼玉県」「千葉県」「神奈川県」「大阪府」「京都府」「兵庫県」「奈良県」のいずれかが含まれる場合は「東京圏大阪圏」に分類される。なお、「東京圏大阪圏在学・東京圏大阪圏就職」の者と、「非東京圏大阪圏在学・東京圏大阪圏就職」の者を合わせて「東京圏大阪圏就職者」としている。このほか、「東京圏大阪圏在学・非東京圏大阪圏就職」の者も一部見られたが、該当する者の件数が少なかったことから、ここでは集計の対象外とした。

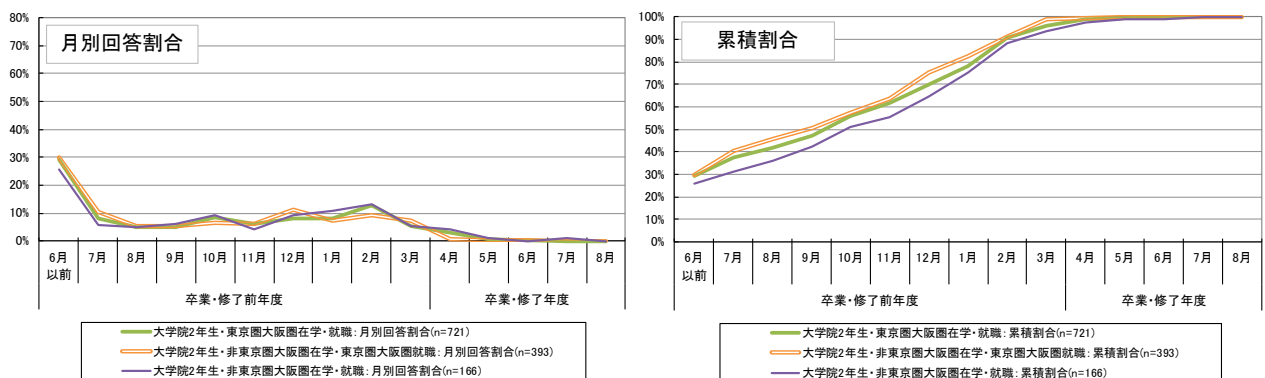
③就職活動地域別の業界や企業に関する分析を開始した時期

就職活動地域別に、業界や企業に関する分析を開始した時期を集計すると¹⁴⁵、大学4年生・大学院2年生ともに、東京圏大阪圏就職者でより早い時期を回答した者の割合が比較的高くなっている。

図表 8-3-1 就職活動地域別の業界や企業に関する分析を開始した時期
(大学4年生)



(大学院2年生)



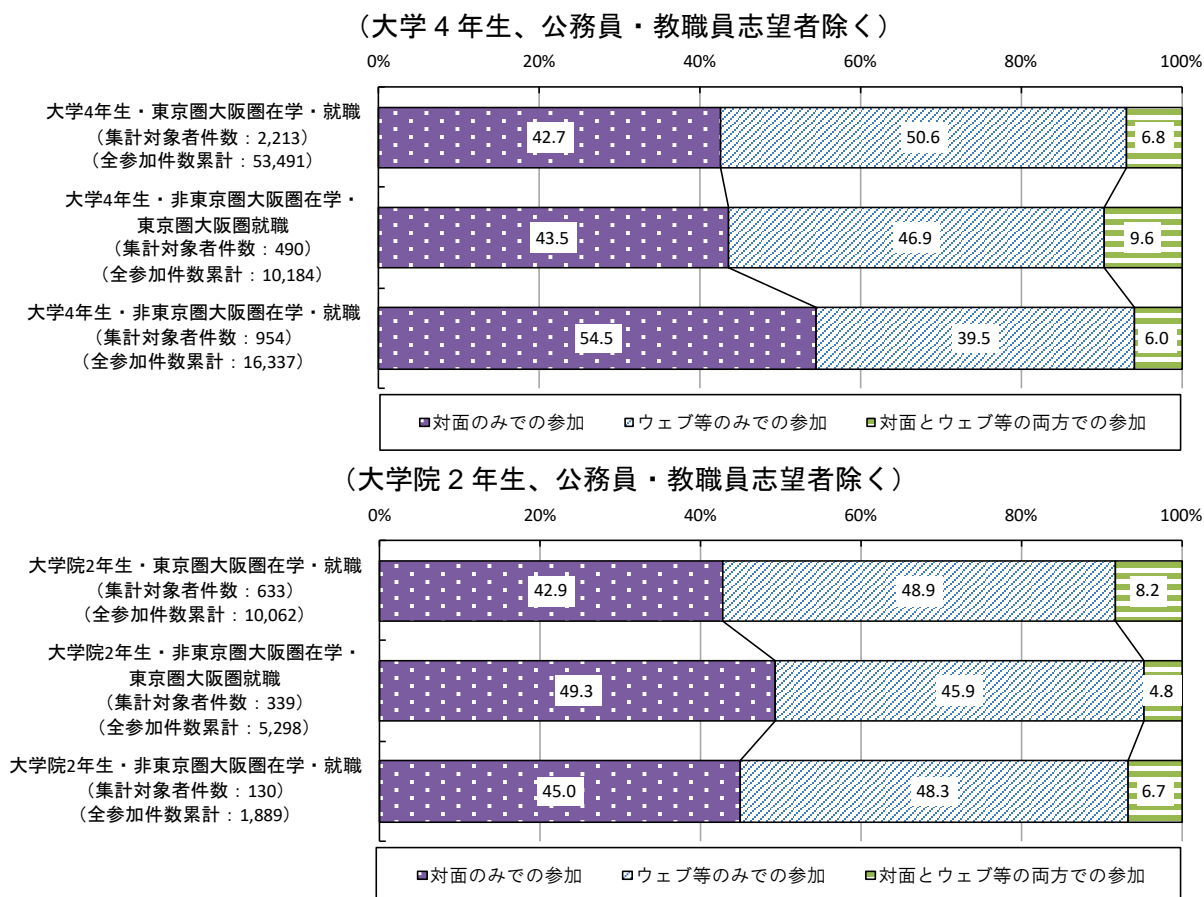
¹⁴⁵ 業界や企業に関する分析について「特段行わなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

④就職活動地域別の企業説明会やセミナー等への参加数に対する方法別参加数の割合

就職活動地域別に、企業説明会やセミナー等について参加した方法別のすべての企業数を累計¹⁴⁶し、参加方法別の件数が占める割合を集計したところ、大学4年生では「非東京圏大阪圏在学・非東京圏大阪圏就職」の者の「ウェブ等のみでの参加」の回答割合が、他の者と比較して少なくなっている。

大学院2年生では、「非東京圏大阪圏在学・東京圏大阪圏就職」の者の「対面のみでの参加」の回答割合が高くなっている。

図表 8-4-1 就職活動地域別の参加した企業説明会やセミナー等の参加方法との関係
(参加した企業説明会やセミナー等の企業数累計による集計)

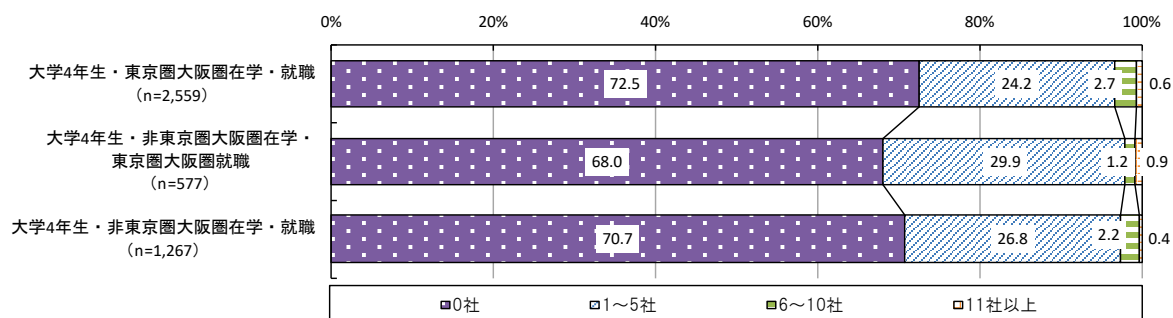


¹⁴⁶ 今年度調査においては、合計で何社の企業説明会やセミナー等に参加したかを尋ねる設問と、対面での参加、ウェブ等での参加の方法別に尋ねる設問を設けているが、前者の「参加した合計の企業数」と後者の「方法別で尋ねた企業数」の合計は必ずしも一致せずとも回答が可能ないように設定したことから、前者ではなく後者の合計を用いて累計の値とした。

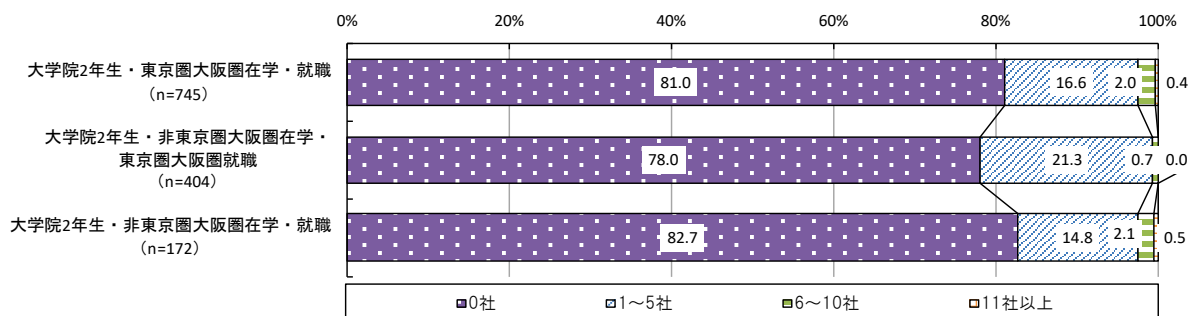
⑤就職活動地域別の対面で実施された企業説明会やセミナー等における参加動向

就職予定の企業への入職経路別に、参加を予定していた企業説明会やセミナー等で、対面で実施されることを理由として、自ら参加を取りやめたものについて集計したところ、1社以上と回答した割合は、活動地域にかかわらず、大学4年生では約3割、大学院2年生では約2割となっている。

図表 8-5-1 就職活動地域別、対面で実施されることが理由で参加を取りやめた企業説明会やセミナー等の企業数
(大学4年生)



(大学院2年生)



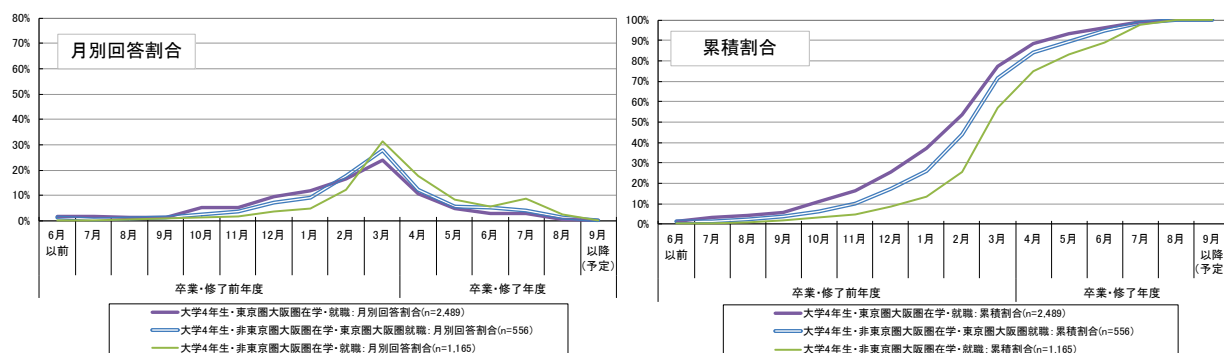
⑥就職活動地域別の採用面接の実施状況

就職活動地域別に、採用面接の実施状況を集計すると¹⁴⁷、大学4年生では、「最初」について「東京圏大阪圏在学・東京圏大阪圏就職」の者でより早期の回答割合が高くなっている。「ピーク」については東京圏大阪圏就職者は早期の回答割合が若干高くなっている。大学院2年生については、「最初」「ピーク」「最後」いずれについても東京圏大阪圏就職者の早期の回答割合が高くなっている。

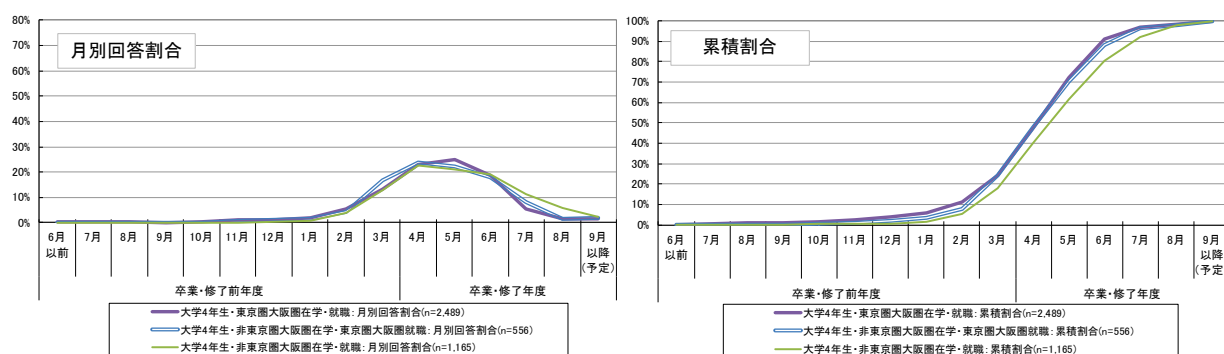
なお、大学4年生の採用面接の企業数の平均値は、「東京圏大阪圏在学・東京圏大阪圏就職」の者で11.8社、「非東京圏大阪圏在学・東京圏大阪圏就職」の者で9.7社、「非東京圏大阪圏在学・非東京圏大阪圏就職」の者で7.3社となっている。大学院2年生の採用面接の企業数の平均値は、「東京圏大阪圏在学・東京圏大阪圏就職」の者で7.4社、「非東京圏大阪圏在学・東京圏大阪圏就職」の者で6.3社、「非東京圏大阪圏在学・非東京圏大阪圏就職」の者で4.8社となっている。

図表 8-6-1 大学4年生の就職活動地域別の採用面接の実施時期（公務員・教職員志望者除く）

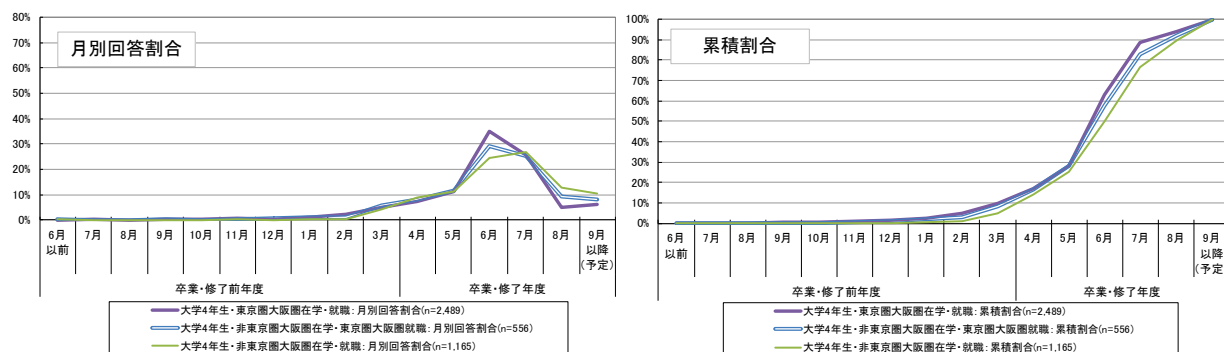
<最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



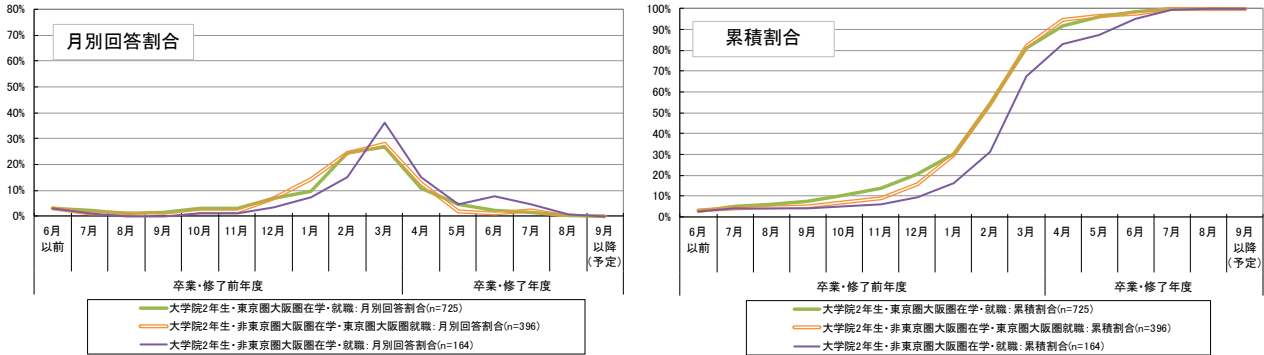
<最後に受けた採用面接の時期>



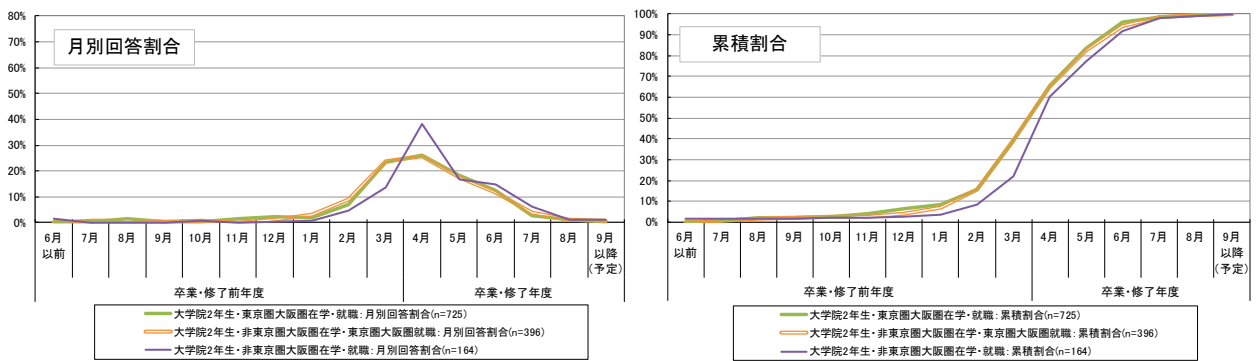
¹⁴⁷ 公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点で採用の面接等が行われていないと想定されたことから、ここでは集計の対象外とした。また、その上で、採用面接について「特段行わなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

図表 8-6-2 大学院 2 年生の就職活動地域別の採用面接の実施時期（公務員・教職員志望者除く）

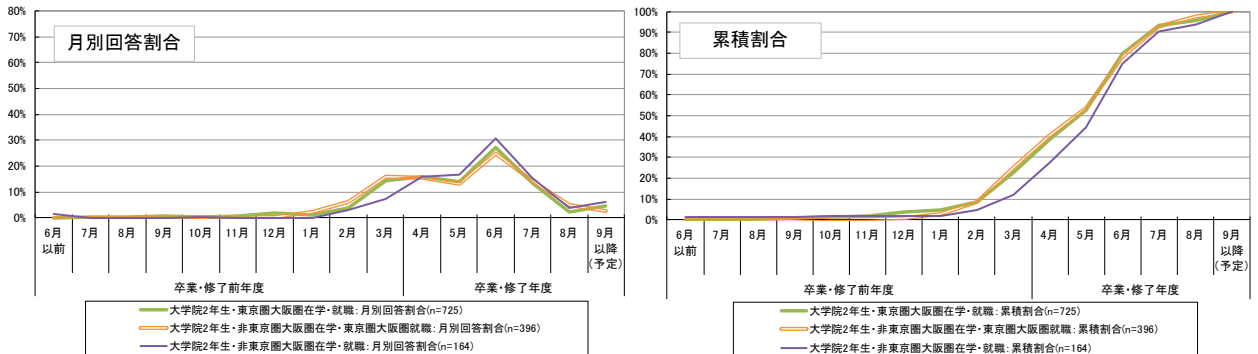
<最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



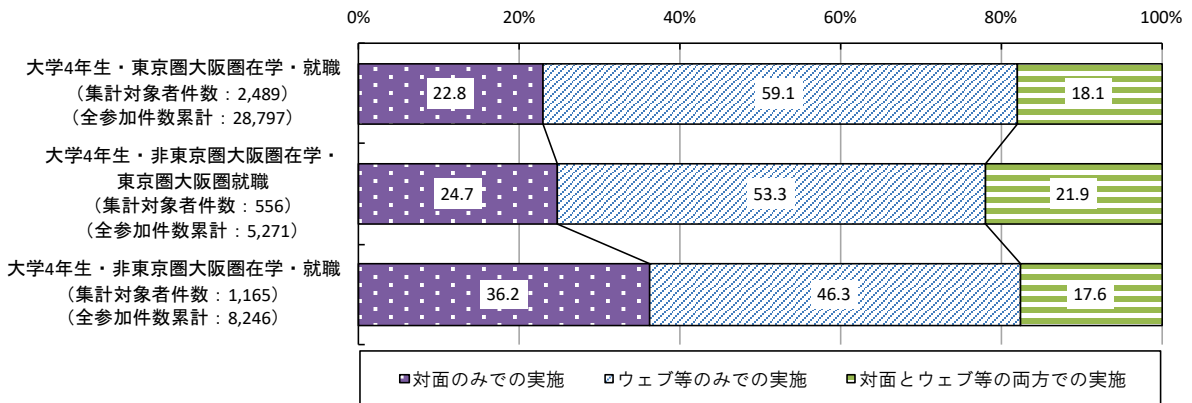
<最後に受けた採用面接の時期>



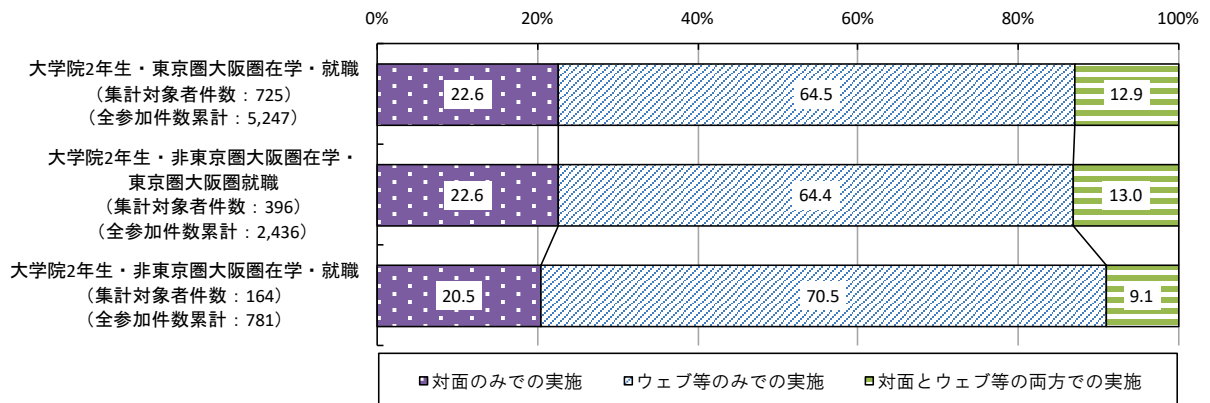
⑦就職活動地域別の採用面接を受けた企業数に対する方法別実施数の割合

就職活動地域別に、採用面接について実施された方法すべての企業数を累計¹⁴⁸し、実施方法別の件数が占める割合を集計したところ、大学4年生では、「非東京圏大阪圏在学・就職」者の「ウェブ等のみでの実施」の回答割合が他の者と比べて低くなっている。

図表 8-7-1 就職活動地域別、実施された採用面接の実施方法との関係
(実施された採用面接の企業数累計による集計)
(大学4年生)



(大学院2年生)

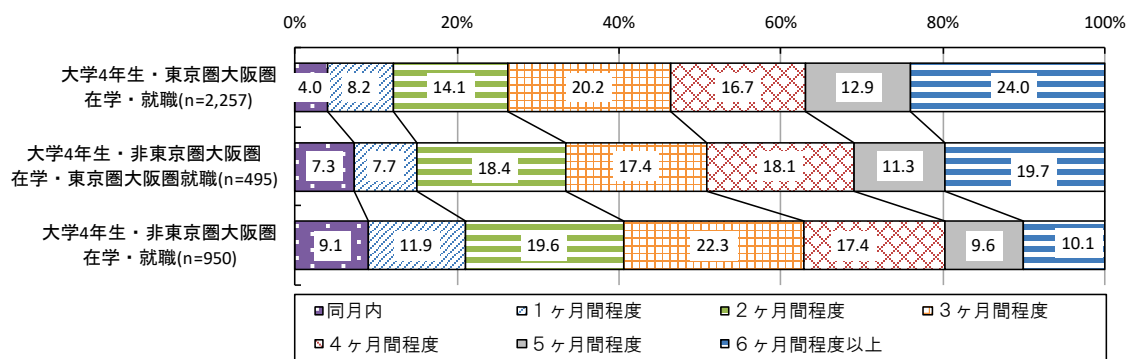


¹⁴⁸ 今年度調査においては、合計で何社の採用面接を受けたかを尋ねる設問と、対面での実施、ウェブ等での実施の方法別に尋ねる設問を設けているが、前者の「実施された合計の企業数」と後者の「方法別で尋ねた企業数」の合計は必ずしも一致せずとも回答が可能ないように設定したことから、前者ではなく後者の合計を用いて累計の値とした。

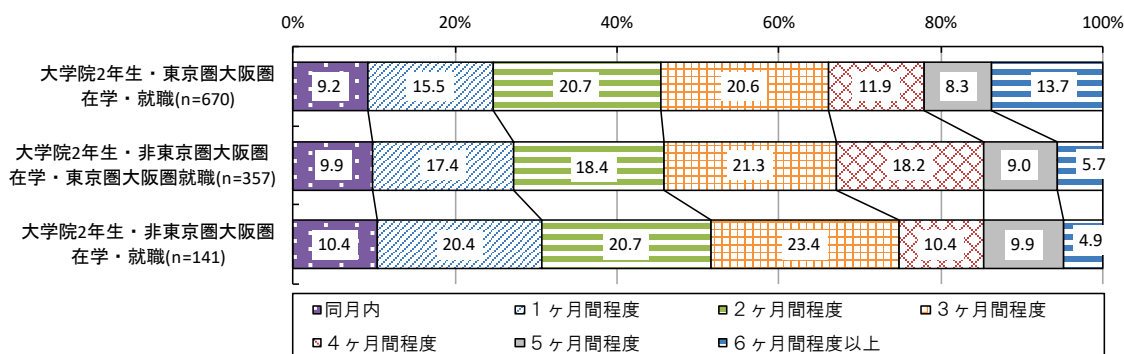
⑧就職活動地域別の最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

就職活動地域別に、「最初に受けた採用面接の時期」¹⁴⁹から「最後に受けた採用面接の時期」までの期間¹⁵⁰を集計すると¹⁵¹、大学4年生・大学院2年生ともに、「東京圏大阪圏在学・東京圏大阪圏就職」や「非東京圏大阪圏在学・東京圏大阪圏就職」の者では期間が比較的長く、他方、「非東京圏大阪圏在学・非東京圏大阪圏就職」の者では短くなっている。

図表 8-8-1 就職活動地域別の最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間
(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



¹⁴⁹ 採用面接に関して、「面談」や「相談会」などの名称の下に行われた企業との接触について、それが実質的に採用面接だと感じた場合は、採用面接と考えていただくよう回答者に案内した上で得られた回答である。

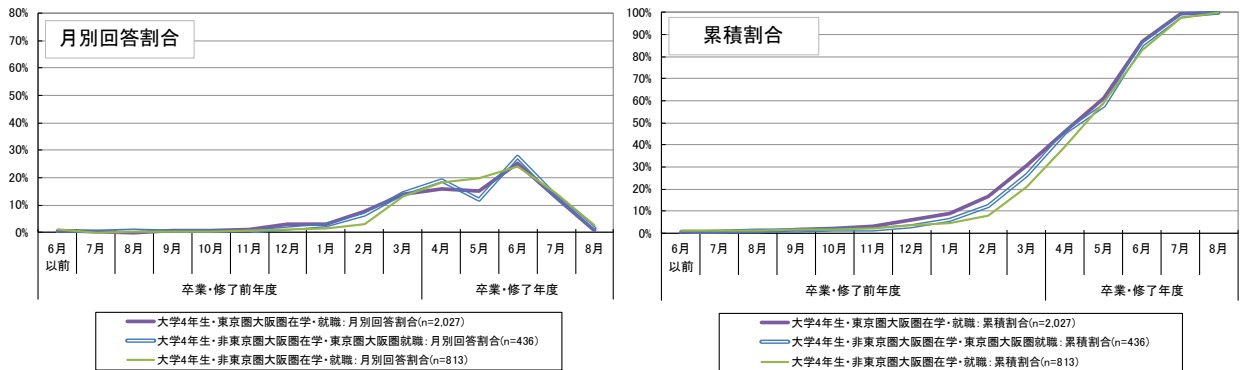
¹⁵⁰ ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が3月、「最後に受けた採用面接の時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも採用面接を受けていた実際の期間を意味するものではない点に留意が必要である。

¹⁵¹ 公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点で採用の面接等が行われていないと想定されたことから、ここでは集計の対象外とした。また、その上で、採用面接について「特段行わなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

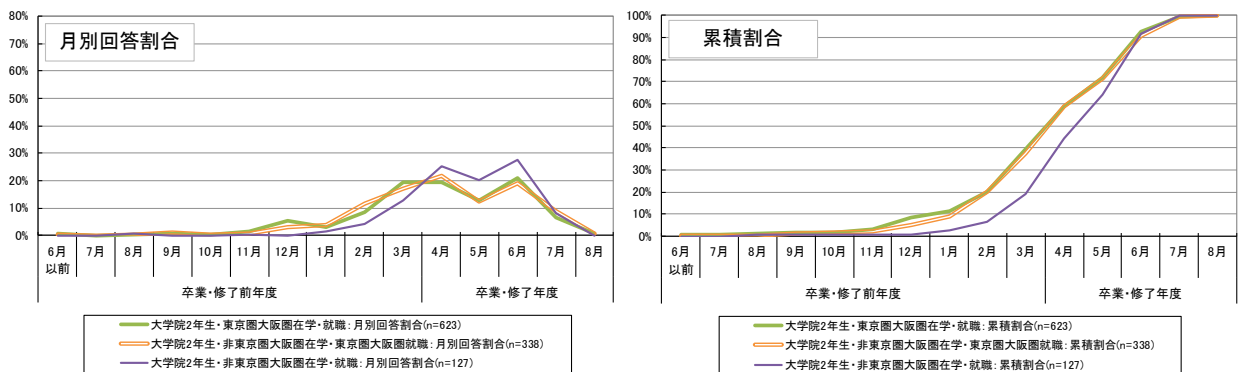
⑨就職活動地域別の内々定を受けた時期

就職活動地域別に、内々定を受けた時期を集計すると¹⁵²、大学4年生についてはどの就職活動地域でも概ね同様の傾向となっているが、大学院2年生については、東京圏大阪圏就職の者で比較的早い時期の回答割合が高くなっている。

図表 8-9-1 就職活動地域別の内々定を受けた時期
(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)

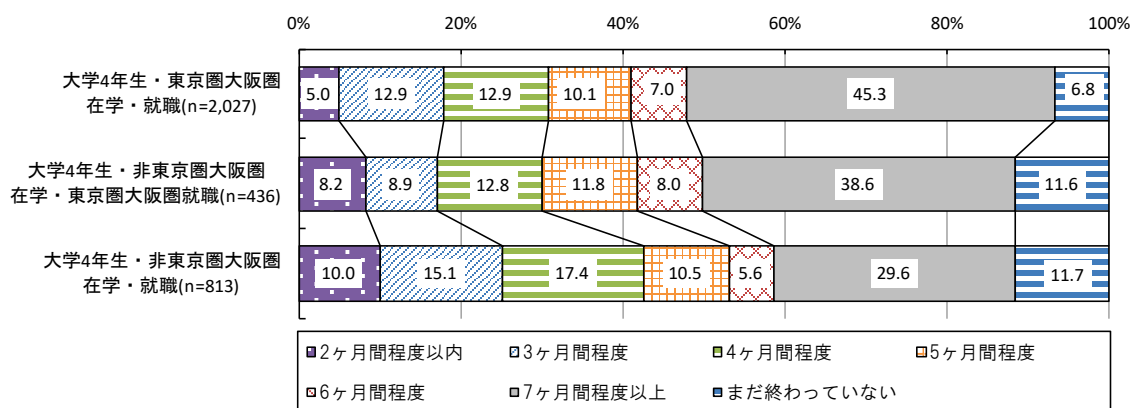


¹⁵² 1社から内々定を受けた者はその時期について、複数社から内々定を受けた者は最初に内々定を受けた時期について集計した。なお、ここでの集計でも、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。

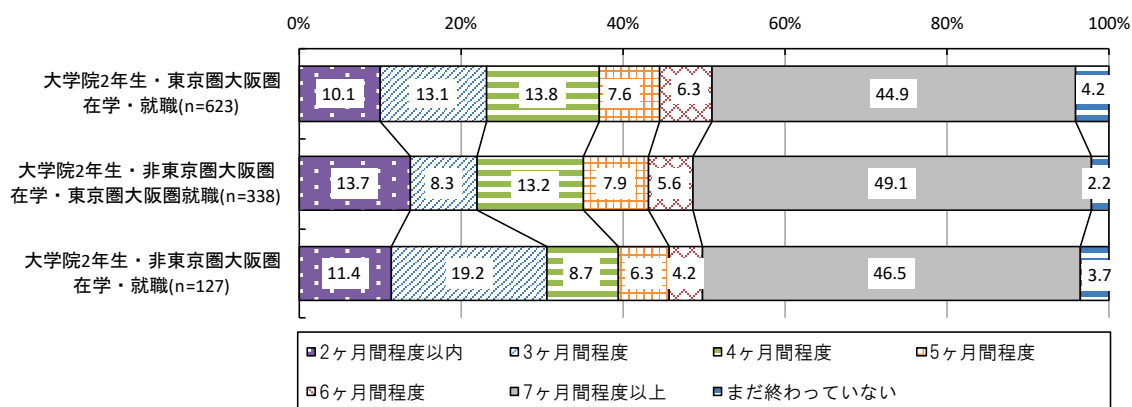
⑩就職活動地域別の就職活動の始まりから終わりまでの期間

就職活動地域別に、「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」までの期間¹⁵³を集計すると¹⁵⁴、大学4年生では、東京圏大阪圏就職者において、比較的長い期間の割合が高くなっている。また、大学4年生・大学院2年生ともに、「非東京圏大阪圏在学・非東京圏大阪圏就職」者について「3ヶ月間程度」以下の期間の割合が高くなっている。

図表 8-10-1 就職活動地域別の就職活動の始まりから終わりまでの期間
(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



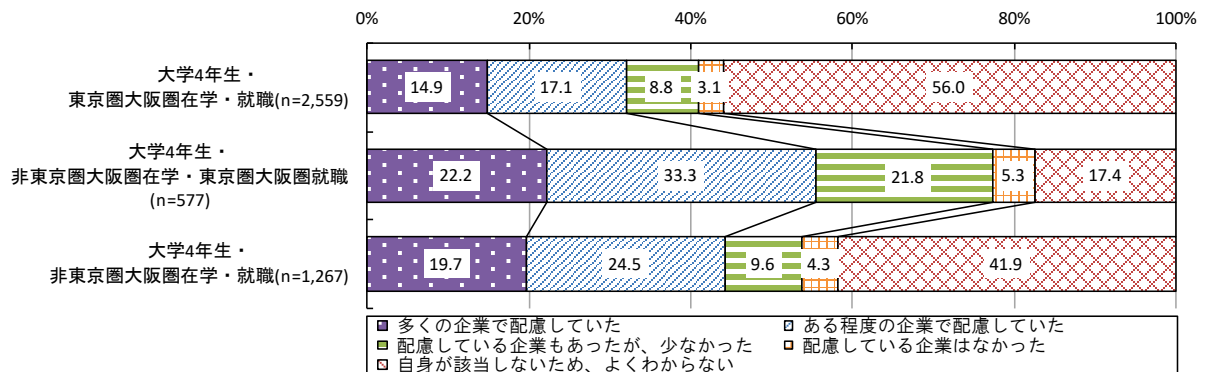
¹⁵³ ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「就職活動が始まったと考える時期」が3月、「就職活動が終わったと考える時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも就職活動を行っていた実際の期間を意味するものではない点に留意が必要である。

¹⁵⁴ 公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。

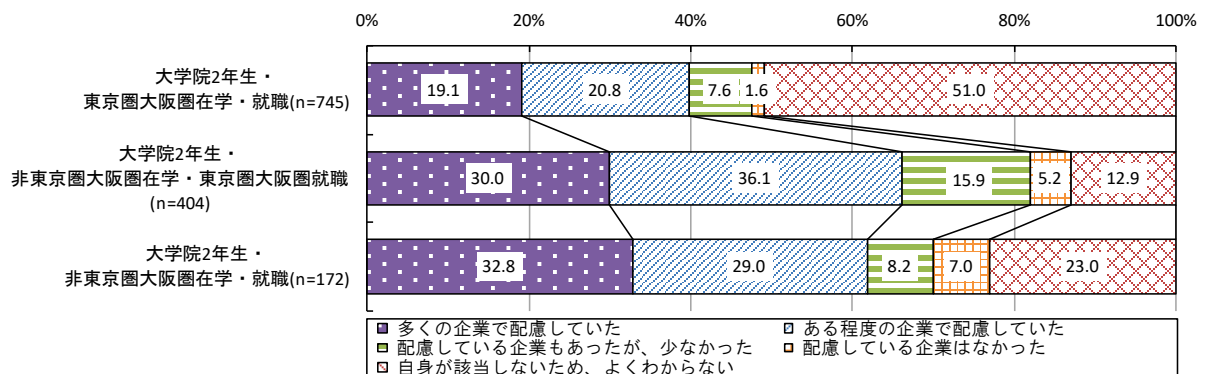
⑪就職活動地域別の企業側からの配慮の状況

就職活動地域別に、地方から都市部への就職活動や、Uターン・Iターン・Jターン就職など、学生の負担の大きい遠隔地への就職活動に際して、企業側からの配慮があったかについて集計すると、「非東京圏大阪圏在学・東京圏大阪圏就職」の者に関して、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた割合は大学4年生では約6割、大学院2年生では約7割となっている。

図表 8-11-1 就職活動地域別の地方から都市部への就職活動等への企業側からの配慮の状況
(大学4年生)



(大学院2年生)



參考資料

参考資料

(1) 調査項目¹⁵⁵

i. あなた自身のことについて

Q1

あなたの年齢をご記入ください。(半角整数で記入)

 歳

Q2

あなたの性別を教えてください。(ひとつを選択)

- 男性
- 女性
- その他
- 答えたくない

Q3

現在のあなたの学年をお選びください。(ひとつを選択)

※留学、留年、休学、編入等をされた方で、来年(2021年)3月に卒業・修了をする年次の方については、在学年数等に関わらず、「大学4年生」あるいは「大学院2年生」を選択してください。

※「大学院2年生」とは、修士課程(博士前期課程)2年生を指すこととします。(以下、同様)

- 大学4年生
- 大学院2年生
- その他

※「その他」を選択した者は Q3 までで調査終了。

Q4

あなたが通っている大学/大学院はどれにあてはまりますか。(ひとつを選択)

- 国立
- 公立
- 私立

¹⁵⁵ レイアウトやフォント等、実際にオンライン上に設置した回答ページとは異なる。また、本参考資料中に下線波線で示した部分は、実際の回答ページには表示していない(回答ページ作成にあたり、下線波線で記載した条件により、回答ページの表示を変更するように設定した)。また、本資料には詳細を記載していないが、調査実施の際には、例えば年齢の欄は 20 歳～99 歳までしか入力できないようにするなど、設問ごとに矛盾回答等が生じないように一定の条件を設けた部分がある。

Q5

あなたが通っている大学/大学院名をお答えください。例:〇〇大学

Q6

あなたが通っている大学/大学院の所在地はどちらですか。

Q7

あなたの出身地はどちらですか。

※生まれた場所に限らず、実家がある場所など、大学に入学するまでの間、最もつながりがあると思われる地域についてお答えください。

Q8

あなたの専攻はどれにあてはまりますか。(ひとつを選択)

- 人文科学(文学、言語学、史学、地理学、哲学、コミュニケーション学、心理学等)
- 社会科学(法学・政治学、商学・経済学、経営学、社会学等)
- 理学(数学、物理学、化学、生物学、地学等)
- 工学(機械工学、電気通信工学、土木建築工学、航空工学等)
- 農学(農学、農業経済学、林学、畜産学、水産学等)
- 保健(保健衛生学、スポーツ・健康医学等)
- 家政(家政学、栄養学、被服学)
- 教育(教育学、教育発達学等)
- 芸術(芸術、デザイン、音楽等)
- その他(教養学、国際関係学、総合科学、一般教養課程等)

ii .就職活動に関する意識・準備等

Q9

あなたは、来年(2021年)3月に卒業・修了するにあたり、就職活動(民間企業・官公庁等の職業に就くための活動)を行いましたか。(ひとつを選択)

※8月1日時点の状況を回答してください。

- 就職活動を行った(終えた)
- 就職活動を行っている(継続している)
- これから就職活動を行う予定である
- 就職活動を行わなかった(行う予定はない)

※「これから就職活動を行う予定である」を選択した者は Q16、Q17 または Q17.2 までで調査終了(Q18以降は対象外)。

※「就職活動を行わなかった(行う予定はない)」を選択した者は Q10 までで調査終了。

Q10

あなたは、現在通っている大学/大学院を卒業・修了後にどのような進路を予定(希望)していますか。既に進路が決まっている場合は、その進路先について選択してください。まだ決まっていない場合などは、希望する進路先について回答してください。(いくつでも)

※現在学部生で、大学院に進学した後に就職することを予定(希望)している場合、ここでは、「進学(国内)」や「海外留学」を選択してください。

- 民間企業に就職
- 公務員に就職
- 教職員に就職
- NPO に就職
- 自営・家業に就職
- その他の就職
- 進学(国内)
- 海外留学
- 起業する
- 社会人としての経験があり、卒業・修了後に元の職場に復職
- まだわからない

※「社会人としての経験があり、卒業・修了後に元の職場に復職」を選択した者は Q10 で調査終了。

Q11

就職活動を行うにあたり、志望していた(志望している)就職先の業界を教えてください。(いくつでも)

※既に就職先が決まっている人であっても、就職活動を行う際に志望していた業界を教えてください。

- 農業、林業、漁業
- 鉱業、採石業、砂利採取業
- 建設業
- 製造業
- 電気、ガス、熱供給、水道業
- 情報通信業
- 運輸業、郵便業
- 卸売業、小売業
- 金融業、保険業
- 不動産業、物品賃貸業
- 学術研究、専門・技術サービス業
- 宿泊業、飲食サービス業
- 生活関連サービス業、娯楽業
- 教育、学習支援業
- 医療・福祉
- 複合サービス業
- サービス業(他に分類されないもの)
- 公務
- その他

Q11_1

あなたが、就職先を決めるにあたって重視しているものを教えてください。(いくつでも)

※その他の場合にはその内容について記載してください(100文字まで)。

- 企業等の安定性
- 企業の成長可能性
- 知名度が高い
- 給与や賞与が高い/手当や社会保障が充実
- 残業が少なく、休暇が取れるなどのワークライフバランス
- リモートワーク・在宅勤務が選択可能
- 兼業・副業が認められている
- 正社員として働ける
- 女性が活躍できる
- 育児休業や保育所などの両立支援の充実
- 地元で働ける
- 希望する勤務地で働ける
- 職場の雰囲気良さそう
- 自分の能力や専門性を生かせる
- 自分の能力を高めキャリアアップにつなげられる
- 自分のやりたい仕事ができる(やりがいがある)
- 社会貢献度が高い
- その他

Q12

就職活動は、主にどの地域で行いましたか。

※複数の地域で活動された場合は、主に活動した都道府県を順に3つまで回答してください。

1

2

3

来年(2021年)3月卒業・修了予定者(現在の大学4年生、大学院2年生等)の就職・採用活動時期(今年の就職活動の日程)については、今年(2020年)3月に卒業・修了した方と同様に、広報活動は3月1日以降、採用選考活動は6月1日以降に開始することとされました。

Q13

あなたは就職活動を開始するにあたり、就職・採用活動の時期(企業が説明会や採用活動を行う時期)が昨年度と同様の日程(広報活動は3月1日以降、採用選考活動は6月1日以降)で行われることについて、知っていましたか。(ひとつを選択)

- よく知っていた
- ある程度知っていた
- 聞いたことはあるがあまりよく知らなかった
- 知らなかった

※「よく知っていた」「ある程度知っていた」「聞いたことはあるがあまりよく知らなかった」を選択した者は Q13.1、Q13.2 へ。「知らなかった」を選択した者は Q14 へ。

Q13_1

あなたはどのようなルートで就職・採用活動の時期(今年の就職活動の日程)に関する情報を知りましたか。(いくつでも)

※その他の場合にはその内容について記載してください(100文字まで)。

- テレビや新聞等の報道
- 就職情報会社(就職ナビサイトなど)
- 大学(キャリアセンターなど)
- ハローワーク
- 家族・親戚から
- 友人から
- 先輩から
- その他()

Q13_2

あなたはいつ頃就職・採用活動の時期(今年の就職活動の日程)に関する情報を知りましたか。(ひとつを選択)

- 2019年8月以前
- 2019年9月～10月頃
- 2019年11月～12月頃
- 2020年1月～2月頃
- 2020年3月以降
- 覚えていない

Q14

就職・採用活動開始時期、いわゆる「就活ルール」(広報活動開始:卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降、採用選考活動開始:卒業・修了年度の6月1日以降)について、どう考えますか。(ひとつを選択)

※その他の場合にはその内容について記載してください(100文字まで)。

- ルールは必要であり、現在の開始時期がよい
- ルールは必要だが、現在の開始時期より早い方がよい
- ルールは必要だが、現在の開始時期より遅い方がよい
- ルールは必要ない
- その他()

※Q15 は Q9 で「これから就職活動を行う予定である」を選択したものは対象外。

Q15

就職・採用活動時期に関し、昨年度と同様の時期に設定された(広報活動は本年 3 月 1 日以降、採用選考活動は本年 6 月 1 日以降に開始)ことについて、あなたはどのように思いますか。(それぞれの項目についてひとつを選択)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらでもない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
先輩の体験など、昨年の就職活動の情報を参考にすることができた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
どの時期にどのような就職活動をするか予定をたてやすく準備・行動ができた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
就職活動期間が比較的短期間で済んだ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
大学の試験に落ち着いて取り組むことができた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
卒業論文(研究)・修士論文(研究)に早い時期から取り組むことができた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
夏の暑い時期に就職活動を行わなくて済んだ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ボランティア、部活動、クラブやサークル活動など課外活動に取り組む機会を充実することができた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
企業研究や就職先の選択のための時間が十分確保できなかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
面接などの選考活動を早期に開始する企業があり混乱した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から行われた緊急事態宣言等の影響により、見込んでいた時期よりも就職・採用活動の実施時期を遅くする企業があり混乱した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>